

# やまなみ

第 14 号



岳人あびこ



GAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

岳人あびこ  
岳人あびこ  
岳人あびこ  
岳人あびこ  
岳人あびこ  
岳人あびこ  
岳人あびこ  
岳人あびこ  
岳人あびこ  
岳人あびこ

# やまなみ

## 第14号



手賀沼湖畔

やまなみ 第14号 目次

平成24年(2012年)3月～平成25年(2013年)2月

やまなみ第14号発刊に寄せて

平成25年度会長 武内勇二

NO.	山名	山域	月日	執筆者	頁
764	雨ヶ立山・吾妻耶山	上州	3/17-18	齋田記代美	1
765	大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山 <small>(南高尾山稜)</small>	南高尾	3/25	郷田進	4
766	大野山	丹沢	4/1	末永三江子	6
767	物語山(新人歓迎山行)	上州	4/8	やまたん	8
				大山冬臣	8
768	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	4/14-15	北川勝久	12
769	扇山～百蔵山	中央線沿線	4/21	高橋芳恵	14
770	高取山～仏果山～経ヶ岳	丹沢	4/29	高橋芳恵	16
771	守屋山・霧ヶ峰	八ヶ岳周辺	5/3-5	清家三保子	18
772	玉原高原～尼ヶ禿山～ブナ平(県連山行)	上州	5/10	村越百々代	20
773	鳴神山	前日光	5/13	中村八重子	22
774	大室山～加入道山	丹沢	5/19	高橋芳恵	24
775	金北山	佐渡ヶ島	5/25-27	矢澤節雄	26
776	大高山～天覚山～天覧山(飯能アルプス)	奥武蔵	5/27	本田愛子	29
777	小樽山	奥秩父	6/2	矢野貞子	32
778	浅間隠山(市民山行)	上州	6/10	末永三江子	34
				やまたん	35
779	鋸山・弥彦山	新潟	6/16-17	外崎蓮	41
780	上州武尊山	上州	6/30-7/1	矢野貞子	44
781	会津駒ヶ岳～中門岳	南会津	6/30-7/1	菊地功	46
782	苗場山	北信越	7/21-22	齋田記代美	49
783	燕岳～大天井岳～常念岳	北アルプス	7/27-30	新谷直恵	52
784	長尾谷	奥多摩	7/29	矢野裕子	56
785	仙丈ヶ岳	南アルプス	8/3-5	藤倉貞江	58

NO.	山名	山域	月日	執筆者	頁
786	立山(雄山～大汝山)～奥大日岳～大日岳	北アルプス	8/7-10	瀬田映子	60
787	前穂高岳～奥穂高岳	北アルプス	8/9-12	高橋芳恵	64
788	三ノ木戸山(追悼山行)	奥多摩	8/19	村松敏彦	67
789	赤岩滝	前日光	8/26	品田千恵子	69
790	御前山(ウイズハイク)	茨城	9/1	やまたん	71
791	大滝沢	吾妻連峰	9/7-8	田村光子	74
792	平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	9/21-23	武内勇二	76
793	西黒尾根～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	9/22-23	箕輪完二	79
794	蓬峠～武能岳～茂倉岳～茂倉新道(15周年記念山行)	谷川	9/22-23	坂巻明	82
795	天神尾根～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	9/23	やまたん	85
796	神室山～小又山～火打岳	東北	10/5-7	郷田進	87
797	栗駒山・虎毛山	東北	10/20-21	外崎蓮	90
798	鼻曲山	上州	10/21	中村育子	93
799	三頭山～向山	奥多摩	11/3	矢野裕子	95
800	秩父御嶽山	奥秩父	11/4	本田愛子	97
801	清澄山(東大演習林)(15周年記念行事)	房総	11/11	箕輪完二	99
802	手賀沼一周(クリーンハイク)	東葛	11/25	新谷直恵	102
803	八溝山(忘年山行)	茨城	12/2	やまたん	104
804	甲武信ヶ岳(クリスマス山行)	秩父	12/23-24	武内勇二	109
805	三つ峠山(新年山行)	富士急沿線	1/13-14	矢澤節雄	112
806	烏場山(花嫁街道)	房総	1/20	箕輪カオル	115
807	宝篋山(卒業山行)	茨城	2/3	やまたん	117
808	瀬淵山～高指山～不老山(甲東三山)	中央線沿線	2/10	中村育子	120
809	ヤビツ峠～塔ノ岳(丹沢表尾根縦走)	丹沢	2/24	坂巻明	123
寄稿	ワイワイ・ポリポリ	ペルー・ポリビア	6/1-7/16	高橋重	125



## やまなみ第14号の発刊によせて

平成25年度会長  
武内 勇二

岳人あびこの「やまなみ」も発行を重ね、今回の「やまなみ」は第14号ということになります。この号には、一年遅れの開催となった15周年記念山行としての谷川岳集中登山4山行をはじめ、会員から寄せられた平成24年度の岳人あびこ全46山行の紀行文が載せられています。

平成8年(1996年)岳人あびこが創立されて以来17年、この間800余の会の山行が行われ、全ての山行の紀行文が「やまなみ」に収められてきました。その一覧が巻末資料にまとめられていますが、関東一円はもとより、日本アルプスの主要な山々は、殆んどが網羅されているとあってよいでしょう。積み重ねられた歴史の重さに圧倒されます。

やまなみを手にとって、過去に登った山の紀行文を読むのは楽しいものです。その山行自体には参加していなくても、仲間たちがどのように山に向き合い、どのように感じたか、過去の自分の山行を重ねて追体験できます。雄大な展望、可憐な花、仲間との語らいなど、山行の記憶がよみがえります。いつか読んだ本に「よき山、よき友、よき酒というのは山歩きをたのしくする三大要素」とあるのに頷いた覚えがありますが、「やまなみ」には山仲間との楽しい思い出がいっぱい詰まっています。

山を続けるためには、「健康(家族も含めて)」、「家族の理解」、そして「ちょっとしたお金」が必要といわれますが、様々な理由で山仲間もそれなりに入れ替わっています。親しかった仲間との寂しい別れがある一方、新しいメンバーとの出会いもあります。共通の趣味を持つ仲間との絆を大切に、山に登れる幸せを仲間と共有しながら、これからも安全で楽しい登山を続けてゆきたいものです。今後も岳人あびこの山行が活発に行われ、やまなみが貴重な会の財産として号を重ねてゆくことを願っています。



**平成24年度**

**平成24年3月～平成25年2月**

< 7 6 4 >

雨ヶ立山・吾妻耶山  
(1627m) (1341m)

齋田記代美

この山行は新人のために雪のある時にしか登れないという雪山体験シリーズの一環で、雪の中でのテント泊そして雪のある時にしか登れない雨ヶ立山から布引山への山行でした。

前日の天気予報では雨の確率が高く、きっと今頃リーダーは天気図とにらめっこしているかも、昨年の東北沖地震で山行が中止になって、今回は雨のため中止？などと思いつつザックに荷物を詰め込んでいた。しかし、中止の連絡はなく計画通りに出発した。

電車の中では天候の快復かと思わされる様子も見られたが、水上駅で下車した時は雨がちらちらと降る雪に変わっていた。タクシー2台に分乗し、宝川温泉に到着。ここで雨具等の身支度を整え、今日の宿泊地板幽沢に向かっていざ出発！

ひっそりとして私達以外の人影もなく、足跡もすぐになくなってしまった雪の中を進む。雪が緩んでいるので左斜面の雪崩に気を付けるようにと注意を受けながら、そして一步ごとに雪の中に足をもぐらせ女性陣はキャーと奇声をあげながら進む。先頭に行くリーダーはラッセルしながら行き先を見極めながらと大変です。45分くらい歩いたところでワカンを装着することにしたのでずっと歩きやすくなる。しかしその後いくらかも行かないうちに本格的に雨が降ってきて、明日の天気回復を期待し今日の山行は中止となる。また春先のビショ濡れは体力を消耗するというので、リーダーがいざという時用に白樺小屋のカギを持ってきていたため、テント



**こがね？の御殿に時化込んで、カンパーイ！！  
大吟醸は美味しい！**

泊を中止にして白樺小屋へ行くこととなる。この決定に全員大賛成でした。

白樺小屋には昼過ぎに到着。ストーブを囲み明日の予定などについて話し合いをしながら夜までの長～い会議となる。そして2年前途中で断念した吾妻耶山に登ることになった。

二日目、雨は上がり、昨日はたつぷりと休養し、山行日和です。最低限の必要なものだけ持ち、残りの荷物を白樺小屋に残しタクシーで仏岩ポケットパークまで行く。ここから山道に入りました。一步山に踏み入るとまだしっかり雪が残っていたが踏み固められていて歩きやすく迷う心配もなかった。しかし赤谷越で休憩したその後はトレースが無くなりつぼ足でのラッセルとなった。



一昨年は雪が少なくとても苦労した箇所は、今回は雪が付いていたがやはりかなり苦労させられた。木の根や岩につかまり懸命に登りながら帰りはここを下るのだという心配がよぎっていた。前回断念して戻ることになったくぼ地で休憩し、頂上まであと一息ですと聞いていたので、その思いでいたところそう簡単ではなくそこから先もかなり長かった。しかし、頂上に着いた時には山行の最高の楽しみである眺望を堪能することができた。また、頂上に立派な石造りの祠が3つ各地区の名があり、この地の信仰心の篤さとともに自然の厳しさを感じさせられた。



### 一昨年登れなかったメンバー達の吾妻耶山頂

下山は先ほど休憩したくぼ地まではつぼ足で下り、そこでアイゼンを付けて慎重に下った。仏岩ポケットパークでタクシーを呼んだが一時間以上かかると言うので、途中まで歩いていくことになった。タクシーに拾ってもらい、白樺小屋に寄って荷物を持ち水上駅に向う。水上駅で荷物を整理し、駅向かいの食堂で反省会をした。この食堂では、今日はお客もなく早々に店を閉めようかと思っていたとのことで歓待された。車社会になり鉄道を使う客が減ったことにより、それに付随する色々なところで影響が出てくるという現実を知らされた。

さあ、社会の活性化のためにも健康に留意し公共機関を使って山に登り、下りて来た時には



また次の山行のために反省会開きましょう。



山頂での素晴らしい眺めに感動しました！！  
雪山なんて……もっと行きたい！！

### 概念図





## 概略

山名	雨ヶ立山・吾妻耶山		
月日	平成 24 年 3 月 17 日 (土) ~18 日 (日)		
山城	谷川連峰	地形図	1/25000 藤原
形式	山麓泊	グレード	3 C
目的	雪の時期に登るひっそりルート		
費用	約 11,500 円	交通機関	JR、タクシー
行程	1 日目	我孫子 5:31→6:04 上野 6:27→高崎 8:15/ 8:24→水上 9:29(タクシー)→宝川温泉 10:00/ 10:35⇒わかん装着 11:20/11:40⇒ 撤退決定 12:00⇒脱わかん 12:15/12:25⇒宝 川温泉 12:35(タクシー)→サンモール→白樺 小屋 ＜歩行時間：1 時間 30 分＞	
	2 日目	白樺小屋 6:30(タクシー)→仏岩ポケットパ ーク 6:55/7:00⇒赤谷越分岐 7:30/7:37⇒仏 岩 7:45⇒吾妻耶山巻道第一分岐 8:37/8:45 ⇒吾妻耶山第二分岐 9:15⇒吾妻耶山手前く ぼ地 9:55⇒吾妻耶山 10:30/ 10:55⇒アイ ゼン装着 11:10/11:20⇒脱アイゼン 11:45⇒ 休憩 12:30/12:40⇒仏岩ポケットパーク 13:10⇒車道歩き 13:40(タクシー)→白樺小 屋→水上駅 14:25/15:52→高崎 16:55/17:01 →上野 18:50/19:02→我孫子 19:37 ＜歩行時間：5 時間 35 分＞	
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宝川林道は昨年の地震か豪雨の影響なの か、崖の崩壊箇所もあり荒れていた。</li> <li>・仏岩ポケットパークから赤谷越まではト レースがあったが、その先は最近の登山 者が無かったようでトレースは無かつ た。湿雪の中のツボ足ラッセル、木の根 に掴まり岩の急坂ルートを探しながら歩 いたので、吾妻耶山迄の夏タイム 1 時間 半のところ 3 時間半要した。</li> </ul>		
参加者	高橋重 (CL)、武内 (SL)、田村、桐生、村 松 (総括)、北川、瀬田、齋田 男 4 名 女 4 名 計 8 名		



背後に国境稜線から外れた小出俣山(2009  
年山行)が見えた・・・ マタオイデー！



谷川本峰は雲の中

(上州武尊、日光白根、赤城山などは見えたが・・・)



< 7 6 5 >

### 南高尾山稜

大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山  
(536m) (494m) (475m) (364m)

郷田進

### 春の息吹を感じながら 低山をゆっくり歩く

前日の雨が嘘のように良く晴れわたった今年度最初の山行である。前回山行から少し間があいたためか、山行スタイルが各人のニーズにマッチしたのか、総勢 15 名（男 8 名、女 7 名）という大パーティである。大所帯のため A, B 2 グループに分ける。JR 高尾駅からタクシーに分乗、大垂水峠登山口から山行開始（8 時前）、常緑低木アオキの葉が濃緑色に美しく光り、ウグイスや小鳥たちのさえずりも響き渡り、好天にも恵まれまさにのどかなハイキングである。

途中いくつかのピーク（大洞山（536m）、コンピラ山、中沢山（494m）など）を越えて、東へと進む。道はよく整備され、途中富士山も見え、歩きやすいハイキングコースである。

コンピラ山には、ユニークなザックかけ（木で作った 10 個程度横一列にかけられるもの）があり、B グループ全員でザックをかけ、写真をとる。



津久井湖と丹沢の山々

途中素晴らしい見晴台がある。目の前に津久井湖、奥に丹沢や道志の山々が見渡せる。ベンチもありしばし見とれる。

中沢山には、素敵微笑みを湛えた聖観音菩薩がありグループ毎集合写真をとる（百々代観音との声あり）



### 中沢山には、素敵微笑みを湛えた 聖観音菩薩がある

その後、泰光寺山（475m）、三沢峠とすぎ、松見峠休憩所で昼食、広大なエリアとベンチ、見晴台等が整備されたりっぱな休憩所である。（トイレなし）

その後、草戸山（365m）経由で京王線高尾山駅に降りる。草戸山は、標高 365m から 1 年山とも呼ばれるそうである。

高尾山には、さすがミシュラン 5 つ星のためか、絶好の行楽日和も重なり大変な賑わいだった。ちなみに気温は 17 度（4 月中旬の気候）、厳しい寒さで梅の開花が遅れている今年の冬、春がまさにそこまで来ていることを感じさせる山行であった。当然、反省会々場（高級そうな料亭）でビールで乾杯、次回の山行への期待等を語り合う。

途中多数の山岳トレイルランナーにあう。東京都近郊という場所と適度の道幅・距離、主要なピークには巻道を用意されていて、トレーニング場所として人気があることがうかがえる。

また多数のハイカーにも合う、多くは日常の散歩の延長の感じ、日頃の体力トレーニングには



最適な環境に少しうらやましく感じた。

5時間あまりのハイキングであった。いくつものピークがあり、すばらしい眺め(湖・山々など)、よく整備された登山道や休憩所等、休日のハイキングを十分満喫できたすばらしい山行でした。ありがとうございました。

### 概略

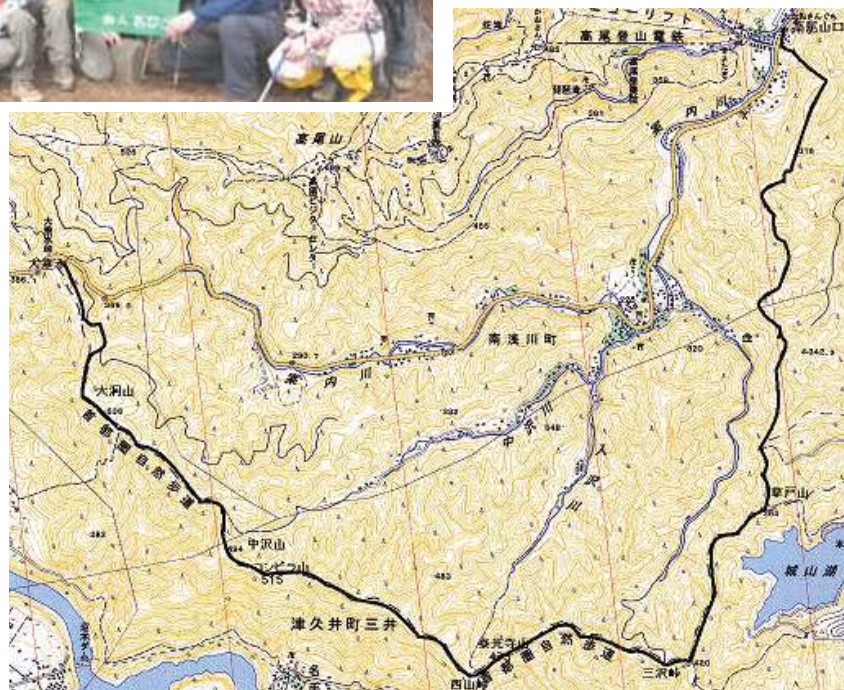
山名	大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山		
月日	平成24年3月25日(日)		
地域	中央沿線	地形図	1/25000与瀬、八王子
形式	日帰り	グレード	1A
目的	春の息吹を感じながら、低山をのんびりと歩く		
費用	3,500円	交通機関	JR、京王、タクシー

行程	<p>我孫子駅5:33→新松戸駅5:47/5:51→西国分寺駅6:46/6:55→高尾駅着7:22/7:30(タクシー)→大垂水峠登山口着7:45/7:55→大洞山8:28/8:35→中沢峠9:05→鉄塔9:07→中沢山9:18/9:23→ビューポイント9:35/9:40→西山峠10:05→泰光寺山10:12/10:30→三沢峠10:50→ふれあい広場(昼食) 11:00/11:20→草と山11:38→球形12:05/12:10→鉄塔12:15→休憩12:40/12:45→四辻13:10→高尾山口13:20(反省会清流亭) 13:30/15:40→高尾山口駅15:59→高尾駅16:04/16:08→西国分寺16:42/16:45→新松戸17:42/17:45→我孫子駅18:00</p> <p style="text-align: right;">&lt;歩行時間4時間20分&gt;</p>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大洞山を最高点とした山稜で小さなアップダウンが続く。</li> <li>・湖の道と名づけられた関東ふれあいの道。道標、休憩所はよく整備されている。</li> </ul>
参加者	<p>武内(L)、原田、箕輪完、箕輪カ、小川誠、新谷、本田、中村育(SL)、村松、外崎、末永、菊地、郷田、村越、矢澤</p> <p style="text-align: right;">男8名 女7名 計15名</p>



泰光寺山頂にて

概念図



< 7 6 6 >

大野山  
(723m)

末永三江子

温泉に入る楽しみも

谷峨駅を出発。大野山への矢印あり。道路の上の橋を渡ると、標識がどこにもない。サブリーダーの瀬田さんと本田さんが、パソコンから取り出した道案内のプリントを見ながら、口論をしている。リーダーの坂巻さんは笑っている。

この景観の中で、指が右を指したり左を指したり。誰も否定も肯定もしない。ようやく行き先が決まる。「ほら、さっき書いてあった青い橋があるじゃないの」と、その道が正しいことが証明された。

舗装された坂道を歩いて行くと、桜とは違う花をつけた木があった。「何の木だろうね。きれいな花だね。桃かしら」と言っていると、家主が出てきて「杏だよ」と教えてくれた。それがきっかけとなり、堰を切ったように家主のおばあさんが話を始めた。明日までも話しそうな勢いに、「おばあちゃんから元気もらおう」と寄って行き、握手や抱き寄せたりしてからわかれた。

近道という急坂を登ると、頼朝桜下に出た。桜の蕾は固く、まだまだ開くのは先のような。5分休憩。大野山は桜で有名な山。頂上に向かう道の左右に桜の苗木が植えられているが、枯れている木も多かった。

森林帯から丘のような所に出た。目の前に、大きな富士山が花曇の中に浮いていた。ここが634mと、うさぎちゃんが教えてくれているので、記念撮影。「頂上が723mだから、あと約90メートルだな～」と小川さんが言った。頂上は近い！

25分ほど歩くと頂上に着いた。舗装された道を歩いた先に頂上があるので頂上らしくないが、景観はとても良かった。風をさえぎるものがない。冷たい風が汗を冷やしてふるえた。みんなで持ち寄った美味しいものを交換しながら、早めの昼食が始まる。約一時間、ゆっくり会話を楽しみ、山北駅に向かう。



満開のさくらを見つけて、美の競演。  
桜の勝ちー！



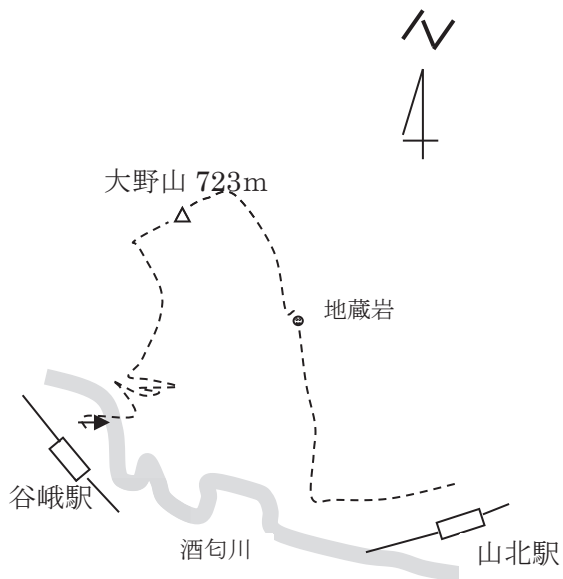
ミツマタの香りにさそわれて。  
笑顔でポーズをとる山ガールズ。

半分は舗装道路を歩いたため、登山靴で歩くには辛い。辛さをこらえて、温泉に入る楽しみを心に描いた。山北町も桜祭りが近い。蕾がピンクにふくらんでいた。一時間さくら湯に入り、反省会を済ませ、帰宅となる。

一日ボ～としているより、山がいいね。ありがとうございました。



概念図



概要

山名	大野山		
月日	平成 24 年 4 月 1 日		
山城	丹沢	地形図	1/25000 山北
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	里山歩きと温泉		
費用	3200 円	交通機関	電車、バス
行程	我孫子駅 5:33→代々木上原 6:41/6:46→新松田 7:59→松田 8:13→谷峨駅 8:27/8:40→都夫良野頼朝桜→大野山→地藏岩→大野山登山口→山北駅 13:30/15:00→松田→代々木上原→我孫子駅 19:00 <歩行時間> 4 時間 5 0 分		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷峨駅から山北駅の行程の半分以上が舗装道路を歩く。登山道はよく整備されている。</li> <li>・標識はしっかり設置されていて道に迷うことはない。</li> <li>・谷峨駅をスタートして嵐の集落をぬけると左に富士山の眺望がある。視界良好</li> <li>・頂上は広い台地であり、360度のパノラマが広がる。</li> </ul>		
参加者	坂巻(L)、小川誠、小川洋、末永、本田、藤倉、瀬田、新谷 男 2 名 女 6 名 計 8 名		

大野山頂上で富士山をバックに集合写真。  
でも、見えない？



< 7 6 7 > 新人歓迎山行

物語山  
(1019m)

やまたん

大山冬臣

キューーは中止となりましたが、負傷者を一刻も早く助けようとする優しい団結の気持ちは素晴らしいものを経験したと思います。皆様の協力に感謝します。

財宝伝説の山

大山冬臣

総合リーダーのメモ

原田和昭

- ①快晴の天気。新人 3 名を迎えて総勢 25 名で歓迎山行を実施。貸切りバスは予定時間より早く目的の駐車場に到着する。登山は 4 班に別れて歩行開始。登りは 4 班共に同じような時間帯で行動する。
- ②物語山は山名の由来から一度は登って見たいと思っていたので選定した山。頂上近くのメンベ岩は、落武者が金銀の財宝を埋蔵して死んだと言う伝説が有る。
- ③頂上からの展望は素晴らしく雪に覆われた浅間山、谷川連峰。妙義山や荒船山等々の山並みが一面に望まれ楽しむことが出来た。
- ④軽い昼食を済ませて下山開始する。下山道は登って来た道を下りる。急坂で足元は滑り易く注意しながら下山する。一番早く下山していた A 班の男性が下山開始 40 分頃に足を滑らせて転倒した(発生時刻 11 時 40 分頃)。A 班全員で右足の負傷箇所を固定し、下山している所に他の 3 班が後ろから追いついて来たので皆で登山道取付の安全な所まで移動した。
- ⑤負傷箇所の固定の確認、ストックで松葉杖を 2 本作成して下山方法の確認をする。屈強な男性 7 人が負傷者に同行し、それ以外の会員は早く下山して待機することにする。
- ⑥早く下山した会員がスポーツランドの軽トラックを交渉して負傷者を迎えに行くようにした。軽トラックでの搬送が出来たので安全で早く下山が出来た。最後に残った会員が無事に下山してからその後の行動を協議し、負傷者の状態から判断、懇親会は中止として全員が一緒に帰ることに決定し帰路に着く。
- ⑦バスの中は、懇親会用に準備していた飲物と食物で細やかな親睦を図りながら帰る。
- ⑧我孫子市内に帰ったら、事前に連絡していた病院に負傷者を届けて、我孫子駅北口に 5 時 15 分に到着。事故発生から救急処置、安全に下山させて、全員が一緒になって我孫子市内の病院に搬送が出来たのは、皆さんの協力と一致した行動と手助けで出来たものと思います。山行目的の会員相互の親睦を図るパーベ

新人歓迎山行で新人の私・大山が不注意にも骨折事故を起こしてしまい、予定を大幅に狂わせてしまい、多大なご迷惑をおかけしてしまい、心からお詫びを申し上げます。同行の皆さんが「岳人あびこ」の日常の BOM 教育成果を発揮することによって下山出来ましたことを先ず心から御礼申し上げます。

この救急対処につきましては担当された専門の先生も賞賛されていたことをこの場をお借りして報告させていただきます。

物語山？聴き慣れない山名で、インターネットで調べて見ると、戦国時代に、豊臣秀吉方前田勢の攻撃によって北条勢の武将多目周防守長定の護る幽崖城は落城し、落ち延びた周防守は配下の武士と共にこの山中に分け入り、険しいメンベ岩〔上州でうどんを作る大きなまな板の上州方言名〕に財宝を隠し、誰も登ってこれないように岩に張り付いたすべての蔓を切り落とし、自害して果てたという云い伝えがあるのだそうです。それで物語山・・・？

岳人あびこ御用達の向観光の観光バスは快調に関越道を走り、藤岡 JC から上信越道に入り直ぐの下仁田 IC で降り、ネギヤコンニャクの売店が立ち並ぶ道 R254 を走ると間もなく登山口のサンスポーツランドに到着。

各班毎に服装調整、靴紐の締め直し、準備体操、トイレ等を済ませ、いよいよ登山開始。

快晴無風の絶好の登山日和の一日になりそう！私は A 班で、元気いっぱい瀬田 L の指示で行動開始。サンスポーツランドの駐車場の直ぐ上を走る林道？を目指して林道の法面をよじ登る。B～D 班は駐車場の入口方面から歩き出したので、この林道？の法面を登れば先行の各班の先に立てる筈。登りついた林道は真新しく、林道と呼ぶにはあまりにも立派で、先行の班は影も形もなく、イヤな予感がする？L の瀬田さんは首を傾げながら立ち止まる。村松 SL の提案で直ぐに地図とコンパスを取り出して現在地と方角をチェック。村松さん曰く「俺が前に来たときはこんな立派な道じゃなかったな！」確かに立派な道だ。“おかしいと思ったら直ぐチェック”は登山の基本だ。判っていても直ぐに地図とコンパスで確認すると云う行為もなかなか出来ることではなく、これも BOM を大切に実

践している成果に違いない。取付林道が違うことが判り、瀬田 L の号令で真新しい舗装道を駐車場入口方向に 50 ほど下ると、物語山登山ルート図の案内版があった。立派な舗装道路はダム建設によって出現した荒船湖方面への道路だ。物語山への林道は SL 村松さんの記憶通りにチョット荒れている。植林が少なく、沢沿いの雑木林に覆われ、とても気持ちが善い。新緑、紅葉の季節はキッと素晴らしいに違いない。

暫く歩くと先行の B~D 班の姿が見えるようになった。林道は一本道で、標識も要所要所にあって気持ちの上で助かる。暫く林道を行くと左手の尾根の上に 10 ほどの岩峰が見えて来た。これが物語山伝説の“メンベ岩”に違いない。途中の小休止を含めて約 1 時間ほどで登山道の取付に着いた。此処で 2 回目の小休止と靴紐の締め直しと服装の調整を済ませる。杉の植林地と雑木林が混在している。取付からは少々、沢に下り、そして横切り此処からは一気に急傾斜の登山道を登る。スレート状の小石の上に霜で濡れた落ち葉が覆っている。滑り易い径だ。今は使われているのか判らない炭焼きの窯が雑木林の中にあつた。傾斜が急なだけに一気に高度が捗り、35 分ほどでコルに到着。コルは展望はないが樹林が疎らで広く休憩には気持ちが善い。右に行けば主峰〔南峰〕、左に行けば西峰に登ることが出来る。

先行の B~D 班は物語山主峰〔南峰〕を目指しているので私達 A 班は、村松 SL の提案で主峰の山頂は狭く混雑するので西峰 967m を先に登ることにする。西峰への道も今までにも増して傾斜は強い。所々樹に掴まりながらの腕力で登るところもある。

西丹沢の山で良く見られるアカヤシオツツジが多い。ヒョッとすると西丹沢よりもアカヤシオツツジの密度は高いかも知れない？

西峰は標高も低いのでアレッと思うほどの短時間に着いてしまったが・・・。その展望は将に絶景！180度をチョット超える大パノラマが広がっていた！先ずはなんと云っても真っ白に雪化粧した浅間山！！その左手に山頂が真っ平らな荒船山、浅間山から真っ白に雪に覆われた上越国境から尾瀬、奥日光への銀屏風が連なり、その右手にはチョット表現が古くなるが峨々たる妙義山が望まれた。ナンと云っても真っ青な空には雪山は映える！キッと榛名山も赤城山も見えていたに違いないが・・・。足下にはあの物語山伝説由来の“メンベ岩”が見える。

この山頂は狭いので、直ぐに登ってくる筈の B~D 班と一緒にすると大混雑するのは目に見えているので早々にコルに下山する。

コルに下ると、B~D 班が主峰から降り始めていて、先頭グループとはコルですれ違い、西

峰を目指していたのでエールを交わしながら我班はそのまま主峰に取り付く。

主峰への道も西峰に負けず劣らずに急峻！加えて標高も大凡 50 ほど高いので気合いが入る。この道も樹肌の赤いアカヤシオツツジが多く見られる。樹幹に、枝に掴まりながら高度を快調に上げる。15 分ほどで本峰山頂 1019m に到着。急峻な尾根を登り切り、左に曲がると直ぐに山頂であつた。西峰よりも山頂は広いが、展望は西方の方が善さそう。いずれにしても素晴らしい青空と大パノラマだ。此処で昼食を摂る。

再びコルへ下る。B~D 班の姿はなく、先下山したもの判断し、我々はその足で下山を開始した。B~D 班は、実際は本峰よりも西峰の山頂は狭く、展望がより素晴らしいのでなかなか山頂への順番が回ってこない為に下山が遅れていたようだ。

これからは往路を下ることになる。

#### 〔事故顛末〕

急斜面ではありましたが快調に下っている一瞬に事故は起きました。コルと登山道入口のほぼ中間地点まで下ったときに、登山道に枯れ枝が落ちているのに気がつき、それを避けて迂回しようとした瞬間に右足を内側に捻るように滑らせ、下っている勢いの俥、上体がある上に被さるように倒れ込んでしまいました。グキッと鈍いイヤな音がして瞬間的に骨折したと判りました。暫くは身体を動かすことが出来ませんでした。直ぐに A 班の皆さんが駆け寄り、手助けをして下さいましたが右足首が完全に 180 度外を向いてしまっていました。その間に、B~D 班の皆さんも我々に追いつき、私の骨折を知り、急遽、外崎さんの指示で先ず右足首を三角巾で固定。私を背負って降りる為には径が急な為に危険なので男性群の肩を借り、万に備えてザイルで私を確保して下さい、慎重に下ることにしました。急で径が狭く肩を借りて下れないところは“尻制動”の要領で降り、かなりの時間をかけてしまいましたが皆さんの励ましとご協力によりどうにか林道との出合に降りることが出来ました。

林道との出合で、直ぐに皆さんのストックを集めてテープで固定、応急松葉杖をつくって下さり、傾斜の緩い径はこの応急松葉杖を使い、急傾斜は肩を借りて降りました。確保して下さいザイルも緩めすぎるとトットと加速度がついてしまうので、加減が非常に難しかったと思います。

女性軍は、この事故をスポーツランドに連絡する為に先に降り、管理人の方に 4WD の運行を強力に依頼して下さい、携帯での連絡も取れ



るようになり、状況の確認も取れるようになりました。4WDが間もなく到着し、統括リーダーの原田さんが付き添って下さってサンスポーツランドの駐車場に到着しました。

統括Lの原田さんの判断で、歓迎バーベキューパーティを中止。地元の救急病院に行くことを検討して下さいましたが日曜日の為に整形外科医が不在で、地元のアビコ整形外科なら日曜でも専門医がおり、2時間半で行くことが出来るので観光バスで直行することにしました。車中では、右足を高く上げて、丸太ん棒のように腫れ上がり内出血で紫色になった足を、用意して下さった氷で冷やすなど考えられる限りの応急措置をしていただきました。

病院では直ぐにレントゲンを撮り、右足首の脱臼と踵骨骨折、右足腓骨の骨折と診断され、そのまま入院、内出血が治まり始めた三日後の水曜日に手術、2ヶ月間の入院加療、筋肉靱帯の快復を含め6～8ヶ月の要リハビリと診断されました。

日常のBOMの重要さと臨機応変な応用、皆さんの協力体制に唯々、感謝しています。“骨折事故”として扱っていますが単独行であれば“遭難事故”であり、深く反省しました。

事故の一番の原因は“物語山”と云う山に対して“侮り”があったことと思っています。今更ながら、「山、高きが故に尊からず」の言葉を噛みしめています。

担当の先生からも“多少の無理がリハビリ”と云われ当然、安全第一ではありますが出来る限り歩くように指示され、快晴日を絶対条件に女房に付き添って貰って6月下旬に沼山峠から尾瀬沼に行きましたが、歩行スピードが極端に遅く、特に下山は山溪のコースタイムの倍以上の時間が掛かってしまいました。

15周年記念の谷川岳登山参加を目標に筋トレを続け、8月下旬の快晴日を選んで西吾妻山と月山に登りましたが状態は変わらず、15周年記念谷川岳登山を断念せざるを得ませんでした。

月一回の先生の診断では骨折は完治しているが足首の靱帯と筋肉群が未だ快復していないので特に関節の動きにかなりの影響があるとのことでした。

今年の山行は諦めざるを得ませんが、脚力を中心に体力アップを心がけ来年は、最低でも月一回は会山行に参加出来るようにしたいと思っています。

## 概要

山名	物語山		
月日	平成24年4月8日(日)		
山城	上州沿線	地形図	1/25000 荒船山
形式	日帰り	グレード	1A
目的	17期生を迎えて会員相互の親睦を図る。伝説を秘めた山。		
費用	4,000円	交通機関	貸切バス
行程	<p>我孫子駅北口バス発 5:37→柏 I C 5:50→上里 P A 7:08/7:25→下仁田 I C 7:50→スポーツランド駐車場着 8:15 登山は班毎に行動。B班と食担班の記録</p> <p>登山開始 8:25⇒衣服調整 8:55/8:58⇒登山道取付 9:26/9:35⇒コル 10:10/10:15⇒物語山 10:30/10:40⇒コル 10:55⇒物語山西峰 11:02/11:30(昼食)⇒コル 11:35⇒登山道取付口手前でA班に追着く 12:05/12:30(負傷者の治療)(救助隊以外のメンバーは別行動で早く下山)⇒スポーツランド駐車場着 13:05 軽トラックが負傷者を迎えるに出発 13:10分、負傷者乗せた車が帰る 13:30 全員が無事に下山 13:40 駐車場バス発 13:50→ホテル山公園 14:10/14:20→下仁田 I C 14:38→嵐山 P A 15:18/15:30→柏 I C 16:35→整形外科病院 17:11→我孫子駅北口着 17:15(解散) 晴れ&lt;歩行時間3時間45分&gt;</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹沢に沿った林道岩茸線を登る。始めは歩き易いが段々と上に登ると荒れて歩き憎い道に変わる。</li> <li>・林道から分かれて涸れ沢を渡ると登山道になる。急傾斜の始まりで雑木林の中を登る。途中から平らな岩層が一面に敷き均した急登になる。</li> <li>・登りは何とか登れるが、下山は足元が滑るので注意が必要である。</li> <li>・コルから最高峰の物語山と西峰のどちらも急登で注意が必要。</li> <li>・案内板は必要な場所に設置して有るのでルートを間違えるようなことは無い。</li> </ul>		
参加者	<p>A班 瀬田(L)、村松(SL)、大山、本田、齋田、郷田、高橋英 7名</p> <p>B班、矢野裕(L)、武内(SL)、矢澤、中村八、高橋芳、箕輪完、 6名</p> <p>C班、中村育(L)、中村隆(SL)、坂巻、箕輪力、矢野貞、高橋重 6名</p> <p>食担班、菊地(L)、外崎(SL)、村越、桐生、飯沼、原田(C L) 6名</p> <p>男12名、女13名 計25名</p>		





A班 西峰一番乗り



B班 山頂1019m



C班 物語山西峰と浅間山



食坦班 朝日を浴びてスタート



メンベ岩

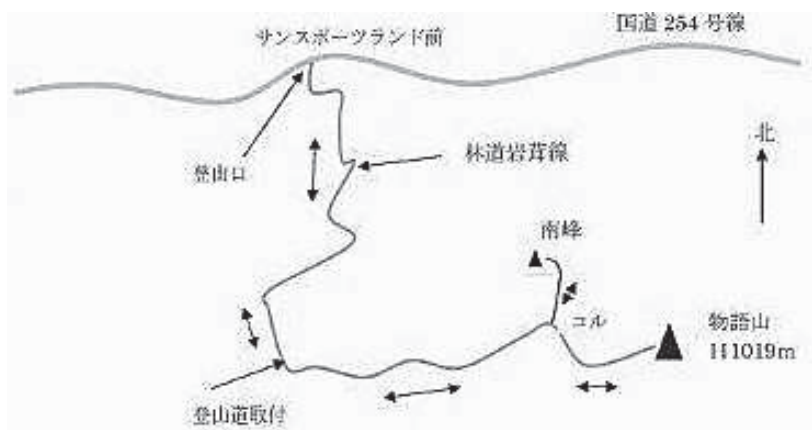


荒船山



辛い下山

概念図



< 7 6 8 >

八ヶ岳 (赤岳)  
(2899m)

北川勝久

山頂は白銀に輝いて

平成 24 年 4 月 14 日 (土)

あいにく天気は曇天でいつ雨が降ってもおかしくないような天気。特急「あずさ」でまずは茅野まで。車窓からは山梨あたりで桜や桃の花が見られる。9:00 過ぎに茅野に到着。茅野からは、バスに 40 分程ゆられて美濃戸口まで行く。

少々休憩してから、赤岳鉱泉へ向かう。相変わらずの曇天のなか、ゆっくりと歩いていく。1 時間程で美濃戸山荘に到着。休憩をして引き続き歩き続ける。赤岳鉱泉まではほとんど林道であり特に問題なく歩いて行く。

14:00 過ぎに赤岳鉱泉に到着。赤岳鉱泉ではアイスクャンディーというアイスクライミング用の壁が作られていて何名かがクライミングを楽しんでいる。お金を払えば初心者でもチャレンジできる。

とりあえず、宿で受付を済ませて場所を確保する。そしてとりあえずの乾杯をして夕食までの自由な時間を落ち着く事に。

赤岳鉱泉の夕食は特筆すべきもので豪華なステーキ。うまい。こんな山の中でステーキが食べられるとは、山荘のこだわりを感じる。ワインをとって再びの乾杯。申し分なし。幸せな時間であった。

4 月 15 日 (日)

今日は、行者小屋まで行って、赤岳登頂の予定。

5:30 過ぎに赤岳鉱泉を出発して、行者小屋へ向かう。約 1 時間程で行者小屋に到着。ここから赤岳を見ると、雲がすごい勢いで流れており、風が相当強いことが予想される。

宿で作ってもらった弁当を食べてから、7:00 頃(弁当は昨日のステーキと比べると大したことはありません。)文三郎尾根を上がって行く。風が強いと思われたが、そんなことはなく雪道にアイゼンを効かせて順調に高度を上げていく。天気も快晴とっていい天気です。

息切れはあるが気持ちよく登って行く。赤岳の上部は雪と岩場のミックスであるので慎重に登って行く。9:00 過ぎには赤岳山頂に到着。快晴の中の登頂で気持ち良い。



赤岳山頂は 360 度の大パノラマ  
北、中央、南アルプスが白銀に  
輝いて息を飲む様な美しさだ



ただ、結構人が多くて混雑気味であり、あまりのんびりできない雰囲気であったのが残念といえば残念であった。

登頂の記念写真を撮って地蔵尾根を下って行く。途中刃渡りのような箇所があったがザイルを出して無事に通り抜ける。

ただ、この後、ヒヤリハットというべき滑落があり、登山に過信は禁物であり、くれぐれも注意が必要であることを思い知らされた。状況としては先行する 5~6 名のパーティが 5~6m ほどの段差を下っている時に時間がかかりそうだと感じ、巻き道と思われる道を進んで行った時に雪が崩れて、数mの滑落となってしまった。大けがをしなかったことだけでも良かったと思えるものであった。



気を取り直して下山を続ける。ここからは特に問題なく下山をしていく。12:00 過ぎに行者小屋に到着。

ここからは美濃戸口まで林道を歩いて行き、15:00 前に美濃戸口に到着。八ヶ岳山荘で風呂に入ってさっぱりしてからバスで茅野駅へ。

茅野駅ではいつものように茅野駅の居酒屋で反省会をしてから帰路についた。

今回の登山では安全性を重視しなければならないことを痛感した山行であった。

### 概要

山名	八ヶ岳 (赤岳)		
月日	平成 24 年 4 月 14 日 (土) ~ 4 月 15 日 (日)		
山城	八ヶ岳連峰	地形図	1/25000 八ヶ岳西部
形式	山小屋泊	グレード	4D
目的	1. 雪の安定する、この時季での八ヶ岳の主峰に挑戦。 2. 山頂からの 360 度のダイナミックな展望を期待して。		
費用	約 20,500 円	交通機関	JR、バス
日程	1 日目	我孫子駅発 5:31 → 新宿駅 6:30/7:00 (特急あずさ) → 茅野駅 9:08/9:35 (バス) → 美濃戸口 10:10/10:30 → 美濃戸山荘 11:30/11:45 → 林道終点 12:55/13:05 (北沢コース) → 赤岳鉱泉着 14:10 (泊り) 雪 < 歩行時間 3 時間 15 分 >	
	2 日目	赤岳鉱泉発 5:35 → 行者小屋 6:30/7:00 (朝食) → 文三郎尾根経由 → 赤岳 9:15/9:45 → 天望荘 → 地蔵の頭 10:25 → 地蔵尾根 → 行者小屋 12:05/12:30 (南沢コース) → 美濃戸山荘 14:40 → 美濃戸口 15:35 (入浴) / 16:40 (バス) → 茅野駅 17:20/19:07 (特急あずさ) → 新宿駅経由 → 上野駅 → 我孫子駅着 22:10 快晴 < 歩行時間 8 時間 35 分 >	

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>標高 1700m 過ぎると雨が雪に変わる。当然、登山道も雪道となるためアイゼンを装着する。</li> <li>去りがたい思いで、下山は地蔵尾根のルートにした。お地蔵さん、直下のナイフリッジはロープを出して無事通過。</li> <li>急坂を慎重に降り、標高 2,300m 付近の約 10m 位のレンゼに着いた時、先行のパーティーの時間が掛かっていた。そのパーティーから巻道有るとの情報を訊いて北川、外崎の 2 名が巻道に向かった。村松、斎田は斎田の手袋を点検していた為、遅れてそのルートに入る。</li> <li>狭いトラバースに入った際、足元の雪が崩壊して北川、外崎が約 7 ~ 8 m 滑落した。幸い顔に擦り傷が出来た程度で済んだが、場所が悪かったら大事故に繋がった。このルートの通過は非常に難しい。</li> <li>反省点は、むやみに他人の情報を信用しない。又、リーダーは雪山に於いては、細心の注意力及びリーダーシップが必要だ。 村松 (代) 記</li> </ul>
参加者	北川 (L)、村松、外崎、斎田 男 2 名、女 2 名、計 4 名



4 月 15 日 赤岳

### 概念図



< 7 6 9 >

扇山～百蔵山  
(1138m) (1003m)

高橋芳恵

扇山から静かな山稜を伝って百蔵山に登る

曇天模様で4月としては肌寒い日であったが、明るく元気な大島リーダーのリーダーデビューの日とあって参加者も「午後からは晴れ予報だから心配ないよ」とポジティブ思考で気合が入っていた。中央線鳥沢駅付近は朝方雨が降ったようで登山道も濡れていたが、朝のしっとりとした霧のモイスターは肌に気持ち良く、足取りも軽かった。登山口の梨の木平で念入りな準備体操を行い、山の神までの30分の歩行は体調の調整に心がけた。

扇山は明治44年、明治天皇から恩賜林として鳥沢に与えられたと表示されていたが、里人の窮状に対してのことであり、当時欧米を目指す富国強兵政策で国の税金はほとんど軍事に費やされていた時代のことで、この地の人々の暮らしの厳しさが想像された。

登山道は手入れの行き届いた杉、ヒノキの林であり、急坂が続くものの歩きやすく、山の神から45分程で稜線の大久保のコルに着くことができた。ここからは10分ほどで扇山山頂に至った。

山頂は広い野原であり、あいにく展望は望めなかったが、14年前、私は市民登山の扇山に参加し、岳人あびこに入会させていただいた思い出の山であり、感慨はひとしおであった。改めて過ぎた日々の速さと登山に出会えたこと、この会の山の仲間の皆さんと知り合えたことが、わが人生を豊かに彩ってくれたことに感謝した。当時の2期生の皆さんが鍋釜を持ち上げ作ってくれたトン汁のおいしかったことなどの昔話を同行者のメンバーに話したりした。



←エイザンスミレ

↓落葉松の新芽



ここから約2時間かけて百蔵山に向かう。かなりの急坂を下るためリーダーから注意を受け慎重に下った。大久保山からカンバノ頭までは奈落の底まで続くような急坂で、下った分の登り返す大変さを思い「もったいない」と口々に言い合った。登山道の可憐なスマイレ特にエイザンスミレの可愛さに励まされた。宮谷の分岐で休憩し、これからの急な登りに呼吸を整え、リーダーに先頭をお願いした。登ること約40分。



↓マメザクラ

↑百蔵山頂上



桜の見頃は来週?

百蔵山頂上は大勢の登山客でにぎわっており、百蔵大権現の石碑を囲んで記念写真に納まり昼食とした。山頂には桜木が多く、来週あたりには楽しめるかと思われた。ここでも秀麗な富士山は望まれず、掲示されている写真で確認した。約1時間の下山路では雪のように白いマメサクラの美しさやイカリソウを楽しみ、大山祇神社付近のソメイヨシノの花吹雪をめでた。



さらに三大奇橋で有名な猿橋に向った。何度か近くに来てはなかなか立ち寄ることができなかった猿橋であるが、さすが国の名勝文化財に指定されている天下の奇橋で、桂川の狭い溪谷にかかる橋には、橋桁はなく框を重ねるようにせり出し特異な形をしていた。ちなみに三大奇橋とは猿橋、



岩国の錦帯橋、四国祖谷溪のかずら橋であるとのこと。一見の価値ある名勝といえる。



猿橋見学



麓は満開

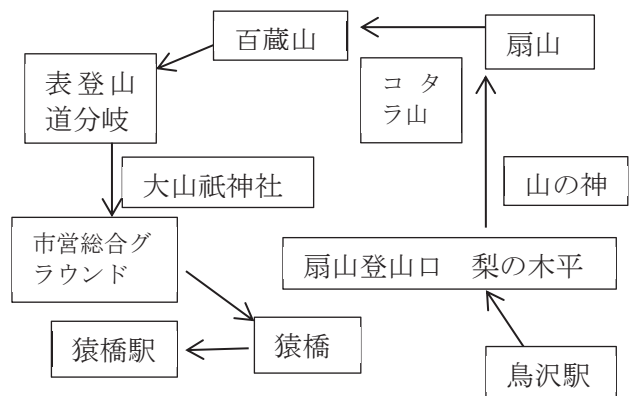
反省会は猿橋の前の蕎麦屋とし、周到なる準備いただいたリーダーへの感謝とリーダーとしての最初の山行を祝ったが、わが会の慣習のため恐縮ながら各自払いとなった。反省会では「歩行ペースが少し早かった」ことが唯一の反省点として挙げられた。この蕎麦屋の自慢の「忠治蕎麦」はこの店に国定忠治が宿泊していたところを役人に見つかり、忠治は店の前の猿橋付近に飛び込んで追っ手から逃れたことが名物の由来と聞き、国定忠治がやけに身近に感じられた。

6 時間を超える行動時間、1 時間の反省会を終えても猿橋駅 15 : 51 の電車に乗れるとは。朝、鳥沢駅から梨の木平までタクシーを利用した効率の良さが一日をゆったり、心地よく過ごすことができるポイントであったことを再確認し、リーダーの気配りに感謝した。

## 概要

山名	扇山～百蔵山		
月日	平成24年4月21日(土)		
山城	中央線沿線	地形図 1/25000	上野原 大月
形式	日帰り	グレード	2A
目的	富士山の展望と山里の春		
費用	約3,500円	交通機関	JR タクシー
行程	我孫子駅 5:33→高尾駅 7:17/7:32→鳥沢駅 着 8:07/8:09(タクシー)→梨ノ木平登山口 着 8:18/8:30⇒山の神・水場(衣服調整)9:02 ⇒大久保コル 9:45/9:50⇒扇山 10:00/10:20 ⇒大久保コル 10:26⇒大久保山 10:30⇒休憩 11:00/11:05⇒宮谷への分岐 11:28⇒東ル ト分岐 12:10⇒百蔵山 12:15/12:40(昼食)⇒ 稜線鞍部 12:50⇒展望台 13:05⇒水場 13:30 ⇒東ルート登山口 13:43⇒猿橋着 14:35猿橋 見学 14:35/14:50(反省会 そばや) 14:55/ 15:25⇒猿橋駅 15:37/15:51→高尾駅 16:30/16:31→西国分寺 16:58/17:05→新松 戸駅 18:05/18:10→我孫子駅着 18:23 <歩行時間5時間10分>		
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>登山口の梨の木平にはトイレが3棟、女子専用もありきれいに管理されている。</li> <li>約30分で水場あり。水は豊富に出ている。</li> <li>急登、急下降はあるが全体によく整備されていて危険箇所はない。</li> <li>百蔵山への縦走で大久保山から最低鞍部まで一気に350m下る。急下降ではあるがつつら折れに整備されている。慎重に下れば問題はない。</li> </ul>		
参加者	大島(L) 高橋(芳)(SL) 原田 田村 矢野裕 坂巻 矢澤 男3名 女4名 計7名		

## 概念図



< 7 7 0 >

高取山～仏果山～経ヶ岳  
(705m) (747m) (633m)

高橋芳恵

### 山岳修験者の霊場の峰々

本厚木駅からバスに乗り、8:35 撚糸組合前で下車。半原神社の境内で出発の準備を行った。連休初めの晴天で気持ちも晴れやか「やはり天気が良いのはありがたい」。半原神社で今回の山行の目的でもある『疲れない歩き方』をリーダーからしっかり講義を受け、模範指導者としてFさんが選ばれ、本日の教育山行が始まった。

このコース、私は二度目ではあるが、10年以上前のこととて、ほとんど記憶にないに等しい有様で、リーダー任せで連れてきてもらうような、人任せの山行であったことを大いに反省し、今後の山への丁寧な取り組み方の必要性を感じた。

ふれあいの村のホテルの里を通り、仏果山登山口に半原についての説明板があった。「1807年（文化4年）桐生から撚糸機を導入し、生糸の撚糸がこの地で本格的になり、水の豊富な半原では水車を動力として利用して川のあちこちに水車が見られ、昭和の初期まで絹縫い糸の80%を半原で生産していた」と書かれていた。神社やお寺の立派さに半原はいかに反映していたか、その名残と思われた。

私たちは高取山へとさらに杉林を登り、さっそく山ビルに遭遇し、沢を渡って登り返した。鹿よけの扉を3回ほど抜けて、急坂を上ると登山口から1時間半で明るい高取山頂上となった。山頂では桜が満開で中でも、黄色の「御意桜」は珍しかった。ここでしばらく休憩し半原の町や丹沢の展望を楽しんだ。



御意桜



高取山 705m  
満開の桜の下でひと休み

さらに30分で仏果山に到着した。やはり、かなりのにぎわいである。昼食後、展望塔に登ってみると、宮ヶ瀬湖や大山、丹沢山、蛭ヶ岳の丹沢主脈の眺望がすばらしかった。リーダーから食後の30分の事故防止についての注意をうけ、経ヶ岳に向う。下り始めは急な岩場で手をかけるのも難しい個所もあった。ここから先はやせ尾根の急な下りとなり、足元に神経を使ってゆっくり下った。



仏果山頂上  
高い展望台から駿河湾、伊豆半島の眺望を楽しんだ



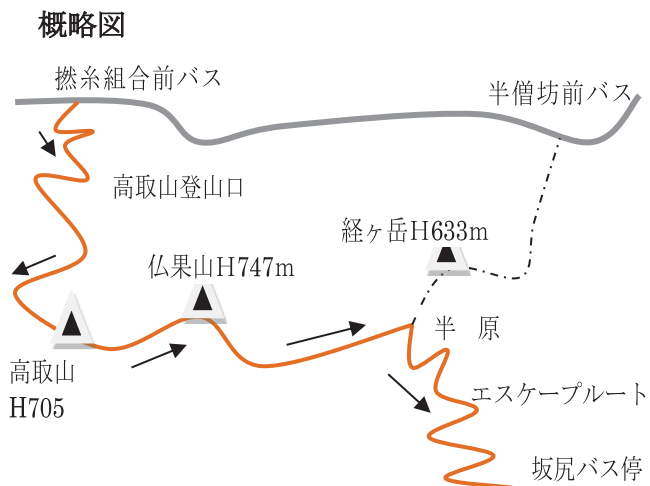
登山者とのすれ違いに互いに声を掛け合っていたが、インターネットで集まったという40名の団体とのすれ違いに道を譲った際に「指示をしないでください！」とリーダーらしき人が鋭い口調で言い放ったのには驚いた。このグループはほとんどがその日集まった大勢の若者と、数人の中高年が中心となっているようだったが、指導者として正しい山の対応を若者に教えてもらいたいと切に感じた。これだけ若者が山に関心があるにもかかわらず、組織された既存の山の団体の魅力の乏しさがこうしたインターネット登山の盛況さの反映かもしれないと思った。

桜林の急坂を下り、鹿よけの扉を抜けて14:00 半原越の林道に到着した。経ヶ岳へは0.7 kmを上り返すと表示がある。ここで高取山から体調不良であった同行のOさんから「リタイアしたい」との訴えがあった。リーダーを中心に参加者で協議し、経ヶ岳を諦め全員で法輪堂林道をエスケープすることを決定した。

途中リッチランドという入浴休憩施設を通り、15:35 坂尻のバス停に到着した。本厚木では連休の安心感も加わり、時間をかけて反省会が大いに盛り上がり、楽しく過ごすことができた。



坂尻バス停に下山 春爛漫の里



本日は原田リーダーの緻密な計画の下、晴天に恵まれ、低山ではあるが、素晴らしい展望と繰り返しのアップダウンのなかなか歩きごたえ、足元のスマイレやヒトリシズカの可憐さや桜、つつじが楽しめた充実した山行であった。

概要

山名	高取山～仏果山～経ヶ岳		
月日	平成24年4月29日(日)		
山城	丹沢	地形図	1/25000 上溝
形式	日帰り	グレード	2A
目的	春の新緑を楽しむ		
費用	3,500円	交通機関	JRバス小田急
行程	<p>我孫子駅 5:33→代々木上原駅          6:41/6:44→本厚木駅着 7:41/7:50 (バス)→燃系組合前着 8:35/9:00⇒登山口 (衣服調整)9:30/9:35⇒林道 10:00/10:05⇒高圧線通過 10:30⇒高取山H705m11:03/11:15⇒宮ヶ瀬側からの合流地点 11:30⇒仏果山 11:55/12:25(昼食)⇒革籠石山 13:10⇒休憩          13:23/13:30⇒土山峠への分岐 13:35⇒半原越 14:00/ 14:15 ここからルート変更して下山開始⇒リッチランド          15:00⇒坂尻バス停着 15:35/16:05 (バス)→本厚木駅前 16:55 反省会 (十和田)17:00/18:45⇒本厚木駅発 19:02→代々木上原駅 19:54/19:56→我孫子駅着 21:08(解散)</p> <p style="text-align: right;">&lt; 歩行時間 5時間 20分 &gt;</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃系組合前から登山口までは舗装して有る道路で歩き易い。</li> <li>登山道に入ると湿った土の中から小さな蛭が起き出しているので注意が必要。登山道は擬木を使用した階段が多い。</li> <li>案内標識は必要個所に設置して有る。</li> <li>仏果山から経ヶ岳に向かうルートは細尾根の連続で、ロープや階段の個所も有る。尾根が崩れ掛けて新しいクサリが設置して有った。反対側から来る登山者が多くて退避場所に気を付ける必要が有る。</li> <li>急傾斜の登りや下りは滑り易いので注意が必要。</li> </ul>		
参加者	原田(CL)、藤倉 (SL)、品田、高橋芳、大島、小川誠、矢野貞、末永、菊地、村越、郷田、桐生 男4名 女8名 計12名		

< 7 7 1 >

守屋山・霧ヶ峰  
(1650m) (1925m)

清家三保子

## 私のリハビリ山行

今年も5月のゴールデンウィークがはじまる。1月末膝を痛めた。殆ど歩けない状態が1ヶ月近く続き、今は普通に歩いているが階段の上り下りが痛い。山はどうだろう？と思っていた矢先、外崎さんから電話。「北アルプスの天候が悪く、予定を変更して、守屋山、霧ヶ峰にするから行きませんか？」と。そんな急に！予定も組んでしまったし、3日も？とモタモタしてしまう。リーダーが「1泊2日でもいいし、おいしいワインもあるよ。」と後ろで言う。1日待ってもらい予定を調整し行く事となった。

しばらくぶりのテント泊り、しばらくぶりの4時起き、心配で眠れない。新宿駅で久しぶりの北川さんと合流する。臨時特急あずさにて茅野駅に9:45到着、20分程度で、もうレンタカーに乗る事ができた。時間はたっぷりあるので諏訪大社を訪ねる。私は信州育ちではあるがこんなにゆっくり見学した事はない。本宮の4本の巨大な御柱で囲まれた境内を歩く。この他に前宮、上社、下社とそれぞれ御柱があり計16本。7年に一度の祭りの後新しい柱に取り替えられる。古い柱はお守り、箸、等に加工され売られていた。

私達は本宮のみ見学し守屋山に向かう。杖突峠で車を降り登山道に入る。まだ黒味がかっているカラマツ林が目を引き。しかし何だろう、円いゲル？テント？人が住んでいるのか、いないのか。登山道の脇にいくつもあり、何か不気味である。

膝の心配をする程の急登もなく分抗平に着く。

ザゼン草の保護をしてある所があり2つ程咲いていた。まだ早い様だ。その先で今夜の寝ぐらの点検をする。分抗平は避難小屋があり、中を見たがとても見えそうにない。

テントを張るのには、なだらかなカラマツ林の斜面が続きとてもきれいな場所だ。トイレも水場もOK。藁葺屋根の下にはベンチ、テーブル

もある。雨が降っても大丈夫だ。

サブザックで守屋山に向かう。30分程の急登が続くと、東峰に着く。目の前の諏訪湖を見晴らし、さらに西峰に向かう。15分程で着くと、山頂は木、枝が刈られ明るく展望が開けている。特に御嶽山が大きく、北アルプス方面が望める。

帰りは登った道を下るのみだが、急である。しっかりと踏ん張れない分、十分気をつけて足の置き場を見つける。無事下山してホッとした。

アフター登山の始まりだ。いそいそと川の水にビール、赤ワインを冷やす。鍋をつつき、藁葺屋根の下、ゆったりと過ごす。

### 2日目

夜半、テントを叩いていた雨が気になっていたが止んでいた。カラマツの中のテント場に別れを告げ7時前には出発する。昨日の道を下り登山口に7:23に着き7:50にはレンタカーで霧ヶ峰に向かう。

近づくにつれ数メートル先も見えない程の霧、さすが名前の通りだ。八島ヶ原湿原駐車場に車を止め9:00に出発。鎌ヶ池、物見岩をたどる。まだまだ枯草色の湿原だ。広大な蝶々深山の丘は気持ちまでのびやかになる。

それにしても風が強くなり冷たい。車山のリフトを見ながらゆっくりと山頂に着く。雷が鳴っていたかと思っていたら雨だ。山頂の観光客は大慌てだ。ミニスカート、サンダル的女子を心配してしまう。しっかりした山頂の小屋で昼食をとりながら雨の止むのを待つ。遠方は望めず近くの白樺湖が良く見える。高校生の時スケートにきた所だ、懐かしい。時々夕立の様に雨が落ちる。駐車場に13:10に着く。約4時間のびやかな高原歩きだった。

下山後歴史ある片倉館で入浴する。紡績工場の女工さん達が入った温泉だとか。深くて熱い風呂は長く入っていられず沢山の女工さん達を入れるため回転を良くしたという辛い歴史でもある。飯田で育った私は、中学生の旅行でこの片倉館で入浴した。その時は溺れるのではないかと思う程深く、そして広く感じられた。今は胸の深さであった。

こうして私のしばらくぶりの山行は無事終わった。又、中学生、高校生の頃の懐かしい思い出と共に、とても楽しい山行であり思い切っ来て良かったなあ満足感でいっぱいであった。

## 概要

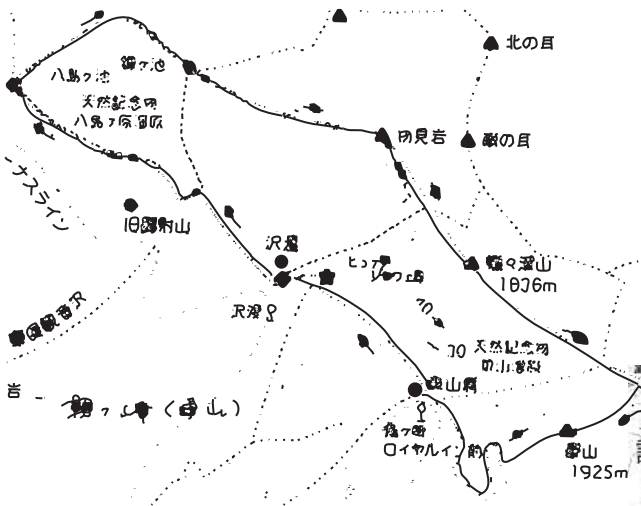
山名	守屋山・霧ヶ峰		
月日	平成24年5月3日(木)～5月5日(金)		
山城	南ア北部、 八ヶ岳周辺	地形図 1/25000	茅野、高遠、霧ヶ 峰
形式	山小屋泊	グレート	2A
目的	1. 北アルプス天候悪化のため、諏訪地区の1等3角点を訪ねる。 2. のびやかな高原の別天地を散策。		
費用	約20,000円	交通機関	JR、レンタカー
日程	1日目	我孫子駅発 5:31→新宿駅 6:30/7:18 (臨時特急あずさ) →茅野駅 9:45/10:05 (レンタカー) →諏訪大社本宮 10:15/11:40 (見学、昼食) →守屋山登山口 12:15/12:30→避難小屋 (分杭平) 13:10/13:25→守屋山東峰 14:00 →西峰 14:25/14:40→東峰 14:55→避難小屋 (分杭平) 15:20 (テント泊) 晴後雨	
	2日目	テント場発 6:50→守屋山登山口 7:23/7:50 (レンタカー)→八島ヶ原湿原駐車場 8:40/9:00→鎌ヶ池→物見岩 10:00→蝶々深山 10:26→車山避難所 11:25/11:20→車山山頂 11:25/11:30→旧御射る山遺跡→八島ヶ原駐車場 13:10→片倉館 (入浴) 14:00/14:45→茅野駅 15:15/17:50 (特急あずさ)→上野駅→我孫子駅着 21:12 晴時々雨、風強し	
参加者	村松 (L)、清家、外崎、北川、 男2名、女2名、計4名		



不思議な名の蝶々深山を過ぎて最高峰の車山に向かう



## 概念図





< 7 7 2 > 県連ウィークデイ山行

玉原高原～尼ヶ禿山～ブナ平  
(1466m)

村越百々代

フキノトウの群落に春を感じて

玉原湿原は、以前より行ってみたいと思っていた湿原で、昨年も確か計画されていましたが、仕事の都合で参加できず、今年こそは…と楽しみにしていました。

我孫子駅北口から鎌ヶ谷始発のバスに乗り、岳人あびこからは4人、他にも「かがりび」の人、新松戸では「松戸」や「ふわく」の人たちと一緒にになりました。その他、千葉発のバス1台もあり総勢53人という大勢での山行となりました。バスに乗ってから途中休憩も含め、3時間ほどで玉原高原センターハウス駐車場につきました。準備体操、地図読みの後いよいよ山行の開始です。



出発のとき、総勢53名

歩き始めてすぐのところにブナの湧水があり、その後玉原湿原に入って行きました。湿原の木道を歩き始めてすぐに、小さくて「可憐」という言葉がぴったりな水芭蕉の群れが現れました。思わずカメラを構えシャッターを切りました。お天気は曇りがちでシャッターを切っているそばから雨が降ってきました。すぐに雨具を着、それからは滑らないように気を付けて木道を歩きました。強い雨は長くは続きません

でしたが雨具を着たまま歩きました。しばらく歩いてセミナーハウスへの分岐に着きました。そこにはフキノトウがいっぱい咲いていて、ここでも浅い春を感じました。セミナーハウスの脇で休憩を取りいよいよ尼ヶ禿山をめざします。登り始めてすぐに残雪があり、雨も少し降っていたので「このまま登って行って大丈夫なのかな…」と少し不安にもなりました。



残雪を踏んで尼ヶ禿山に向かう

早々と下山する人たちがいて、「大勢だと簡単にはやめられないんだね…」という会話も聞こえてきて、ますます不安になりました。途中で何か所も残雪がありましたが「いざとなったら軽アイゼンも持ってきたし、ベテランの小川さんや外崎さんもいるし何とかなるだろう…」そんな頼りない私ですが、みんなについていながら雪をけるようにしながら歩きました。末永さんといろいろ話しながら歩くのも楽しかったです。歩き始めて1時間ほどで鉄塔に着きました。ここはちょっとした広場になっていて、ここでもフキノトウがいっぱい咲いていました。この広場から頂上まであと一頑張りです。

頂上はとても狭く、グループごとに記念写真を撮るのが精いっぱいといった感じでした。岳人あびこ4人で無事記念写真を撮って、すぐに下山を始めました。何しろ狭いのでほかのグループに頂上を譲らないといけないのです。雨はやんでいたもののあたりは霧で真っ白。景色は全然見えませんが下山中に霧が晴れ、緑の水をたたえた玉原湖が見えた時には思わず「きれい!!」とみんなで声をあげました。「きれいだね」「来てよかったね」などと話しながら鉄塔まで戻り、玉原湖を見ながら昼食を食べました。山に登って何がいいか…景色を見ながらお弁当を食べる時ほど山に来てよかったと思います。あたりは冬景色でしたが水芭蕉も見たし、フキノトウもいっぱいあったしヨカッタ、ヨカッタと思いながら下山しました。玉原湿原

の起点方向へ向かい、トンネルの脇の林道に出ました。道端にはフキノトウがいっぱい。たくさん摘んでお土産にしました。しばらく林道を歩きブナの湧水の脇を通り、駐車場に着きました。

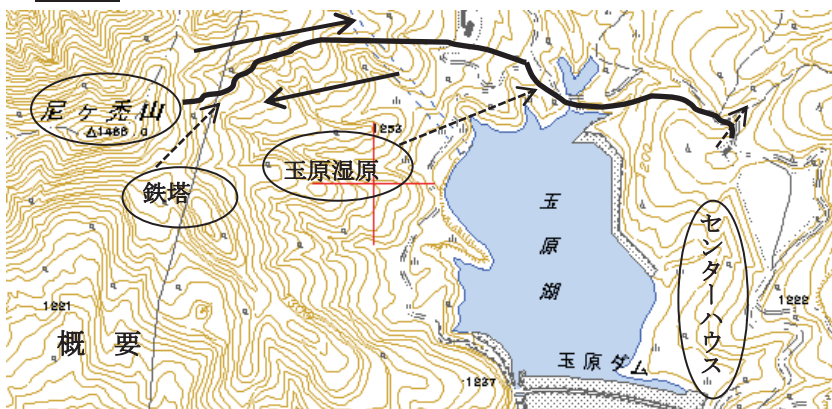
帰り支度をしてバスに乗り、予定にはなかった迦葉寺(かしょうじ)に寄りました。名前は聞いたことがありましたが、天狗に会えるよ…ということだったので中に入ってみると天井まで届くような大きなお面が3つもありその大きさに圧倒されました。そのあとバスで沼田インターの近くにある望郷の湯に行きました。望郷の湯は河岸段丘のてっぺんにある温泉でとても眺めがよく、お湯につかると肌がつるつるになりました。

前から行ってみたいと思っていた玉原湿原。水芭蕉とフキノトウ、尼ヶ禿山の下山途中で見た緑の水をたたえた玉原湖、迦葉寺の天狗、望郷の湯等々…日々の忙しさを忘れ、とっても元気をもらった山行となりました。

**尼ヶ禿山頂上にて、岳人あびこの精鋭**



**概念図**



**水芭蕉の群生**

山名	玉原高原～尼ヶ禿山～ブナ平		
月日	平成24年5月10日(木)		
山域	群馬県沼田 氏玉原高原	地形図	1/25000 藤原湖
形式	日帰り	ゲレト	1A
目的	ブナと残雪と水芭蕉鑑賞および地図読み		
費用	5,000円	交通機関	貸切バス
日程	我孫子駅北口発 06:40 (鎌ヶ谷始発のバス) (「かがりび」の参加者と一緒になる) → 新松戸 (流通経済大学前にて「松戸」や「ふわく」の参加者と一緒になる) (バスは他に1台、千葉始発のものあり) 発 07:15 → 関越道高坂 SA08:45/08:50 → 赤城高原 SA09:40/09:47 → 玉原高原センターハウス駐車場着 10:37、準備体操、地図読み / 登山開始 11:05 → ブナの湧水 11:15 → 湿原入り口より木道に入る、水芭蕉がいっぱい → セミナーハウスへの分岐、フキノトウの花いっぱい 11:35 → セミナーハウスの脇 11:50 → 休憩 12:00/12:07 → 道標「尼ヶ禿山まで1km25分」 12:15 → 鉄塔、フキノトウの花いっぱい 12:20 → 尼ヶ禿山登頂、記念撮影 12:45 → 下山開始 12:50 → 鉄塔にて昼食、霧が晴れて玉原湖を見下ろしながら食事 13:15/13:33 → 分岐、玉原湿原/起点方向、起点方向へ向かう 13:38 → トンネルの脇に出る、フキノトウを摘む 13:50/13:55 → ブナの湧水 14:25 → 駐車場着 14:35、駐車場発 14:53 → 迦葉寺(かしょうじ)、大きい天狗の面が見事 15:40/15:50 → 望郷の湯、川岸段上の露天風呂 16:25/17:30 → 三芳 SA19:00/19:10 → 新松戸、流通経済大学前 19:48 → 我孫子駅北口着 20:50 霧雨、曇り、薄晴れ、微風		
ルート状況	天気が荒れるとの予報であったが、幸い、歩き始めのとき小雨状況、あとは降られなかった。(昼食時東京と電話したら土砂降りとのことだった)。気温7ないし8度。微風。		
参加者	小川誠(L)、外崎(SL)、末永、村越 県連参加者と併せて総勢53名		



< 7 7 3 >

鳴神山  
(980m)

中村 八重子

花を愛でながら下山

春のうららかな一日、お花の山として人気のある鳴神山にのぼりました。

マイクロバスを貸し切り、総勢 20 名のにぎやかな山行。目的は固有種である「ナルカミスミレ」「カッコウソウ」その他多くの花に出会うことでした。

大滝登山道は大きな石がごろごろ。かなり歩きにくいが可憐なスミレの花が咲いています。期待のもてるみちのりです。中腹で、やまぶき色のセリバヤマブキソウを教えてくださいました。



セリバヤマブキソウ



ルイヨウボタン

私は初めて見る花です。カッコウソウの群生地は頂上手前にありましたが、開花にはまだ早かったようです。後で他の登山者がコツナギ沢コースにたくさん咲いているとの情報をくれました。コースを変更して、復元されているカッコウソウをみてきました。サクラソウによく似た色の鮮やかな花です。盗掘されるとかで、手厚く保護されていました。



カッコウソウ



ニリンソウ



雷神岳神社と八重山桜

山頂には 4 つの祠が置かれており、古くから信仰の山として親しまれている様子がわかります。360度の展望が得られました。しばし山座同定・・・。

雷神岳神社前広場で昼食。八重山桜が色をそえました。

吾妻山への縦走路。広葉樹の尾根道は萌える新緑で、至るところ三つ葉ツツジ、山ツツジの花 花 花です

花を愛でながら、ゆっくりの下山でしたので 1 班さんを待たせてしまいました。ゴメンナサイ。やさしい山歩きができました。





I班 ↑ →  
天気よく展望よく



萌える新緑の中で 2班



頂上にて

## 概要

山名	鳴神山		
月日	平成24年5月13日(日)		
山域	前日光山系	地形図 1/25000	大間々、番場
形式	日帰り	グレート	2A
目的	お花の山 (カッコソウ、ナルカミスミレ)		
費用	約3,300円	交通機関	マイクロバス
行程	<p>我孫子駅北口発 5:40→高速道(常磐・外環・東北・北関東)→太田桐生IC→大滝登山口 8:10〈1班〉出発 8:25⇒衣服調整 8:55/9:00⇒カッコソウ保護地 9:55⇒鳴神山(合流) 10:15/10:30⇒カッコソウ群生地 10:50/11:00⇒仁田山岳(昼食) 11:25/11:45⇒金沢峠 13:40⇒林道(合流) 14:20/14:45〈2班〉出発 8:30⇒衣服調整 8:50/8:55⇒鳴神山(合流) 10:15/10:30⇒カッコソウ群生地 11:05/11:15⇒鞍部(昼食) 11:50/12:05⇒三峰山 13:30⇒金沢峠 14:05⇒林道(合流) 14:45⇒観音橋(マイクロバス) 15:05⇒反省会→高速道(北関東・東北・外環・常磐)→我孫子駅北口 19:40</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上りは急坂で岩石が多く、慎重に登る。</li> <li>・尾根はハイキングコースとつながっており、歩きやすい。新緑がまぶしい。</li> <li>・下りも急坂で舗装はあるが、濡れ落ち葉で滑りやすい。花を見ながらゆっくり。</li> </ul>		
参加者	<p>箕輪完(L)、高橋英、品田、高橋芳、大畠原田、田村、斎田、中村育、村越、飯沼、中村八(SL) 中村隆、小川洋、箕輪カ藤倉、本田、新谷、高橋重、郷田 男性6名、女性14名 計20名</p>		

## 概念図



< 7 7 4 >

大室山～加入道山  
(1588m) (1418m)

高橋芳恵

新緑の稜線を結んで歩く

5月19日(土)丹沢の深遠、大室山、加入道山に出かけた。日帰りコースとして行動時間の限界に挑戦した。我孫子から新松田までは代々木上原で乗り換え2時間半、『遠いなー』が実感だったが、下見を実施されたりリーダーの判断でタクシーを利用して用木沢出合に9:00に入れたことは助かった。電車の中からこの季節には珍しい、巨大な富士山がしっかりと姿を現し、この山行にさらに付加価値を与えてくれているようであった。犬越路までの登りはきつかったが、タクシー利用のおかげでいつもよりはあっという間に登れた。

犬越路は武田信玄が軍犬を先導させて越えたといういわれのある昔道で甲斐と駿河を結ぶ重要な街道であり、今は東海自然歩道となっている。

犬越路からはさわやかな新緑の明るい稜線を大室山に向った。緑の中にミツバツツジの赤や白いゴヨウツツジが楽しめたが、例年に比べ花の時期がやや遅い感じであった。



雪に覆われた富士山

ま白き富士の景観は気温の上昇で霞んでは来ているが、なお素晴らしく、休憩時間に存分に楽しんだ。山の標高に合わせるかのように深緑から新緑、大室山頂上では芽吹きと様々な山の様相に自然を感じた。林床はコバイケイソウが茂り、ブナ林が美しい。頂上では山座同定を行い、道志の山塊を確かめた。



大室山山頂にて

大室山から加入道山へは急こう配の坂道を破風口までどンドン下り、前大室付近のブナ林を楽しみながら、20分ほど登って加入道山に到着した。頂上には避難小屋があるが、トイレはない。この付近もコバイケイソウの群落で6月には白い花で埋め尽くされるかと想像した。コバイケイソウの花は梅の形をしていると参加者からのレクチャーに「なるほど」と思った。

加入道山から白石峠までは丹沢特有の階段が続き、白石峠からはその上に足場が悪く、東海自然歩道と記されているが、一帯木々がなぎ倒され、雨で崩れ落ちたような荒れた状態であり、大雨になれば登山道は川や滝となるのであろう思われた。峠には「大雨の時には通行禁止」とする旨書かれていたが、石がゴロゴロと動き、歩きにくいことこの上ない。

枯れ沢状態の続く道から一筋、二筋の伏流水が現れ、たちまち水音を立てた沢となり、幾筋もの淵となり、白石の滝ではりっぱな滝となって、ゴゴーと川となっていく過程をわずか1時間ほど



の間に目の当りにし、いたく感動した。白石という地名は大理石がこの流域で産出されていたことに由来し、確かに加入道山からの登山道にも白い石が目立っていた。白石の滝付近にも大理石の小石が多くみられた。この後、白石沢を何度か横切り、渡渉を繰り返したのも変化があって楽しめた。

もういい加減うんざりするほど歩いた頃、朝、タクシーを降りた用木沢出合に到着した。ここからはキャンプ場が続く舗装道路であり、土曜日のせいかテントを張り、キャンプを楽しむ若者や家族連れの様が目立った。16時50分西丹沢教室に到着し、実に行動時間7時間40分の本日の長旅を終えることができた。

参加者全員が朝からずっと歩き続けた充実感や新緑やツツジの間を吹き抜ける「緑の風」の爽快感を確認し合った。同行いただいた男性のHさん、新人のYさんも地図のコースタイムより早く歩けたことに大いに気をよくされ自信をつけられたようであった。

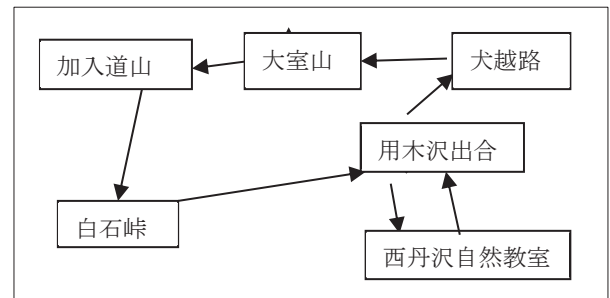
新松田に着き、家族からのメールで我孫子ではホルムアルデヒドが水道水から検出されたため断水となっているとの情報が入り、『急いで帰っても仕方がない』と駅前で和やかな反省会を開催し、さらに参加者同士の交流を深めたことは言うまでもない。快晴の下、何物にも代えがたい素晴らしい山行と心豊かな一日を企画いただいた田村リーダー、本当にありがとうございました。



## 概要

山名	大室山～加入道山		
月日	平成24年5月19日(土)		
山城	丹沢	地形図	1/25000 大室山、中川
形式	日帰り	グレード	2B
目的	シロヤシオを楽しむ		
費用	7500円	交通機関	JR・小田急・タクシー・バス
行程	我孫子駅 5:33→代々木上原駅 6:41/6:44 →新松田駅着 8:05/8:15 (タクシー) → 用木沢出合 9:00/9:10⇒衣服調整 9:38/ 9:41⇒大越路 10:30/10:40⇒休憩 11:18/ 11:25⇒尾根分岐 12:25⇒大室山(昼食) 12:30/12:55⇒尾根分岐 12:59⇒破風口 13:35⇒休憩 13:50/13:55⇒前大室 13:57 ⇒加入道山 14:10/14:20⇒道志への分岐 14:30⇒白石峠 14:37⇒休憩 15:15/15:25 ⇒白石の瀧 15:30⇒林道 16:10⇒用木沢出 合 16:25⇒西丹沢自然教室 16:50/17:00 (バス)→新松田駅 18:00/19:03→我孫子 駅 21:39 <歩行時間6時間30分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用木沢出合から大室山までは、登山道もしっかりしているが、何か所か急登を登り返す。</li> <li>・破風口付近はザレていて、注意が必要。</li> <li>・白石峠からの下山道は石がごろごろして歩いて歩き辛く、1～2箇所崩れている。</li> <li>・何度も渡渉箇所があるが、川幅が広い所には丸太の橋が掛かっていて渡り易い。</li> </ul>		
参加者	田村(L)、高橋芳、原田、大島(SL) 新谷、矢澤 男2名 女4名 計6名		

## 概念図





< 7 7 5 >

金北山  
(1172m)

矢澤節雄

花の群落・種類の多さに驚嘆！

この山行の発端は、「南高尾山稜」山行の反省会（高尾山麓の蕎麦屋）で、菊地功さんから佐渡へのお誘いがあり、準定例山行として決定した。佐渡イコールNHK花の百名山「ドンデン山」が直ぐに頭に浮かび、即こころに参加することを決めた。

ドンデン山は別名「タタラ峰」とも呼ばれている。タタラとは、足で踏む大型のフイゴのことで、鉄を溶かすときなどに使用する装置。その昔、この山の近くに鉄を精錬する場所があり、タタラの音や槌の音が、「ドンデン・ドンデン」と聞こえたということに由来するという。NHK花の百名山では、アオネバ登山口⇒アオネバ十字路⇒ドンデン山のコースで雪割草が紹介されている。

佐渡には「金北山」（日本3百名山）という高い山があることを知りびっくり。しかも「ドンデン山」ではなく、この「金北山」（イワカガミ）の方が田中澄江「新・花の百名山」に紹介されている。田中澄江の「花の百名山」「新・花の百名山」は、ただ読んでも面白さを感じず、内容が印象に残らない。しかし登ろうとする山または登った山の部分を読むと得るところはあるし、記憶にも残り、だんだん面白さを感じられてくる本である。「金北山」の紹介も、山行後読み返してみるとなかなか面白い。田中澄江は7月に登り、強い雨と風で兎に角寒かったと記している。我々は、天候に恵まれ幸せであった。

「金北山」の名前の由来は、佐渡金山の北に位置することからきている。佐渡島中北部、大佐渡山地の主峰で佐渡の最高峰。標高1172m。頂上に金北山神社（祭神は大毘古命（おおひこのみこと）、軻遇突智命（かぐつちのみこと）が鎮座し、島の男子は7歳になると、初山と称して父兄に伴われて登山し、シャクナゲの枝を持ち帰る慣わしがあった。（残念ながら今回は時期が早く、シャクナゲの花を見られない。）



↑ 尻立山にて、はいポーズ



ドンデン山荘前広場で、佐渡の歴史と文化を知る観光ドライブをする小川（誠）さんに着替えと入浴セットを預かって戴いた。有難い。皆大感謝。登山を開始し約15分で尻立山（ドンデン山の別名）に到着。名前が面白いので尻を向けて記念写真を撮った。「岳人あびこ」の旗も一緒に撮ればよかった（旗係として反省）。ドンデン高原は、花の百名山なのに花が少ないではないか。期待はずれかも。しかし高原から林道に向かって下るとシラネアオイが咲いている。皆ワーと歓声。私も何年ぶりかの出会い。飯豊山で初めて見て以来もう一度見たいと思っていた花である。山道を登るに従って徐々に花数や種類が増えてくる。



シラネアオイの群落

皆大騒ぎ。林道では蔭の臺が沢山芽を出している。今度は蔭の臺摘みに熱中する。村松リーダー一人先に行く。「みんな早く来い。」誰も耳を貸さず、晩のおかずにと収穫に一生懸命である。アオネバ十字路から金北山までの山道は、花花花である。美しい花の群落・種類の多さに驚嘆した。金北山直下の雪壁をアイゼンなしで登る。雪壁は短かったが登るのは面白い。水遊びをする童心の気持ち。



山頂直下の尾根の雪↑↓



金北山頂上には、第2次大戦後、アメリカ軍のレーダー基地が設けられ、現在は航空自衛隊が管理している。しかし妙見山に新しいレーダー施設が出来た為、金北山頂上のレーダー施設は現在使用されていないようである。ならば施設を撤去して、元の自然の姿に戻してもらいたいものである。これがあるために頂上制覇の達成感が損なわれる。頂上から白雲台への下山は広い砂利道で、1時間強の忍の下山道で長く感じられたが、途中ヤマシャクヤクの花に逢い気持ちが救われた。

夕食は、武内さん自信作の「蔭の臺の味噌和え」がほろ苦く最高に美味で、酒がすすみ、話が弾む。食後は、菊地さんの指導よろしく、皆で佐渡オケサ節の踊りで盛り上がり、寝たのは夜10時ごろであったようである。翌日、踊りは全て忘れていた。酒を飲むといつもこ

うである。



疲れたあ～金北山山頂

朝食後、これで掘れるのとか思える歯のない錆びたクワを持って山へ筒掘りに、疲れるやら蚊に刺されるやら難儀したが、収穫一人当たり2本、我が家に良いお土産が出来喜んで頂く。小遣いが助かる。菊地荘に戻ると、末永さんがエプロンをつけ、寝具を洗濯し手際よく庭に干していた。こちらは、筒掘りで遊んでいたのに申し訳なく感謝いっぱいである。

車二台に分乗し、佐渡観光に出掛ける。佐渡金山を見物した後、佐渡南部の小木地区を観る

矢島・経島は印象的な赤い橋でつながれており、美しい風景、箱庭を浮かべたような景勝地である。たらい舟が一艘だけ上手に漕ぎ出して行ったのが、今でも記憶に残る。

千石船の里「宿根木」を細野さんのガイドで効率よく見学出来、また「知る喜び」を感じ幸せであった。佐渡は金山で有名であるが、佐渡に行ったら「宿根木」を訪れることをお勧めする。

小木港の町での昼食でハプニングが発生、この話は面白いが、話が長くなるので内容は省略する。ただ、帰りのフェリーの船中にて、小川さんが「ハプニングが何故発生したか」を楽しそうに解説され、ハプニング話に会話が盛り上がり楽しい船旅であった。

今回の佐渡遊覧つきの山行は、「岳人あびこ」の仲間たちとの初めての泊り掛け山行で、私にとっての忘れられない楽しい山行でした。宿を提供して下さった菊地さんとお姉さま、そして松村リーダおよび山行参加者の皆さんの山行を楽しくしようとする活躍に感謝いたします。有難うございました。



## 概要

山名	佐渡島・金北山		
月日	平成 24 年 5 月 25 日夜(金)～5 月 27 日		
山城	佐渡島・大佐渡山脈	地形図	1/25000 相川、金北山、両津北部
形式	山麓泊	グレード	2B
目的	1. 花と自然の宝庫、大佐渡山脈を縦走して、佐渡の魅力堪能する。 2. 佐渡出身の菊地リーダーの案内で佐渡の歴史と自然と花を学習する。		
費用	約 25、000 円	交通機関	高速バス、フェリー、JR、レンタカー
日程	前夜	我孫子駅発 22:00→池袋高速バス乗り場 22:50/23:30 (夜行バス) →	
	1 日目	→新潟万代バスセンター 5:05/5:10 (タクシー) →新潟港 5:15/6:00 (フェリー) →両津港 8:30/8:40 (レンタカーとタクシー) →ドンデン山荘 9:30⇒尻立山 9:45⇒縦走路入口 10:30⇒マトネ (笠峰) 11:20⇒真砂の峰 12:40 ⇒天狗の休場 13:25 ⇒金北山 14:50/15:00(林道)⇒白雲台 16:10(レンタカー、タクシー)→相川温泉 16:55/17:55→菊地宅 18:15 着 (泊) < 歩行時間 5 時間 20 分 >	
	2 日目	菊地宅発 (レンタカー、マイカー) 9:05→佐渡金山 9:15/1:15 (レンタカー、マイカー) →小木、八島・経島 11:10/11:35→宿根本部落 (千石舟の里) 11:45/12:15→昼食を経てトキの森公園 13:50/14:15 →両津港 14:55/16:05 (フェリー) →新潟港 18:30→新潟駅 18:45/19:23 (MaX とき 348) →上野駅経由我孫子駅着 22:00	



## 佐渡金山にて

3 日目	希望者のみ(4 名) 佐渡島北部巡り。尖閣湾→平根崎→夕鶴の里→外海府→大野亀→二つ亀→二つ亀→弾岬→両津港→新潟港→新潟駅→上野駅→我孫子駅 20:00 着
参加者	村松 (L)、外崎 (SL)、武内、小川誠、末永、菊地、郷田、矢澤、細野、飯合 男 6 名 女 4 名 計 10 名

## 大佐渡山脈の峰々



概念図



< 7 7 6 >

飯能アルプス  
大高山～天覚山～天覧山  
(493m) (446m) (195m)

本田愛子

9時間歩いた！達成感十分！

奥武蔵の山で伊豆ヶ岳から子の権現を通して天覧山までの長い尾根を飯能アルプスというらしい。西武秩父線と平行していて、駅から駅への登山に適してる。エスケープルートも沢山あるのでいざというときはそこへ逃げることができる。

今回は西武線吾野駅から登り飯能駅に下りてくるコースを歩きました。吾野駅前で軽く体操をして出発。駅からの道標はなかったが、リーダーが下調べをしていたので、踏み切りを迂回して駅の裏側に戻り坂道を少しくと墓地の外れに大高山登山口と小さな道標があった。ペットの墓を横目に登りが始まる。森林の中の急登を40分位ジグザグ登る。前坂という尾根に着くと一汗かいた。ここで休憩をとりながら地図とコンパスを出して進む方向をリーダーに確認していただいた。

ここから大高山まで針葉樹林の中を登っていると、新緑の中にピンクのつつじが可愛く咲いて、ときおり吹く風に癒される。頂上近くなると、岩場になってきて急登が続くが頑張るようやく大高山493mの山頂に着いた。霞んでいたが奥武蔵の山並みが見渡せた。



本日の最高峰・大高山



連山の中で熱心な地図読み(前高山にて)

小休止して次の天覚山へ向かった。いきなり急降下してアップダウンをくりかえし、お腹もすいてきて、なかなか着かないと思いながら1時間半たった頃やっと天覚山山頂の文字が見えた。奥武蔵の山々、奥多摩の大岳、御前山が見渡せ、遠く飯能の町も見える気持ちのいい場所で昼食を済ませ、まだまだ先が長いので早々に出発した。



第2の高峰・天覚山

これまた急降下してしばらくアップダウンをくりかえすと、林道にでた。右に下ると東吾野駅に至る。私達は左のほうへ少し登っていくと天覧山への道標があり、林道から山道に入った。小ピークをくりかえし鉄塔を過ぎると、右下にゴルフ場が見えてきた。

飯能ゴルフ場の横を歩いていくと、久須美峠に着いた。名のないピークを何度もくりかえしたので足もガクガク、蒸し暑さで汗が噴き出し持参した水がなくなった。Mさんからありがたいことに水を頂いた。もう6時間もアップダウンのくりかえしで、ここからエスケープルートを選びたかったが皆さんが頑張るといって歩き始めた。久須美峠から下るとまもなく住宅街へ



長い山行・めげない四姉妹

出てきた。住宅街の中を横切り、造成地を横切ると多峯主山への道標があった。森林の中を木の階段が続き、重い足を一步一步と登って、ようやく狭い山頂があった。ゆっくりする間もなく、最後の天覧山に向かった。整備に行き届いた森林公園

の中を通り、またまた階段を登り、ゴールの天覧山に着いた。遠くに都心のビルが見えた。眼下には飯能市街が見渡せて、市街地から気軽に30分位で着く展望地は絶景で多くの人が登って来ていた。石の階段を下りていくと、大きな飯能神社の境内に下りてきた。バスがすぐに来ないので飯能駅まで20分歩いた。もう暗くなってきていたが、9時間の長いコースをやりとげた達成感を味わえた。低い山でもあなどれないとリーダーが言っていたが、小ピークのアップダウンのくりかえしで脚力を鍛えて夏山に向けての訓練になりました。初冬の頃にまた、挑戦したいと思った。途中でエスケープルートを選んだ私を引っ張ってくれた同行の皆さんに感謝します。



最後の難関・天覧山の頂上





概要

山名	飯能アルプス (大高山～天覚山～天覧山)		
月日	平成 24 年 5 月 27 日 (日)		
山城	奥武蔵	地形図	1/25000 原市場、飯能
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	1. 小さなアルプスのロングハイク 2. 新緑の静かな道をたどる。		
費用	約 2300 円	交通機関	J R ・ 西武線
日程	我孫子駅 6:12→日暮里→池袋 7:05 (西武池袋線) →飯能 7:51 (西武秩父線直通) →吾野駅 8:15/8:40 出発⇒前坂 9:30 (スルギ、子の権現分岐) ⇒大高山 493m 10:10/10:18⇒前高山 10:50⇒分岐 11:00/11:10⇒天覚山 11:50/12:20 (昼食) (東吾野駅分岐) ⇒東峠 12:50 ⇒338m ピーク 13:07⇒白子分岐 m 13:31 ⇒280m ピーク 13:55⇒久須美峠 (武蔵横手駅分岐) 14:25⇒横手台分岐 (三角 <small>とうのすやま</small> 点 277.5m) 14:45⇒多峯主山 15:46/16:00⇒天覧山 16:20/16:30⇒飯能駅着 17:30 反省会 (17:30～18:25) 飯能駅 18:38 発→池袋→日暮里→我孫子駅 20:25 着 <行動時間 8 時間 50 分 歩行時間 6 時間 40 分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯能アルプスとは伊豆ヶ岳から子の権現を通って天覧山までの長が～尾根をいうらしい。西武秩父線と平行しており、駅から駅への登山に最適である。エスケープルートもたくさんとれていざというときはそこへ逃げることができるので安心である。 (東アルプスをはじめ、沼津、鎌倉、長瀬、飯能、日立など、地元の人が付けたアルプスがたくさんある。麓から見るやまなみが雄大でアルプスを思わせるのだろう。)</li> <li>・しかし小さなアルプスとはいえ、数え切れないほどの小ピークが連続しており、そのアップダウンに体力を消耗する意外と手ごわいロングコースでもある。</li> <li>・道標はしっかりしているが、油断すると里山特有の(昔の)仕事道に迷い込む危険は十分にある。木の枝による通せんぼマークに要注意。低山ながら地図読みを確実にを行い、進路を誤らないことが肝要。</li> <li>・終盤の多峯主山や天覧山の付近は宅地開発が進み、地図が役に立たないところがある。目標を見定めて進むこと。</li> </ul>
参加者	中村隆(L)、本田(SL)、村越、箕輪カ 箕輪完、矢野裕、 男 2 名 女 4 名 計 6 名



マルバウツギ(前高山にて)



コアジサイ(多峯主山にて)



<777>

小檜山  
(1,713m)

矢野貞子

雨が心配な季節だが一面ピンクに染まる山つつじを見るという見出しに引かれ参加を希望した。計画書を見るとリーダーと外崎さんと私のみ。中止にならないかと願いながらも自分から言い出せなくて当日を迎える。お二人も中止にならないかと思っていたようだ。

塩山の駅で村松さんのお知り合いのタクシーに乗り登山口へ向かう。車中、運転手から自分の進める塩山のワインについてたっぷり話を聞かされる。



乙女高原花の図鑑

乙女高原自然研究路入口で下車、登山口には立派な看板があり入り口もわかり易いが、道を進めるに従い倒木や落ち葉やふみ跡がなくなったりして登山道は荒れている。鹿の群れが私たちの前方に現れたが、逃げてしまった。鹿が食べつくしてしているようで下草はほとんどない。ここは鹿たちの楽園のようだ。樹林帯を抜け林道に出る。昔はロッジがあったそうだが今は草むらだけ。川筋でぜんまいを取っている人を見かける。

乙女山の山つつじはまだ枯れ木で本当にここが花いっぱいになるのだろうかと思えるほど何もナッシング！花は遅咲きの桜と数本の九厘草のみ。今年は花に恵まれない。乙女山は早々に引き上げ焼山峠に向かう。峠には数台の車が停っていた。トイレもありここで昼食。

峠には「子授け地蔵」が祭られていた。村松さんによると以前よりその数が増えているとのこと。願いがかなった方が多いのだろうか？私にも孫が授かるように手を合わせる。(本当は縁結びの方が先なのだが、どっちが先でもいいかな！)



焼山峠の子さずけ地蔵

焼山峠から小檜山へ広い防火林の中を登る。新緑のカラマツが美しい。登りは奥武秩父らしい林を1時間余りで頂上についた。頂上近くに着くと両側に硬いつぼみの山つつじの木がたくさんあった。満開の時はさぞかし素晴らしいだろうと思いながら足を進める。

小檜山頂上からの甲府盆地が眼下に広がりその展望は素晴らしい一言に尽きる。頂上には私達のパーティーのみ。一休みしてから目の前に聳えるピークを目指す。



小檜山山頂に美女2人

下山道には母恋し、父恋しがあるが、私の希望で父恋しから下ってもらおう。途中幕岩に登って見る。眺めが素晴らしい。岩の上には5、6人の若者が休んでいた。歩きづらい岩がゴロゴロ

ロした登山道を1時間余下ると林道に出た。地図によると近くに母恋しからの道もあるはずだが、林道工事でそれは判らなかった。林道をしばらく下ると、朝お迎えをお願いしていたタクシーがいた。車に乗り込んだとたん、雨が激しく降り出した。朝、美味しいワインの話をつぶりに聞かされたのでそこに寄ってもらい、ワインをお土産に買った。(確かに、後味が美味しいワインだった) 帰りの電車の中でも、ワンカップワイン(塩山駅のみで購入できるとのこと)で乾杯。

やっぱり、来てよかったと思う1日だった。小樽山は比較的登りやすいので、花の咲く頃再挑戦をしてみたい。

**概要**

山名	乙女高原～小樽山		
月日	平成24年6月2日(土)		
山城	奥秩父	地形図	1/25000 川浦、茅ヶ岳
形式	日帰り	グレード	2A
目的	① 一面ピンクの山ツツジを見る。 ② 新緑に映えるカラマツ林のトンネルを歩く。		
費用	8,000円	交通機関	JR、タクシー



小樽山に咲くミツバツツジ

行程	我孫子駅発 5:34→西国分寺 6:55→高尾駅 7:26→塩山駅 8:58(タクシー)→乙女高原 自然研究路入口 9:50→乙女高原 ロッジ 10:50/11:00→焼山峠 11:30/11:50 (昼食)→小樽山 12:45/13:05→小樽峠→幕岩 13:30/ 13:40→大沢山の頭 13:45→(父恋し道)→駐車場 15:20→ワイン工場→塩山駅 16:00/17:04(ホリデー快速)→立川駅→我孫子駅 19:58 着
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼山林道(この林道を北上すると大弛峠に向かう)を塩平から10分位走ると古いが、大きい自然研究路の案内板が立っている。</li> <li>・以前は利用する人も多かっただろうが(バスが運行されていた)現在は、ほとんど利用する登山者は居ない。多くの人が、車で直接、焼山峠、乙女高原に向かうようだ。</li> <li>・登山道は落ち葉、倒木等で覆われているが、解らない事はない。その後は、標識は少ないが西北に向かって、樹林の中をひたすら山頂に向かう。ルートは割合はっきりしている。</li> <li>・小樽山からの下山ルートは2通りあるが、我々は父恋し道を選ぶ。(昭文社の地図では破線になっている)所々、いやらしい処が有るが、慎重に下れば問題ない。</li> <li>・父恋し道と母恋し道の合流点では林道工事のため何処が合流点か不明。</li> </ul>
参加者	村松(L)、外崎、矢野貞 男1名 女2名 計3名

**概念図**





< 7 7 8 > 市民登山

浅間隠山  
(1756m)

やまたんより転載  
末永 三江子

### 市民登山に参加して

末永 三江子

AM 5 : 30 北口ふれあい公園集合。

私は2班、見ると靴はタウンシューズにジーパンの娘、山の服装はしているが、短靴の母親。(この親子、山へ連れてって大丈夫か?)と心で思ったが、他に注意する者もない。

バスに乗り込む。隣り同士話している人、眠っている人、さまざま。予定より早く登山口に着了。仕度が始まったが、なかなかできない親子、それでも準備体操だけはしっかりやらないと危険だと思ったので、声掛けを始めた。3人で体操していると、2班のリーダーから「一緒にやろう」と言われたので、皆で行う。また、この親子の身体の硬いこと。(ほんとうに大丈夫なの?)と不安になっていると、私の担当となった。ますます不安が募った。

天候は曇天、まわりの景色は悪い。登山開始すると、親子は互いの心配ばかり。足が滑り、何度も転びそうになるたびに声を掛け合うが、気を付けている感じがうかがえない。「小股で歩いてください」と、何度言ったことでしょうか。自分が嫌になるほど言った気がする。

5合目あたりにさしかかると、サツキ、アカヤシオが咲いて美しい。足を止めて少しの間眺める時間休息する。5合目あたりに来たら、太陽が顔を出して景色をとところどころ見せてくれた。(よかった、せっかく市民の方を案内しても何も見えなかったら「つまらない」で終わってしまいそうだったから安堵した)が、10分もかからないうちに雨が音を立てて降ってきた。急いでカップを出して着た。「山の天気は変わりやすいのよ」と、山の神が言ったような気がした。(こうして市民の方に山のいろいろな顔を見せて学ばせようとしているのかしら、神様ありがとう、どうぞお手やわらかに!)

私のすぐ後を歩いていたスマートで足の長い女性は、歩き方がすごく安定していてすてきな方だった。「スマートでカッコイイネ」と声掛けすると、「えー」と言って、言葉がなかった。もっ

と話したかった。

無事、私の担当の親子も頂上に着いた。問題は下山だ。雨も止んで大勢の登山者が所狭しと昼食をとっていた。私たち2班も20分の間に弁当をとるが、また雨が降り始めた中、下山。サブリーダーの桐生さんが先頭になる。私は桐生さんにこの親子を安全に下山できるよう頼んだ。桐生さんは危険箇所は後ろを向いて右足、左足、手の位置までも細かく伝える。それに従いながら歩いていただいた。



ツツジがきれい

桐生さんの担当の方が私の前になった。安定した無理のない歩き方に何も言うことはない。いろいろな話をしながらの下山道。頂上から15分程下ると、雨も止み展開が開けて大きな裾野を広げた浅間隠山が、頂上は雲に隠れているが充分迫力のある山だと伝えていた。「うわ~大きいね」「来てよかった」「うれしい」などの声があがった。春から夏にかけての山はいろんな緑でいっぱいでした。(絵に描いたらさぞ難しい、無理)と、写真を撮った。

浅間隠山全員無事に下ることができました。これも頼りがいのある先輩のお陰でした。感謝。バスに乗り、温泉へ向かう。眠る人、おしゃべりの人、無事ということの大切さをかみしめているのか?

温泉に入り、全員で乾杯! あの親子の姿が見えない。少し遅れて宴に加わると、「今日はほんとうにありがとうございました」と言われたので、「無事に登山ができてよかったです」と答えると、「来てよかった」と言ってくれました。

(ほんとうに怪我をしないでくれてありがとう)と心から感謝。美味しい酒、つまみ、おそばと仲間、至福のとき。仲間集まれ、岳人あびこの水は甘いぞ~ 楽しいぞ~ かな?

今回の市民登山は初めての参加で、反省するところもいっぱいあった。自分のふがいなさを経験。



でも無事に終わってよかった。みなさん、ありがとうございました。

### 【リーダーの感想】

#### 1班リーダー 高橋英雄

市民との交流を深めようとする市民登山が6月10日実施されました、天気の方はまずまずで会員19名、市民19名、計38名で我孫子駅北口を大型バスで出発、一路浅間隠山に向う常磐道、外環道、関越道、国道と乗り継ぎ二度上峠登山口に着く。駐車場は登山者の車でいっぱい道路の脇にも車があり、今日は登山者が多いようだ。バスを降り各班に分かれて登山中の注意事項や伝達事項など確認後ストレッチ体操して登山口に向う。



一般参加者



登山口は分かり易く、登山開始緩やかな登りをジクザクに上って行く稜線に出て、暫くすると又ジクザクの歩き易い道に出る、上り下りで3時間前後の道程、頂上近くになると急登が200m位あり注意するように言う。

急登が終わって稜線に出た時、雨が急に降ってきて全員で雨具を着ける、市民の方々も早かった。雨が直ぐに止んだが雨具はそのまま頂上に着く。360度展望はなしで食事の途中で浅間山が一瞬見えた。食事も終わりそろそろ下山しようとしていたら後続の班が到着した。

下山は急登の所は特に注意しつつ何事もなく無事下山し駐車場に着く。

後続の班をまって全員そろった所で今度は倉淵温泉に向う、温泉の大広間は予約済みである。テーブルは4つ用意し、まず風呂に入り揃ったところでビールで乾杯、ソバ、うどん、味噌おでん、刺身こんにやくとあり、班ごとの雑談が続く・・・今年度の宴会場の良い雰囲気であった。宴会もそこそこにバスに乗り一路我孫子へと同じ道を戻り我孫子駅北口に到着、一日の楽しい市民登山が終わった。大成功！！



頂上にて(1班)

#### 2班リーダー 中村隆泰

バスは渋滞もなく予定より少し早く登山口に着いた。ストレッチを入念に行い、出発前に次のことをお願いした。①班ごとに一緒に行動、列を離れるときは必ずL, s Lに告げる。②体調が悪い時は早めに医療担当へ。そして会員と一般の方とマンツーマン体制をとった。特にIさん母娘には末永さんを付けてバックアップ体制を取った。なぜなら娘さんは山が初めてで、持病を持っているので心配だとお母さんが教えてくれたからである。



新緑のトンネル

途中で動けなくなったら誰かを付けて待機することを考えながら、娘さんを必ず頂上に立たせようと決心して出発した。二人をリーダーの後ろに付け、末永さんがその後ろに

着いて歩いた。足音と息遣いを後に感じながらゆっくりと確実に歩を進めていった。しばらく急坂を登りようやく穏やかな尾根歩きになる。お母さんの気遣いと、末永さんの歩行指導でなんとか順調に第一関門を突破した。

次の急登は肩の部分である。本日最大の難関といえようか。途中雨が降り出したので雨具を着る。雨は長くは続かなかったが地面や根っこが濡れて危険度は高まった。後の息遣いが苦しそうなので短時間の休みを多くし少しずつ高さを稼いだ。



笹原を行く

頂上に着いてみんなと握手する。顔がほころんでうれしそう。写真を撮って昼食とする。この休憩時間を30分と設定したが、後で聞いた話ではもっとゆっくりしたかったそうだ。ついいつもの習慣で決めてしまったが、配慮が足りなかったと反省しきりである。

浅間山はすっぽり雲をかぶり、裾を見せただけだった。山座同定も雲のためままたまらない。帰りのトップを桐生さんに託して出発した。下りは地球の引力に逆らって踏ん張り、石車に乗らないように進むので緊張の汗をかく。



浅間隠山山頂にて(2班)

娘さんに感想を聞いたら、急登ではギブアップ寸前だったが、頂上で山頂の文字を見て感動したと言っていた。頂上に立ててほんとはよかった。

最後は温泉で身を清め、懇親会で今日はよく頑張ったと互いに讃えあって乾杯した。みんなの協力に多謝。

### 3班リーダー 原田和昭

- 1) 曇り空の天気。3班の参加者は一般参加者5名、岳人あびこ会員5名。予定時間よりも早く二度上峠駐車場に着く。準備体操と登山上の注意事項を確認して歩行開始する。
- 2) 市民参加の方は普段歩かれているのか足取りは軽く、カラマツの新芽の緑の美しさに歓声を上げながら歩く。新葉の緑と山ツツジの赤い花のコントラストが美しい。歩行速度はゆっくりと確実に歩く。



- 3) 歩行開始1時間半位の時に急に雨が降りだした。急登の途中でしたが全員で雨具を装着する。雨対策を万全にして歩行再開する。
- 4) 浅間隠山の頂上には多くの登山者いた。特に、柏市山岳協会の登山者が多く賑わっていた。浅間山はガスに覆われていたが、時々、ガスが北風に流されて浅間山の大きな裾野を展望することが出来た。軽井沢方面の鼻曲山周辺の山並みの展望を楽しむことが出来た。昼食を済ませて下山時の注意点を確認して下山開始する。下山は登って来た道を下りる。急坂で足元は滑り易く注意しながら下山する。





頂上にて(3班) ↑



ツツジ咲く

- 5) 歩行時間は予定した時間で無事に下山することが出来た。バスで倉渕温泉の長寿の湯に浸かり参加者全員が班毎で親睦を温め楽しい時間を過ごすことが出来た。
- 6) 参加者全員が事故も無く元気に目的の山を歩くことが出来た。参加者の協力に感謝します。有難うございました。

#### 4班リーダー 菊地 功

昨日までの雨も上がり、我孫子は晴天のうちに今年度の市民登山は開始された。集合場所の我孫子駅北口ふれあい公園を5時45分に出発し、常磐・外環状・関越の各高速道路は渋滞もなく、前橋インターから406号、54号を経由し、目的地の二度上峠登山口に9時前には到着できた。

私たち第4班は、ゲスト5名、会員5名、計10名の構成でした。リーダーとしての挨拶の後、リーダーになったらこれは是非やりたいと思っていたNHK趣味悠々の田部井淳子氏の準備・整理体操の手順メモをみなさまにお配りし、全員で準備体操を行った。出発は第1班からだったので、当班は最後で、9時20分のスタートとなった。

当班はリピーターの方や100名山を達成した猛者もおり、健脚の方が多く、前方の第3班についてゆっくりとしたペースで、和気藹々と進行した。そして登山道では、うるさいほどの春ぜみと三つ葉つつじ・山つつじの花が美しく迎えてくれた。



山つつじ



4班 みつばツツジをバックに

途中の高速道路からも左手の奥秩父の山々は雲を被っていたが、登るにつれて雲が厚くなり、非情にも尾根直前の急登で雨が降り出し、雨具を着用した。しかし、雨は短時間でやみ、山頂手前では日も照りだした。山頂へは11時15分に着き、昼食となった。浅間山はじめ360度を誇る大展望の山々は、残念ながら頂は雲に隠れて見るができなかった。

11時45分に下山を開始した。尾根道直後の急降下は、昼食後の魔の時間帯でもあり、声を掛け合いながら慎重に下山し、登山口には13時15分に無事到着できた。



頂上にて





浅間山を望む

倉淵温泉には 14 時 10 分に到着し、入浴後、懇親会となった。懇親会は班別のテーブルで行われ、隊列が長かったためあまり会話ができなかった方もいろいろお話ができて良かった。

帰りの関越道では渋滞に巻き込まれたが、20 時過ぎに無事出発地に到着することができた。

今回の山行は、班とはいえ小生にとっては初リーダーとなるものでした。みなさまのご協力に感謝します。至らない点多々あったと思いますが、これからいろいろ経験を積み、より充実した登山を目指しますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### 【一般参加者の感想】

##### 1 班 川端美智子

前日の雨も残らず、当日は朝からいい天気になり、新緑の山登りをしていると急な雨が降ってきて、「カップを着てください。」と指示されましたが、雨具はいつでも出せる所になると聞いていても、天気が良いとリュックの下になります。

今まで使ったことがなかったので、マジックテープ、ファスナーを外すだけでも手感しました。ズボンを履く時に靴を脱がずにスーパーの袋にそのまま足を入れて履けばいいと言われて、やってみると手早く出来ました。ちょっとした事にも感動しました。

頂上では少し浅間山の頂きが見えました。

リーダーの後をゆっくり登ったり、下ったりしたので疲れを感じませんでした。温泉もいい湯でしたがもう少し時間が欲しかったです。でも食事はおいしく頂きました。帰りのバスの中も歌を歌ったりして楽しかったです。

今回で 2 回目ですが来年も登りたいです。よろしく願いします。

##### 2 班 井出まさ子

初めて市民登山に参加しました。

浅間隠山とはどんな山なのか、説明会の時に詳しく教えて頂いたので、わくわくしながら当日を心待ちにしていました。

雨上がりの 6 月 10 日、キラキラとまばゆい新緑と鳥たちの大合唱が「ようこそ。いらっしやいました。」と言わんばかりで向かえてくれました。頂上では刻一刻と変わる山の表情を見る事ができました。

そしてリーダーはじめ、岳人の会の皆様には、とても親切にして頂き、花の名前や鳥の名前など山の知識をいろいろと教えて頂きました。山をととても愛しているのが伝わってきました。楽しい一日を本当に有難うございました。

##### 3 班 齊田友見

登山は小学校の遠足（宮城県御駒山）以来でしたが、義母に誘われ参加させて頂きました。前日の雨が心配でしたが、当日の朝は雨もやみ気温も暑すぎず寒すぎず、ちょうど良い気候となりました。

登山口に入るとすぐ、足元がぬかるんでいて無事に頂上に辿り着けるか不安でした。しかし、ぬかるんでいるのは入口付近だけでした。山頂近くなると、木や枝を掴まないと登れないような険しい道でとても緊張感がありました。ところが、リーダーはじめ会員みなさんは躊躇することなく、スイスイ登っていました。

その途中で急に雨に降られカップを着ることに。カップを出しているうちに雨はどんどん激しくなり、着て歩き始めるころには雨は小降りになっていました。『あそこに、黒い雲が…』と話していた矢先のことで、雲に近いところにいるんだなあ。と実感しました。

山頂では、少し雲が掛かっていましたが綺麗な空気と景色に癒されました。次回は天気の良い時に登りたいと思いました。

ほぼ初めての登山でしたが、怪我なく無事に下山出来ました。リーダーをはじめ会員の皆様ありがとうございました。また機会があれば参加したいと思います。

##### 3 班 齊田理夏

6 月 10 日。母に誘われて初めての登山。前日は雨で不安でしたが、この日のために

買った登山靴やパン、おやつをリュックに詰めていると、小学生の頃の遠足を思い出し、わくわくした気持ちで朝を迎えました。

登り始めは足元ばかり気になっていましたが、ふと見上げると色鮮やかなヤマツツジが目に入ってきました。

周りの景色を見るようになってからは、頂上まではあっという間でした。霧に包まれた頂上で、一瞬晴れてきれいな浅間山が見えたときは、それまでの疲れが吹き飛びました。

班のメンバーにも恵まれて、普段の子育てとは違う達成感があり、下山した後の温泉とビールは最高でした。

いつか機会があれば、また参加したいと思いました。ありがとうございました。

#### 4班 松浦 薫

今回、初めて岳人あびこが主催する上州浅間隠山への市民登山に参加させていただきました。登山日の6月10日は、前日の雨が上がり、曇りながら暑くもなく寒くもない登山日和となり、浮き浮きした気分で集合場所に向かいました。何と言っても登山は天気

第一ですから、これで今日の山行は間違いなしと感もうれしくなりました。

二度上峠登山口では、班ごとに体操をして体をほぐしましたが、私の4班リーダーの菊地さんから1枚の紙をメンバーに配布され、これで体操しますと言われ面白いと思いました。見ると田部井淳子さんの「準備・整理体操」と書いてあり、今後自身の山行の準備体操にも使用してみようと思っています。

今年は日光連山でヤマツツジを見たいと思っていましたが、仕事の都合で行くことが出来ませんでした。しかし、今回の山行では満開のヤマツツジを堪能することが出来、最高の収穫でした。

私はほとんど単独行で登山をしていますので、今回の様に綿密に下見をして、事前説明会を実施し、ほぼその通りに運営された山行も良いものだと感じています。

今回は浅間山の一部しか見えなかったことと歩行時間が少し短いところは物足りなく感じますが、山行中の楽しい会話、倉淵温泉でのゆったりとした入浴、味噌田楽、飲み物、蕎麦又はうどんを楽しみ、帰りの車中での後部座席での宴会?と楽しい時間を過ごさせていただきました。また、機会があればぜひ参加させていただきたいと思っています。



倉淵温泉 長寿の湯でくつろいだ一行



## 概要

山名	浅間隠山		
月日	平成24年6月10日(日)		
山城	上州	地形図	1/25000 浅間隠山
形式	日帰り	グレード	1B
目的	新緑とレンゲツツジ		
費用	5500円	交通機関	貸切バス
日程	我孫子駅北口集合 5:30→大型バス発 5:40→柏 IC 6:00→上里 PA 7:15/7:30→ 前橋 IC 7:45→二度上峠駐車場着 9:00 (準備) 共通 駐車場バス発 13:30→倉淵温泉(長寿の湯)入浴と懇親会 14:10/15:55 バス発 16:00→前橋 IC 16:50→上里 PA 17:05/17:15→三芳 PA 18:50/19:00→柏 IC 19:45→我孫子駅北口着 20:10 (解散)		
	<b>【1班】</b> 二度上峠登山口 9:00/9:20⇒頂上 11:05/11:30 (昼食休憩) ⇒二度上峠登山口 13:00 <行動時間 3時間 40分> <b>【2班】</b> 登山口発 1330m 9:20⇒鞍部 9:45⇒北軽井沢分岐 1430m 10:00⇒雨具装着 10:45⇒わらび平分岐 1690m 10:50⇒浅間隠山山頂 1756.7m (1等三角点) 11:15/11:45 (昼食) ⇒わらび平分岐 12:00⇒北軽分岐 12:45⇒登山口着 13:10 <行動時間 3時間 50分> <b>【3班】</b> 登山開始 9:20⇒衣服調整 9:40/9:45⇒休憩 10:22/10:30⇒雨具装着 10:47⇒浅間隠山 12:20/12:25⇒北軽井沢への分岐 12:45⇒休憩 12:58/13:03⇒峠駐車場着 13:20 <行動時間 4時間> <b>【4班】</b> 登山開始 9:20⇒休憩 10:22/10:30⇒雨具装着 10:47⇒浅間隠山 11:15/11:45(昼食)⇒北軽井沢への分岐 12:45⇒峠駐車場着 13:15 <行動時間 3時間 55分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルート全体は良く整備され道標も数多くあり迷うところはない。</li> <li>・危険箇所は頂上直下のザレ場で乾いているといやらしい。</li> <li>・前日が雨だったので登山道の砂が湿り思ったほど滑らず歩きやすかったので、無事全員が登頂できた。</li> <li>・花も見ごろで登山者が多く、すれ違いに時間を要した。</li> <li>・トイレは登山口に1か所なので準備に時間がかかる。</li> </ul>		



頂上の方位図

概念図

参加者 会員 19名 一般 19名	【1班】高橋英(L) 箕輪完(SL) 本田 矢野貞 (一般) 本田 菅谷 川端 関根
	【2班】中村隆(L) 桐生(SL) 中村育 末永 武内 (一般) 石塚 五十嵐浜 五十嵐広 横山 井出
	【3班】原田(L) 中村八(SL) 外崎 齊田 郷田 (一般) 斎田理 斎田友 綿引 吉田 高田
	【4班】菊地(L) 瀬田(SL) 高橋芳 飯沼 石垣(総括L) (一般) 牧野直 牧野国 小山 松浦 豊島
	男13名 女25名 計38名

## 【「市民登山特集号 編集後記」

平成9年3月から始まった市民登山も今回で18回目を数え、これまでのメジャーな山から志向を変えて山名を聞いて興味を持ったが登山口までのアプローチが長いめなかなか行き辛い山を選んでみました。

関越道からも上信越道からもアプローチが長く、日帰りの行程を組みながら不安でしたが、下見の結果実施できる確信を持ち今回の実施となりました。

初めは上信越道から入山する予定でしたが、道路状況の関係で関越道からの往復に変更にはなりましたが、天候にも恵まれ景色は次回ということで、山行及び懇親会を含め概ねコースタイム通り事故もなく楽しく開催できました。

これは参加者並びに会員皆様のご協力によるものです。ありがとうございました。

是非また一緒に山登りを楽しみましょう。お待ちしております。 実行委員一同





< 7 7 9 >

鋸山・弥彦山  
(765m) (634m)

外崎 蓮

1 日目 (雨のち薄曇り)

長岡市外の里山・鋸山に登る

長岡市外に鋸山のあることを私は知らなかった。当初計画していた浅草岳が、2年前の新潟・福島の大豪雨であちこちの登山道が土砂崩れを起こし、復旧工事が大はばに遅れて入山禁止になっていた。それならばせめて守門岳のみでもと決心し、守門岳に位置的に近い初日の山として、村松さんに探していただいたのが鋸山であった。前日まで晴れの日が続いていたのに、新幹線で上野を出た頃から雨が降り出す。私が降らせているわけではないのに、妙に申し訳ない気持ちがしてくる。梅雨時だから仕方がないが、前日の午前にピンポイントで現地の空模様を調べると、16日は雨の確率70%、17日が曇りマークであった。2日目の守門岳に期待をかけることにする。

長岡駅には1時間半ほどで着いた。大きなザックを背負って駅レンタカー営業所に移動する。武内さんがすでに予約してくれていた。今回のように2つの山をこなすには、車での移動が必要不可欠になってくる。人数がまとまれば安価だし、非常に便利だ。ドライバーは武内さんと村松さん。2台に分乗して長岡駅をあとにする。国道352号線を栖吉川に沿って東の方向に走り、長岡市営スキー場方面から南下する。山手に向かって行った先にわりと広い駐車場があり、道はここで終り。いつの間に到着したのか、山ではめったに見かけない男子高校生の

一団が、雨合羽を着て手に手に長い棒状のものを持っていた。聞けば長岡工業高校の生徒たちで、先輩たちの切り開いた長工新道の草刈りに来たのだそうだ。年に1~2回作業を行っているという。雨の中、先に出発して行った。私たちも後に続く。

杉林を抜けると右下に沢が出てくる。栖吉川の源流だ。今の時期、これといふ蓮花はないが新緑が美しい。登山道もよく整備されている。展望のいい花立峠に着くと、高校生たちが鎌を持って右手の長工新道に向かって行った。私たちは左手の鋸山へ。薄暗いブナ林をゆるゆる登って20分ほどで山頂に着いた。雨も小止みになり、わりと空が明るくなって展望もますます。狭い山頂には一等三角点の標石があり、祠と展望盤が置かれてあった。昼食後花立峠に戻ると、高校生が一人で作業から帰ってくる仲間たちのために、ぎこちない手つきで豚汁を作っていた。私たちは一気に山を下り、昼過ぎの1時に駐車場に戻ってきた。山ぎわの水場(天狗の清水)で炊事用の水を汲む。

この後折角遠出したのだからと、三条市の高城城址へヒメサユリを見に行く。一たん山を下りた身には、城址公園までの長い坂道がきつく息切れがした。ところが、やっと辿り着いた園内のヒメサユリは見頃がとうに過ぎ、散り遅れた枯れ花がたったの一輪のみ。それでも暖かな日差しを浴びて、のんびりと坂道を下る。

また長岡市に戻り、コンビニや道の駅でアルコールとつまみを仕入れ、今晚の宿の守門岳登山口に向かう。栃堀方面に来たところで道が判らなくなり、途方にくれていたところ、たまたま田んぼの中の工場から出てきた人に聞いて山手に向かう。刈谷田川のダムまで来て、再び近くの民家に飛び込んで道を聞き、山道をくねくねと東の方向に進む。ここも林道の終点が駐車場で、保久礼小屋は坂道を下った所にあった。小屋の崖下には沢が流れ、いずれは刈谷田川に流れ込む。小屋前は平坦地でブナの高い梢が空を覆い、チョロチョロではあるが水場もあってとても快適なテント場

4~5人用エスペースを2つ張る。外でにぎに夕食を終えると、ランタンを囲み、新潟のチビリチビリと楽しむ。だが、無情にも真っ空から再び細かい雨が落ちてきて、ほろ酔いから現実に引き戻された。“明日はどうか雨がりますように” シュラフの中で、テントを雨音をじっと聞いていた。

鋸山概念図





小雨が降ったり止んだりしている中を、  
鋸山に登りました。



鋸山からは、当初登る予定の浅草岳が  
よく見えました。



▲テント撤収前に記念撮影。この直後から激  
しい雨になりました。

◀守門岳登山口にある保久礼避難小屋前の  
空き地が今夜のねぐらです。

### 弥彦山概念図



2日目 (雨)

守門岳は雨雲の彼方に。

代わりに 634m (むさし) の弥彦山へ

4時起床。細かい雨が降っている。朝食はそれぞれが持参したものを食べることにし、避難小屋に移動する。小屋自体はしっかりした建物だが、工事用の道具などが乱雑に押し込められてあって、入口付近の空いた床でお湯を沸かす。食後テントをたたみ、余分な荷物を車に詰めて再び小屋に戻った。雨足は非情にもさらに増し、恨めしげに空を見上げる。天気予報では今日は曇りの筈であったのに。しかし時は止まっていたはくれず、潔く断念。守門岳への登山口の石段を横目にテント場を後にする。実はこんなこともあるかとネットで観光スポットを調べてきた。

再度三条市の矢田へ。しらさぎ森林公園の花菖蒲祭りが今日から始まるという。現地に着くと、町の役員さん方が準備に取り掛かっていた。まだ一部咲きで物足りないが、時間がたっぷりあるので奥の見晴台までそぞろ歩きをして駐車場へ戻

ってきた。ここで、地元の人と思われる年配の男性に、簡単に登れる山がないか聞いてみた。即座に弥彦山を教えてくれた。本田さんが弥彦神社に行きたいと漏らしていたのですぐに決定。弥彦神社は、JR 弥彦線の終点弥彦駅から徒歩だと 20 分位のところにある。広い駐車場が混雑しているところをみると、全国的にも有名な神社なのであろう。杉や檜の巨木が空を覆い、境内は昼でも薄暗い。りっぱな本殿に参拝後、中門から林の中の急な坂道を一気に登ってロープウェイ山麓駅へ。往復 1300 円の券を買って 9 合目の山頂駅で外に出る。一面のガスだ。ここから山頂まで丸太で土留めされた道幅の広い階段を登る。登り詰めた際に、「弥彦山・634m」の文字が刻まれた大きな石が置かれてあった。正面にまわると、弥彦神社の奥の宮が祀られ、日本海を見下ろしていた。晴れていれば、佐渡や粟島や鳥海山が海に浮かんで見える日もあるという。偶然にも弥彦山の標高が、このところ話題のスカイツリーの高さと同じだったとは。些細なことなのに得をした気分になった。ここで毎日登って来るといって 77 歳の男性に出会った。冬には結構雪が積もり、山頂直下の鳥居に吊るされた注連縄で首を吊りそうになったことがあると笑っていた。ここは日本海からの冷たい雨と雪をもろに受けるのだろう。彼は岩場の登山道を、軟弱者の私たちはロープウェイ乗り場へと別れた。山麓駅から「万葉の道」と名づけられた坂道を下る。万葉集に歌われている植物のうち、60 種余りが弥彦山に自生しているという。駐車場に戻り、表参道の店で甘いものを食べ、お土産を買って長岡市に戻った。雨はすっかり上がっていた。

今度は長岡温泉がなかなか見つからない。地図もナビゲーターも用をなさず、あちこちで聞きまわって、田んぼの中を向こうの山際まで走ってついに探し当てた。地図に載っているわりには知る人ぞ知るといった素朴な温泉だったが、それでもさっぱりした。

雨で濡れたものなどを整理してザックに収め、長岡駅前に戻る。レンタカー店指定のガソリンスタンドを探し出し、満タンにして駅レンタカー営業所へ。今度は駅構内が入り組んでいて出入口がわからず、四苦八苦の末ようやく返却する。

今や遅しとばかり、ステーション内のソバ屋・小嶋屋へ直行。へギソバの美味しいこと。これまで食べたどのソバよりも美味しかった。長岡駅から Max に乗り、1 階を独り占めして宴会の続きをしながら帰宅となった。

梅雨時とはいえ、計画していた浅草岳・守門岳が、鋸山と弥彦山に化けたのだから内心穏やかではないが、逆に想定外の山を 2 つも楽しむことが

出来た。いろいろな意味で思い出に残る山行となった。

## 概要

山名	鋸山・ 弥彦山		
月日	平成 24 年 6 月 16 日 (土) ~17 日 (日)		
山城	新潟	地形図	1/25000 半蔵金・弥彦
形式	テント泊	グレード	1B
目的	残雪期の花の稜線歩きとブナの新緑を楽しむ		
費用	17000 円	交通機関	新幹線・レンタカー
行程	1 日目	我孫子 5:31→上野 6:04/6:14 (Max ととき 301 号) →長岡 7:50/8:10 (リッパ) →国道 352 号→長岡市営スキー場方面→花立峠登山口の駐車場 7:55/8:15→花立峠 10:30/10:40→鋸山 11:05/11:30→花立峠 11:55/12:05→駐車場 13:00/13:30→三条市高城城址 (ヒメサユリ観賞) →長岡市栃堀方面→刈谷田川ダム→保久礼小屋駐車場 17:00 (保久礼小屋前テント泊) <歩行時間:4 時間 00 分>	
	2 日目	保久礼小屋駐車場 6:50→三条市しらさぎ森林公園 (花しょうぶ園散策) 7:50/8:15→弥彦神社 9:00/9:30→ロープウェイ山麓駅 (ロープウェイ) →山頂駅→弥彦山→山頂駅 (ロープウェイ) →山麓駅 10:35→弥彦神社駐車場 10:45/11:10 (軽食) →長岡市内長岡温泉 12:45/14:00→駅レンタカー店 14:15→長岡 14:30/15:42 (Max ととき 332 号) →上野 17:14/17:24→我孫子 18:00 <歩行時間:約 50 分>	
ルート状況	鋸山	<ul style="list-style-type: none"> <li>花立登山口には 30 台ほどの駐車スペースがあり、仮設のトイレがある。駐車場からすぐの山手に、天狗の水が流れている。</li> <li>はじめ、沢に沿って登る。雨天時は滑りやすいので、かなり下の沢に落ちないように。</li> <li>花立峠下に一箇所、ロープが下ろされているが、頼らずに登れる。</li> <li>花立峠を右に行けば長工新道へ。(地元長岡工業高校の山岳部が切り開いた登山道) 鋸山は左手へ。峠は展望がよく、休むのに絶好の場所。</li> <li>花立峠からすぐに半蔵金分岐で、鋸山は左手へ。この辺りから樹肌のきれいなブナの林が広がる。</li> <li>鋸山の山頂は展望がよく、山頂には大きな祠と展望盤と一等三角点が置かれている。鋸山の標高は、地形図上では 765.1m であるが、山頂の標識には 764.9m とあった。</li> </ul>	
参加者	外崎 (L)、村松 (SL)、武内、矢野貞、品田、藤倉、本田、飯合 男 2 名 女 6 名 計 8 名		



< 7 8 0 >

上州武尊山  
(2158m)

矢野貞子

初リーダー

足並みの揃った山行

初めてのリーダーだ。計画段階から様々な事柄で不安がよぎる。どんな人が一緒に行ってくれるのだろうか？自分のリーダーで安全に行けるのだろうかなど悩みはつきない。提案者の希望は武尊神社からでキャンプも希望している、本では健脚者向きで大きな岩場があると書かれており大丈夫だろうかと悩んだすえ、一番ポピラーな登山道である武尊牧場から登ることにした。参加者は私を含め5人（お目付け役の武内さん、高橋芳さん、希望者の新谷さん、同期の桐生さんである）。前日から入山して牧場のキャンプ場で泊まってから早朝登ることとした。

沼田からレンタカーで武尊牧場を目指す。1時間余りでリフト乗り場に着いた。リフト乗場についたら電話してほしいと管理人からの指示に従い連絡すると「お迎えに行きます」との返事があった。本当にくるのかしらと疑い出す程待っていたら車が着た。その車の先導に従い、牧場のゲートをくぐり山を登っていくと蓮華ツツジが満開のシラカバ林のキャンプ場に着いた。気持ちのよいキャンプ場である。



白樺小屋の中のテント場



満開の蓮華躑躅と美女連

テントを張り1日目の予定の自然探索路から花崎湿原、田代湿原を目指す。蓮華ツツジが咲く中を通り中東俣駐車場を目指す。15分程で着いた。数年前の嵐で林道が崩壊し今はこの駐車場まで車が入れない。立派な駐車場とお土産屋らしき建物があるのもったいない。そこから花崎湿原を目指し歩きだしたが、橋は落ち、背丈を越えるほど笹が道を塞いでいて思ったより時間がかかってしまった。途中の東屋までたどり着いたところで引き返すことにした。地図を見ると少し先から林道に降りられることが判りそこから帰途についた。林道は山道より長く道端には山ウドがたくさんあった。単調な道に飽きてしまい、みんなでうど取りに専念してしまった。ウドは夜、さっと茹で野菜変わりに食べたら美味しかった。

2日目 4時に起きて5時出発。蓮華ツツジの道をすぎると、気持ちの良い大木のブナの林の中になった。この林は映画の撮影にも使われたとかで美しいブナ林だ。ここのブナは樹齢250年くらいあるそうだ。ブナ林の緩やかな登りを1時間ほど歩くと武尊避難小屋についた。道は所々かなりの段差や道いっぱいぬかるんだ所があった。オオシラビソが目立ち始め緩やかな丘で見晴らしの良いセビオス岳を過ぎると、このコースの難所、鎖場が三箇所あった。岩場を慎重に登り、少し歩くと残雪の登りがあった。ここを登り切ったらオグナほたか口と交差する中の岳分岐だ。ここのブナは樹齢250年くらいあるそうだ。夏場は3つ池湿地帯がある所は雪で覆われ歩きやすい。最後のきつい登りを過ぎると日本武尊像が鎮座している。そこから頂上はすぐだった。頂上には先客の若者が数人いた。中には我孫子から来ているとのこと。

親近感を覚える。30分程休み下山。テント場には12時に着いた。武内さんの心づくしのお汁粉をみんなで食べ、テントを片づけ、来た時と同じように管理人の車の先導でリフト乗り場まで降りた。レンタカーを借りた時お店の人に尋ねたらすすめられた、小住温泉に入った。沼田の駅前でお疲れ様会をして帰宅した。登り3時間半下り3時間、足並みが揃い気持ちの良い山行だった。皆様ありがとうございます。なんとかリーダーが出来そうかなと思えた山だった。

### 武尊山頂上



雪田を登る ↓

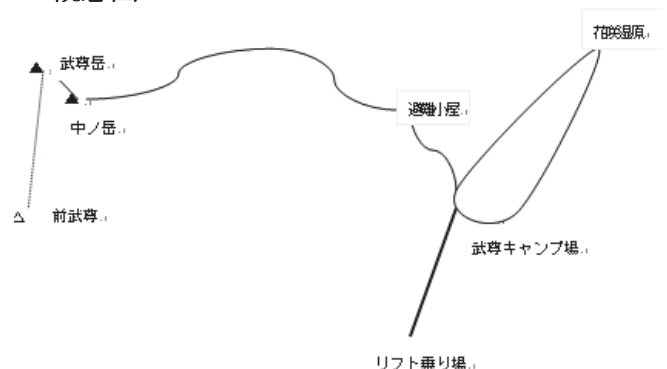
大和武尊像と ↓



山名	上州武尊山		
月日	平成24年6月30日(土)~7月1日(日)		
山城	上州	地形図	1/25000 鎌田
形式	テント泊	グレード	2B
目的	テント泊と岩稜の山を楽しむ		
費用	12,000円(反省会込)	交通機関	JR・レンタカー
日程	1日目	我孫子駅 5:40 → 上野 6:14/6:27 → 高崎 8:15/8:24 → 沼田着 9:11/9:30(レンタカー) → 武尊牧場着 10:30 (テント設営・昼食) /12:30 (自然探索路散策へ) → 東俣駐車場 12:45 → 東屋 14:00 → 東俣駐車場 15:00/15:10 → テント帰着 15:45	
		< 歩行時間 3時間 >	

2日目	起床 3:45 (朝食・テント撤収) /5:00 出発 → 自然探索路への分岐 5:50 → 避難小屋 6:15 → 中ノ岳分岐 8:00 → 上州武尊山 8:40/9:15 → 分岐 9:35 → 避難小屋 11:25 → 牧場帰着 12:10 (お汁粉) /13:30 → 小住温泉 2:15/3:00 → 沼田駅 3:45/5:02 → 高崎 17:50/17:59 → 上野 19:50/20:02 → 我孫子 20:30 < 歩行時間 6時間35分 >
	<p>ルート状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然探索路を花咲湿原、田代湿原を目指したが数年前から東俣駐車場への道が通行止めのため、道はあるが橋が落ちていたり、笹が背丈を超える場所があったりして、荒れていて思ったより時間がかかったため引き返した。</li> <li>引き返した道に山ウドがたくさんあった。さっと湯がいて食べたらおいしかった。</li> <li>キャンプ場周辺はきれいな白樺の中、蓮華躑躅が満開だった。ベニバナいちやく草、シロバナイチヤク草、マイズル草がたくさん咲いていた。</li> <li>武尊山への道は気持ちよい大木のブナ林の中を武尊避難小屋まで緩やかな登りが続いていたがところどころかなりの段差がある。オオシラビソも目立ち始め、緩やかなセビオス岳を抜けると、コース最大の難所、3か所の鎖場があった。一つ目のクサリ場のぼりづらい難所。分岐の手前に2か所、分岐を過ぎて少し登り降りすると夏場3つの池があるという所に残雪があった。また、ところどころ田んぼのようなぬかるみがあり、靴がどろんこになった。虫がおおかったが食われることはなかった。</li> <li>リフト終点から登ったので3時間半余で頂上に着いた。</li> </ul> <p>参加者</p> <p>矢野貞(L) 高橋芳 新谷 桐生 武内 男1名 女4名 計5名</p>

### 概念図





< 7 8 1 >

会津駒ヶ岳～中門岳  
(2132m) (1988m)

菊地 功

朝日が昇り、雪原も人も薄赤く染まった



駒の小屋まで最後の登り

至仏山と燧ヶ岳を登り、次の尾瀬の山は会津駒ヶ岳かなと思っていたところに計画が提案され、即参加を申し込んだ。期待通りの思い出に残る山行となった。

一日目の宿泊地、駒の小屋までは標高差1,100m弱の登山で、昭文社の地図では標準タイム3時間のコースである。途中の水場までがほぼ中間点で、リーダーのお話では水場までは登りがきついが、それ以降はゆるやかになるコースらしい。

水場まで標準タイム 1.5 時間とあるところ、2時間を要して到着した。かなりな急登の連続で、晴天下、気温も高く、結構シンドイ登りであった。登山道から3分ほど下った水場で水を補給したが、ふんだんに湧いており、まるやかで美味しい水であった。水場の周辺にはシラネアオイが咲いており、美味しい水と美しい花とで全員、活力を取り戻した。山小屋には飲用の水がないので、各自 500m L以上を用意することとされていたので、自身用に加え、余分に用意した。

水場以降、登山道はゆるやかになったものの、これまでで一番の虫の歓迎には全員往生した。ワンワンと顔の周りを飛び交われながらの歩行となったが、中には刺された人もいた。どうもブヨらしい。山小屋の人の話では、夏になる

ととんぼがやってきて食べてくれるので、虫はいなくなるとのこと。それにしてもなんと大量の虫であったことか！

駒の小屋には 15:30 に到着した。歩行時間4時間の登山であった。小屋が近づくにつれ、雪が多くなり、小屋の回りは雪原状態で、やはり東北の山だと実感させられる。虫は小屋まで付いてきたが、蚊取り線香を焚いたらいなくなった。ブヨよけに蚊取り線香が有効で、それを準備しているリーダーに感服しました。



越後駒ヶ岳 ↑

展望テラスにて ↓



時間に余裕があったら山頂まで往復するという計画であったが、スタートが予定より1時間遅くなったため小屋にも1時間遅れの到着となり、山頂は明日ということになった。1日の歩行が終われば通例のごとくドリンクタイム。外のテーブルでビール飲む人、ウーロン茶飲む人それぞれで、充分なおつまみで楽しく夜は更けていった。夕食はレトルトカレーであったが、食担の本田さんが一週間かけて食べ比べて選んだカレーというとおり美味しく、全員大満足であった。夕食は小屋の中のテーブル付き炊事場で摂ったが、隣の3人のパーティーが柏の山の会の人たちであり、ひとしきり盛り上がった。

2日目は午後から雨という天気予報のため、3:50 に薄明の中、ヘッドランプを点けての出発となった。小屋前から雪原状態であるが、凍

っていないためアイゼンは必要なかった。会津駒ヶ岳には4:10に到着。薄明の中、左方から女峰山～男体山、白根山までの日光の山々、燧ヶ岳、至仏山、越後駒ヶ岳と眺望される。山登りにとっての至福の時である。暫し景色を楽しんだ後、次の目的地、中門岳へ向かった。ほどなく朝日も登り始め、中門岳へはなだらかなほぼ1時間の下り道。右手から朝日を受けて、雪原も人も東側がうす赤く染まり、印象に残る道行きであった。途中や中門岳にある池糠はほとんど雪を被っており、露出しているものも茶色く冬枯れていた。



↑朝焼けの中の駒ヶ岳山頂 am4:24

↓豪雪で曲がった道標と人 am5:19



↓朝日を浴びていざ、中門岳へ(会津駒ヶ岳山行)



スタートの駒の小屋へは6:15に帰ってきて、朝食となった。朝食後、駒の小屋を7:00に出

発した。次の目的地、大津岐峠へ向かう富士見林道は、正面に燧ヶ岳が望まれ、雪原や木道、いくつかの岩場もある変化に富んだ道であった。南に面した山道は雪も解けており、沢山の花が迎えてくれ、晴天下、早春の山歩きが楽しめた。

雪原状態のため大津岐峠の道標を見過ごし、少し通り過ぎたがすぐに気づき、引き返し、キリンテへの下りに入った。南に面した道のため峠下から雪は全くなり、道端にはツバメオモトが沢山咲いていた。また、時々ギンリョウソウが見られたが、どちらも初めて見る花で印象に残った。

しかし、大津岐峠からキリンテのバス停までは標準時間2時間20分、標高差1000m近い下り一本の道。途中にはブナの巨木群もあっていくらか変化はあるものの、土の山道をひたすら、ひたすら下った。後半は全員話す気力もなくなり、ほぼ無言での下山行となった。私は、最後はひざの感覚がなくなり、途中の川の横断では河原の凹凸がそのまま体勢に現れ、前につんのめり、後ろへ仰け反ったりする始末であった。なんとかキリンテのバス停についたものの道端に座り込んでしまった。昨日の登りでは沢山の登山者がいたが、今日は2人連れの1パーティーに会っただけ。やはりこのコースは人気がないのかとも思った。その後の燧の湯と名物わっぱそばで元気を取り戻し、我孫子へ帰ってきた。

今回の山行は、雪に花、そして素晴らしい眺望で十分に楽しめるものであった。しかし、残念ながら楽しみにしていた美しい池糠が見られなかった。緑の草原の中に澄んだ水が満ちている池糠をぜひ見たいものと強く思った。



ショウジョウバカマ  
シラネアオイ



イワウチワ  
サンカヨウ





**概要**

山名	会津駒ヶ岳～中門岳		
月日	平成24年6月30日(土)～7月1日(日)		
山城	南会津	地形図	1/25000 会津駒ヶ岳、桧枝岐
形式	山小屋	ゲレト	2B
目的	① 高山植物と地塘が織りなす天上の楽園へ ② 山頂の小屋に宿泊して、天空の星が奏でるシンフォニーは・・・		
費用	約12,000円	交通機関	レンタカー
日程	1日目	我孫子駅北口発 6:25→柏インター→外環道→東北道 8:58→上河内SA 8:15～8:30→塩原経由駒ヶ岳登山口 10:50/11:10⇒水場 13:20/13:35⇒駒ノ小屋着 15:30(泊) 晴時々曇り<歩行時間4時間5分>	
	2日目	駒ノ小屋 4:00⇒駒ヶ岳山頂 4:15/4:25⇒中門岳 5:15/5:30⇒駒ノ小屋 6:15/7:00⇒大津岐峠 8:40⇒キリンテ駒ヶ岳登山口 10:55⇒バス発 11:17⇒燧ノ湯 12:10/13:00⇒食事 13:05/14:00 塩原→那須塩原IC→柏IC→柏着 19:20 晴後曇夕雨<歩行時間5時間45分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駒ヶ岳登山口の352号沿いの駐車場は解りにくい。それよりも国道から登山口に入った空き地に何か所か駐車場がある。ピストン山行の人は便利だ。(但し、登山口に近くなると満車になる場合ある)</li> <li>・中途の水場は登山道から近く(約3分)、冷たく美味しい。シラネアオイが一輪咲いていた。</li> <li>・この辺からブヨ?らしき虫が大量にまとわりつく。管理人の話によるとトンボが来るようになると居なくなるそうだ。(トンボが食べる)</li> <li>・駒ノ小屋は管理人が変わり、宿泊可能の小屋になっていた。(素泊り、3000円)完全予約制、清潔で感じの良いランプの小屋です。但し、自炊です。</li> <li>・小屋に水場はないが、料理用の天水は分けて貰える。飲料水は中途の水場から運んだ方が良い。</li> <li>・駒ヶ岳の山頂から中門岳に行くルートには中途から山頂に行かないバイパス路に別れる、我々は帰りにはバイパス路を利用した。又、中門岳までの尾根は悪天の時には右側の雪底には充分注意が必要だ。</li> <li>・富士見林道の大津岐峠から、キリンテへ向かう分岐は雪が有ると解りにくい。(道標が倒れている)特に悪天の時は慎重な行動が必要だ。</li> </ul>		

参加者	村松(L)、外崎(SL)、中村隆、藤倉坂巻、本田、矢野裕、菊地、村越、矢澤 男5名 女5名 計10名
-----	---



燧ヶ岳と駒の小屋 ↑



キリンテへの下山道はツバメオモトの大群落 ←



ギンリョウソウ 腐生植物  
別名は、ウレイタケ(幽霊茸) →

概念図



< 7 8 2 >

苗場山  
(2145m)

齊田記代美

山頂の池塘を楽しむ

山頂には無数の池塘があり高山植物の宝庫、更に山頂からの展望も素晴らしいと聞いていたので、今年度の希望の山として提案させて頂き外崎さんのリーダーで実現しました。

花が見ごろの時期ということで7月21日～22日と決めたのですが、山頂の宿泊施設（100人収容）の自然交流センターはすでに5月頃には予約で満杯状態ということで、信州側の秋山郷に宿泊し、早朝小赤沢コースを登って、和田小屋に下りてくるコースになりました。

一日目は午前中、越後湯沢の駅近くのロープウェーで湯沢スキー場の「アルプの里」を散策した。「アルプの里」は高山植物も栽培されていて気軽に植物に親しむことができ、ミニトレッキングは明日の十分な足馴らしになった。



↑ アルプの里

↓ ホソバヒナウスユキソウ



午後、ジャンボタクシーで秋山郷に移動し小赤沢の民宿に泊まった。夕食までの時間に江戸時代に建てられたという民家や総合センター『とねんぼ』で昔の人々の豪雪地帯の厳しい自然の中で暮らしを見学した。夕飯は山菜づくしのごちそうをいただき、食後は宿の男の子と一緒に散歩したりしてとてもものんびりした一日目でした。



↑ 秋山郷の小赤沢の民宿  
夕食は山菜づくめ



二日目、朝食はお弁当を用意していただくことになっていたが特別早く用意してくださり、温かいご飯をたべて出発することができました。民宿の食事は最高でした。

二日間共に乗り物に乗っている時はどうなる事かと思われるほどの雨が降っていました。でも行動中は、たいした雨にも合わずに歩くことができました。雨あがりの足元の悪さに緊張しました。けれども天候が思わしくない為か登山者は少なく花の名前を教えてもらいながらマイペースで歩くことができた楽しい山行でした。

山頂の池塘の景色はすばらしかったです。展望を楽しむというもう一つの目的は叶えられ



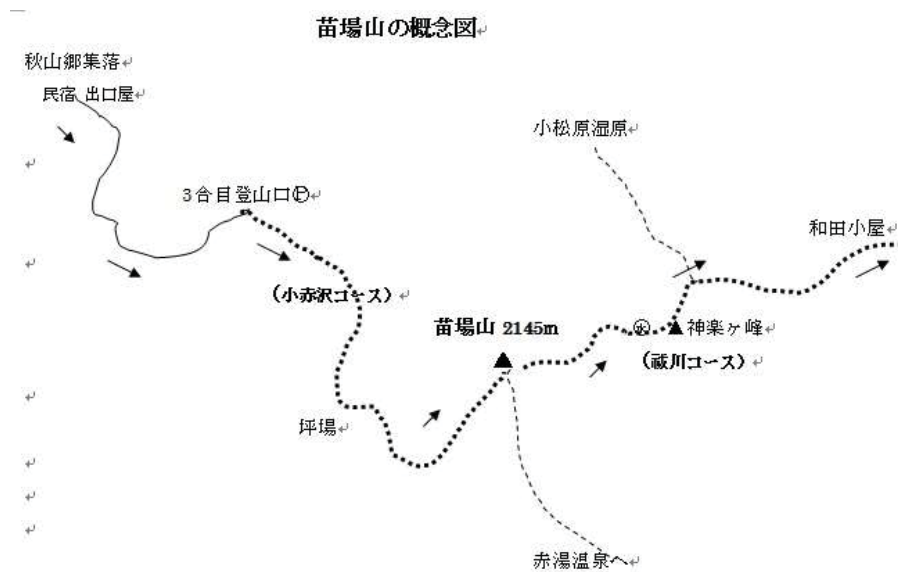
なかったので、また天気の良い日に来ようという思いを残して下山しました。



↑ 8合目を過ぎた辺りからパッと視界が開け、広大な山頂の台地に飛び出す。



池塘の中には、まるで稲の苗のようなミヤマホタルイが生えている。鈴木牧之「絶頂に天然の苗田あり、よって昔より山の名に呼ぶなり、峻岳の巔に苗田ある事これ奇なり」





ハクサンチドリ



クルマユリ

概要

山名	苗場山		
月日	平成 24 年 7 月 21 日 (土) ~ 22 日 (日)		
山域	新潟と長野の県境	地形図 1/25000	苗場山
形式	民泊	グレート	2 B
目的	苗場山の山頂に広がる高層湿原と大小無数の池塘を見に行く		
費用	約 17000 円	交通機関	JR、タクシー
日程	1 日目	我孫子駅 6:12 → 上野駅 6:45/7:06 (Max とし 303 号) → 越後湯沢駅 8:11/8:25 ⇒ 湯沢高原スキー場アルプの里 8:40(ロープウェイ) → ミニトレッキング・園内散策 9:20/12:20(ロープウェイ) → 越後湯沢駅 13:40 (ジャンボタクシー) → 秋山郷の小赤沢 15:00 着 出口屋 (泊) <歩行時間: 2 時間 30 分>	
	2 日目	民泊 6:00 (民泊の車) → 3 合目 6:15/6:20 (小赤沢コース) ⇒ 4 合目 6:55/7:00 ⇒ 5 合目 7:30/7:35 ⇒ 6 合目 8:15 ⇒ 7 合目 8:35/8:45 ⇒ 8 合目 9:05/9:10 ⇒ 9 合目 (2000m) 9:30 ⇒ 赤倉山分岐 9:50/9:55 ⇒ 苗場山山頂 10:20/11:05 (祓川コース) ⇒ 9 合目 11:55 ⇒ お花畑 12:15 ⇒ 雷清水 2:30/12:40 ⇒ 神楽ヶ峰 (8 合目) 13:00/13:05 ⇒ 小松原湿原分岐 13:15/13:25 ⇒ 上ノ芝 13:30 ⇒ 中ノ芝 13:43 ⇒ 下ノ芝 (7 合目) 14:20/14:30 ⇒ 6 合目 15:05 ⇒ 和田小屋 (5 合目) 15:40/16:00 (ジャンボタクシー) → 越後湯沢駅 16:35/18:08 (Max たにがわ 424 号) → 上野駅 19:34/19:50 → 我孫子駅 20:28 着 <歩行時間: 7 時間 30 分>	

ルート 状況	<p><b>小赤沢コース (登り)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋山郷小赤沢は越後湯沢駅からタクシーで約 1 時間半。途中深い谷筋 (中津川) に沿って折れ曲がった細い道を越える。いつ通っても道路工事が行われている。</li> <li>小赤沢コースは 1 合目から歩いてよいが、3 合目まで車が入る。歩けば 1 時間半かかるところ、車だと 15 分で行ける。3 合目には広い駐車場とトイレがある。</li> <li>4 合目に水場がある。但し、右手を少し下った沢の流れ。</li> <li>6 合目から 7 合目付近に鎖場があるが、頼れずに登れる。</li> <li>8 合目を過ぎたあたりから急に視界が開け、広い台地の湿原地帯に出る。ここから木道歩きとなる。</li> <li>標高 2000m の 9 合目は湿原の中にあるが、間もなく再び樹林帯の登りとなる。20 分ほどで湿原に出て、ゆるやかな登りが続く。</li> <li>山頂には 2 つの建物がある。自然体験交流センター (旧山頂ヒュッテ) と遊仙閣 (現在閉館)。遊仙閣の裏手に 1 等三角点がある。</li> <li>赤湯温泉 (昌次新道) へは、自然体験交流センターの前の木道を南に進む。</li> </ul>
	<p><b>祓川コース (下山)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊仙閣の前の木道を東に進む。湿原に別れを告げるや、いきなり段差の大きい急勾配の下りとなる。登山道は深くえぐられている。</li> <li>お花畑に下りて来てホッと息がつける。さらに 15 分ほど先に雷清水がある。季節や天候によって水の出方に差があるが、登山者の喉を潤すには格好の水場。</li> <li>神楽ヶ峰から 10 分進むと小松原湿原の分岐に出る。明るくて開けた場所だ。</li> <li>このあと樹林に入り、ゆるやかな下りが続く。但し、登山道は大きな石がゴロゴロし、歩きづらいことこの上なし。そのためか、上ノ芝・中ノ芝・下ノ芝には真新しい板の床が敷かれ、もってこいの休憩場所となっている。</li> <li>5 合目の和田小屋の横まで車が入る。越後湯沢からタクシーを呼ぶには、40 分ほど待たなければならない。</li> </ul>
参加者	外崎 (L)、村松 (SL)、北川、箕輪カ、箕輪完、桐生、斉田、 男 3 名 女 4 名 計 7 名



< 7 8 3 >

燕岳～大天井岳～常念岳  
(2763m) (2922m) (2857m)

新谷直恵

### 北アルプス表銀座を歩く

昨年、常念から蝶が岳へと縦走した際、槍が岳から奥穂高までの山並みがいまにも美しく、その風景はいつまでも心に残りました。また常念小屋からは横通岳にまっすぐ登るトレイルが見え、その道はどこに続いているのか聞くと、それは大天井岳、燕岳へと続いていて、その道を北アルプスの表銀座ということを教えられました。今度はその道を歩いてみたいと思いました。その希望がさっそく叶って、7月27日からの山行となりました。

夜行列車を避け、前夕高速バスで松本入り。ビジネスホテルに1泊してからの朝立ちスケジュールだったため、精神的にも余裕が持てました。翌朝、穂高からタクシーで登山口の中房温泉へと向かいましたが、かなり手前から道路脇に車がびっしりと駐車していて、大変な混雑が予想されました。登山口には登山者が溢れ、夏の北アルプスの人気ぶりが伺えます。立ち寄りの湯もあり、ここに降りてくれば汗をぬぐえるというベストプレイス。

ガイドブックによれば、ここから合戦小屋までの道は北アルプス三大急登とあります。静かな樹林帯を黙々と歩きたいのですが、登山者がアリの行列のように繋がり、一方下山する団体登山者とひっきりなしに遭遇。そのたびに立ち止まって滴る汗をぬぐい、ついでに水を補給します。途中、第1ベンチ、第2ベンチと番号が付けられた休憩所ではほとんどの登山者が休むため、それをはずして50分ごとに水分補給の小休止をとりました。

ようやく合戦小屋に着くと、どこからともなく歓声が。なんとスイカが売られているのです。一切れ800円とやや高いですが、大汗をかいたあとの甘い水分たっぷりのスイカは、何ものにも代えられない美味しさ。みんな大満足でスイカを片手に笑顔の記念撮影です。途中から頭上を行くケーブルの音がしていたのですが、なんとそれに乗っていたのはスイカだったのです。



小屋横のテントには大スイカが所狭しと並び、食べ終えた皮を入れるバケツ、手洗いのバケツと、準備万端の店は大繁盛。11時を回っていたので、そこで昼食をとることにしました。

疲れも和らぎ、山頂を一気に目指しますが、勾配はそれまでよりやや穏やか。おまけにイワカガミやチングルマ、ハクサンフーロなど、次々と高山植物が出現して疲れを忘れさせてくれます。山の花はじつに可憐で、その存在はまさしく夜空の星のごとく、です。

やがて燕山荘が見えてくると、その手前のスロープに色とりどりのテントが大輪の花のように咲き誇っています。小屋にチェックインしようとする、まずテントを設営する場所があるかどうかを先に確かめるよう促されました。さすがにリーダーもこんな混雑ぶりは初めてだそうです。おそらく登山口から小屋まで登山者が繋がっていたと思われま。



男性陣のテントは唯一雪溪の下のスペースが空いていたため、雪解けの水が流れるバイパスを掘ってからテントを設営。雪溪は担ぎあげ

たビールやトマトを冷やす自然の冷蔵庫として活用したそうです。さすが熟練の技！

小屋前に立ち並ぶアルプスの峰々は圧巻で、穂高、槍ガ岳、三俣蓮華へと続く裏銀座が一面に望めます。「あ〜」と溜息が洩れ、しばし見とれます。少し霧が上がってきたので、とりあえず燕岳山頂へ向かうことにしました。花崗岩の白とハエマツの濃緑、そして青い空のコントラストがなんともエキゾチックで、ここは他のどの山とも異なる別世界。さすがに北アルプスの女王と言われる所以です。風が強いのか岩の造形も奇岩が目立ち、その都度記念撮影。



稜線を歩きながらふと眼下に目を転じるとコマクサの群生があり、白い砂礫の上に小さなシクラメンのような小さなピンクの花が俯いて咲いています。その姿のなんと可憐なこと。貴重なこの高山花を守るため、花の周囲にはロープが張られています。人間の足跡がつくと砂礫に水が溜まって環境が変わり、翌年は花が咲かなくなるそうです。撮影のために近づく際にも足元に注意を払います。この花を一目見ようと燕岳に登る人も少なくないようです。

小屋に戻ると燕山荘前にあるテーブルを独占して生ビールで乾杯。一方に穂高連像が望め、もう一方は眼下に麓への登山道が見下ろせませんが、その向こうに続く山並みに薄紅色の夕日がかかると、やがてブロッケン現象が起きました。下から上がってきたガスにまるい虹がかかり、そこに向かって手を振るとそのままの私たちが映っています。まるで魔法の鏡が浮き出たようです。霧のある日出や日没時に陽光の前に立つと、自分の影が霧に投影されてその影のまわりに色の付いた光が浮かび上がる光学現象で、ドイツのブロッケン山でよく見られるものです。

夕焼けに染まった山々をバックに燕山荘のご主人が長いアルペンホルンを持ちだしての演奏が始まりました。このホルンは夕食にも再び演奏され、演奏後にはご主人の登山者のマナーについての呼びかけがありました。昨今は登山者が持ち込む食糧でこの山の生態系に大きな変化が見られ、なんとか貴重な自然を守りたいと話されました。

男性はテントに戻り、女性は小屋泊り。燕山荘は山岳雑誌で読者の泊りたい山小屋ナンバーワンだったので楽しみにしていたのですが、なにしろこの週末は今年始まって以来の登山客数だったため、布団2枚の狭い蚕棚に4人が押し込められ、蒸し暑さのためなかなか眠れません。朝食は4時45分からですが、先着順とあって3時半に食堂前に降りて見ると、すでに20〜30人の人が並んでいました。山小屋の雰囲気を楽しむ余裕もなく慌ただしく出発。

品田さんと藤倉さんはここでしばしコマクサを堪能した後、中房温泉に下山するのでここでお別れです。残るメンバー5人で5時10分小屋を後にして、大天井へと出発。道は稜線沿いに真っ直ぐ伸びているように見えますが、実際にはかなりのアップダウン。途中一カ所、クサリ場と梯子がありましたが、比較的緩やかな登りであり一日中、槍を抱く穂高連峰の風景の中でアルプスの空気を堪能しました。

途中すれ違った登山者グループに「クマがいましたよ」と教えられ、大天井へと続く道をドキドキしながら進むと、やがてカールの中腹に雪渓があり、その近辺で動きまわる黒い物体が目に入りました。「あれはクマじゃないか？」と、みんなで確かめながら行くと、確かにクマのようです。道はそのカールを下っていくので、クマに近づいていくのですが、クマも怖かったのでしょうか。ドンドン走って逃げていく後姿が見えました。

アルプストレイルは途中、幾度もお花畑に遭遇。白いハクサンイチゲ、黄色のシナノキンバイ、紫のイワギキョウが咲き乱れ、そのたびに歓声が上ります。大天荘に着いたのは9時前。荷物を置いて大天井岳頂上を極め、再び小屋に降りての休憩中、行き交う若者たちの色とりどりのファッションな登山ウエアに、リーダーは「登山も変わったなあ、昔とは隔世の感がある」と呟いていました。

山並みは変わらず美しいのですが、少しガスがかかって槍は見え隠れし出します。横通岳を





超えると、眼下に赤い屋根の常念小屋が見えてきました。ここからは一挙に降りられそうなのですが道は意外に遠く、なかなか辿り着きません。

13時には常念小屋にチェックインしてテント設営後、常念岳に登ることになりました。私は前夜眠れなかったため、さらに常念に登る体力が残ってないために断念。近くに見えても山頂への道の険しさは昨年経験済みだったため、小屋で待つことにしました。

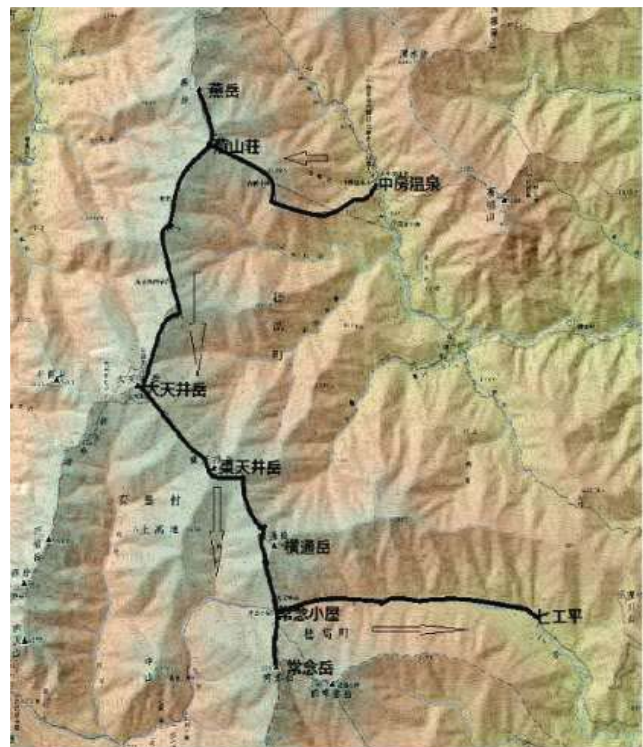
常念小屋も布団は3人で2枚でしたが、それでも前夜の燕山荘よりはましでした。小屋の前で皆が降りてくるのを待ってテーブルを確保し、2日目の祝杯を上げました。

最後の日は朝食の列に並ばず、残った食糧を食堂前のテーブルで片付けて5時半に出発。日の出時に立ち込めていたガスはいつのまにかすっかり消えて、雲ひとつない快晴。常念小屋の後ろ、雲海の上に槍が岳、穂高連峰が浮かび上がり絶景です。そこで小屋の前に並び、最後の記念撮影に及びました。

小屋でヒエ平へ迎えのタクシーを頼んで出発。3つのベンチを過ぎると、岩の隙間から流れ出す水場。そこで喉を潤しますが、その水のあまりに美味しいこと。水筒をカラにして水を満タンに入れます。やがて急登の胸突き八丁を過ぎると、道は沢を超えながらの緑陰の心地良い道となります。遥か上方には前常念が望めます。昨年はこの道を汗を拭いながら登ったことがなつかしく思い出されました。

穂高駅に向かう途中、温泉（四季の郷ホリデー）で汗を流し、素敵な山行にビールで3度目の乾杯。長いようであっという間の楽しい3日間でした。なんと爽快な夏山だったことか、ビールとともに話はいつまでも尽きませんでした。

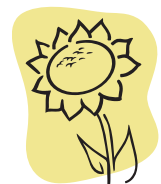
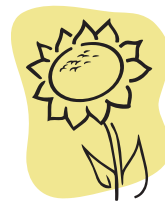
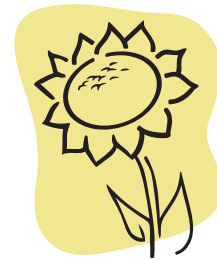
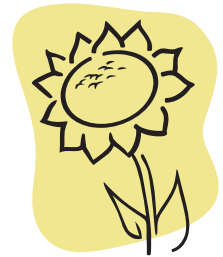
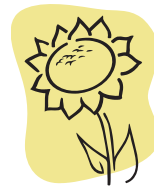
## 概念図



# 概要

参加者	武内 (CL)、菊地、郷田、新谷、瀬田、品田 (燕岳のみ)、藤倉 (燕岳のみ) 男 3 名、女 4 名、計 7 名
-----	--

山名	燕岳・大天井岳・常念岳		
月日	平成 24 年 7 月 27 日夜～7 月 30 日		
山域	北アルプス	地形図 1/25000	有明・槍ヶ岳・穂高岳・信濃小倉
形式	テント/山小屋	グレート	3C
目的	北アルプスのダイナミックな景観を楽しむ。 高山植物の美しさに感動。		
費用	35,000 円 (山小屋) 18,000 円 (テント)	交通機 関	路線バス、 JR、タクシー
日程	前夜	我孫子駅 15:35→新宿 BT16:40/17:20→松本 BT20:40 (BH 飯田屋泊) (コース、通過時刻)	
	1 日目	JR 松本駅 6:00 → 穂高駅 6:28/6:40(タクシー) → 中房温泉 7:20/7:50 ⇒ 水場 8:30/8:35 ⇒ 第二ベンチ 9:05 ⇒ 休憩 9:25/9:35 ⇒ 第三ベンチ 9:55 ⇒ 富士見ベンチの先で休憩 10:25/10:30 ⇒ 合戦小屋 11:10/11:40 ⇒ 合戦沢ノ頭 11:55 ⇒ 休憩 12:15/12:30 ⇒ 燕山荘 13:00/13:50 ⇒ 燕岳 14:30/14:40 ⇒ 燕山荘 15:15 (泊) ＜歩行時間 5 時間 20 分＞	
	2 日目	燕山荘 5:10 ⇒ 蛙岩 5:45 ⇒ 休憩 6:10/6:15 ⇒ 大下りの頭 6:20 ⇒ 2699 地点休憩 7:15/7:25 ⇒ クサリ場手前 7:55/8:05 ⇒ 常念・槍分岐 8:15 ⇒ 大天荘 8:50/9:00 ⇒ 大天井岳 9:15/9:20 ⇒ 大天荘 9:30/9:50 ⇒ 休憩 10:25/10:35 ⇒ 東天井岳峠 10:50 ⇒ 休憩 11:25/11:30 ⇒ 常念小屋手前休憩 12:15/12:25 ⇒ 常念小屋 12:55/13:40 ⇒ 常念岳 15:00/15:10 ⇒ 常念小屋 16:00 (泊) ＜歩行時間 8 時間 25 分＞	
	3 日目	常念小屋 5:35 ⇒ 第一ベンチ 6:03 ⇒ 最後の水場 6:10/6:20 ⇒ 胸突八丁の看板 6:35 ⇒ 笠原休憩 7:05/7:10 ⇒ 休憩 7:55/8:00 ⇒ 王滝ベンチ 8:05 ⇒ 古池 8:30 ⇒ 山ノ神神社 8:40 ⇒ ヒエ平登山口 8:50/9:00 (タクシー) → 四季の郷ホリデー湯 9:20/13:20 → 豊科 (JR) 13:40/13:59 → 松本駅/松本 BT14:20/15:20 → 新宿 BT19:40 (1 時間遅れ) → 我孫子 21:30 頃 (解散) ＜歩行時間 3 時間 5 分＞	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中房温泉～燕山荘は、隙間なく登山者の行列ができるほど大混雑で、下山者とも絶え間なく行き交い、自分のペースを保って歩くのが困難な程。</li> <li>・燕山荘から常念小屋は、高低差も少なく、花と景色を眺めながら楽しく歩ける。</li> </ul>		





## 2度目の沢体験 一真剣な大人の遊び

猛暑日の続く夏の初め、私はもううんざりしてこの日を大変心待ちにしていた。奥多摩駅発の満員の2台のバスのほとんどの乗客は、川乗バス停で下りた。百尋の滝に涼を求めてのハイキングかな。その先の静かな倉沢のバス停に降り立つと、もう町のむっとした空気ではなく頬はひんやりと冷たい感触、それだけでも清々しくていい気持ち。

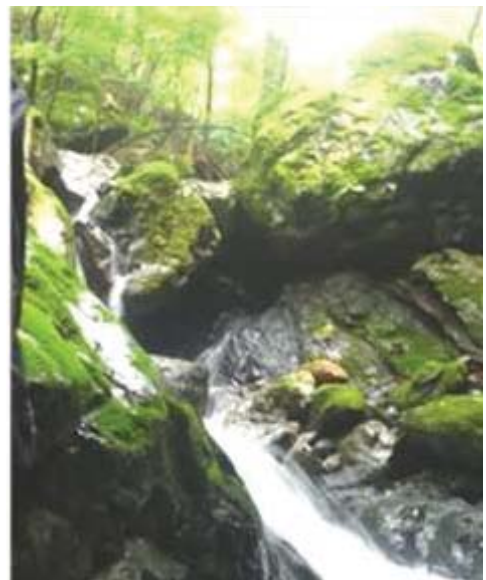
入渓地点までの林道歩き。左手の大岩壁は、たっぷりと渓谷の冷気を蓄えているらしく、右に流れる倉沢川の水音と共に心地よく、一気に沢モードに引き込まれる。さらに歩いて行くと、古い苔むした橋が見え、これが地蔵橋かと思いきや、まだその先、大岩や倒木で道が塞がれているところが地蔵橋であった。ここで沢装備。慣れなくてドキドキ、懸命に手早く。ここまでの道が濡れていたことから、昨夜の雨がどの位のものだったのか、水量が心配。



準備OKさあ～出発。

いよいよ入渓。ひんやりジャブジャブいい気持ち。童心に戻ってわくわく心が弾む。慎重にリーダーの足跡を辿り、ぴったりくっついて行く。やがて目の前に現れた大きな滝。うーんどう行くかな。英さんが両手をいっぱい広げて大岩を抱え込み、水際の僅かな足

場を確実に捉えて渡っていく。まるで忍者だ。私には出来そうもない。右岸の脇から登ろうとするがここも湿った枯葉と濡れた大岩が滑ってズルッと落ちる。どうしよう。上までは無理かもしれない。ズリズリ奮闘していると、いつの間にか登っていた村松さんが、「待ってろよ」とロープを垂らしてくれた。確保を取ってもらって自力で登ろうとしたが、途中でズルッ！ああ、やっぱりロープがなければ私は今頃大岩の下に転んでいる…。しばらく進むとまた勢いよく流れる幅広の滝。待ってろよ。再び確保。今度は体いっぱい水しぶきを浴びながら、勇気を振り絞って流れる水中の岩をまさぐり、斜めによじ登っていく。小さな手がかりに力を込めて、自分の足先に神経を集中し、踏ん張れと念じながらやっとの思いで這い上がった。英さんがやったねと手を差し伸べてくれた。まだ心臓の鼓動が大きくバクバクしている。ああ怖かった。たとえ滑って落ちてもロープで繋がって水の中、とは思うけど、途中痛い思いをするかもしれないし、やっぱり落ちたくない。その後もピョンピョン、ジャブジャブ存分に水と戯れることができた。疲れてきたなー。休憩後、今日は登った川を下ることになった。



この滝は右から登って左へ移動。

同じ流れなのに、上ると下るでは、また違った趣がある。例の難所も、今度は懸垂下降の実地演習の場となった。本当は全部自分でやらねばならないところを、今日は村松さんの手慣れたロープさばきを目で追って復習。エイト環にしっかり通して体を離し、無事に

下りることができた。

先日もヤマケイを見ていると、沢登り教室：奥多摩水根沢 ¥15,000 とか ¥13,000、ハーネス・ヘルメット貸し出します、等々。今日は私がどの位ダメかがよくわかっていらっしゃる先生二人と、無理のない範囲で沢を体験させていただきました。子供の頃遊んだ四国の川を思い出しながら、水の感触を全身に受け止め、無我夢中で目の前の岩に取り付く。本当に心躍る一日を、無事に終えることができ、感謝いっぱいの気持ちで帰路につきました。

**充分満足した遡行者。**



滝の連続楽しいなあ～



**概念図**



**概要**

山名	長尾谷		
月日	平成 24 年 7 月 29 日(日)		
山城形式	奥多摩	地形図	1/25000 武蔵日原
	日帰り	グレード	3 C
目的	① 暑い時には涼しい場所で遊ぶ。 ② 水と戯れて、沢登りの楽しさを体験する。		
費用	約 3,000 円	交通機関	JR、バス
行程	我孫子駅発 5:34→西国分寺 6:55→立川駅 7:15→奥多摩駅 8:29/8:35(バス)→倉沢バス停 8:50/8:55⇒魚止め橋 9:40⇒地藏橋 9:55⇒出合 10:10/10:20⇒長尾谷遡行⇒11:50 昼食⇒標高 1,200 地点にて引き返す⇒出合い 14:05/14:20 装備解除⇒倉沢バス停 15:00/15:25(タクシー)→奥多摩駅 15:40/16:23 (ホリデー快速奥多摩号)→神田→我孫子 19:05		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>川乗橋バス停から 3 つ目先のバス停、倉沢バス停で降りる。</li> <li>倉沢谷脇の倉沢林道 (ゲートが有って車は通行止め) を 50 分位歩くと魚止め橋、地藏橋を經由して長尾谷に入渓する。林道の終点。</li> <li>出合いははっきりしていて、入渓する事は簡単にできる。</li> <li>最初は小さな滝が連続して、現れるが問題なく直登出来る。</li> <li>1 時間位に 5 m 滝が現れるが、ロープを出して確保しながら登る。その後多くの滝が現れるが、いずれも直登する。</li> <li>谷上部に朽ちかけた橋のある所には 3 m × 2 の滝が現れるが、シャークライミングで越える。</li> <li>標高 1,200 地点で十分に水遊びを堪能したのと、雷のごろごろが聞こえてきたので、下山を決めた。ルートとしては、棒杭尾根経由にするか迷ったが、そのまま長尾谷を下降した。体力的にはこのルートの方が楽だと思う。</li> </ul>		
参加者	村松 (L)、高橋英、矢野裕 男 2 名 女 1 名 計 3 名		





< 7 8 5 >

## 仙丈ヶ岳 (3032m)

藤倉貞江

### 念願の仙丈ヶ岳



空は青く高く

登ってみたい山。昨年、目前にして断念。心残りでした。

暑さが続いているので、体力的に不安がよぎる。JR・路線バスを乗継ぎ昨年と同時間ですが、広河原で人の多さにビックリです。大勢の人たちが山を目指していました。野呂川出合で、バスを降り林道歩きで両俣小屋へ向かう。歩きながら地図読み・現在地確認、山座同定・学習。ダンプカーが砂埃をあげて走り去っていく。何往復も……豪雨で崩壊した数ヶ所の復旧工事が行われていました。両俣小屋への道も、豪雨の被害で寸断したところもあり、道なき道を歩く所もあった。

三時すぎに、小屋に着く。小屋の前のテーブルでビールで乾杯。のどを潤し安らいだ気持ちと明日の頑張りを思いながら過ごす。水の流れる音。静かな小屋で心地よい。夕食も品数多く、とても美味しかった。夜中、外に出ると夜空に満天の星が輝き素晴らしい。立ちすくんでしまった。ゆっくりと寝ることもできました。

朝、小屋の前で間ノ岳の頭をみながら準備し、五時に両俣小屋を後にする。歩き始めの樹林帯では離れないように気をつけて、足元注意で歩く。急登が続き、休憩をとりながら登ったり下ったり、樹林帯中にも光が入り明るく歩きやす

くなった。

下山してくる人に出会う。急登を登ると素晴らしい展望が目にはいる。振り返れば、北岳・間ノ岳、前には仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳が見えます。360°の展望で中央アルプス・北アルプスの山々が青空にくっきりとみえます。冬の平は半湿地の草地で、マルバダケブキが一面に咲いている木陰の片隅でリーダーがお汁粉を作ってくれました。お餅も入って甘く美味しかった。おなかもいっぱい、元気をもらいました。

灌木と這い松の稜線歩きを続け展望を楽しみながら、いくつかのピークを踏む。足元にはウサギキク・ゴゼンタチバナ・ハクサンフウロ・チシマギキョウ、ヨツバシオガマ・チングルマ色とりどりに咲いている高山植物に出会えました。岩屑とお花畑の斜面を登ると大仙丈ヶ岳の山頂です。静かな山頂で先客二名と私達だけでした。

### 最高峰の 仙丈ヶ岳



仙丈ヶ岳に向かう途中断崖に雷鳥の親子を見ることができヨチヨチ歩きの姿が可愛い。イワギキョウ・タカネコウリン・ミヤマキンバイ・ミネウスユキソウ・カラマツソウ多数の高山植物にも出合え、念願の仙丈ヶ岳に登頂した。バンザイ。満足感でいっぱい。山頂は登山者で賑わっていたが、ガスが出てきて展望はなかった。今日の小屋馬の背ヒュッテに向かう。



リーダーに感謝 ↑

下山途中でも花には出会えなかった。馬の背ヒュッテの周りもシカの食害で花はなく防護柵がしてありましたが、保護されていました。

小屋は大入り満員で、ごった返していた。夕食はカレーでした。私達は端の方で寝ましたが、寝返りができないほどの狭さでした。

早朝ご来光を見るため馬の背尾根を登り返し、秩父連峰から登る日の出を見ながら、自然に手を合わせている私がありました。周りの景色も素晴らしい。雲海に浮かぶ、八ヶ岳・北アルプス・中央アルプスの山々の眺望を満喫し満足でした。

5時30分小屋を後にする。藪沢の左岸沿いに下る。沢には、雪が多く残っていて滑りやすい。登ってくる人も多い。近くに見える甲斐駒ヶ岳を眺めながら樹林帯へ……。鬱蒼とした樹林帯をぬけると南アルプス林道に出た。大平山荘の前にはピンク色のオオビランジ・センジュカンピが咲いていた。北沢峠に向かう。昨年宿泊した長衛荘で美味しいコーヒーを飲みながらバスの待ち時間過ごす。一階が二段ベットに変わっていた。

バスと乗合タクシーを乗り継ぎ三溪園で、温泉に入り汗を流す。初日の不安もなく無事下山出来、メンバーに感謝します。天気恵まれ最高の展望を満喫し多くの高山植物に出会い、念願がかない南アルプスの女王、仙丈ヶ岳に登頂でき充実した山行が楽しめました。武内リーダー有難うございました。



概念図

山名	仙丈ヶ岳		
月日	平成24年8月3日(金)～8月5日(日)		
山城	南アルプス	地形図	1/25000 仙丈ヶ岳
形式	山小屋泊	グレード	2 B
目的	南アルプスのダイナミックな景観を楽しむ。		
費用	約 25,000 円	交通機関	路線バス、JR、タクシー
日程	1日目	我孫子 5:33(武蔵野線経由)→高尾 7:27→甲府 9:21/10:00(バス)→広河原 11:56/12:15→野呂川出合 12:30/12:35⇒林道終点 14:45/14:50⇒両俣小屋 15:10 (泊) ＜歩行時間 2時間 30分＞	
	2日目	両俣小屋 5:00⇒野呂川乗越 6:00/6:05⇒横川岳 6:35/6:40⇒独標(2499P) 7:25/7:30⇒苅の平 9:00/9:40⇒奥仙丈岳手前鞍部 11:20/11:40⇒大仙丈岳 12:20/12:25⇒仙丈ヶ岳 13:10/13:20⇒仙丈小屋 13:40⇒馬の背ヒュッテ 14:20 (泊) ＜歩行時間 7時間 50分＞	
	3日目	馬の背ヒュッテ 4:00⇒馬の背尾根 4:40/5:10⇒馬の背ヒュッテ 5:30/6:00⇒沢を横切る 6:55/7:00⇒大平山荘 8:05/8:10⇒北沢峠 8:25/9:45 (バス) 広河原 10:10/10:15→三溪園 11:00/13:28 (バス) →甲府 14:20/14:48 (JR) →高尾→神田→上野→我孫子 18:40頃 (解散) ＜歩行時間 3時間 15分＞	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>野呂川出合からの林道は、豪雨で何か所か崩落した個所があり、復旧工事が行われていた。林道終点から両俣小屋の道も豪雨被害に遭ったようで歩きづらい個所があった。</li> <li>仙丈尾根は塩見岳～仙丈ヶ岳に延びる長大な尾根で、野呂川乗越⇒仙丈ヶ岳はその北半分にあたる。乗越～苅の平は南アルプス特有の深い樹林帯の道、苅の平以降は岩屑と低い灌木と這い松が中心の展望の良い道となる。</li> </ul>		
参加者	武内 (L)、藤倉、新谷、中村育 男 1 名、女 3 名、計 4 名		



雪がこんなに！



ミネウススキソウ

概要



< 7 8 6 >

立山(雄山～大汝山)～奥大日岳～大日岳  
(3003m)～(3015m)～(2606m)～(2501m)

瀬田映子

雄大な景色と花畑に時を忘れる

8/7 (火) 夜

8月の運営委員会(参加メンバー4名)終了後、我孫子駅で矢澤さん・柏駅で斎田さんと合流し計6名(男2・女4)で富山電鉄高速バス1号車池袋発 23:00(夜行バス3列シート)富山駅着 5:30に乗った。

この山行は私が剣岳に登った時、室堂ターミナルでどっしりと構えた雄大な大日岳を見て「今度はこの山に登りたい」と思っていた山だ。会の「行きたい山」に希望を出したところ取り上げてもらった。どうせ登るなら立山・大日連峰のパノラマコースを一巡りして、高山植物の宝庫でもある大日三山の高山植物をゆっくり楽しんだほうが良いとのリーダーの提案と、細い指導を受け計画を立てた。バスは夜の高速道を走り、途中数回インターに立ち寄ったようだがあまり覚えていない。

8/8 (水)

外が明るくなりカーテンを開けてみると、窓ガラスに雨があたり路面がぬれている。天気予報外れた??富山駅に着いた時も小雨が降っていた。「大丈夫だ、この空模様は晴れるから」のリーダーの言葉を信じて富山電鉄の富山駅に向う。しかし工事中で場所が分からない。数分ロスをしたが地元の人に場所を聞いて電車に乗り立山駅に向った。車中で朝食をとり一時間程で立山駅に着いた。立山ケーブルカーに乗り美女平駅に到着、その後立山高原バスに乗り室堂駅に到着した。正面の山が明日登る大日岳、右側がこれから登る峰郡で最高峰が大汝山(3015m)向って右端のピークが雄山(3003m)。登り始める前に、名水百選「立山玉殿の湧水」をしっかりとゲットした!!



<穂前>チンゲルマ

8:35分室堂平を背に一ノ越へ。この登山道、登り始めは緩やかで右に浄土山を見ながらの登り。ところどころに残雪があり、早速チンゲルマ・ヤマガラシ・タテヤマリンドウ等のお花畑が夏のやさしい風に揺れながら私たちを迎えてくれました。9:45分一ノ越に到着しここで休憩。ここからの雄山の姿は荒々しい山肌が山頂まで続き、かなりの急勾配。気合を入れて一ノ越山荘をスタート。予想以上に岩がゴツゴツしているので注意が必要だ。岩のないところは乾燥した砂や小石が多い。しかし、雄山への高度が上がるにつれて眺望も開けて来て気持ちが良い。遠くには槍ヶ岳も見え、眼下にはみくりが池や地獄谷など室堂の自然が広がって高山の雰囲気をも十分に堪能することが出来る。11:00雄山山頂に到着。



8.8 タカネツメクサと大日連峰↑



↓ 8.8 雄山山頂から鹿島槍・五竜山頂





8.8 大走を下り切って

立派な山小屋もあり、スペースも広く、その先に雄山神社が見える。手前に社務所がありそこで祈祷料500円を払い岩の突端に建つ雄山神社にお参りに行った。ジャリ石に腰をおろして神主の祝詞を聞き、お神酒をいただいた。山頂雄山神社は畳6帖ほどの狭いスペースだが、北アルプスの山々が360度見渡せるあの絶景は忘れることのない思い出となった。

雄山から立山連峰で最も標高の高い大汝山に向う。40分ほどで山頂に到着。大汝山頂上からは後立山・エメラルドグリーンの黒部湖・黒部ダムが一望できた。ここで昼食をとり右手の内蔵助カールと左手の室堂を一望しながら富士ノ折立を下った。真砂岳分岐に到着する手前から高山植物がいっぱい！！カライトソウの群集。夏風に柔らかくなびいていた。



内蔵助カールと剣岳

真砂岳からの下りは急坂で浮石も多く緊張したが、大走りを下ってからは沢山の高山植物が緊張感をほぐしてくれた。雷鳥沢のテント場は沢山のテントの花でにぎわっていた。15:30分ロッジ立山連峰の山小屋に到着。夜行バスで疲れたため、夕食直後すぐに寝てしまった。



雷鳥沢とみくりが池、奥大日岳

8/9 (木)

### 山の仲間・パーティのあり方を学ぶ

今日も絶好の登山日和！！朝食まで出発前にリーダーから頂いた「高山植物と立山・大日連峰でみられそうな花」の参考資料をみながら昨日見た高山植物を復習！！

リーダーより体調不良のメンバーがでたため、メンバー全員に意見を聞かれた。パーティー全体の行動はメンバーの安全とパーティーの協力が第一との考えで「奥大日岳までは全員で行き、戻るかどうか体調を見て、判断する。」との結論。全員でロッジ立山連峰の山小屋を6:45分出発。瀬田さん「昨日ペースが速かったので今日はもう少しユックリのペースで歩いてください」とのリーダーの指示。それを聞いていた矢澤さん笑いながら「瀬田さんは信用出来ないから私が先頭を走ります」・・・確かに何度も注意されたのだが、だんだん早くなってしまった。そこで矢澤さんに先頭を歩いてもらいその後を歩くことにして出発した。雷鳥沢テント場の中を進み、称名川にかかる木の橋を渡った。それから雷鳥沢の道を右に折れ新室



奥大日岳へ向かう

堂乗越の尾根に出た。南を望むと地獄谷の上にはみくりが池温泉・左中程に昨日止まったロッ



ジ立山連峰の山小屋・キャンプ場。左上に雄山山頂。北を望むと北アルプス三大急登の早月尾根からの剣岳が見える。これからはピークを巻きながらの稜線歩き。奥大日岳への登りになっても矢澤さんのペースは乱れず、みごとに我々をリードしていく。体調不良のメンバーも完全に回復した様子だ。奥大日岳山頂で雄大な景色に感嘆し「剣岳登りたいね」・・・しばし時を忘れるひとときでした。

大日岳からはカライトソウ・ハクサンシャジン・シモツケソウなどのお花畑。日陰にはキヌガサソウ・クロクモソウなどが咲き、花の名前を覚えるのに大変だ。夫婦花のオオヒョウタンボクの花を見た後、オオヒョウタンボクの実を見つけ「本当にヒョウタンの形だ」と感激！雷鳥に出会いまた感激。



8.9 奥大日岳山頂



←8.9 カライトソウ  
と立山連峰

↓キヌガサソウ



岩を乗り越えて行くところが数か所あった。ここが七福園のようだ。七福園はお花畑と思っていたがどうも違っていったようだ。立て右に大きな岩が連なっていた。これが数え方により7つなのかもしれない。七福神と見立て岩を配置した日本庭園のようだ。

中大日岳から湿原状の所を過ぎると下に大日小屋が見えた。大日小屋の若主人は感じが良く、トイレを借りるため料金聞くと、「靴を脱いでいただきますが無料です」との返事。リーダーも気分が良かったのか、野菜ジュースを買って私達に飲ませてくれた。(すごく美味しかった)ザックを置かせてもらい空身で大日岳をピストンすることにした。大日小屋には数人の登山者がいたが山頂には誰もいず、小さな仏像が2体、納められていた。途中雲が出てきたが山頂で写真を撮るときには「私も撮って！！」と言わんばかりに剣岳が顔を出してくれた。小屋へもどると大日小屋の若主人はギターを作っているらしく、休んでいた若者がギターを見せてもらうために小屋に入っていった。さあ、これからいよいよ山を下る。

大日小屋から大日平小屋までは急な下りで長い。中腹の水場をすぎると下に大日平山荘が見えた。休憩をして下って行くとワタスゲの穂の平らな木道にでた。大日平の湿原はササ原で延々と木道が続いている。よくこれだけの木道を作ったものだと感心しながら歩いて行く。高山植物をゆっくり楽しんだため予定より遅く大日平小屋に到着した。一部屋頼んでいたのだが男女別で二部屋用意してくれていた。石鹸は使えないがシャワーが用意され、濡れたタオルを持って帰るのは大変だろうとタオルも貸してくれた。食事も美味しく、布団も天気の良い日には屋根に干してるらしく、太陽の香りがしてフカフカ・・・とっても気持ちよくて直ぐに寝てしまった。

8/10 (金)

今日も絶好の登山日和！！山荘を出るとき山小屋の若主人が見送りに出てくれ小屋の前で写真撮ってくれた。小屋の裏から見える不動の滝を見た後、「美味しい食事とあったかい布団」のお礼を言って出発した。

下山道は厳しく牛首からは狭い急坂。右手はザクロ谷、左手は称名滝で両側が切れ落ちている。猿が馬場からは梯子・ロープ・鎖が設置されますますます厳しくなった。オミナエシ・クガイソウなどの花をみながら注意してゆっくりジグザグに下って行くと車道が見えた。

舗装道路に出て10分程歩き圧倒的な轟音と水煙が舞う日本一の滝「称名の滝」を見学した。バス停でクールダウンして11:10分発のバスに乗り込んだ。富山では感じの良いおかみさ

んが番台にいる昔ながらの銭湯「観音湯」でお風呂に入った。その後地鉄ビル内の食堂で、地元のホテルイカ・シロエビなど頂ながらの反省会。富山駅発 17:27 分の特急北越 7 号に乗り帰路に着いた。

今回の山行はすべてをリーダーまかせにしないで、各人がそれぞれ出来ることを手分けして参加した。そして山行の目的である①高山植物をゆっくり楽しむ・・・「100種類ほどの花」②剣・立山連峰の展望パノラマコースを縦走する・・・「素晴らしい景観」

目的をすべて果たし、「山の仲間・パーティーのあり方」などについても勉強させていただきました。本当に充実した楽しい山行でした。リーダーをはじめ、参加された皆さん有難うございました。

**概要**

山名	立山（雄山～大汝山）～奥大日岳～大日岳		
月日	平成 24 年 8 月 7 日（火）夜～10 日（金）		
山城	北ア	地形図	1/25000 立山・剣岳
形式	山小屋	グレード	3B
目的	① 山植物をゆっくり楽しむ ② 剣・立山連峰の展望パノラマコースを縦走		
費用	約 42,000 円	交通機関	バス、私鉄、JR
1 日目	我孫子駅 21:22 → 22:10 池袋駅：池袋 BT23:00（富山地铁バス）→		
	富山駅 5:25/5:42 → 立山駅 6:30/7:00 → 美女平 7:07/7:35 → 室堂 8:25/8:35 → 休憩 9:10/9:15 → 雷鳥沢分岐 9:35 → 一ノ越 9:45/10:00 → 雄山神社 11:00/11:20 → 大汝山 12:00 → 富士ノ折立 12:40 → 真砂岳分岐 13:20/13:35 → 休憩 14:15/14:25 → ロッジ立山連峰 15:30（泊） 快晴 < 歩行時間 5 時間 40 分 >		

2 日目	ロッジ立山連峰 6:45 → 休憩 7:40/7:50 → 休憩 2450m 8:45/8:55 → 休憩 2611m 付近 9:45/10:05 → 奥大日岳 10:10/10:30 → 休憩 12:00/12:15 → 七福園 12:55 → 大日小屋 13:10/13:30 → 大日岳 13:50/14:00 → 大日小屋 14:20/14:30 → 水場休憩 15:30/15:40 → 大日平小屋 17:00（泊） 快晴一時ガス < 歩行時間 8 時間 10 分 >
	大日平小屋 6:45 → 牛の首 8:00/8:10 → 猿ヶ馬場 8:40/8:50 → 休憩 9:15/9:20 → 休憩 9:40/9:45 → 大日岳登山口 10:00 → 称名滝 10:20 → 称名滝バス停 11:00/11:40 → 地铁立山駅 11:55/12:35 → 富山駅 13:36 → 観音湯（入浴） → 反省会 15:25/17:00 → 富山駅 17:27（特急北越 7 号） → 長岡 → 上野 21:40 → 我孫子 晴れ < 歩行時間 3 時間 5 分 >
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室堂から一ノ越までは良い道だが、所々に雪が残る。一ノ越から雄山までは人が多く、岩の間にトレイルが入り乱れるので歩きやすい所を選ぶ。</li> <li>・真砂岳手前から大走り～雷鳥沢へのルート入口は標識が無く小岩や岩屑の道。7月中旬までは雪が多いと予想される。</li> <li>・奥大日岳からの下り始めは、両側が切れた急な細い尾根道なので注意。</li> <li>・大日平からの下山道は急坂、鎖・梯子・ロープなどがあり予想以上に時間が掛かる。</li> </ul>
参加者	高橋重（L）、瀬田（SL）、桐生、斉田 矢野裕、矢澤 男 2 名 女 4 名 計 6 名



8.9 剣岳湯浴み中



< 7 8 7 >

前穂高岳～奥穂高岳  
(3090m) (3190m)

高橋芳恵

### 憧れの穂高岳に

14年前、山の会に入会の動機として、いつか穂高岳に登れるようになりたいと考えた前穂高～吊り尾根～奥穂高の憧れのコースを今回矢野リーダーが引き受けてくださった。8月9日、新宿から高速バスに乗り、一路上高地に向った。上高地の人の多さはいつもながらだが、今夏、関東の蒸し暑さに辟易していたところ、当地のからりとした涼しさが何よりも心地よかった。「やはり北アルプスは何度来てもいいね」と木陰で昼食をとった。

岳沢を目指しての道はなかなかの登りで大汗をかいたが、途中の風穴では天然のクーラーの心地よさを十分味わった。登山道はヨツバヒヨドリソウが盛りと咲いていた。岳沢小屋は雪崩で崩壊し、しばらく休業していたが再建された。確か娘さんが後継者と記憶しているが、乾燥室には火が入り汗でぬれた衣類を短時間で乾かすことができた。お湯の無料サービスや従業員の接遇等細やかなサービスが行き届きなかなか感じが良かった。夕食も揚げたてのアジのフライがおいしかった。テラスからは焼岳、霞沢岳の大展望と乗鞍岳を臨み「来年は焼岳にお邪魔します」とひそかに挨拶した。寝場所もゆったりスペースがとれ、夜間、他グループの同室者の歯ぎしりを除いては満点の山小屋だった。

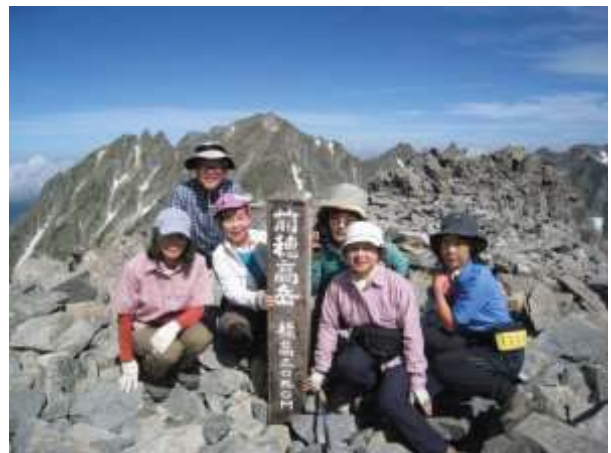
### 前穂高～奥穂高へ

翌朝、前穂高へ向け出発した。重太郎新道は急

傾斜ではあるが、日差しが逆だったおかげでぐんぐん登り、カモシカの立場で休憩し、はしごや鎖を越え喜美子平に到着した。ここにザックをデポし、前穂高岳を目指した。ここから前穂高への岩稜をやっとの思いで山頂へ。素晴らしい晴天の中の立山三山をはじめ360度の大展望をゆっくり楽しんだ。今回女子隊の中、黒一点の菊地さんから頂いたオレンジのおいしかったこと。



前穂高への登りから見る天狗の頭



前穂高岳頂上

帰路は特に慎重に喜美子平まで下った後、各人がご褒美に用意したトマト、チェリー、ブドウなど次々にごちそうをいただいた。下山時、ガイドを先頭にツアー客が登りの岩稜を20数人連なって上ってくるのには閉口したが、ツアーといえこうした危険度の高い岩山は小集団に分けて歩く配慮が必要と感じた。ここからは吊り尾根を歩く。イメージとしてもっと狭い尾根道を想像して

いたが十分道幅があり、前穂高に比べそれほど危険とは思えなかったが、雨や霧など視界が悪ければ危険度は増す。下界の上高地の建物が小さく見え、一步ずつここまで歩くことができた自分に感動した。登りの苦しさは岩を間にけなげに咲くイワギキョウ、イワツメクサに励まされ癒された。



奥穂高頂上



奥穂岳頂上からジャンダルムを見る

最後の南陵を必死に上ると奥穂高岳神社と山頂に至った。眼の先のジャンダルムでは頭に何人かの人が立っている。充実感に浸りながら山頂でゆっくりとコーヒーやお茶を楽しんでいると、ヘリコプターが飛来し、旋回して傷病者を救助していく様子を目の当たりした。奥穂高山荘への下山途中、転倒または滑落したと思われる現場に出血の跡を確認したが急傾斜の岩稜を越えた緩斜面の「こんなところで」と思われる所であった。

食後30分の「ホッとした時の事故」を教訓に

最後のはしごを下りて奥穂高山荘の広いテラスに到着した。小屋のチェックインをした後、そのままテラスでゆったりと心行くまで談笑し、至福の時間を過ごすことができた。下の涸沢のテント群が色とりどりのキャンデーのようにかわいらしい。奥穂高からの岩稜を下りてくる人を眺めながら、いろいろ講釈しながら来し方の余韻を楽しむ、山小屋の最高の楽しみ方といえる。奥穂高山荘でもゆったりしたスペースを確保して休むことができ、食事を楽しむに十分こたえる内容であった。



穂高山荘前ほっとしました

#### 奥穂高山荘～上高地

昨日の展望とは打って変わって霧の朝であったが、ザイテングラードを涸沢に下った。途中、雪渓を横切りお花畑に立ち寄った。一面のハクサンイチゲ、アオノツガザウラの群落は素晴らしかった。見上げれば昨日歩いた前穂高、吊り尾根が、まさに吊り尾根の形状である。涸沢でまたまた菊地さんからオレンジをいただき、重い荷物をここまで担いでくださったことに感謝した。ここからは横尾、徳澤、明神と等間隔での休憩場所があり、上高地に近づくにつれ人、人、人が多くなっていく。北アルプスに来てまず気づいたことは韓国のハングル語表示である。すべての小屋の各施設（トイレの中まで）ハングルで表示されている。以前にはなかったことである。途中、元気な韓国からのツアーが『アンニョンハセヨ』



とあいさつしながら登って行った。日本経済にとって外国からのお客様は神様であり『カヌサハラミダー』である。外国の皆さんに日本の山の素晴らしさをぜひ紹介していただきたい、そのためにはせめてゆったり眠れる小屋であってほしいと切に思った。

到着地の河童橋はまるで銀座さながらの込みようで、私たちのグループもここで半分の方が帰路につき、残る3人が予備日を使い、沢渡の豪華ペンションで旅の疲れをすっかり癒す気の利いた計画である。豪華ペンションは期待した以上に素晴らしい宿で、温泉でゆったり過ごした。

今回の山旅は最高の天候、長年憧れの3000mの山の達成、楽しい山仲間、咲きそろった花々との出会い、そして3日間指導いただいた矢野リーダーの山の経験、知識、技術、リーダーシップと4拍子揃ったNEWリーダーの誕生を参加者全員が心から祝った旅であった。矢野リーダー本当にありがとうございました。



湊沢のお花畑

## 概要

山名	前穂高岳～奥穂高岳		
月日	平成24年8月9日～8月12日		
山城	北アルプス	地形図	1/25000 穂高岳
形式	山小屋泊	グレード	3C
目的	岩稜の山を登る		
費用	42,000円	交通機関	バス
行程	1日目	我孫子 5:31→新宿駅⇒バスターミナル 7:30→上高地 12:20/12:55⇒登山口 13:15⇒風穴 13:50⇒胸突き八丁 15:00⇒岳沢小屋 15:25 晴れ<歩行時間2時間30分>	
	2日目	岳沢小屋 5:25⇒カモシカ立場 6:30/6:40⇒岳沢パノラマ 7:15/7:20⇒雷鳥広場 7:45⇒紀美子平 8:15/8:20⇒前穂高岳 8:55/9:10⇒紀美子平 9:40/9:50⇒奥穂高岳 12:00/13:00⇒穂高岳山荘 13:35 晴れ<歩行時間6時間25分>	
	3日目	穂高岳山荘 5:40⇒お花畑 7:10/7:20⇒湊沢 7:50/8:10⇒横尾 10:40/11:10⇒徳沢 12:00/12:05⇒明神 12:55/13:10⇒上高地 13:45/14:20⇒沢渡 15:00 曇り<歩行時間7時間20分>	
	4日目	沢渡宿 11:00⇒沢渡バス停 11:30⇒新宿駅 16:00⇒我孫子駅 17:10	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岳沢からの登りは急登、長いはしごが、2段はしご、クサリが数箇所あり。</li> <li>・紀美子平にザックをデポし、前穂高岳へ行く。前穂高岳へは岩場の急登。ペンキのみたより要注意。</li> <li>・吊尾根は細く、片側が切れているうえ、岩場が続くストックが邪魔になった。この尾根ではストックは仕舞った方が良いと感じた。きつい登りだった。</li> <li>・ザイテングレードの下りは慎重に下った。朝早く出発したため、すれ違いもある程度余裕のあるところまで下ってきており、それ程時間がかからなかった。</li> </ul>		
参加者	矢野貞(L)、菊地(SL)、高橋芳、大畠、田村、飯合 男1名 女5名 計6名		

## 概念図



<788>青山寿子さん追悼登山

## 三ノ木戸山 (1177m)

村松敏彦

### 十二天社の前で黙祷



思えば、平成23年8月29日のまだ残暑が厳しく、朝から夏の太陽がまぶしく照り返していた早朝、会長からの1本の電話がその事故を知るきっかけだった。「青山寿子さんの主人から昨日、寿子さんが奥多摩に行ったきり戻って来ない。柏警察に捜索を依頼した」との事、すぐに個人山行の計画書を見ると2名で家入沢に入渓している。同行者がいるので、何処かでビバークしていて電波が届く場所に移動した後、連絡が有るだろうと思った。しかし、捜索のために赴いた青梅警察署に着いてからも連絡はなく、絶望的な空気が我々にも漂い、夕刻には最悪の対面になった。(詳細は「青山寿子さんの事故について」参照の事)それから一年後、追悼登山を行うべく7名が新宿経由奥多摩駅に着く。駅前には多くのハイカーが楽しそうにお喋りに弾んでいた。太陽は一年前と同じように朝から容赦なく照り、周囲の緑が眩しい。

青山さんはバスで大沢(約10分)で下車して、すぐ脇の家入沢から入渓していたが我々は寺地部落から、以前は住んでいたと思われる家のためにあった道が、現在は廃道に近いルートを通り、不老林道から事故現場の近くの十二天社を目指す。何故この場所にこの様な、立派な林

道があるのが不思議ですが(この近くに東京農大の管理森林地が有ると、十二天社御参りのためか)不老林道に出て西に30分程歩くと青山さんが事故に会ったと思われる家入沢直上の十二天社の祠の前に着く。(何故、ここに祠と東屋が有るのかずいぶん調べたが不明)、われわれも祠を利用させて頂き、持参した素敵な写真、花束、彼女の好きだった行動食、バナナ、お酒、線香など供える。周囲は奥多摩地方特有の杉の林の緑が美しいが、しかし、家入沢の深い谷から聞こえる水の音が周囲の静かさと裏腹に青山さんの悲鳴のように聞こえる。

黙祷の後、線香を添え冥福を祈る。祠の前で車座になって、各自思い出を語り合ったが彼女の健脚振り、山行回数の多さには居口同音に驚いていた。トレードマークの鉄アレイ持参の山行、毎週のように重ねる山行、とにかく登山が好きで好きでたまらない様な生活を送っている様な気がした。唯、残念なのは魔が差したかのように、彼女は何故、単独で入渓したのだろうか?何故あのように増水した谷に入ったのだろうか?(2,3日前から夕刻に大雨が奥多摩方面に降ったとのことだった)今でも疑問に思うと同時に残念でならない。最後に全員で「いつか有る日」と「雪山讃歌」を歌い(みんな何時になっても上達しないね、と云っているような声をした)後ろ髪を引かれる思いで別れを告げた。

下山に選んだ、不老林道は奥多摩駅迄歩いたのだがうんざりするほど長い。しかしその分、頭の中に青山さんとの数々の山行が思い出される。10年間という長いのか短いのか解らないが、とにかく強かった。(その裏付けは日々のトレーニングと食生活にあるようだ)雪山、蘆山、沢登り、岩トレ、縦走、等多くの山行を重ねた。特にハードでグレードの高いルート、山を彼女は好んだ。こうして緑深い奥多摩の林道を歩いていると、ふっと横に青山さんが居るような気がしてならない。彼女はあの世でも、山に登っているだろうなあ。あんなに好きだったのだから。下山した奥多摩のソバ屋で皆で思い出に浸りながらやっと吹っ切れた様な気持ちになった。暑かったせいもあったがビールがやけに美味しかった。





## 祠の供花の数々

参加者	村松 (L)、外崎 (SL)、高橋英、武内、高橋重、矢野裕、齋田
	男4名 女3名 計7名



全員で「何時か有る日」  
【雪山讃歌】の合唱。

← 冥福を祈って献杯

## 概要

山名	三ノ木戸山 (十二天社)		
月日	平成 24 年 8 月 19 日 (日)		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 武蔵日原
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	1. 青山寿子さんを偲んで。 2. 昨年 (23 年) 登った十二天社で思い出に浸る。		
費用	約 3,000 円	交通機関	JR、バス
行程	我孫子駅発 6:28 (快速上野行) →日暮里經由→新宿駅 7:15/7:44 (ホリデー快速奥多摩号)→奥多摩駅 9:15/9:35(バス)→寺地バス停 9:43/10:00⇒廃墟 10:50/11:10⇒不老林道 11:40⇒十二天社 12:10/13:30 (供養) ⇒不老林道⇒羽黒三田神社 14:55⇒奥多摩駅 15:10/16:24 (ホリデー快速奥多摩号) →神田經由→我孫子着 18:50		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日及び土、日はハイカーに便利のためホリデー特快奥多摩号が運行されている。停車駅も少なく早い。時間さえ合えば利用すると良い。</li> <li>・青山さんとは、この先の大沢の日野明神社の裏から急登のヤブ道を登ったがこの季節ヤブが酷いと予想されたので寺地から不老林道を目指す。</li> <li>・寺地から不老林道迄は地図上には登山道が明記されているがほとんど廃道に近い</li> <li>・時々道らしき道が不明になっているが、不老林道に出れば、後は問題ない。十二天社には小さな祠と何故か東屋が建っている。</li> <li>・下山に不老林道を奥多摩駅まで歩いたが、いやになるほど長い。</li> </ul>		



↑順番に、祠の前で思い出を語り合う

## 概念図



## 赤岩滝

品田千恵子

### 迫力満点の秘滝

東武伊勢崎線で北千住～日光駅、そこからバスで赤沼バス停利用の場合、東武フリーパスがお得だったので今回はフリーパスを利用した。

低公害車の車窓から見る小田代原は夏から初秋へと衣替えの準備をしていた。秋の草紅葉はきっと素晴らしいと思う。再び訪れてみたいものだ。西野湖入口より落葉松と白樺の並木を歩き始めると、アサギマダラ蝶の幼虫が食用とする林床一面に白ヨメナの真っ白い花が咲いていたが、その茎にイケマの花が巻きついていて、イケマの花と間違えそうになる。



林床一面の  
シロヨメナを見る  
(目的達!)  
↑→



←イケマ

イケマの花は凝らしてみると小さな白い花の集まりで、実はオクラに似ていた。ちなみに白ヨメナは夏の終わりに咲くとのことなので、アサギマダラを見ることができると思っていたが、山行中は出会うことがなかった。赤沼茶屋案内所の写真説明には、「派手な体でヒラリヒラリと飛ぶが、体の中には毒がある。ちなみに食べられません。」と書いてあった。しかし黄色のヒョウモン蝶2匹が時折姿を見せては道案内をしているかのように、飛んで来たり消えたりして飛び交っていた。



ミドリヒョウモン

蝶と戯れながら歩いていると、やがて柳沢川に出る。ここから渡渉を4回繰り返して、最後の急登の岩を登ると迫力満点の秘滝といわれる赤岩滝が目の前に現れた。滝の流水が岸壁を2段に落下するその滝壁に、一株の大文字草が咲いていた。両手を広げてマイナスイオンを体いっぱい浴びた後、滝壺近くで朝食をとる。原田ファームの甘いトマトと原田シェフお手製キュウリの漬物がおいしくて、おにぎりを二個も食べてしまった。帰り道は渡渉にも慣れ、水の流れを楽しんだり涼風に吹かれたりして、長いベロを出したようなカリがネ草や白い花のイワカガミなど、花々を観察しながら自然の情景を楽しむことが出来た。今回は残念ながらアサギマダラを見ることはできなかったが、偶然テレビで、舞っているアサギマダラをみることが出来た。これで今回の山行目的の「深山の滝、白ヨメナ、アサギマダラを見る」は、3つともクリアできたかな？

カリガネソウ



イ



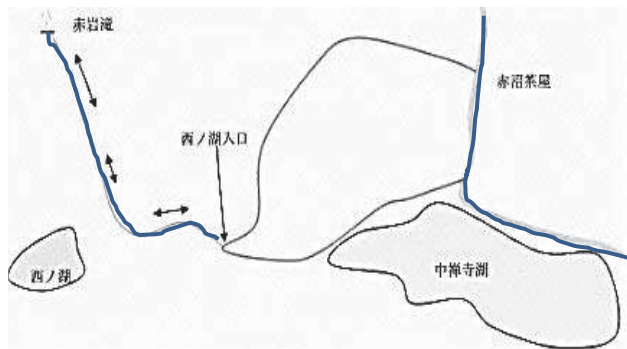


赤岩滝

おーい！



概念図



概要

山名	赤岩滝		
月日	2012年8月26日(日)		
山城	日光	地形図	1/25000 男体山
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	深山の滝。林床一面のシロヨメナを見る。 アサギマダラ(蝶)を見る。		
費用	5,000円	交通機関	JR、東武、バス
日程	<p>東武伊勢崎線北千住駅電車発 6:32→日光駅 8:29 着バス発 8:36→赤沼着 9:45          低公害バス乗換え発 9:55→西ノ湖入口下車 10:20 準備          登山開始 10:25⇒分岐 10:35⇒休憩          11:05/11:10⇒水場 11:25⇒初めての渡渉地          11:30⇒二回目の渡渉地 11:50⇒三回目の渡渉地で休憩 12:00/12:05⇒赤岩滝          12:30/13:05(昼食)⇒一回目の渡渉地で休憩          13:40/13:45⇒分岐 14:40⇒西ノ湖入口着 14:50</p> <p style="text-align: center;">＜行動時間 4時間 25分＞</p> <p>西ノ湖入口低公害バス発 15:14→赤沼茶屋着 15:34 路線バス発 16:06→日光駅着 17:30/18:00(反省会)電車発 18:08→北千住駅 20:43/20:50→我孫子駅着 21:13 (解散)</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西ノ湖入口から約10分歩いた所に有る分岐を右に向かう。</li> <li>・コースの2/3は柳沢川に沿った林道歩きなので危険箇所は無い。</li> <li>・事前調査で一回目の渡渉地が一番危険と分かっていた。現地に行くと予想以上に水量が少なく靴も脱がずに飛び石で渡渉することが出来た。</li> <li>・川の流りに沿った登山道で案内標識は無い。所々に大きな石にペンキでマキングがして有る。その他は岩の上に小石が積み上げられているのが目印で4回渡渉する。</li> <li>・赤岩滝直下の急傾斜を登る右側ルートを登り始めたが足場が滑り易く三点確保が困難と判断して反対側のルートに変更して登る。</li> <li>・下山ルートは同じ道を下山するので問題は無かった。</li> </ul>		
参加者	原田(L)、箕輪完(SL)、外崎、藤倉、品田、矢野裕、中村八、箕輪カ 男2名、女6名 計8名		

<790>ウイズハイク

御前山  
(163m)

やまたんより転載

絶好のハイキング日和

A班



菊地 功

当会のウイズハイクはこれまで 11 回企画されたが、悪天候で 3 回中止となり今回が 9 回目の催行とのこと。今年は天候が安定しており、当日も晴天で、楽しい山行が期待された。なお、去年は台風で中止となったが、去年当会に加入した私にとっては初めてのウイズハイクである。

集合時間は 8 時 20 分。全員がそろったところで、チーム毎に集まり、自己紹介が行われた。私達は A チームで、みずき利用者 4 名、みずきの職員等 4 名、当会の会員 7 名の計 15 名の編成でした。集合からみんなリラックスムード。和やかな雰囲気の中、バスは定刻の 8 時 30 分にふれあい広場を出発し、10 時 40 分に目的地「道の駅かつら」に着いた。

A チームは健脚組ということで、「道の駅かつら」を 10 時 50 分に先頭でスタートした。途中の小川には魚（「ハヤ」らしい）も泳いでおり、道端には沢蟹もいたり、利用者さんたちは興味深々、自然と触れ合いながら賑やかに山道を辿っていった。皆さんは本当に元気で、外崎リーダーの歩調よりも早く、リーダーよりも先行することもしばしばであった。山頂には 11 時 50 分に到着した。後続のチー

ムが着いたところでチーム毎の写真を撮り、昼食となった。食担さんが用意した冷たいおでんがとても美味しく、量も多く、みんな満腹・満足でした。

帰路は来た時と同じ道を辿り、スタートした「道の駅かつら」には 13 時 50 分に到着した。後続組の到着を待ちながら各々かき氷やソフトクリームを食べた。暑い中を歩いた後なのでとても美味しかった。

駐車場で全員集合写真を撮って、14 時 45 分に帰路についた。バスの中では利用者さんたちによるカラオケ大会となった。やはり若い歌手の曲が多く、知らない曲がほとんどである。皆さんは自分の好きな歌をいくつも持っており、次々に途切れることなく歌い継がれてゆく。歌の上手な人も要れば、はっきりいって上手でない人もいる。しかし、いづれも歌が大好きで、歌いたい曲を何の銜いもなく歌い、歌う喜びに溢れていることが伝わってくる。この素直さ、正直さは私たちも子供の頃は持っていたはずなのに、今はどこへ行ってしまったのだろうか。いろいろ考えて、構えてしまう現在の自分が少し恥ずかしいと感じさせられた。

バスは 17 時 20 分にエントリー一曲を 6～7 曲残して無事我孫子駅北口ふれあい広場に到着した。利用者さんの中には何日も前から楽しみにしていた人もいたとのこと。こちら元気をもらい、参加してよかった。今後も継続したいものと強く思った。



B班

郷田 進

With ハイク初めての参加である。ある会員の毎朝見る（みずき）作業所への集団通勤風景から、いっしょに山登りの楽しさが楽しめたら



思いではじまった本企画も 11 回（内 2 回は計画のみ）目である。今年は昨年の計画を引き継ぎ、東茨城の「御前山（166M）」ハイキングコースである。

昨日までの猛暑がやわらぐ絶好のハイキング日和である。B 組は、飯沼リーダー以下 12 名（岳人 6 名、みずき 6 名）ユックリペースで足並みのそろわないところを、職員の方のリードでなんとか集団行動が保たれる。

皆、明るく、楽しそうに話をしながら登っていく。約 1 時間ほどで山頂（見晴らし台）に到着、食担特製の「冷やしおでん」を美味しく頂く。（ありがとうございました）。

1 時間の休憩後、同じ道を気を付けながら下る。同じく 1 時間ほどで、出発地の道の駅「かつら」に到着する。

皆の美味しそうに食べる「かき氷」や「アイスクリーム」がとても印象的であった。帰りのバスの中で見せてくれた楽しそうにカラオケを歌う姿とともに、みずきの皆様からこちらが元気ももらった気がします。ありがとうございました。

## C 班



小川 誠二郎

天気は晴れ。予報も大丈夫そう。

みずきの皆さん、元気に集合。顔なじみの方も多数。ほぼ予定通りバス出発。

石垣会長より挨拶。「昨年は台風で計画が流れたので、1 年順延となった。166m の山へ標高差 100m を登る。頂上でお昼となる。友部で休憩を取る。かつら駐車場でバスが待機する。17:00 我孫子駅北口帰着予定。」

友部を過ぎた頃、空の一部に雨雲が見える。かつらに着いてみると、一雨あったようで、道

が濡れていた。健脚チームもゆっくりチームも、全員ゆっくりチームの同じコースを歩くことになった。

歩き始めに当り、岳人一人とみずき一人の one-to-one のコンビを組んだ。A チーム、B チーム、C チームの順でゆっくりの歩調で進む。

歩き始めの林道も杉林も雨で濡れていて、涼しい空気を感じた。登山口で中村隆泰リーダーの指導でストレッチ体操をする。みずきの皆さん、ご機嫌で登る。道に栗のいがが沢山落ちていたが、実は見当たらなかった。頂上では日が照っていた。チームごとに集合写真撮影。

チームごとに日陰を得て昼食休憩。食担の用意したおでんを紙皿に盛ってお箸と共に配る。さつまあげ、大根、卵、こんにゃく。これだけで十分満腹。

下山にかかる。魔の 30 分の話しながら、滑らないように注意して下山する。みずきの人の話す奇想天外な名前の登場人物の物語など聞きながら歩く。道の脇の溪流では糸でハヤを釣る人が居た。かつらに帰着して、お楽しみのアイスクリームの時間。

バスに乗る前に全員の集合写真撮影。帰りのバスでは、主にみずきの人たちがカラオケで盛り上がった。

ほぼ予定通り無事帰着。来年の再開を約して解散した。岳人の反省会はおかめそばにて。



## 全 員 集 合



概念図



冷やしそば

### 概 要

山名	御前山		
月日	平成24年9月1日(土)		
山城	東茨城	地形図	1/25000 野口
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	ウイズハイク、施設の若者と山行を楽しむ		
費用	1,000円	交通機関	市福祉バス
行程	我孫子駅北口公園前集合 8:20、バス発 8:35→(途中休憩1回)→10:35道の駅「かつら」(体操等)⇒10:50出発⇒(A組→B組→C組の順)⇒(途中、小休憩2回)12:00御前山(昼食、冷やしおでんを食べる) ⇒13:05御前山発⇒13:35林道西登山道入り口(休憩)13:35⇒14:06道の駅「かつら」14:45→(途中、1回休憩)→17:10あびこ北口到着 <行動時間3時間20分>		

ルート  
状況

- ・朝方降った雨で、全体がしっとりした感じの道でした。苔や岩などはないが雨だと少し滑り易い感じです。
- ・林道、登山道とも緩やかや勾配で、登りは問題はない。下りの際に足元が不安な利用生が数名いた。
- ・案内標識や看板も整備されていて迷うことは無い。
- ・昼食の場所「鐘つき堂跡」はA班のみで、それ以外は少し下の登山道の広い場所で食事をとった。

参加  
者

A班 外崎(L)、清家(SL)、品田、齊田、菊地、中村育、武内  
(利用者)大林、徳本、山本、上田  
(職員)寒竹、田中、松丸、松丸

B班 飯沼(L)、高橋英(SL)、高橋重、原田、郷田、小川洋  
(利用者)成嶋、加納、牛尾、根本  
(職員)吉水、三嶋

C班 中村隆(L)、箕輪完(SL)、矢野裕、桐生、小川誠、石垣(統CL)  
(利用者)及川、藤本、阿部、中村  
(職員)金子、小野

岳人あびこ：19名 みずき：20名



## 大滝沢

田村光子

### ナメ滝と温泉を楽しむ

#### 1 日目

昨年、北アルプスの赤木沢に行ったが、雨が続き水が多く、天候も良くなく薬師岳に変更となり、沢に入ることができませんでした。沢はこれで終わりにしようと思っていたのですが、ナメ滝と温泉に魅かれ、つい申し込んでしまいました。

我孫子駅でリーダーの車に乗せていただき、柏で桐生さんと待ち合わせて、滑川温泉に向かった。高速道路の混雑も無く、お昼頃には峠駅に到着しました。峠駅は山の中にあり、駅がすっぽり駅舎に覆われていて新幹線の通過駅で、私たちが居た時にタイミング良く、速度を落とし通過して行きました。鉄道マニアの人でしたら、一度は訪れてみたい駅だと思いました。山奥の駅にもかかわらず2件の食事処があり、峠の茶屋で力餅と御蕎麦を食べ、今日の宿滑川温泉福島屋に行きました。宿で一休みしてから、外でザイルワークの復習をしました。何回やってもなかなか覚える事ができません。その後、ゆっくり温泉につかり、鋭気を養いました。滑川温泉は食事も温泉もよく家庭的な宿でした。



滑川温泉

#### 2 日目

朝食をおむすびにしてもらい、6時に宿を出ました。歩いて滑川橋に行き、橋のわきから沢に下りました。入渓してすぐに2段12m滝で、私たち2人がカナヅチなのでもし釜に落ちたら溺れて

### 遡行図



しまうので、1段目のトラバースと2段目の滝を登るまでザイルで確保してもらいました。大変なおもいをした甲斐があり、すばらしいナメ滝が現れ、思わず「スゴイ！わー綺麗」と声を出して感激してしまいました。この先はザイル無しで、小さなナメ滝や幅広の滝などを、好きなように思う存分に楽しみながら大滝の下まで登ることが出来ました。大滝の下で休んでいると、若者5人のパーティーが登ってきて、滝に打たれたりして楽しんでいました。そのうちの2人が天王台だといので、親しみを感じました。

大滝の高巻きは一旦登山道に出て、滝見台から少し登ると下に下りる目印があり、藪と急でザレた踏み跡があり、慎重に下りた。下りた所が大滝の上で、やはり綺麗なナメ滝になっていて休んでいると、先ほどの5人が滝下右岸からすぐのルートで登ってきたとのことで又会い、水の中で大の字になって楽しんでいました。私たちはここで終わりにしましたが、彼らは先の滝をじょうずに登って行きました。下りてきた道は藪と急なザレで、慎重を期してザイルでつなぎ、登り返しました。宿で汗を流し帰路に着きました。

半日思う存分素晴らしいナメ滝を楽しむことが出来、計画してくださったリーダーに感謝いたします。

## 概要

山名	大滝沢		
月日	平成24年9月7日(金)～8日(土)		
山城	吾妻連峰	地形図	1/25000 天元台
形式	山麓泊	グレード	4C
目的	ナメ滝と温泉を楽しむ		
費用	20,000円	交通機関	自家用車
行程	1日目	我孫子駅 6:15→13:40 滑川温泉福島屋(泊) 晴れ	
	2日目	福島屋 6:00⇒大滝沢 6:15⇒2段 15m滝 6:35/7:05⇒朝食休憩(ナメ) 7:25⇒3段 8m滝 7:35⇒大滝 8:05/8:20⇒大滝高巻道 8:25⇒大滝展望台 8:45⇒大滝上部入口 9:00⇒12m滝 下 9:25/10:10⇒装備解除 10:25⇒滑川温泉 11:10/12:15⇒柏 IC17:00 晴れ<歩行時間 5時間10分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>滑川橋から入渓する。</li> <li>2段 12m滝は大きな釜を持つ。1段目のトラバースのスタンスに一部外傾している箇所あり。上部滝ルートもホールド細かいので慎重を期してザイルを使用した。</li> <li>河原は少なく、小さなナメ滝や幅広の滝をワイワイ、ヒタヒタと遡行できる。</li> <li>2段ナメ小滝は左岸を股下まで浸かり、3段 8m滝、5m桶状滝は楽しく登れる。</li> <li>その後は、極上のナメを好き勝手に歩ける。大滝の高巻は、滝下右岸からすぐのルートと、数分下へ戻った入口からのルートがある。前者はトラバースで滑落の記録もあり、後者のルートを取った。踏跡は登山道からの滝見学ルートと思われ、沢からの入口は目印程度だが、上に行くときっかりしている。</li> <li>滝見台から8分ほど登山道を登ると、ボロ白テープと赤テープの目印から12m滝下へ下るヤブと、急でザレた踏跡がある。慎重に下る必要がある。</li> </ul>		
参加者	高橋重(L)、田村、桐生 男1名 女2名 計3名		



↑三段の滝  
↓今日はここで修  
楽しく登れる





< 7 9 2 > 15周年記念山行

平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳  
(1984m) (2026m) (1954m) (1963m)

武内勇二

## 1日目

越後湯沢でバスを待っている間も小雨がパラついていましたが、今日はともかく明日以降は回復の天気予報を信じて、「少々の雨ならば登ろう」と腹をくくりバスに乗り込んだ。しかし、バスが国道17号線三俣付近を通過するときには激しい雨に変わり、こんな天気の中、山行は無理ではないかと心配になる。ありがたいことに雨は局地的だったようで、二居トンネルを抜けたあたりで雨は止んで、平標登山口に着いたときは傘も必要ないほどになっていた。バス停より少し下った登山口駐車場で用意を整え登山開始。

休憩もはさんで1時間ほど林道を歩き、ほぼ終点に近くなったところから山道に入る。しばらく登ると霧が出だし、幻想的なカラマツと落葉広葉樹の林の中の道をひたすら登る。途中休憩1回で、平標山の家に着いた。6年前新築したばかりで、きれいな小屋だった。裏手に回ると、地上付近に霧がかかった仙の倉山とピラミダルなエビス大黒の頭が堂々と聳えているのが見え、やがて東の空に虹がかかり明日からの縦走への期待が高まった。

小屋は空いていた。我々パーティ6名と女性1名が宿泊予定とのこと。早速ビールを注文し、一足早く15周年の祝杯を挙げた。

## 2日目

週末のこととて、宿泊予定の大障子避難小屋の混雑が心配なので、朝食は前日に弁当（おにぎり）をお願いして早発ちした。曇り空ということもあり、ヘッドランプを付けて歩き出した。道は草原の中の木の階段なので問題ない。5時半の日の出の時刻を過ぎると明るくなり、ランプはいらなくなったが、雲が厚く日の出は見えなかった。1時間足らずで平標の山頂に着いた。雲はあるが展望はよく利いた。気温が低く、少しの風でも肌寒く感じるが、広々とした山頂には風を避ける場所もない。ちょっとした

くぼ地を見つけて、おにぎりを頬張る。



### 平標山から仙の倉山へ向かう

平標山～仙の倉山は草原の山で今は草紅葉となっているが、花の季節には見事なお花畑が楽しめることだろう。日帰りでも周遊できるので手軽にハイキングが楽しめる山と思う。仙の倉山頂上間近でパーティメンバーがしんがり歩きを私を待っていてくれた。谷川連峰最高峰のピークは山行リーダーが最初に踏んでほしいとの配慮だった。頂上からはエビス大黒の頭の三角錐が間近に見え、さらにその左奥には万太郎山がどっしりと聳えていた。北方には巻機、越後駒等越後の峰々、南方には吾妻耶山、大峰山等々。残雪期に登った小出俣山や日白山も見える。計画した甲斐があったと思う。

仙の倉山を下りエビス大黒の頭との鞍部に小さな避難小屋があった。ここからエビス大黒の頭までは細くなった稜線を登るが、両方の斜面には短い笹が密生して繁茂しており転落の不安はない。岩稜のイメージのある谷川岳ではあるが、このあたり一帯柔らかな緑の笹と草原に包まれており、飯豊や朝日の東北の山と似通ったところがある。



エビス大黒の頭

エビス大黒の頭から下った鞍部で、川古温泉へ下るルートに分ける毛渡乗越(越路)の分岐がある。先頭に行く重さん(SL)が「どうしますか」と聞いたのに対し、思わず「越路避難小屋まで」と答えてしまったが、これが失敗だった。越路と名が付いている小屋まではせいぜい5～10分と勝手に思い込んだせいで、やや急な登りで20分のアルバイトを強いられた。ようよう越路避難小屋に到着、ここでお詫びもかねて、やや長めの休憩を取った。小屋はコルゲートパイプながらエビス大黒よりはやや大きい。5～6人は泊まれそうで、床は簀子で乾燥している。草原にあり眺めも良く、居住性は良さそうだが水場が近くにないのが難点。



万太郎山山頂にて

小屋まで頑張ったお蔭で、万太郎山には1時間もかからずに到着した。上空にガスがかかり出し谷川本峰付近の展望はなくなったが、これから行く大障子の頭までの登山道ははっきりと望めた。「あそこまで行けばあとは下るだけ」とほっとする。大障子の頭より少し下ると鞍部に避難小屋が見えた。先客がいるようだ。「しまった。すこし遅かったか？」小屋に着くと、先客は男性2名でこれから水を汲みに行くと言う。越路小屋の状況を聞かれた。仲間4人で、平標側と谷川側と2組に分かれて登山、この小屋で落ち合うことになって入る由。我がパーティの人数を聞き、越路小屋に向かってくれた。テント泊も覚悟せざるを得ない状況だったので、ラッキー&感謝。

小屋は雨漏りで決して万全のコンディションではなかったが、備え付けのブルーシートを

乾かし、持参のテントマットを敷いて、ねぐらが確保できた。30分程かけて水も確保し終わった。「ゆったりまったり」郷田君は至福の時間をこう表現した。小屋の横で車座になり、15周年に乾杯。小障子の頭～オジカ沢の頭に続く稜線の向うに谷川岳本峰が顔を出していた。



大障子避難小屋横でゆったりまったり。  
オジカ沢への稜線と遠方に谷川岳

### 3日目

夜になりいつの間にか風が強くなっていた。小屋はごうごうと音を立てている。外に出ると立って居られない位の強風が吹き荒れていた。谷川の稜線上の幕営禁止はこのためか？それにしても小屋が満杯にならずにテントでなくてよかったと胸をなで下ろす。夜半過ぎから雨になった。コルゲートパイプの小屋を雨が叩く。そのうちに雨漏りがしてきた。ゆっくり寝られる状況になく、3時過ぎにはみな起きてごそごそ支度を始めた。

ほぼ予定通り5時半過ぎに小屋を出た。雨は多少小降りになったとはいえ、降り続いていた。当初の程野沢を下る予定を変更して、天神平からロープウェーを使うと既にパーティには言っている。オジカ沢の頭はルート正面に大きく立ちはだかっていた。みんな黙々と歩く。オジカ沢の小屋付近で、携帯のアンテナが立ったので、村松さん(統括責任者)に状況を伝えた(留守電)。電波の都合で、一方通行になるのはやむを得ない。

オジカ沢の頭からの下りで、痩せ尾根の岩場を通過した。晴れていればなんでもないと思われるが、岩が濡れているので慎重に下った。中ゴ尾根分岐を過ぎ、肩の小屋目指してひたすら登る。高度が上がるにつれ、霧で見通しが悪くなった。肩の小屋では荷物をデポする場所が見つからなかったので担いだまま頂上に向かった。



## 概念図



谷川岳頂上、誰もいない、霧で何にも見えない。あまり感激は無かったが、「15周年万歳」を唱え、登頂の記念写真を撮った後、早々に下山開始。天神尾根の悪路に悩まされながら熊穴沢の避難小屋で小休止。村松さんとの連絡で、バスはロープウェー下駅で待っていてくれると言う。帰りの心配がなくなりありがたかった。天神峠をさらに下ると、日帰り班のメンバーが途中まで迎えに来てくれていた。いつも会っているのに、何とも懐かしくほのぼのとした思いを胸にロープウェーに乗り込んだ。



雲湧く谷川連峰茂倉岳～ノ倉岳の稜線

## 概要

山名	平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳		
月日	平成24年9月21日(金)～9月23日(月)		
山城	谷川連峰	地形図	1/25000 茂倉岳、水上、三国峠
形式	山小屋／避難小屋	グレード	3C
目的	① 谷川連峰主脈のダイナミックな景観を楽しむ。 ② 15周年記念山行。		
費用	19,000円	交通機関	JR、路線バス、ロープウェー、貸切バス
行程	1日目	我孫子 9:58 → 上野 9:32/9:50(たにかわ 405) → 越後湯沢 11:16/11:40(路線バス) → 平標登山口 12:15/12:30 ⇒ 林道ゲート 12:55 ⇒ 休憩 13:25/13:30 ⇒ 林道終点(登山口) 13:40/13:50 ⇒ 休憩 14:30/14:40 ⇒ 平標山の家 15:05(泊) ＜歩行時間 2時間 10分＞	
	2日目	平標山の家 5:00 ⇒ 平標山 5:55/6:10 ⇒ 仙の倉山 7:10/7:20 ⇒ エビス避難小屋 7:50 ⇒ エビス大黒の頭 8:25/8:35 ⇒ 毛渡乗越 9:40 ⇒ 越路避難小屋 10:05/10:25 ⇒ 万太郎山 11:10/11:30 ⇒ 大障子の頭 12:20/12:30 ⇒ 大障子避難小屋 12:45(泊) ＜歩行時間 6時間 35分＞	

3日目	大障子避難小屋 5:40 ⇒ 小障子の頭 5:55 ⇒ オジカ沢避難小屋 6:40/6:45 ⇒ 中ゴ-尾根分岐 7:45/7:50 ⇒ 谷川岳肩の小屋 8:10/8:20 ⇒ 谷川岳(トマの耳) 8:30/8:35 ⇒ 熊穴沢避難小屋 9:50/10:00 ⇒ 天神平ロープウェ-駅 10:40/10:50 ⇒ ロープウェ-駅 11:00(貸切バス) → 谷川温泉ユテルメ → 白樺小屋 <15周年祝賀会> ＜歩行時間 4時間 25分＞
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的にルートはよく整備され歩きやすい。</li> <li>・途中ある避難小屋はいずれも小さく収容能力はあまり無い。おまけにエビス、越路以外は雨漏りしていた。</li> <li>エビス(3名)、越路(7名)、大障子(7名)、オジカ(3名)</li> <li>・大障子小屋の水場の水量は多いが、往復30分程度はかかる。</li> </ul>
参加者	武内(CL)、高橋重(SL)、郷田、高橋芳、大島、田村 男3名、女3名、計6名

< 7 9 3 > 15周年記念山行

## 西黒尾根～谷川岳 (1977m)

箕輪 完二

### 可愛いブロッケンがついて来る

谷川岳西黒尾根は日本三大急登の一つ、と紹介されているので気持ちを引き締めて登ろうと思った。また、蛇紋岩の多い山とも言われているので磁石を用意してみた。

登山口である谷川岳ロープウェイ駅には新幹線上毛駅からバスを利用した。バスは超満員で谷川岳の人気を表しているようである。標高差 1,300mの急登に加え、多くの岩場や尾根があるということで、ゆっくりと一歩一歩かみしめながら登った。



西黒尾根はひたすら急登。クサリ場。一枚岩。



登山口から 40 分、汗だく。  
こんなに遅いブナから元気をもらって

ラクダノコル（巖剛新道との分岐点）までたどり着いたところ、谷川岳のメインステージである一ノ倉沢が足下に見えてきた。南の方向には天神平ロープウェイの頂上が見え、やっとここまでたどり着いたとの思いがした。ここで昼食休憩となった。西の方から黒い雲が立ち込めてきており空模様は芳しくない。ザング岩を横に見て、先を急いだ。今日の宿泊先である肩の小屋にたどり着いたのはちょうど午後 2 時であった。



肩の小屋

小屋では村松リーダーが手慣れた様子で手続きを行った。その後、谷川岳の双耳峰であるトマの耳とオキの耳にむかった。トマの耳では 5 名全員記念撮影で記念写真を撮った。オキの耳からの帰りには眼下の一ノ倉沢にブロッケンの虹ができています。皆が歓声を上げた。しかもこの小さな虹は、どこまで行っても付いてくるような可愛いブロッケンだ。一昨年は北岳で大きなブロッケンを見たが今年も見ることができるとは運が良い。そしてオキの耳からの帰りには磁石を取出し所々の石にくっ付けてみた。本に書いてあったようにいくつかの岩石に磁石がついた。谷川岳は蛇紋岩で出来ているそ



う実感できた。

小屋に戻ってから夕食までは少々時間があった。まずはビールで皆の無事と健闘を確認して乾杯をした。皆が持ち合わせのツマミ等を出し合い話は尽きない。小屋に泊まる人は思ったより少人数だ。もう谷川岳のように東京から新幹線とロープウェイを上手に利用すれば日帰りも十分可能なのだ。食事のあとは、荷物の整理と就寝の準備だ。ふとんはシュラフだった。うまいことを考えた后感心した。これなら少々寝相の悪い隣人がいたとしても、蹴飛ばされることも無く安心して寝ることができるだろう。夕方から小雨が降り、夜中には激しく降ったようだ。

二日目は早朝から雨の中の行動となった。しっかり雨仕舞をおこない、滑りにも気をつけながら気を引き締めて降りようと思った。村松リーダーがA, C, D班と盛んに連絡を取ろうとしているが、携帯がうまく通じないようだ。D班(日帰りコース)とは比較的早く連絡が取れ、とりあえず天神平ロープウェイの頂上で落ち合うことが決まった。A班、C班とも結果的には無事下山できたようだ。しかし朝から雨が降っているような場合、その日の行動は慎重に結論を出さなければならないと思う。全員の体調は1人1人違うので全員から意見を充分に聞くことが重要だと思った。

山行記念祝賀会は、C班の下山確認ができた2時頃から実施した。高橋重さん所有の山小屋で全員からフリートークをしてもらい楽しい時間となった。また岳人あびこ15周年を記念するイベントとなった。村松実行委員長はじめ関係者の皆さんに感謝します。

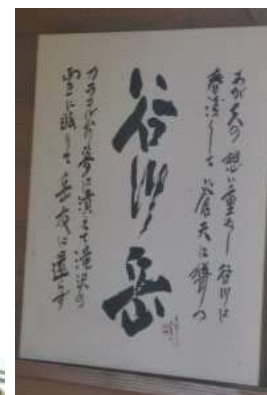


↑ オキの耳 1,977m  
この後白いスクリーンにブロッケン！



トマの耳 1,963m

雪に眠りて  
岳友は還らず ↓



概念図



概要

山名	谷川岳 (西黒尾根)		
月日	平成 24 年 9 月 22 日 (土) ~ 23 日 (日)		
山城	谷川連峰	地形図	1/25000 水上、茂倉岳
形式	山小屋泊	グレード	2 B
目的	1. 15 周年を記念して、谷川岳にクラッシュルートから登る。 2. 山頂の小屋に宿泊して至福の時を過ごす		
費用	約 13,000 円	交通機関	J R, バス
日程	1 日目	我孫子駅発 5:53 → 上野駅 6:27/6:37 上越新幹線 → 上毛高原駅 7:53/8:00 関越交通バス → 谷川岳ロープウェイ駅 8:45/9:00 → 西黒尾根出合 9:15 → ガレ沢ノコル 11:55/12:10 → ザングエ岩 13:20 → 肩ノ小屋着 14:00/14:25 → トマノ耳 14:35 → オキの耳 15:00 → 肩ノ小屋着 15:40 (泊り) 曇り時々晴れ	
	2 日目	肩ノ小屋発 5:40 → 熊穴沢避難小屋 7:10/7:20 → 天神平ロープウェイ駅 8:00/10:30 → 谷川温泉湯テルメ 11:40/12:40 → 白樺小屋 13:10/16:30 → サンモール経由 → 我孫子着 20:30 解散 雨	



「政夫さんは竜胆のような人だ…  
民子さんは野菊のような人だ…」  
村松リーダーのつぶやき

ルート  
状況

- 谷川岳ロープウェイ駅迄行くには 2 種類の方法が有る。新幹線と在来線とバスで行くのと新幹線で直接、上毛高原駅迄行ってバス利用とが有るが我々は後者の方法で入山した。
- 出合から直ぐに樹林の中の急登が待っている。道は所々荒れているがルートは、はっきりしているので迷う心配はない。
- うんざりするほど樹林の中の登りが続くと、展望のきく場所に出る。ラクダのコブと呼ばれる、2つのピークがある。それぞれ岩場が数か所有り、クサリが付いている。
- この西黒尾根は雨の日とか、下りに利用する時には充分注意が必要だ。
- ラクダのコルを過ぎても急登が続き、両手、両足、三点確保で慎重に登る。右側はマチガ沢にすっぽり切れていてスリル満点だ。
- 氷河の跡と云われる、つるつるの一枚岩は右側を、フリクションを利かして登る。
- ザングエ岩と呼ばれる岩場を右側から通過すると、まもなく肩の小屋に着く
- 平成 5 年に再建された肩の小屋は以前の避難小屋とは見違えるほど立派になっていて宿泊も出来るようになっていた。
- 肩の小屋から 10 分程度でトマノ耳、それから 10 分でオキの耳だ。山頂からの流れゆく雲の合間からの展望は見事だ。目の前には白毛門から朝日岳に続く稜線、北東側には C 班が辿るであろう、茂倉岳、武能岳が又、西側には A 班が明日、登って来る、オジカ沢ノ頭から万太郎山に続く稜線が美しいカーブを描いていた。時々現れるブロックン現象が、より多くの感動を与えてくれた。後ろ髪を引かれる思いで、山頂を後にして肩の小屋に向かった。
- 2 日目は夜半から降り出した雨の中の行動になった。西黒尾根に比べれば歩きやすいが、滑りやすい天神尾根をゆっくり、安全に降りて、天神平ロープウェイ駅に着いた。

参加者

村松 (L)、品田 (SL)、箕輪完、桐生 矢野裕

男 2 名 女 3 名 計 5 名



< 7 9 4 > 創立 15 周年記念山行

蓬峠～武能岳～茂倉岳～茂倉新道  
(1760m) (1978m)

坂巻 明

## 尾根で天候急変

15周年記念行事の山行に参加した。日帰りではもったいないので一泊二日のコースに申し込んだわけだが、きついコースを選んでしまったようだ。

久しぶりの山である。6月下旬に行った会津駒ヶ岳山行以来である。メンバーに迷惑はかけられないと思ひひと月前から毎日20回2セットのスクワットを始め、二週間前に筑波山に登ってみた。多少は効果が出ているようで、いつもより余裕があった。よし大丈夫と自信が持てた。しかし、このコースは思った以上のきびしいコースだった。

季節の変わり目に来て目まぐるしく変わる天候。今日は曇り空、いつものように朝五時半までに我孫子駅に集合して出発しました。B班の箕輪さん、品田さんがいた。上野駅から新幹線とき301号に乗り込んだ。すると雨がふりだした。一週間前の天気予報は晴れだったのにと空を見上げる。メンバー6人の中、私だけがジパング会員でないのになんか損をした気分である。するとどういふわけか、水上に近づくにつれて空は明るくなってきた。水上駅からバスで谷川岳ロープウェイに向かう。順調だ。予定どおり歩きだす。一ノ倉沢までは舗装道路を歩いた。路線バスがある。時刻表を見つけた。



一ノ倉沢概念図を見る



美しい山道で↑



白樺避難小屋を見学

一ノ倉沢に着くと、正面に一ノ倉の岸壁が行く手をふさぐようにそびえ立っていた。窪地には万年雪があり、何人かのグループは写真が目的で来ていた。「紅葉の季節はコントラストが最高だ！」と言っていた。

蓬ヒュッテへ



ここから登山道に入り J R 巡視小屋を經由して、武能沢の急坂を登り、蓬ヒュッテに向かった。危険な個所はなく、標識もしっかりしているので安心だと感じた。

蓬ヒュッテに着いた時は、もう喉はカラカラ状態だ。着くより早くビールを注文し、夕陽を見ながら疲れを癒しました。結局、この日は天気がよく、カッパの世話にならずに済んだ。ヒュッテは満杯。夕食は宿泊者 2 2 人全員一緒に定番のカレーライスを食べた。超カライ！！ヤルこともなく 6 時から睡眠開始。夜中から雨の音が聞こえ始めた。かなりの量だ。

四時半起床した。夜中よりはましたが、雨は降り続けている。さて、どうしたものか、二転三転する。戻ろう、行こう、最後まで迷った挙句、小屋の親父の一言で計画どおり行こうときまった。しかし、天気予報は、午前中雨おまけに強風注意報まででている。うっすらと見えていた苗場山も姿を消した。出がけに、小屋の親父が安全祈願ということで、鐘を叩いて送り出してくれた。いざ、谷川岳に向かって出発進行。周りの景色は見えるし、空は明るい。なんとか、もってほしい！！



**雨風弱く、まだ余裕のリーダー  
(武能岳へ向けて出発30分後ころ)**

しかし、笹平を過ぎ、尾根に出たところで天候が急変した。歩くどころか、立ってられないほどの風だ。痛い雨を初めて経験した。このままいくと危険と判断して、別ルートを辿って下山することにした。茂倉新道は雨のため、滑りやすい。大幅に遅れ、予定コースの倍を歩いた結果だ。



**武能岳山頂**



**茂倉岳山頂を振り返る  
(山頂は風が強かった)**

結局、パーティには間に合いませんでした。帰りのバスの中で反省会して気を紛らした。計画変更の判断をすることは難しい。しかし、事故がなかったことはよかった。

今回の山行は勉強することが非常に多かった。お疲れさまでした。

近いうち、谷川岳登山に再挑戦したい。

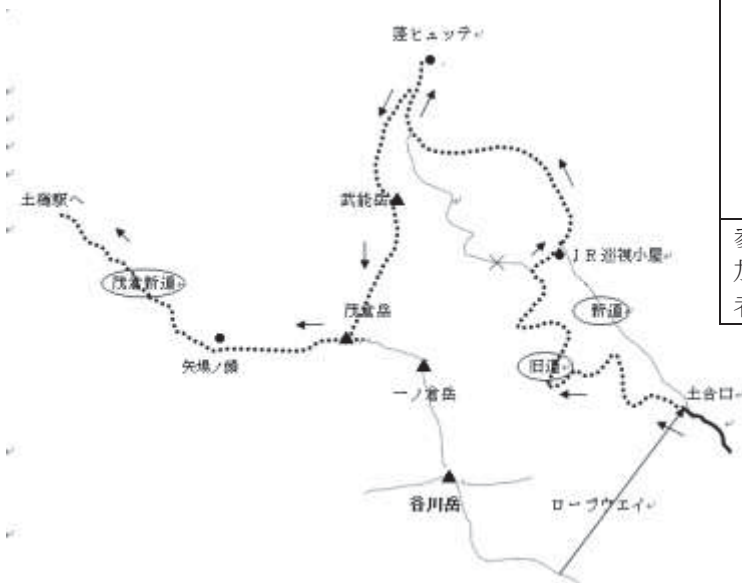


概要

山名	蓬峠～武能岳～茂倉岳～茂倉新道		
月日	平成 24 年 9 月 22 日 (土) ～23 日 (日)		
山城	谷川連峰	地形図 1/25000	水上、茂倉岳
形式	山小屋	グレード	3C
目的	①谷川岳集中登山 ②谷川岳の大岩壁を旧道から眺める		
費用	約 11000 円	交通機関	JR、バス、タクシー、貸切バス
日程	1 日目 我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:14 (Max とき 301 号)→高崎駅 6:58/7:10(上越線)→水上駅 8:13/8:25 (関越交通バス)→谷川岳ロープウェイ土合口 8:40/8:50⇒谷川岳登山指導センター⇒(旧道)⇒マチガ沢出合 9:20/9:25⇒一ノ倉沢出合 9:50/9:55⇒幽ノ沢出合 10:20⇒新道入口 10:35⇒JR 監視小屋 10:45/11:00⇒武能沢出合 11:45/12:00 (昼食) ⇒旧道との合流地点 13:15⇒白樺避難小屋 13:30⇒3 つ目の沢 14:15/14:20⇒最後の水場 14:35/14:45⇒蓬峠⇒蓬ヒュッテ 15:00 着蓬ヒュッテ (泊) < 歩行時間 : 5 時間 15 分 >		
	2 日目 蓬ヒュッテ 6:15⇒武能岳 7:15/7:20⇒茂倉岳 9:40/9:45⇒茂倉岳避難小屋 9:55/10:10⇒(茂倉新道) ⇒矢場の頭 11:30⇒土樽駅方面下山口 14:20/14:45 (タクシー) →水上駅→白樺小屋 15:50 着 < 歩行時間 : 7 時間 30 分 >		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷川岳登山指導センターを過ぎると、左手に西黒尾根登山道の入口が出てくる。</li> <li>・舗装された道を 30 分行くとマチガ沢。沢沿いに巖剛新道が延びている。</li> <li>・さらに 30 分行くと一ノ倉沢出合。舗装はここまで。</li> <li>・幽ノ沢を曲がった所にブナのしずくの水場がある。さらに 15 分行った先が分岐になっていて、旧道上に通行止めの看板が出ている。右手、新道に下るしかない。</li> <li>・10 分で JR の送電線監視小屋に着く。無人。小屋前にある蛇口をひねると、水量は細いが水が得られる。</li> <li>・武能沢は崩れた石で埋まっている。橋の右下から水が流れ出している。</li> <li>・送電線の鉄塔を二つ越えると明るい灌木帯となり、左手からの旧道と合流する。</li> <li>・この先の平坦地に、緑色に塗装された小さな白樺避難小屋が建っている。</li> <li>・これから蓬峠まで 4 つ沢を越える。沢水だが、水場として利用できる。</li> <li>・蓬峠直下には一枚岩状態の岩場がある。岩が濡れているときには要注意。</li> <li>・武能岳方面の登山道の笹が刈られ、よく整備されていて歩きやすい。</li> <li>・武能岳も茂倉岳も細い稜線歩き。ザレ場や岩場では転落しないよう要注意。</li> <li>・茂倉岳の山頂から西へ 10 分下った平坦地に 20 人収容のきれいな茂倉岳避難小屋がある。水場へ 1 分、中と外にトイレがある。</li> <li>・茂倉新道は勾配のきつい細い尾根。岩場は見当たらないが、5 合目付近に林立している針葉樹の木の根が縦横に張り出していて、非常に歩きづらい。</li> <li>・下山口から土樽駅まで徒歩だと 20 分 すぐ近くを高速道が走っている。電車は 3 時間に 1 本? タクシーもない。</li> </ul>
参加者	外崎(L)、坂巻(SL)、中村隆、矢野貞、中村育、矢澤 男 3 名、女 3 名、計 6 名

土合口～蓬峠～茂倉岳～茂倉新道概念図



< 7 9 5 > 1 5 周年記念山行

天神尾根～谷川岳  
(1977m)

やまたんより転載

雨・・・無念、登山断念

<リーダーのメモ>

高橋 英雄

- ・雨のため村松山行部長と相談して天神平に変更
- ・天神平駅でA班を待って土合口駅向う。C班を除いて白樺小屋に。
- ・白樺小屋で懇親会準備にとりかかる、料理来た所で取りあえず乾杯。
- ・会長の挨拶、そして各自のフリートーク、C班の到着。
- ・集合写真、あと片付け後バスへ一路我孫子へ。
- ・小生の班は山を語る材料なし。

概 要

山名	谷川岳		
月日	平成 24 年 9 月 23 日 (日)		
山城	谷川連峰	地形図	1/25000
形式	日帰り	グレート	2 A
目的	岳人あびこ 15 周年記念山行		
費用	約 7000 円	交通機関	貸し切りバス (大型)
行程	北口 4:35 発→常磐道→外環道→関越道→水上 I C→谷川岳ロープウェイ土合口駅 7:40 着→天神平駅→天神平往復→土合口駅→白樺小屋 懇親会会場→水上 I C→関越道→外環道→常磐道→柏 I C→我孫子駅北口		
ルート状況	・天神平駅から登り始め一巡する形で天神平に着く。 ・登山道はプラスチックの表面がザラザラで意外と上り易い、でも急登でした。 ・往復 45 分。雨。		
参加者	D 班：高橋英(L)、石垣、小川誠、原田和、小川洋、飯沼、箕輪カ、中村八、新谷、村越、飯合 男 4 名女 7 名計 11 名		



D班 天神山頂



概念図



ゴンドラの中 ↑



← 雨の中の打ち合わせ



# 15周年記念山行



2012. 9. 23 白樺小屋にて記念祝賀会

< 7 9 7 >

栗駒山・ 虎毛山  
(1627m) (1433m)

外崎 蓮

### 青山さんテント 「ひさこ」のデビュー



#### テントの居住性は抜群

10/20 (土) 山上のいで湯と錦秋の栗駒山へ

栗駒山は私の故郷の山である。小・中学校時代の校歌に登場し、小さい頃から馴染んできた。山は今度で3度目になる。1度目は今回と同じく須川温泉から。2度目はイワカガミ平から。手軽に登れるところから故郷の人気の山だ。虎毛山は栗駒山の西方にあり、山名だけは知っていた。機会があれば登ってみたい山であった。

当初、古川まで料金の安い夜行バスで行こうと計画したが、2週間前にはすでに売り切れ。そのため新幹線に切り換えたところ、前夜自宅で寝ることが出来、ウイークエンドパスが効率良く使えたりして得をした気分になった。駅レンタカーの予約等は武内さんに一切お願いした。ジパング会員はレンタカーの割引もあり、何かと助かる。運転をして下さるのは武内さん。須川温泉に惚れ込み、何度も足を運んでいると聞いた。東北自動車道を快適に走って、30分もしないうちに一関 IC に着いた。そのまま国道342号線を西方に向かう。地図を見ると、この沿線上に温泉が5つもあって、6つ目が須川温

泉。須川コースの登山口である。

途中渋滞もなくスムーズに温泉に着いたのに、広い駐車場は満車で、仕方なく坂を下った道の端に止める。あたりは紅葉真っ盛り。俳句の季語で、秋の山を「山装う」とはよく言ったものである。どうりで車が多いわけだ。



木道を行き交う人の群れが、米粒のように見える。正面には一際高い栗駒山が待ち構えている。



名残ガ原。お花畑から草紅葉と化した草原の中の木道。



登山口は足湯の温泉が流れる脇の石段をあがる。昨夜の雨で道は泥んこ状態だ。林を抜けると広い草原の名残ガ原に出る。気持ちのいい木道歩きのアとは、ゼッタ沢に沿って丸太の階段を登る。この階段は登山者泣かせで、雨が降るたびに土がえぐられ、そこにたっぷりと水が溜まる。小さな沢を渡り昭和湖に着く。水の色が青緑色だ。奥志賀の赤石山の麓にある大沼池もこれと同じ色をしていて、そこには生き物が棲んでいないと聞いた。昭和湖も美しさを通り越して無気味な感じがした。

昭和湖からこのコース一番の急坂を登り、天狗平に着く。ここは秋田県側の秣岳コースと宮城県側の御沢コース、湯浜コース、大地森コースの分岐点になっている。あとは眺めのいい尾根をひと登りで山頂に到着。安全を祈願して祠に手を合わせてから、のんびりとお弁当を食べる。四方に見える山々の中に、自分が登ったこ



とのある山を探し出すのは楽しいものだ。帰りは同じ道を紅葉見物しながら下る。丸太の階段の水が大分はけてきたようだ。



**3県にまたがる山頂は360度の大パノラマ。はるか遠くに馴染みのある山々を探し出すのも楽しい。**

車に戻り、須川湖のキャンプ場へ移動する。駐車場と炊事棟に近い場所に、青山さんゆかりのテントを張る。テント場の床板はテントが収まる広さがあり、おろしたてのグランドシートを傷める心配がなくてホッとした。一段落して車で温泉へ。どのようにいいのだろうか戸を開けた途端、白い温泉が目飛び込んできた。なる程、武内さんの言う通りだ。露天風呂で冷気が入ってくるのもいい。目を閉じ、ゆらゆらと至福の時を楽しんだ。テントは天上が高く居住性抜群。もしかしたら青山さんもここにきていたのではないかな。ありがとう、青山さん。キャンプ場は、仙台から来た高校生の団体と私たちのみで、坂下の炊事棟から夜遅くまで笑い声が聞こえてきた。夜中、風と雨粒がテントをたたいていた。

### 10/21（日） 雨にも負けず、雷にも負けず、いざ虎毛山へ

3時に起床し、朝食後テントを畳む。昨夜降った雨水がグランドシートのめくれた部分に溜まっていた。テント本体に浸み込んでこないか気になった。余った端は反対側に折り返して、テントの底に押し込んだ方がいいようだ。雨は止んでいるが、頭上のガスの動きがものすごく早い。駐車場で空を見上げていたら、ガスの切れ間から大きな流れ星が2つ飛んだ。咄嗟のことで願い事が思いつかなかった。

出発を30分早めて4時半にキャンプ場を出る。人家のない暗闇の林の道を長いこと走る。虎毛山は栗駒山の西方に位置し、近い距離にあるが道がない。そのため湯沢方面にまわり込み、秋ノ宮温泉郷を目指して国道をひた走った。1時間半ほどで国道を下り、右手の急坂を沢に下

りる。沢沿いの草深い林道を進んで、赤倉橋の駐車場に着く頃には雷とともに本降りとなった。先客の車が一台、雨が止むのを待っている。おかしなことにテレビの天気予報では、秋田地方だけに傘マークが出ていた。全く意地悪な天気だ。小雨の中、二人の外人が出発した。小止みになったところで私たちも出発した。まだ車が通れそうな道幅の林道を、左手に沢を見ながら黙々と歩く。1時間も歩いて渡渉点の橋に辿りつく頃に、再び激しく降り出した。頭上で雷も鳴っている。私は一瞬ためらったが、昼頃から晴れるという予報を信じて進むことにする。木の根の張り出した坂道にさしかかると、先行した二人が太い木の根元で雨宿りをしていた。迷っているふうだ。その後も追っては来なかったもので、あきらめて帰ったのであろう。すっきりではないが、しだいに雨があがった。

急登から開放され、1234mのピークで一息いれる。前方にドーム型の虎毛山が見えてきた。空がどんよりしているので紅葉が映えないのが残念だ。やがて灌木帯の上に三角の屋根が見えてきて、山頂に建つ真新しい避難小屋に到着した。奥に三角点があり、その先は湿原のようだが、あいにくの濃いガスで全容がつかめない。皆で空に向かって「晴れろ」コールを送ると、心なしか重い緞帳を少しばかり上げてくれる。地図を見ると、近くに池糖もあるようだ。夏はモウセンゴケでびっしり埋まり、捕まった昆虫の羽根がカサカサと音を立てるのだと須川湖キャンプ場の管理人さんが話していた。今は草紅葉にかわり、これが虎の毛を連想させるのかと思ったが、他に謂れがあるらしい。三角点の隣りに「日本一のトラの山」と書かれた看板があったが、どこぞの球団の臭いがしないでもない。二階建ての小屋は少々狭いが、なくてはならない小屋だ。ガイドブックを見ていたら、平成2年に建て替えられた真新しい避難小屋あり…とあったが、管理人さんが話していたボロボロの小屋は、この時に建てられたものであろう。新しい小屋が建てられたことを、まだ知らないようだ。22年間の小屋の寿命は短いのか、持ったほうなのか。

下山の途中、これから山頂に向かうグループ何組かとすれ違った。やはり人気のある山なのであろう。帰りの足取りはどうしても早くなる。矢澤さんの太ももがつって一時は心配したが、後半は持ち直し、その速いこと。沢のほとりを泳ぐような速さで駐車場に帰り着いた。

国道にあがり、仙秋ラインを快適に走る。鬼首温泉に寄り、汗と泥だらけの衣服を着替えてさっぱりした。古川駅に着いたのは薄暗くなりかけた5時半。レンタカーを返し、駅構内で打ち上げ後、一関の友人に会いに行くという菊地さんと別れる。「はやて」は全席指定のため、とりあえず空席に座り、仙台から「やまびこ」に乗り替えた。

2日間、事故もなく、めいっぱい東北の山旅を楽しむことが出来た。武内さん、菊地さん、矢澤さんにお礼を申し上げたい。

## 概要

山名	栗駒山・虎毛山		
月日	平成24年10月20日(土)～21日(日)		
山域	秋田・岩手・宮城の県境	地形図 1/25000	栗駒山・鬼首峠
形式	1泊2日	ゲレト	1Aと2B
目的	①東北の名山、錦秋の2山に登る ②名湯の須川温泉に浸かる		
費用	約16000円	交通機関	東北新幹線・レンタカー
日程	1日目	我孫子駅 5:10→上野駅 5:43/6:10(東北新幹線やまびこ51号)→古川駅 8:14/8:45(レンタカー)→古川IC 8:55→一関IC 9:20→国道342号→須川温泉の駐車場 10:15/10:35⇒名残ガ原 11:00⇒昭和湖 11:30/11:35⇒天狗平 12:15⇒栗駒山山頂 12:30/13:00(昼食)⇒天狗平 13:10⇒昭和湖 13:45⇒名残ガ原 14:20⇒須川温泉駐車場 14:40/15:00(レンタカー)→須川湖キャンプ場 15:05(テント泊) ＜歩行時間:3時間30分＞	
	2日目	須川湖キャンプ場 4:30(レンタカー)→国道342号→国道13号→国道108号(秋ノ宮温泉方面)→赤倉橋登山口 6:00/6:45⇒トラ毛の水 7:20⇒徒渉点 7:50⇒夫婦桧 9:05⇒1234mピーク 9:45/9:55⇒虎毛山山頂 10:40/11:10⇒1234mピーク 11:45/11:50⇒夫婦桧 12:40⇒徒渉点 13:15⇒赤倉橋駐車場 14:10/14:30(レンタカー)→鬼首温泉 15:00/15:55(レンタカー)→古川駅 17:30/18:26(はやて)→仙台駅 18:40/18:50(やまびこ156号)→上野駅 20:50/21:03→我孫子 21:37着 ＜歩行時間6時間40分＞	



← 虎毛山山頂。建て替えられたばかりの二階建ての避難小屋に到着。三角点の先は南面が開けているのだが、濃いガスで全容不明。

## 栗駒山

・栗駒山への登山道は、岩手県・宮城県・秋田県側を合わせると10コースほどある。

今回は、岩手県側の須川コースから登る。東北自動車道を一関ICで下り、国道342号線を西へ。途中、巖美溪や国道沿いに温泉が5つも出てくる。6つ目の温泉が須川温泉で、須川コースの登山口。5月～11月以外は道路、温泉とも閉鎖される。

・青緑色をした昭和湖から急坂の木の階段になる。踏まれて土がえぐられ、そこに雨水が溜まって池状態になっている。この状態は、ほとんど山頂近くまで続く(下山時には大分水がはけていた。)

・名残ガ原には木道が敷かれてある。  
・天狗平から眺めのいい灌木帯の尾根道になり、3県にまたがる山頂に至る。

## 虎毛山

・秋田県側の秋ノ宮温泉郷にまわり、国道108号線の仙秋サンラインを鬼首峠に向かう。峠の5キロほど手前で右手の細い急な坂道を下って、草深い林道を沢沿いに進むと赤倉橋に着く。数台は駐車できる。車はこれより先まで入れるが道が荒れている。

・赤倉橋から1時間沢沿いに歩き、苔むした木の橋を対岸に渡る。(赤倉沢徒渉点)

・徒渉点から1234mのピークまで標高差600mの急登が続く。根こそぎ木が倒れた箇所を除けば、比較的歩きやすい。

・ピークから平坦に進み、小さな鞍部から虎毛山の右側をゆるく巻くように登ると、山頂に建つ真新しい避難小屋の前に出る。三角点は小屋の奥にある。

ルート  
状況

参加者 外崎(L)、武内(SL)、菊地、矢澤  
男3名 女1名 計4名

## 概念図





< 7 9 8 >

鼻曲山  
(1655m)

中村育子

燃えるようなカエデの色

鼻曲山には霧積温泉から登った。小説「人間の証明」に出てくる場所だ。登山口まで県道56号線を車でおよそ30分、深い溪谷の道すれすれにマイクロバスは標高500mほどを登ってゆく。右に左に急カーブを切り、時々ひやりとさせられる。明治の時代、軽井沢が開かれる以前、避暑地として賑わい、この急坂を人力車が登った。伊藤博文が30人を連れてやってきて、金湯館で明治憲法の草案を練ったという。だが42軒あった温泉旅館は明治43年の山津波で金湯館を除いて全滅してしまった。

霧積館の駐車場には10台位の車があったが登山者の姿はまばら。首都圏から遠いここはやはり穴場なのだ。金湯館のおかみさんは電話で、温泉の目の前の紅葉が素晴らしいので人気の場所ですといていた。紅葉はまだ早かったが小春日和りの気持ちの良い日だった。



のどかな  
出発風景

登山口ははじめ金湯館方面に進み、林道に出ると左折してすぐ右の登山道に入る。メンバーの一人の体調が思わしくないのでみんなで荷物を分担する。角落山・十六曲峠への分岐を経て、雑木林を進むと丈高い笹が続き、やがて霧積のぞきの場所に出る。ここかしこに紅葉したカエデが点在していて、葉は下から見上げると日の光が透けて赤くきらめいている。やまぶど

うをみたことある？と誰かがいう。少し歩くと山葡萄があって、葉が黄色に染まっているのだった。谷向こうの山は紅葉が一斉に始まっている。50mぐらいのピークがあって、登りきるとすぐ下り、どうせ降りるなら登らなくてもいいのにと誰かがいい、相槌をうつ。このあたりから6月の市民登山で登った浅間隠山が見えるはず。あれがそうかなと話しながら歩いていると鼻曲山の鼻の部分が見え始める。山はてっぺんの所が鼻の形をしているので遠くからでもすぐに分かる。県境の尾根が南からはほぼ直線に北上し、山の頂でかぎの手に左折する。「県境が頂上の鼻のところで曲がるので、鼻曲山の名がついたという説もある」（『信州山岳ガイド』信濃毎日新聞社）が、定説はないようだ。



鼻曲山全景（鼻にみえますか？）

カラマツ林になる。やがてここも黄色に彩られてゆくのだろう。崖のような道にぶつかり、長いロープにすがって一人ずつ登る。鼻曲峠に着くと、青々とした山脈が遠くまで見渡せる。景色を楽しみながら平坦な道を気分よく歩いてゆくと、胸突き八丁の急斜面、大天狗の鼻だ。道は荒れ、熊笹の葉や根など、掴まれるものにしがみつきの腕力を頼りに登っていく。



山頂集合写真(全員登頂おめでとう)



### 余裕の昼食風景

全員無事登頂。大天狗の頂上は風が少し冷たくなっていた。昼食は風の当たらないところにまとまって座る。すると漬物、梨、みかん、りんご、ぶどう等が次々と回ってきて、何となく暖ったか〜い昼食になった。さて出発。リーダーは高速道の渋滞を考え、小天狗までは行かないと決める。適切な判断だったのだと、後で渋滞に巻き込まれてから分かった。

下りの山道には午後の日が差し込んでいた。太陽に照らされたカエデの葉が燃えるように匂い立っている。鼻曲山は、山じゅうが落葉樹で覆われているのだろう、最盛期にまた来てみたいと思った。

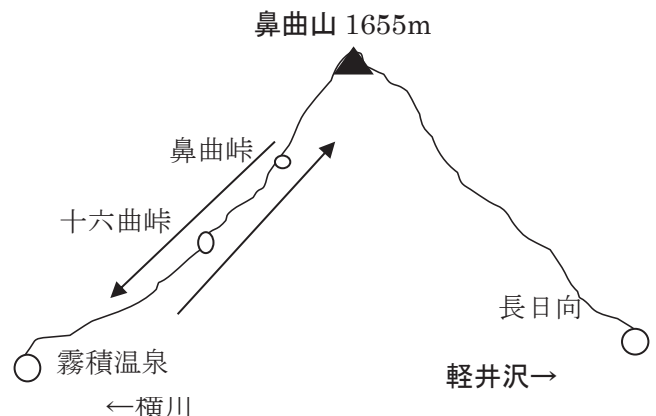
ある年の「山と溪谷」に、「紅葉の静かな山歩き」と題して鼻曲山が紹介されていた。紅葉はまばゆいばかり。落ち葉で覆われた山道を行く人の、枯葉を踏む音まで聞こえてくるよう。すぐに本を買い、ページを開いては行ける日を夢見ていた。たまに、会の誰かに話すと「いい山ね。だけどちょっと遠い」と敬遠ぎみの答え。岳人あびこでは 2001年5月に浅間隠山から鼻曲山を縦走している。今年思いきって会に希望を出してみると、何と有り難いことに高橋英雄さんがリーダーを引き受けてくださった。英さんとの打ち合わせで時期を決めることになり、松井田町の観光課に紅葉の最盛期を問い合わせると、係りの男性は 10月初旬から中旬だと断言する。その方は霧積温泉のルートが一番いいという。その時、この方は鼻曲山が好きなんだなあと感じ、この山にますます登ってみたいとなった。英さんと相談して 10月21日に決めたが、今年はもう少し遅くてもよかった。だが枯葉が道をふさいでいたわけでも、錦繡が山を覆っていたわけでもないが、穏やかな日差しの中を山の仲間と歩いているだけで満ち足り

た気分になった。計画段階から私の希望を優先し、ここぞという時に的確な判断をしてくださったリーダーの英さん。その英さんと、楽しい山行をご一緒してくださった同行の皆さんには感謝の念でいっぱい。

### 概要

山名	鼻曲山		
月日	平成 24 年 10 月 21 日 (日)		
山域	上州、軽井沢	地形図 1/25000	軽井沢、浅間山
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	紅葉を見ながら静かな山歩きを楽しむ		
費用	7000 円	交通機関	貸切りバス
日程	我孫子駅北口 5:30/我孫子駅北口バス発 5:35→柏 I C 5:31→上里 S A 7:10/7:23→松井田妙義 I C 7:50→霧積温泉駐車場着 8:25 登山開始 8:40⇒道路横断 9:05⇒休憩 (衣服調整) 9:10/9:15⇒角落山への分岐 9:35⇒休憩 10:05/10:10⇒鼻曲峠 11:35⇒鼻曲山 (1654m)12:05/12:35 (昼食)⇒鼻曲峠 12:54⇒ピーク 1316m14:07/14/17⇒角落山への分岐 14:37⇒道路 15:00⇒駐車場着 15:30 <歩行時間 5 時間 40 分> バス発 13:40→松井田妙義 I C 16:30→上里 SA18:10/18:20→三芳 PA20:00/20:10→柏 I C 20:45→我孫子駅北口着 21:02		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霧積温泉から出発 20 分で林道にでる。少し歩いて右側に登山口がある。直進すると金湯館との分岐あり。</li> <li>・登山道は歩き易い。初めは緩やかな登り。ピークは 2, 3 箇所ある。頂上近くになるとややきつめの急登が続く。</li> <li>・全般に歩き易い山道。</li> </ul>		
参加者	高橋英(L)、小川誠、原田、箕輪完、郷田、小川洋、箕輪カ、矢野貞、瀬田、中村育(SL) 男性 5 名、女性 5 名、計 10 名		

### 概念図





< 7 9 9 >

三頭山～向山  
(1,531m) (1,077m)

矢野裕子

とっておきのやさしい森

今日は、4人の小さな旅。武蔵野線も五日市線も朝の空はどんよりと厚い雲で、晴れという予報は外れかなと心配でした。ところが、満員のバスが終点の檜原都民の森に着いて登山口の森林館に向かって歩き出した途端に、ぱあっと明るい陽が射してきました。ラッキー！気分も一気に晴れやかに。立派な森林館前の広場は紅葉シーズン真っ盛りの賑わいで、木工体験用の大きな丸太などもあり、整った設備に東京都は豊かだなと感じます。



今日のコースはL大島さんが先週下見に来て下さったそうで、初めに時間配分もはっきりと告げられて大変わかりやすく安心してスタートです。

歩き始めの遊歩道は檜の真新しいチップで埋め尽くされて、いい香り！ぜいたくなセラピーロードを20分。三頭大滝周辺は、紅葉が始まったところでした。いよいよここからが急登です。初めに私達を追い越したファミリーが、途中大汗をかいて立ち止まっています。我が隊の先頭を歩く矢澤さんのペースはすばらしく、ゆっくりゆっくり、しかし休まず。いつの間にか後ろにぴったり先程のファミリーもくっついていて、いやぁ一緒に連れて行ってくださいと照れ笑い。大滝の道、ブナの道、ムシカリ峠、山頂へと標高差500mを2時間かけて一気に登りました。

辿り着いた広い西峰の休憩場所は、隙間なくごった返していましたが、私達もここで大休憩。眺望もよく雲取山がどっしりと正面によく見えます。サプライズで矢澤さんが取り出したのはコンロとミニカップのお汁粉&ドリップコーヒー。そのために2ℓの水を背負って…本当に幸せな45分間のゆったりランチタイム。これは4人という少人数山行ならではの、とみんな満面の笑顔。



2ℓの水とコンロで、ミニカップ汁粉と本格コーヒー。矢澤さん、ご馳走さま。

さて、昼食の後は気を引き締めて、中央峰、東峰と踏み200mほど尾根を急降下した後、いよいよ今日のとっておきルート、ひっそり静かな紅葉の森平坦歩き。この巻道はL大島さんと御主人のお勧めだそうで、360度淡い黄色のおとぎの国のような森です。足元は、やわらかい越えた土からブナの落ち葉、カラマツの落ち葉と変化していきますが、静かさとぐるりの紅葉はずーっと続きました。



とっておきの平坦お勧めルート。静かな巻道は秋色のやさしい森。

都民の森の表示板に此処のカエデは19種類あると書いてありましたが、本当にやさしい萌木色、薄黄色、濃い黄色、レンガ色、紅色…、向こう側の山の斜面に陽が当たっている様子は秋色の絵具箱。山が1年で一番華やいでいるときだねって。向山を越えてバス停にたどり着くまで本当に癒しの森を堪能しました。平面歩きはややピッチを上げて進み、午後たった一本しかないバスの時間までには余裕のゴールとなりました。言うこと無しの反省会を奥多摩駅前で行い、大満足の日を終えることができました。

### 三頭山山頂

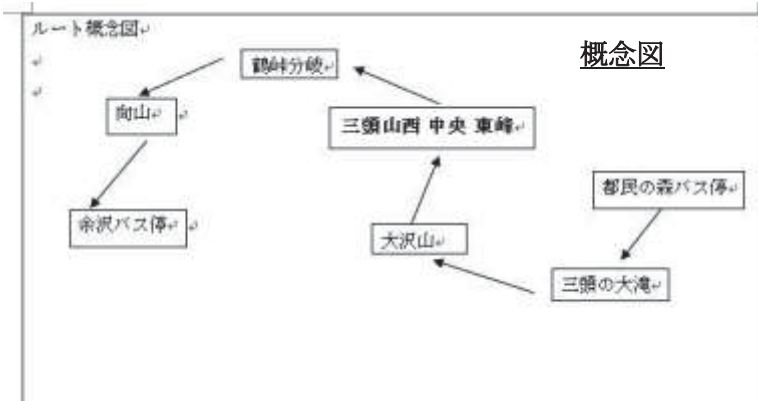


### 概要

山名	三頭山～向山		
月日	平成24年11月3日(土)		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 猪丸
形式	日帰り	グレート	2A
目的	紅葉を楽しむ		
費用	約4,000円	交通機関	JR バス
日程	我孫子駅 5:33→武蔵五日市駅 7:57/8:22(西東京バス)→都民の森バス停 9:30→森林館 9:40/955→三頭大滝 10:15→ムシカリ峠 11:15→三頭山西峰 11:30/12:15→中央峰 12:20→東峰 12:22→鶴峠分岐 12:55→三頭山分岐 13:40/13:45→向山 14:35/14:45→登山口 15:30→余沢バス停 15:40/15:55(バス)→奥多摩駅 16:35/17:40 (行動時間6時間)		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三頭山北西部の巻道は約1,300m付近の水平道、アップダウンが無く落ち葉の降り積もったふかふかの気持ちの良い道。</li> <li>・三頭山分岐から向山までは1/25000の地図でルートの記載が無く、また昭文社の地図では破線であるが、真新しい道標が要所要所に設置され、なんの問題もない。</li> <li>・向山からの下山道は檜の植林帯の中でつづら折れに良く整備されていて安全に標高差500mを一気に下ることができる。</li> <li>・余沢の登山口にはきれいな水洗トイレがある。</li> </ul>		
参加者	大島(L) 田村(SL) 矢野裕 矢澤 男1名 女3名 計4名		



日本に自生するカエデ24種類の内17種が生えているそうで、色、形、大きさ、さまざまなカエデの紅葉を楽しむことができた。





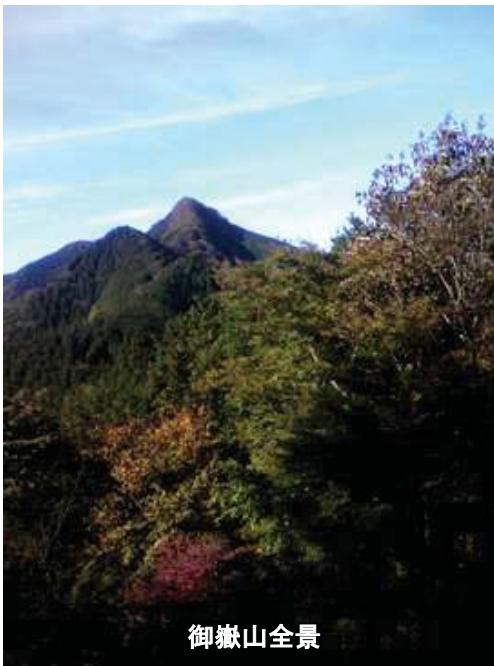
< 8 0 0 >

秩父御嶽山  
(1081m)

本田愛子

今頃の奥秩父は紅葉の静かな山道とのどかな山里を歩いて温泉に浸かってくる私の好きな山行です。三峰口駅を下車したときは大勢の人で駅前賑やかだったが、いつの間にかバスや徒歩で散らばっていった。私達4人(男1、女3)は少し線路添いを歩くと溪谷添いに橋が架かっていた。周りの景色を見ながら橋を渡ると国道140号に出て右方向に少し行くと斜め左方向に入っていく道があった。昔の宿場の部落があり近くに登山口と書いた小さな看板があった。登山道は狭くいきなりの急登で墓地の間を少し登ると泣き声とあちこちに逃げていく野生のサルの軍団に出会った。こちらビックリだったが、サルたちは隠れていなくなった。ちょうど三峰口から白久方面が見渡せる見晴らしのいい場所だった。

小休止して、タツミチと呼ばれる尾根に出るまで杉とヒノキの樹林帯をしばらく登った。尾根にでると風が通り、木々の隙間から遠く両神山が見えた。小ピークをいくつか越えて御岳山の頂が見えてきた。ずっと紅葉が見られない山道を歩いてきたが、やっと山頂に近くなって紅葉が見られた。



御嶽山全景

山頂は狛犬と祠があって狭かったが、東には武甲山、熊倉山。西は両神山、二子山と遠くに谷川岳も見えて雲ひとつ無い青空で気持ちの良い山頂だった。あまり登山者はいなく、私達の登ってきたコースは殆ど会わなかった。



御嶽山頂上  
快晴、秩父神社を祭る祠の前で記念写真

下山予定のコースは途中で通行止めになって進めないとの他の登山者に聞いたので山頂から分岐の処まで少し戻って強石、落合方面へ下山する。急降下をゆっくり慎重に下っていくと、秩父湖が望めダムや湖を横切る橋や周りの山並みが秋の風情を感じさせた。振り返ると、御岳山の三角形のところがはっきり見えた。樹林帯を下っていくと林道にでた。1時間くらい林道を回り道してやっと落合の国道にでた。普寛神社の赤い旗が見えて温泉はもうすぐそこだと足早になる。大滝温泉遊湯館の湯は肌にやさしい。

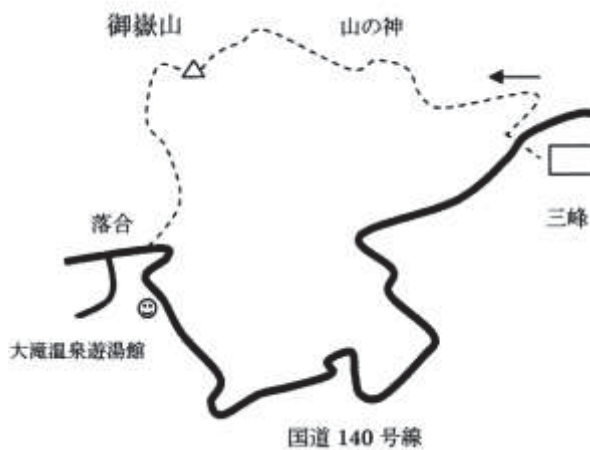
最後の紅葉サンデーで温泉も混雑していたが、帰りのバスは秩父駅まで大渋滞ですっかり暗くなっていた。秩父の地酒と蕎麦を味わってレッドアロー号で帰路に着いた。

今日の山行は奥秩父の山並みの秋を感じながら歩き、野生のサルに出会ったり、温泉に浸かって癒され充実した一日を過ごせました。



奥秩父の山並みは紅葉に彩られて、秋真っ盛り

概念図



概要

山名	御嶽山		
月日	平成24年11月4日(日)		
目的	奥秩父のやまなみ散策		
山城	奥秩父	地形図	1/25000 三峰
形式	日帰り	グレード	2A
費用	4500円	交通機関	電車、バス
行程	我孫子駅 5:31→日暮里→池袋 6:19→飯能 7:22→西武秩父 8:12→御花畑 8:22→三峰口駅 8:42/8:50⇒登山口⇒山の神⇒御嶽山 12:05⇒強石分岐⇒落合⇒大滝温泉 14:50/16:15(バス)→西武秩父駅 18:25→所沢→秋川→新松戸→我孫子駅 20:55 解散 <歩行時間 4時間 50分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道は良く整備されていて歩きやすい。</li> <li>・標識がしっかり設置されていて安心して歩ける。</li> <li>・頂上付近は、登り下りとも急斜面になり、注意が必要</li> <li>・下山口、落合の手前が通行止めのため、強石側から遠回りをしなければならなかった。</li> </ul>		
参加者	坂巻(L)、本田、新谷、村越 男1名 女3名 計4名		

御嶽山山頂の祠





< 8 0 1 > 岳人あびこ 15 周年記念行事

清澄山（東大演習林）  
(365m)

箕輪完二

岳人あびこの 15 周年記念事業を開催するに当たって、屋内ではなく山に入って有意義な行事をしたいというところから始まった。1 年前に、東大演習林の学習的山行を検討した時、週末は受け入れないとのことから、昨年一旦、日光方面のネイチャーツアーを計画した。しかし 1 年繰り延べとなった今回、高橋重さんの人脈で、森林インストラクターのガイドで日曜日に可能となり実現した。

竹内インストラクターとは我孫子で 1 回、実行委員会に参加していただき、概要を決め、後はメールのやり取りで決めるという方法で進んだ。10 月の定例集会で募集したところ、26 名の参加（男性 8 名、女性 18 名）申し込みで意気込み高く進むことができた。また、インストラクターが 3 名ついてくれることで、内容も充実したものになったと思う。

東大演習林は房総の深南部にあり、君津市と鴨川市にまたがる約 2,200 ヘクタールの森林だとのこと。今回のコースは演習林の中でもこの地方の信仰で古来より人為の加えられることなく、厳正に自然状態が保たれている浅間山や氷河期の生き残りのモミ・ツガ天然林を巡ることができた。また江戸時代に植えられたスギなど演習林の中でも特に豊かな森林を巡ることができた。更にコース途中には東京湾に流れ込む房総最長の小櫃川の最源流部を渡るところも有るなど見どころ一杯の記念行事となった。

3 班に編成され、それぞれにインストラクターが付き添い様々な説明を受けた。演習林記念碑ではヒメコマツ、林道の観察ポイントでモミ、ツガ天然林を。戻って山道に入る分岐点では、

山ひる対策としてズボンの裾を靴下で覆い、足首に塩水を吹きかける、ハチ対策として黒色を避けジャンパーの帽子をしっかりと頭につけ、充分装備をしながら山に入る。スギ高齢人工林では年輪は外側に増える、木の太さは胸の高さで直径を計る、高さは距離と仰角で計算する等、通常では気づきにくい詳細な説明も受けた。



荒樫観察ポイントからの  
モミ・ツガの原生林を俯瞰

植物に詳しい女性のインストラクターさんがおり、所どころで輪ができて女性を中心に熱心な会話が交わされていたのが印象的であった。その時、房総と三浦半島の植生が似ているという話が記憶に残った。また地質に詳しいインストラクターの方もいて、この房総の山もプレートの運動と圧力により盛り上がり、長年の浸食作用を受け、現在の地形になったとの説明を受けた。演習林の中の博物館にも入ることができ、先人の自然に対する関わりを学ぶことができた。後日、館山の市立博物館を訪れる機会があった。

その中で房総の歴史が紹介されており、約 2 万年前は氷河期であったということ。海水面が極めて低くなっており、房総半島は三浦半島と陸でつながっていたという。植生が三浦半島と似ていた訳だ。そして当時の人々は富士山の噴火により、火山灰の降りしきる中、ナウマンゾウと死闘をかけ、暮らしていたという趣旨のパネルを見学した。いままで何となく聞いたり学んだりしてきた事柄であるが、3.11 東日本大地震を目の当たりにして、様々な事象が何か胸にストンと落ちる気がした。大自然の法則に従って行かなければ、人類の将来も危ういのではないかと思う最近である。「岳人あびこ」山の会に感謝。

## 概要

山名	清澄山 東大演習林		
月日	平成24年11月11日(日)		
山城	千葉・房総	地形図	
形式	日帰り	グレード	1A
目的	① 会の15周年記念行事として、学習的の山行を行う。 ② 森林インストラクターの案内で演習林を歩き、樹木や林業について学ぶ。		
費用	3,500円	交通機関	貸切バス
行程	我孫子駅北口 6:20→君津 IC→四季の蔵 8:10 (森林インストラクター竹内氏、和波氏、相馬氏と落ち合う。竹内氏がバスに乗込み、社内講義)→清澄寺駐車場 9:25/9:35 (行動開始。森林インストラクター3名が案内)⇒演習林記念碑 9:40 (ヒメコマツ)⇒モミ・ツガ天然林観察ポイント 10:10⇒山道に入る 10:40⇒北へ行き、スギ高齢人工林(153年生) 11:05⇒浅間山頂上(標高365m) 11:50⇒原生林を経て東の川越藩番所跡石碑 12:10 (昼食) 12:20/12:45⇒清澄寺 13:40/14:05 千年杉で記念撮影⇒森林博物館 14:20/14:50⇒清澄寺駐車場着、森林インストラクターとお別れ 15:10→15周年祝賀会兼反省会 15:25/16:20→我孫子駅北口 19:30		
参加者	<b>A班</b> 小川誠(CL)、高橋英、箕輪完、坂巻、高橋重、武内、箕輪カ、小川洋、清家(L) <b>B班</b> 中村隆、矢澤、外崎(L)、矢野貞、品田、高橋芳、中村八、飯沼、門松 <b>C班</b> 田村(L)、大島、瀬田、本田、矢野裕、中村育、齊田、村越 <b>森林インストラクター</b> 竹内、和波、相馬 男10名 女19名 計29名 <b>15周年イベント実行委員長:</b> 小川誠、 <b>委員:</b> 川下、坂巻、新谷、高橋英、箕輪完		



インストラクターの先生方



川越藩領石碑の説明を受ける



これから山道に入るのので、蛇対策を入念に行う

## 概念図







林道の崖も自然が復元



↑ B班 ↓ C班



A班



モミの大木(3人で囲む)



← 蛭の「卵のう」の抜け殻のネックレス





<802>クリーンハイク

## 手賀沼一周

新谷直恵



出発前のラジオ体操

うららかな小春日和の霜月最終日曜日、恒例の手賀沼クリーンハイクに参加しました。今年で6回目になるそうです。全長約20キロ、ゴミを拾いながら手賀沼湖畔を歩きます。

数年前、父の介護のため仕事を中断して我孫子に戻り、慣れない生活によく手賀沼遊歩道をひとり歩きました。最大半周コースでしたが、いつか全周を歩きたいとっていて、岳人に入部した3年前からこの行事に参加するようになりました。

水の館駐車場に8時に集合し、ラジオ体操をしてから出発。コースは湖畔から少し離れて、子の神社や志賀直哉邸跡、杉村楚人冠邸跡と公園内を歩きます。杉村楚人は、朝日新聞の辣腕記者で朝日グラフを創刊した人です。柳宗悦や志賀直哉、武者小路実篤など、明治大正期に我孫子に住んだ著名人は少なくありませんが、ここを終の棲家にしたのは楚人冠のみです。

湖畔の生活を慈しみ『湖畔吟』を著して、その生活ぶりが伺えます。道をはさんだ公園内もゆっくり散策。我孫子に住みながらふだんゆっくり見ることのない邸内や公園内を散策できるのはこの山行ならではです。

やがて船戸の城址跡に分け入り、本日最高点20メートルを確認。このあたりは鬱蒼と雑木、竹藪が続きますが、ここは戦国時代に千葉一族



杉村楚人冠碑の前で



子の神の三角点で

根戸胤光によって手賀沼に突き出た台地に城が築かれ、船着き場もあったようです。さらに発掘調査によれば、縄文時代から奈良時代にかけてこのあたりには大きな集落があり、荒迫遺跡と名付けられています。我孫子には縄文時代から人が住んでいたのですね。

北柏ふるさと公園で一休み。それぞれが手にしたビニール袋には捨てられた空き缶や紙袋、タバコの吸殻などがもうがなり入っています。公園を抜けると沼の反対側にサイクリングロードが整備されていて、お天気がよいこともあって大勢の家族連れが散歩やサイクリング、釣りなどを楽しんでいます。「去年はこのあたりにカワセミがいたよ」という声に思わずあたりを見回したり、川に泳ぐ大きなコイを覗いたりしました。

手賀沼湖畔には多くの野鳥が生息していますが、ときどき羽を広げて乾かしている鶺鴒の姿が見られます。野鳥の会の話では、上野の不忍池に生息する鶺鴒は、毎日房総まで飛んで魚を採るそうです。その途中手賀沼で休息するのだとか。覆い茂る葦の元にはそれぞれ水鳥の巣もあります。春に生まれた白鳥の子らもすっかり大きくなって親鳥ともはや区別がつきません。



手賀沼大橋の麓、道の駅近くで昼食をとりました。午後のウォーキングはまずフィッシングセンターまでの長い道のり。途中ゴミ収集車に行き合いますが引き取ってはくれず、ゴミは自分で持って帰ってくださいと言われました。山行中はあまりお喋りはできませんが、ウォーキング中は日頃の生活圏ということもあってお喋りにも花が咲きます。

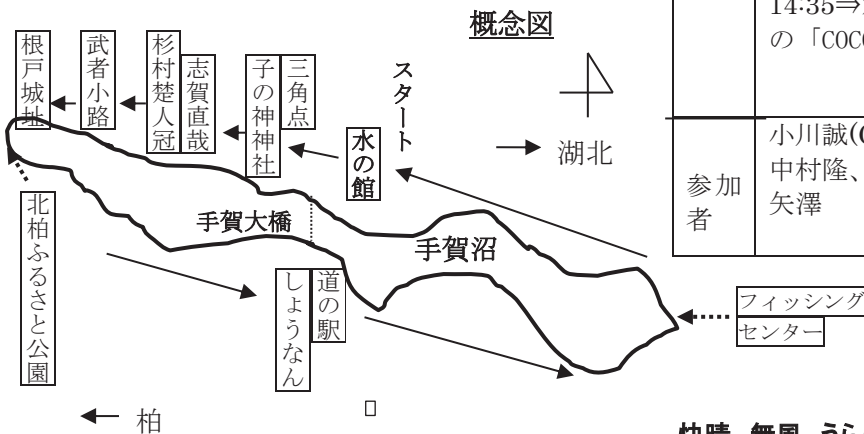
再び遊歩道に入って帰路もほぼ終わり近く、本日の収穫、収集したゴミを測ることになりました。外崎さんがリュックから出したのはなんとキッチンスケール。さすがに準備がいいのには驚きました。その結果は、雑ゴミ3.2キロ、缶類2.2キロ、タバコ120グラム ペットボトル10本、その他です。

朝の散歩中にもゴミを拾う方が結構増えたため、ゴミはずいぶん少なくなりましたが、目立つのはタバコの吸い殻。自然の中で気持ちが悪くなるとタバコを吸いたくなるのでしょうか、やはりマナーは守ってほしいですね。

出発点に戻ってきたのが15時。ゆっくり歩いたのにも拘わらず、ほぼ予定通りでした。いつものようにファミリーレストラン・ココスで、本日の収穫にビールで乾杯して、日没の早くなった師走の空の下解散しました。

## 概要

山名	手賀沼一周		
月日	平成24年11月25日(日)		
山城	我孫子市 柏市	地形図	1/25000 取手
形式	日帰り	グレード	2A
目的	① 手賀沼を一周歩き、ふるさとの自然を見直す。足慣らしと親睦。 ② 手賀沼周辺をきれいにするため、ごみを拾って歩くクリーンハイク。		
費用	なし	交通機関	徒歩
行程	Aグループ；手賀沼畔の「水の館」駐車場 8:00集合/8:05出発(今回は全員Aグループ) (Bグループはアビスタにて合流組だが今回は居なかった)⇒手賀沼北側道路を西へ⇒子の神社にて三等三角点(三等)を確認 8:20⇒志賀直哉邸跡 8:45⇒杉村楚人冠公園と邸宅跡 8:55/9:05⇒手賀沼北側の道(自動車道路と平行の北側の道)を西へ⇒船戸城址(船戸の森)⇒武者小路実篤邸跡 9:45⇒根戸城址 10:20⇒北柏ふるさと公園 10:40⇒北柏ふるさと大橋を北から南へ渡る⇒手賀沼南側の遊歩道を東へ⇒道の駅「沼南」にて昼食休憩 12:05/12:30⇒手賀沼大橋は渡らず、手賀沼南側遊歩道を東へ⇒フィッシングセンター13:40⇒手賀沼北側遊歩道を西へ⇒滝下公園にてゴミ集約 14:35⇒水の館駐車場 15:05 手賀沼大橋北側の「COCOS」にて反省会/16:40(解散) <歩行時間 6時間25分>		
参加者	小川誠(CL)、高橋重、外崎、清家、高橋英中村隆、箕輪完、箕輪カ、田村、新谷矢澤 男6名 女5名 計11名		



快晴 無風 うらかな一日 柏ふるさと大橋



< 8 0 3 > 忘年山行

八溝山  
(1,022m)

やまたんより転載

登山道凍結！

多数の参加者で1年を締めくくる



路面が凍結 バスを降りて歩く  
…ドライバーさんどうするのかなあ…

リーダーのメモ

CL 田村 光子

- \* 前日に雪が降り、路面が凍結していて予定の駐車場までいくことができず、バスを途中で降り、車道を30分近く歩いて、登山口まで行く。
- \* 登山道に雪が積もっていたので、一か所急な登りがあるので、全員同じコースで登る。
- \* 登山道には5か所の名水があるが、銀性水は涸れていた。
- \* 携帯が繋がらず、バスがどこに待機しているか分からず、車道をしばらく下る。
- \* バスがUターン出来るところまでバックで下り、向きを変えて待っていてくれたのを見たときにはホットしました。
- \* 日輪寺で宴会をするつもりでいたが、バスが上がってこられないために、下りて道路に面した東屋で行う。
- \* 登山に時間が掛かってしまったのと寒さのため、宴会の時間を短縮し、食担の作って

くださった豚汁をいただき、早々にバスに乗り込む。

- \* 各リーダーの方に考えていただいた余興が出来ず、申し訳ありませんでした。
- \* バスでは菊地様のリードで盛り上がり、楽しい2次会となりました。
- \* 食担の皆様、大島様、菊地様、皆様方に助けられ無事終わることが出来ました。本当にありがとうございました。

A班 清家三保子

バスは順調であった。しかし目的地に近づくにつれ、雪が道路脇につもり、車道はテカテカの薄氷が張り付いていて、カーブなど思わず手足に力が入り緊張する。とうとう急坂のカーブでバスを降り歩くことになる。駐車場 30分程手前より全員同じコースを取り出発する。ドライバーさんはその後どうするのか気になった。

12月のまだ2日に雪を踏むことが出来るとはびっくりであった。ギシギシと踏み跡のない雪の上を希望者に先頭を歩いてもらう。先頭班の特権だ。



銀性水にて

茨城県の自然百選という金性水、鉄水、白毛水、銀性水などの湧水群を味わいながら登る。八溝山頂の展望台は閉じており展望は今ひとつであった。非常に良い天気であったのに展望台はかえって眺望の邪魔であった。葉の落ちたブナの幹や、杉の美しさを愛でながら楽しく下る。日輪寺にて総リーダーに「出し物考えてある？」と聞かれ、ノー天気リーダーは全く考えてない。いや、チラと「今年はやらないのかな？」と頭をよぎったけれど。そういえば他の班は遅



く、常にA班はトップだった。打ち合わせをしていたんだろうなあ。メンバーに「ごめんなさい」をし、残り30分で焦る。頼るは引き出しの多い小川誠さん。イングリッシュで「オトミさん」を歌い与三郎とオトミにしっぽりと芸をしてもらう事になる。早速小道具、演出を考える。「オトミ」を昨年度女装で色気たっぷりだった原田さんに、「与三郎」をニヒルなハンサム高橋英さんに決める。練習なしの本番でどうなるか心配であったが予定外の歩きで時間が無く、余興は無しという事で「ホッ」と胸を撫で下ろす。そして食担さん心づくしのトン汁やら様々の料理をいただく。ホットワインも体が温まり良かった。食担さんおいしかったです。ありがとうございます。

ドライバーさんもバックで下りたとか、土を道に撒いた跡もあった。事故の無かった事が何よりだった。帰りのバスも盛り上がり、とても楽しい忘年山行だった。



↑ 日輪寺にて、高橋英さんの72歳を祝う



熱燗の加減やかに

B班 矢野 貞子

計画書を頂いた時自分の名前の上にB班 L となっているのに戸惑いました。その上、リーダーには余興を考えてこいとの宿題が出されていました。班のみなさんにお助けメールをお願いしたところTさんとJさんからお知恵を頂いていたのに、十分な準備ができないまま八溝山に行くことになってしまいました。Tさん、Jさん本当にごめんなさい。



↑ B班メンバー

雪の八溝山頂で腹ごしらえ ↓



B班には、半年ぶりに復帰したOさんが一緒でした。すでに足慣らしに山に数回行かれたとのこと、足取りも軽く半年のブランクを感じさせない歩みでした。

今回の八溝山は、水戸光圀公が命名した金性水、鉄水、白毛水、銀性水、龍毛水と巡って行くものでした。前日の寒気で思いかけず雪山となっていました。雪はさらさらした新雪で登山には何の支障もなかったもので、静かな雪山が楽しめたと思います。枯れている銘水ありましたが、



光圀公の好んで飲んだと言われる水の味を確かめてきました。

寒くて十分に忘年会はできなくて残念でしたが、総リーダーの田村さん食坦の皆様、そしてB班の皆様、楽しい山行ありがとうございました。



乾杯 ↑



形の良いブナの前で

C班 箕輪完二

実行委員長の田村さん、食坦のみなさんご苦労さまでした。参加者は26名と多数になり、今年一年を締めるに相応しい良い忘年山行となったと思います。



↑ 日輪寺入口



初雪を踏みしめて ↑



八溝嶺神社鳥居前にて ↑



左八溝山頂へ 右銀性水へ ↑

何故か白馬が… →





1、目的地、歩行時間、休憩等、無理のない良い計画だと思いました。また宴会場所の的確な確保は事前の調査が良くなされていると思いました。

2、山行後の宴会も午後となって寒くなる中、食担のみなさんの献身的な豚汁作りや料理で美味しく、また楽しく過ごすことができました。またバスの中での宴会も、最後まで歌あり、感想ありで盛りあがったと思います。

3、余興では各班ごとの出し物ではなく、全体のまたは各班対抗のゲーム等が良いと思う。各班の出し物では、当日のまた山行中の発案とか練習となり、山行が疎かになる。

4、車道が凍り、バスが予定地まで行けないアクシデントがあった。下山時にC班は4班での最後尾となったが、バスがどこで待機しているのか解からず少々不安だった。情報、連絡等を密にしていきたいものです。

#### D班 菊地 功

雪のため4班全部が同一のコースを歩くことになったため、D班として取り立てて報告する事項はないと思われる。このため、当日のハプニングとそれへの対応について感じたことを述べてみる。

ハプニングは、①積雪によるタイヤスリップでバスが林道途中で走行不能となった ②旧参道から時計回りと日輪寺入口から逆時計回りの2コースを各々2班ずつ迎える計画であったが、積雪があるため別行動となった場合は事故等の対応に懸念があった ③バスが前進不能地点からUターン可能地点までバック走行で帰っており、帰りはそのバスがいるであろう地点まで歩く必要が生じた ④①と③の理由から下山後の懇親会も予定時間より遅く始めざるを得なかったがあった。その都度、リーダーの判断やリーダーへの助言などで臨機応変に対応しており、わが会の実力と自由な空気を感じた。



D班 登山開始

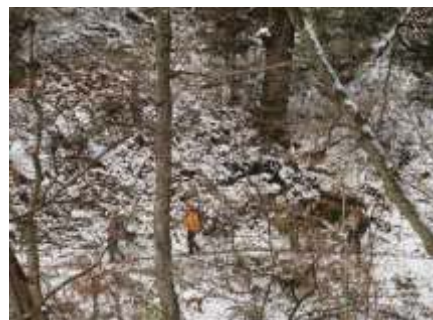


食担の真剣な眼差し



日輪寺

終わりに茨城の山について。今年の忘年山行は八溝山とのこと。東海村在住が長かったので茨城の山へは良く登っていた。八溝山もマイカーでは数回、登山では林道入口の大鳥居から往復している。登山道と並行して山頂まで車で行ける林道があるため、俗人の小生にはあまり足が向かない山であった。しかし、今回は八溝山も途中の奥久慈の山々も雪が積もっており、これまでとは全く違った景色を見せてくれた。退職後も茨城の友人と茨城の山を時々歩いているが、機会が増えそうである。



一年間お疲れ様でした！



概要

山名	八溝山		
月日	平成24年12月2日(日)		
山域	北茨城	地形図	1/25000 八溝山・町村
形式	日帰り	グレード	1A
目的	忘年山行		
費用	3,700円	交通機関	中型貸切バス
日程	<p>我孫子駅北口集合 5:30→中型バス発 5:36→柏 I C 5:55→田野 P A 6:45/6:50→那珂 I C 6:58→林道凍結によりバス下車 8:37⇒登山口駐車場着 9:05(準備)                  登山道が積雪と凍結状態なので全班同じコースを歩くことにする。                  A班の行動記録                  登山開始 9:15⇒衣服調整 9:35/9:38⇒金性水 9:45/9:47⇒鉄水 9:54⇒(八丁坂)⇒林道に出る 10:09⇒白毛水 10:12⇒銀性水 10:22⇒八溝山 H 1022m 10:35/11:00⇒林道に降りる 11:10⇒龍毛水 11:20⇒血の池跡 11:30⇒日輪寺 11:45/11:55⇒登山口の駐車場 12:25⇒バスが待っていた場所に下山 12:50                  バス発 13:00→懇親会会場着 13:10(懇親会) 13:20/14:30(片付けと集合写真)                  バス発 14:45→那珂 I C 17:45→友部 S A 17:55/18:05→柏 I C 18:58→我孫子駅北口着 19:20(解散)                  晴れ &lt;歩行時間 2時間55分&gt;</p>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日輪寺駐車場までバスで入ることが出来る。</li> <li>・登山口にはトイレがないが、頂上にはトイレがある。</li> <li>・登山道は整備されていて歩きやすい。</li> <li>・車で頂上まで行くことが出来る。</li> </ul>
参加者	A班 清家(L)、高橋英、原田、小川誠、品田、斉田 B班 矢野貞(L)、中村隆、小川洋、大山大島(総SL)、高橋重、郷田、箕輪完(L)、外崎、武内、瀬田、矢澤矢野裕、飯合 C班 菊地(L)、村松、中村八、坂巻、本田、田村(総CL) 男13名 女13名 計26名

概念図





< 8 0 4 > クリスマス山行

甲武信ヶ岳  
(2475m)

武内勇二

今年のクリスマス山行は、甲武信ヶ岳を目指すこととなった。甲武信の山名は、甲斐、武蔵、信濃の3国の頭文字に由来する。登山ルートはいくつかあるが、冬場は信州側の毛木平から千曲川源流を遡るルートが人気がある。なんとといっても標高1433mまで、車で入れるのが嬉しい。

上野から新幹線に乗り、佐久平経由で小海線信濃川上へ向かう。メンバーはリーダー村松さん、北川君、それに私の3人。男性ばかりの山行は、岳人あびこでは珍しい。信濃川上駅で手配のタクシーに乗り、凍てつく県道を走って毛木平に10時過ぎに着いた。予期せぬことに、雪は全くない。このあたりの天気は、東京に近く、寒いけれど雪はそれほど降らないと運転手は言う。昨日の日中の雨で、少し残っていた雪を解かしてしまったとのこと。

大山砥神社

カラマツの落ち葉を踏みしめながら行く。程なく十文字峠へのルートを左に分け、沢沿いにつけられた林道を直進すると、30分ほどで道端に鳥居と小さな祠( )があった。



大山砥神社 このあたりはまだ雪がなかった

やがて林道が山道に変わろうとする辺りから氷が張って滑りやすくなりアイゼンを装着する。うっすらと雪が氷の表面を覆うようになり、やがて辺りは雪景色に変わった。「ようやくクリスマス山行らしくなったね」との言葉を

交わしながら、緩やかに登る。千曲川源流遊歩道となづけられているだけに、全体としてはよく整備されているが、所々崩れたところもある。バランスを崩さないよう注意して歩く。当然のことながら、冬山は装備が重く、ザックが肩に食い込む。

本日の目的地は、毛木平から1時間40分(昭文社地図)のナメ滝周辺で幕営の予定だが、2時間ほど歩いて、沢は一向にナメ状を呈してこない。更に歩むこと1時間余でようやく「ナメ滝」の表示板を見つけた。なるほど沢もナメ状になっている。「千曲川源流」まで2.0kmの標識もあった。適当な幕営サイトを探してさらに前に進む。今日は重いザックを背負って3時間余りも歩く覚悟がなかったのも、余計疲労感を覚える。沢に近いところで平らな場所があったので雪ならしを始めたが、水音がうるさい。村松さんがもう少し先で良いところがないか探してくると言ってお出かけた。程なく戻ってきて、「源流まで1.8km」の標識の先の平らな場所を本日の幕営地とした。本流は崖の下ながら、幸いなことに細いながらも水流があり、コップで汲めば水は取れそうだ。不足時は雪を溶かせばよい。テントを張りランタンを準備して、お待ちかねのクリスマス・ディナーの始まり。シャンパンならぬウィスキーのお湯割りで乾杯、クリスマスキャロル、プレゼント交換、深々とクリスマス・イブイブの夜が更けて行った。



千曲川源流へ1.8km地点の御殿(テント場)

翌朝は4時に目が覚めた。一人起きると次々と起き出した。寒いうえに小雪が舞っている。会で新しく買ったラジオで、この地域の天気予報を確認したかったが、おおざっぱな全国の天気予報のみで、局地的な詳細情報は得られなかった。とにかく少し明るくなるまでは動けない。ランタンを灯し、炊事用のガスを点火する。外

に出しておいた水がガチガチに凍りつき、塊になっていた。

6時半にテントを出た。昭文社の地図では、ナメ滝から千曲川源流まで1時間20分、稜線まで1時間50分、甲武信ヶ岳まで2時間15分のコースタイムだが、雪道ということ勘案、頂上まで3時間はかかるだろうと予測した。迎いのタクシーを2時半に予約しているので、遅くとも12時にはテント撤収を終えて歩き出さねばならない。頂上付近からテント場まで2時間、テント撤収に1時間かかるとみれば、遅くとも9時には頂上からの下山を開始しなければならない計算になる。場合によっては、頂上は諦めざるを得ないとの腹づもりで出発。

間もなくルート脇のテントに若い男性が1名いた。昨日から初めて会った人である。沢に沿って緩やかな登りが続く。雪は30~50cm程度、ありがたいことに踏み跡はしっかり付いている。突然、村松さんが腰の不調を訴えた。冷えて持病の腰痛が痛みだしたようだ。「テントに戻るので二人で行け」という。パーティを分けるのは心配だったが、天気は安定しているし、テントからはそれほど遠くには来ていないので問題ないと思った。村松さんを残し、北川君と2人で先に進む。沢を幾度となく横切り、源流まで0.35kmの標識があった。左岸に渡り登ってゆくと、程なく千曲川源流の碑があった。水流は雪で埋もれて見えなかった。



千曲川源流標識にて  
此処の1滴が日本海へ

一休みしていると、男女のペアが下ってきた。正月用の荷揚げをして、昨夜は小屋に泊まったとのこと。「8時に上に向かった」との村松さんへの言伝を頼んで、次なる目的地の稜線を目指し出発。心持ち傾斜が増し雪も深くなった

ようだが、天気も穏やかで道もはっきりしているので問題ない。しかし、9時には下り始めなければならないとの制約を考えると、あと1時間足らずで頂上を踏むのは今のペースでは難しい。せめて北川君だけでも頂上を踏んでほしいと考え、彼に先に行ってもらうこととした。一人になってからは急くこともなく、楽にゆっくりと登っていくと、ひょっこりと金峰山~甲武信ヶ岳縦走路の分岐に出た。行けるところまで行こうと甲武信へのルートを進む。緩やかな登りで、快適な道だ。所々甲州側の展望が得られた。9時丁度に、頂上から戻ってきた北川君に出会った。あと10~15分程度という。「どうしますか」と聞かれたが、即座に「予定時間なので戻ろう」と答えた。下りはやはり早い。15分ほどで分岐に到着、霧氷が青空に映え美しい。源流には9時40分、テント場には10時20分頃に帰り着いた。村松さんは我々と別れて源流まで登った時、稜線目指して登ってゆく姿を見つけ大声で呼んだがそのまま行ってしまったという。気づいていれば一緒に登れたのに、と口惜しく思うが後の祭り。

テントを撤収して、昨日来た道を下る。登るときにはあまり気に留めなかったが、結構細かいアップダウンがあり、崩れた箇所もある。神社でアイゼンを外したが、所々凍りついているので油断はできない。毛木平には予定より1時間ほど早く着き、タクシーの出迎えを早めてもらって信濃川上駅に戻った。駅には吉永小百合さんを囲んで撮った写真が飾ってあった。大人の休日クラブの宣伝ポスターをこの駅で撮った時のものとのことであった。駅前の食堂で反省会の後、中央線回りで帰る北川君と別れた。

あと一步のところまで頂上は踏めなかったが、静かな雪の山は楽しかった。今年も恒例のクリスマス山行ができてよかったと思う。



雪の甲武信岳山頂





ひっそりと佇む奥秩父縦走路の道標

概念図



山名	甲武信岳		
月日	平鳴り 24年 12月 23日(日)~24日(休)		
山域	奥秩父	地形図	1/25000 居倉・金峰山
形式	テント泊	グレード	3C
目的	1. 雪のテントの中で恒例のホワイトクリスマスを祝う。 2. 千曲川源流を辿って、奥秩父の名峰に立つ。		
費用	13,000円	交通機関	JR、タクシー
行程	1日目	我孫子駅発 6:12→上野駅 6:47/6:57(長野新幹線あさま)→佐久平 8:20/8:30→小海線、信濃川上駅 9:44/9:50(タクシー)→毛木平駐車場 10:20/10:35⇒大山祇神社 11:00⇒ナメ滝 14:20⇒テント場(標高 1,800 地点) 14:30 (泊) 晴く歩行時間 4時間(休憩含む) >	
	2日目	テント場発 6:30⇒千曲川源流 8:05⇒稜線 8:30⇒甲武信岳 8:50⇒テント場 10:30/11:20⇒毛木平 13:30/14:00⇒信濃川上駅 14:40/15:50⇒佐久平 17:14→上野駅→我孫子駅 19:10 雪後晴く歩行時間 6時間 10分(休憩含む)	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 以前は小海線信濃川上駅へのアクセスは中央線小淵沢駅経由がほとんどだったが、新幹線あさまが開通した現在では長野新幹線を利用して佐久平経由が最も早く到着できる。</li> <li>• 毛木平駐車場は広く(約 40 台)トイレ有り。但し、冬は凍結のため利用不可。後で解ったが、携帯電話は通話できる。</li> <li>• 駐車場奥のゲートを越えて林道を行くと十文字峠へ行く道と別れる。</li> <li>• 千曲川西沢沿いの登山道ははっきりしていて、尚、かつ危険箇所もなく迷う心配はない。</li> <li>• 水の流れに近くなったり遠くなったりして、いいかげんいやになる頃、ナメ滝に着く。昭文社の地図による行動時間は間違っている様な気がする。</li> <li>• 標高 1,800m 地点の近くに平らな場所を選び、雪の上にテントを設営する。積雪量は 20~30 cm 位か。</li> <li>• 無風、快晴、危険箇所もないルートのため、2日間、雪山の楽しさを充分堪能したクリスマス山行だった。</li> </ul>		
参加者	村松 (L)、武内、北川 男 3名 計 3名		

< 8 0 5 > 新年山行

三つ峠山  
(1775m)

矢澤節雄

冬の快晴、翌朝は銀世界

8年前に会社の第一線を退き、山登りを始めた。初山行は五月ゴールデンウィークに残雪期の北横岳・蓼科山で、友達の後ろを遅れ追っかけるようにして必死に登ったことしか記憶にない。次の山行は、無謀と言われたが、いきなり飯豊連峰を縦走した。「シラネアオイ」や「マツムシソウ」などの花に出逢い、「花の百名山」に紹介されている花が本当に咲いていることに感激した。学生時代の山登りでは、「花を見た」との記憶が無い。勿体無いことをしたものである。NHK「花の百名山」で山の花を知り、「花を見たい」と思っていたのだ。今では、山で花に出逢うのが楽しみの一つである。山登りを続けていくと、頂上から眺めて、山形から山座同定することも楽しみになる。また日本百名山を目指してからは、深田久弥の「日本百名山」を読み、山の歴史や、山名の由来を知ること面白く思う。山登りは、いろいろと「知るを楽しむ」遊びである。兎に角「知る」は楽しい。

“三つ峠山”の山名の由来は、「三つの峠があることから」と思い、地図をよくよく見ても、其れに相応しい三つの峠は見つけられなかった。

インターネットによれば、三つ峠山は古くは奈良時代から修験道の霊山として知られ、江戸時代後期、天保3年に善應空胎上人によって開山された信仰の山であり、神鈴峰、仙泉山とも呼ばれる。



三つ峠山

現在の三つ峠の由来として、山頂付近にわき水があることから“水峠”と呼ばれ転化したという説、三つの尖峰(トッケ)があることから、ミツトッケと呼ばれ、それに文字をあてたという説がある。また、この三つの尖峰は開運山(1785m)、御巢鷹山(1775m)、木無山(1732m)を指すという説や、開運山の三つの尖峰を指すという説もある。

「開運山、御巢鷹山、木無山」を指す説のみの紹介が多いが、私は、開運山の三つの尖峰説の方が好きである。国土地理院の地図には、“開運山”ではなく“三つ峠山”である。それにしても「山」が何故「峠」か、納得できないが、“まあいいか”。

田中澄江は、「新花の百名山」で、富士を見たくて十数年も続けて毎年1月に登っていると書いている。また花の紹介は、アザミの間では一番大きい花の「フジアザミ」である。

われわれの山行も一月、素晴らしい富士を眺める新春に相応しい企画である。



三つ峠山からの富士山

富士急三つ峠駅下車、直ぐ目の前に目指す山頂が見える。登山の最初から1785mの山頂が見えるのが良い。冬の快晴、風は無く、最高の登山日和である。幸運に感謝する。

町民が数人で小正月(今日は1月14日)の準備をしているのに出逢う。「小正月」都会では聞けない言葉に嬉しくなる。達磨石は、形状が達磨で、顔の部分は、刻まれた梵字。これは珍しいと思う。富士の眺めが良いとされる「股のぞき」で、T嬢が、天の橋立てよろしく股を開いて富士を眺め、写真を撮ろうとし、皆の笑いを誘う。その傍に踏み台があり、幹が二股に分かれて松が立っている。T嬢も笑いながら、踏み台に乗り移り、木の股から再度富士を撮る。笑いながらの写真は、手振れで写真コンクールの等外になると期待され「ウフフ…」と？嬢が…。屏風岩の先、沢に架かる木橋は一面厚い氷に覆われ、危険を感じる。欄干片側の端、靴幅一足分の僅かな所だけ氷が無い。そこに片



足を載せ、もう片足は氷の上、恐る恐る慎重に渡る。今山行での一番の難所。その先の山道も凍っており慎重に登る。山小屋には寄らず、分岐でザックをデポし、山頂へ直行する。



滑らないように慎重に歩く

冬の三つ峠山頂からの眺めに喜ぶ。富士も素晴らしいが、回り全ての眺めが素晴らしい。昨年登った聖岳・赤石岳・荒川岳や小河内岳が見えて嬉しくなる。さらに塩見岳・濃鳥岳・間ノ岳・北岳・仙丈ヶ岳・鳳凰三山・甲斐駒ヶ岳と南アルプスの全て山々がくっきりと見え、山座同定を遊ぶ。北アルプスや八ヶ岳・金峰山の山々を眺め楽しむ。開運山の頂上、開運の願いにお賽銭をあげたいが、小銭が無いと迷う？嬢に、リーダー「お釣りをもらったら」とすかさず一言。さすがのリーダーの言に、皆アングリ。



三つ峠山頂上にて

三つ峠山荘は、「明日は雪」の天気予報で他の

登山客なし。気兼ね無しに、直ぐに親睦会を始める。NHK「ニッポン百名山」のテーマソング「空になる」(さだまさし作詞・作曲)をT嬢の指導よろしく歌い、お神酒を飲み、和気藹々に新春山行を楽しむ。



新年を祝して乾杯



1.13 菊地さん撮影

翌朝、一面の銀世界、予定を変更して下山に決定。多少風があり、頬は冷たかったが、直ぐに山林に入る。代わる代わる先頭になり、無垢の真っ白な山道を楽しみ歩む。林道から分けて、沢道を下る。雪の「母ノ白滝」は幽玄である。時折、枝葉の雪が、重みで細かく舞い散るのが、それが幽玄さを増し、美しい。

下山口は、河口湖浅間神社である。境内で、7本の巨樹の神木が目に入る。しめ縄が結わえてある。7本の杉は全て、幹は真っすぐに1本で伸び、樹高は40m以上である。二柱杉(ふたはしらすぎ)は樹高47.5mと天壤杉とは根回り30mの大樹で、共に有名である。樹齢1200年に及ぶ巨木7本が1ヶ所に現存することで天然記念物である。TY嬢は、相変わらず杉にしがみ付く。杉は迷惑?なのか、雪を落とす。

大月で途中下車して反省会。N嬢、注文をまとめたり、帰りの電車の時刻を調べたり、甲斐甲斐しく、行動も若く早い。店を出るとき、M氏「俺のザックが無い」と。店の人「登山の客はあなた方だけです」。ザックの蓋を開けると「N」と書いてある。ザックの色が違うのに何故。M氏そのザックを抱えて駆け。Y嬢駅からわれわれの傍を走りぬけて、店に戻っていった。

何故Y嬢が走る。車中の会話がまた弾む。大雪による交通機関の乱れ情報で意見が割れ、二手に分かれて帰路へ。山中でないので“まあいいか”。

兎に角、盛り沢山の楽しい思い出の山行に参加でき感謝する。

(追記) 写真コンクールは、矢野裕子さんが優勝し、リーダよりご褒美戴く。拍手。



降りしきる雪の中で休憩(鉄塔付近)



三つ峠からの下山

概要

山名	三つ峠山		
月日	平成25年1月13日(日)~14日(祝)		
山域	富士周辺	地形図 1/25000	河口湖東部、 河口湖西部
形式	山小屋 泊	グレード	2 B
目的	① 新年山行(開運山で今年の開運を祈願) ② 富士山の展望 ③ 写真撮影を楽しむ(研修)		
費用	約 15,000 円	交通機関	J R、富士急、 バス

日程	1 日目	我孫子駅 5:41→日暮里→神田→高尾→富士急三つ峠駅 9:08/9:15 ⇒衣服調整 9:45/9:50⇒ 憩いの森公園 10:10/10:20 ⇒ 達磨石 10:35 ⇒休憩 11:00/11:05⇒ 股のぞき 11:15/11:20 ⇒休憩(昼食) 11:45/12:00 ⇒ 八十八大師 12:40/12:45 ⇒ 屏風岩 13:20 ⇒ 三つ峠山(開運山) 14:00/14:10 ⇒ 三つ峠山荘 14:30(泊) 晴れのち曇り<歩行時間 4時間 25分>
	2 日目	三つ峠山荘 8:20 ⇒ 西川新倉林道(黄色いゲート) 9:20/9:25 ⇒ 鉄塔 9:50/9:55 ⇒ 母の白滝 10:40/10:45 ⇒ 河口局前バス停 11:15/11:50→河口湖駅 12:10/12:22→大月(反省会) →高尾→神田→西日暮里→我孫子 18:30 雪 <歩行時間 2時間 40分>
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>達磨石付近までは舗装路、そこから山道に入るとともに登り傾斜が急になる。急な上り坂は山頂近くの屏風岩(クライミングのゲレンデ)付近まで続く。</li> <li>山頂近くで凍結箇所が3ヶ所あったが、いずれも数メートル程度。</li> <li>三つ峠山荘から母の白滝を通過して河口湖へのエスケープルートは、危ない箇所は特にないが、西川新倉林道に降り立ち、直ぐに黄色いゲートをくぐって山道に入るよう山荘主人からアドバイスを受けた。雪がなければルートが見えるから問題ないが、積雪時の下山では貴重な情報だった</li> </ul>	
参加者	武内(CL)、菊地(SL)、矢澤、村松、郷田、外崎、矢野貞、矢野裕、中村育 男5名、女4名 計9名	

概念図





< 8 0 6 >

鳥場山（花嫁街道）  
(266m)

箕輪カオル

のんびり房総の山歩き

平成25年1月20日（日）晴れ

花嫁街道ハイキングコース入口から、いちほら橋をめざして歩く。ここで、花嫁街道（左回り）と花婿コース（右回り）となる。今回は花嫁街道を選択する。花嫁街道入口で、和田浦歩こう会の会長さん方に出会う。倒木が多いので、その整備に来たとのこと。ありがたいことだ。私たちの行く先々に現れては、花嫁街道に困んだ諸々のことを教えてくれた。本当にお世話になりました。



和田浦歩こう会会長の飛び入り熱心ガイド

トウカヅラと知った。フウトウカヅラは、この林に多くあるとのことである。そして、第二展望台に到着。ここからは、遠く海がみえてほっとひと息できる場所だ。ここから、マテバシイの林になる。この林は不思議な光景だ。ここを過ぎると間もなく、経文石が現れる。しかし、あまりにも古い歴史なので経文の刻みを確認できないのは残念である。経文石からまもなく、落人伝説にまつわる地名の自害水に着く。ここに、一週間前に降った雪が残っていた。風も冷たかった。駒返しの看板を折れるとすぐに、広くゆったりとした見晴台に到着。陽だまりでもあり、太平洋も見え、とても気持ちよい場所となっている地点である。次の第三展望台からは、房総一高い愛宕山が展望できた。展望台から階段状の道をたどれば鳥場山山頂となる。近年造ったであろう、花嫁の石像が置かれてある。富山、伊予が岳、愛宕山等房総の山並みがきれいに並んで見える。雪の富士山までも展望できた。嬉しいことではあったが、頂上だけに風があり寒い。少し下った陽だまりで昼食をとる。高橋重さん始め男性陣が手際よくおしるこを作ってくれた。



口紅をつけたお福さんがお待ちしていました。



マテバシイ樹林の中へ

道標に従って、尾根までの急斜面を進む。尾根に出るとアップダウンも無く、20分ほどで第一展望台に着く。わずかに、これから目指す鳥場山が見える。シイの巨木が続く道は歩きやすい。木に絡みついている花を見つけて、フウ



鳥場山山頂(シャッターを切る会長の押しが強過ぎて)

下山は、花婿コースとなる。旧鳥場山展望台からよく整備された尾根道を見晴台まで歩く。そして金毘羅山から急降下すれば黒滝だ。落差15メートルほどか水量も多い。

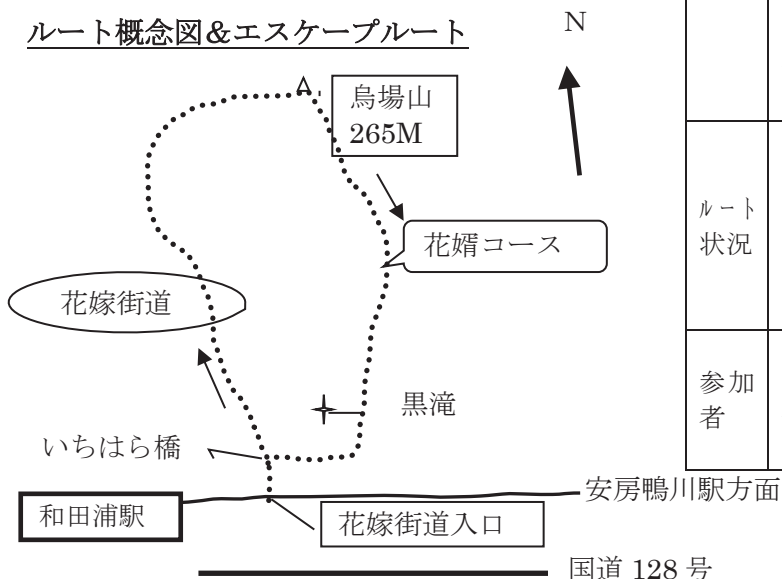


長者川源流の黒滝

花園広場から黒滝コースをたどり、抱湖園をめざす。抱湖園までの登りはさすがにきつかった。30分ほどで蘇鉄の林に出る。元朝桜が咲いている筈だったが、どうやら今年は遅いらしい。花を見ることが出来ず残念であった。辛うじて、咲き始めたばかりの梅の花を愛でることができた。

抱湖園を下り終えると、水仙の群生に出あい春の香りを分けてもらった。畑のポピーの蕾が膨らんでいる。もうすぐ満開だ。近くで花を売っている。みんなで買い占めてたちまち売り切れてしまった。いいお土産ができた。のんびり房総の山を楽しめた一日であった。

ルート概念図&エスケープルート



水仙も満開でした



緋寒桜が春を待ちわびている

概要

山名	烏場山 (花嫁街道)		
月日	平成25年1月20日(日)		
山城	房総	地形図	1/25000 安房・和田
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	房総の山、歴史を偲びながら		
費用	約6000円	交通機関	マイクロバス
行程	我孫子駅北口発 5:35→千葉北 IC (館山自動車道) →富津 IC→ハイクコース入口下車 8:25⇒いちはら橋 (準備) 8:40/8:50⇒第一展望台 9:20/9:25⇒第二展望台 9:42/9:47⇒駒返し 10:30/10:35⇒見晴台 10:50/11:03⇒烏場山 11:18/11:25⇒休憩 (昼食) 11:30/12:15⇒見晴台 12:57/13:02⇒黒滝 13:30/13:35⇒はなその広場 13:38/13:43⇒バス駐車場 14:25/14:35⇒反省会 (まるよ) 15:00/16:25→木更津 IC (館山自動車道) →我孫子駅北口 19:05 <歩行時間3時間40分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上りは長者川沿いに丘陵地の中に入る。花嫁街道入口の看板。</li> <li>・樹林の中を急登して尾根上に出る。シイの巨木やマテバシイ林の木の根に注意。</li> <li>・太平洋と房総の山並みを楽しみながら下山。急下降階段に注意して黒滝へ。</li> </ul>		
参加者	箕輪完 (L)、矢野貞 ((SL))、外崎、高橋英、中村八、原田、箕輪カ、高橋重、瀬田、斎田、矢野裕、中村育、矢澤 男5名、女8名 計13名		



< 807 > 卒業山行

宝篋山  
(464m)

やまたんより転載

充実！卒業山行

<やまたんのメモより>

大山 冬臣

- ① 当初、筑波山であったが、1月14日大雪が降り、道路の残雪・凍結が心配され、しかも交通手段がマイカー利用であることから、安全第一を考えて筑波山から宝篋山に変更した。
- ② 標高こそ低いが実質的な標高差は約400m、筑波山よりもハード?であった。
- ③ 山麓一帯は田園地帯であり、棚田も多く、指導標識も分岐点には必ず設置され、山頂までの距離、下山時は小田休憩場までの距離が表示され、行動の目安がつけやすい。全く手つかずの雑木林の中の登山道で、山頂に設置されたアンテナ等の資材運搬用の車道があるが登山道との交差は山頂部だけで、登山道は非常に良く整備されている。休憩ベンチも随所にある。
- ④ 山頂までの極楽寺コースは全体的には小沢沿いの小滝が多い。全山を覆い尽くす自然林は小檜、クヌギなどの他に中腹部は“コブシ太郎”と名付けられたコブシの大木を筆頭にコブシが多く、山頂近くになると山桜と共にたくさんの種類の桜が見受けられ、整備中の“山桜の森”がある。桜の季節は綺麗であろう。冬期の今回の山行では麗に落葉しているので、こもれびが降り注ぎ、



2月3日 宝篋山（ひさこテントで）  
～楽しい昼食～

- 落ち葉を踏みしめながらの山行は楽しい。途中富士山、日光男体山を視る。
- ⑤ 山頂は広い。富士山、八ヶ岳、男体山がはっきり見える。筑波山の東側に加波山が望まれる。眼下には、霞ヶ浦をはじめ関東平野がきれいである。
  - ⑥ 下りの常願寺コースは、尾根を緩やかに下るが、尖浅間山の手前に登り返しがある。尖浅間山からの下りは、ステップのない下り坂でやや歩き難いが、暫く下ると緩やかな山麓への道になる。
  - ⑦ 頂上では数組の登山者が、眺望を楽しんでいた。下山コースでも数組の登山者に会うも、静かな登山であった。駐車場に着くと二箇所ある広い駐車場が土浦ナンバーとつくばナンバー車でほぼ一杯になっていた。
  - ⑧ 宝篋山小田休憩場は、管理棟が有り、トイレもある。テーブルを囲んだ椅子のセットが10組ぐらいある。その隣にテントを張り、料理し、楽しく食事をする。冷たい風が吹いていたが、快晴のお陰で、テント内は暖かく快適である。テント持参は大正解であった。
  - ⑨ 昼食後テントの撤収後、登山道具の使い方の研修を行った。

← 暖かい日差しの山道

<主な研修内容>

(講師：高橋重氏・外崎女史)

1. テント設営・撤収：①テントの向き②ペグの打ち方③火の扱い④たたみ方
2. 山での料理：
  - ①コンロの使い方
  - ②調味料について③器具の始末
3. 冬の歩行：
  - ①アイゼンの取り付け
  - ②アイゼンワーク
  - ③ワカンの取扱
4. ピッケルの使い方：
  - ①持ち方、②ループザイルとピッケルによる滑落者の確保、③滑落時のピッケル使用法、④ループザイルの効用、⑤ピッケルの背負い方
5. ザイルワーク：
  - ①ザイルの結び方、②ハーネスの着脱、③ハーネスとカラビナ、シュリング[捨て縄]を使った懸垂下降、④エイト環の使い方と懸垂下降、⑤沢登りや岩場での確保の仕方



アイゼン紐の始末 ↑



ロープの使い方 ↑



← カラビナの取扱



登山関係図書類の紹介：

- ① 図の読み方入門編 (上級編)
- ② 谷文晁の日本百名山
- ③ 高層天気図の紹介 (HBC札幌放送局 専門天気図)

テント撤収



概念図



概要

山名	宝篋山 (ほうきょうさん)		
月日	平成25年2月3日(日)		
山城	筑波山	地形図	1/25000 筑波
形式	日帰り	グレード	1A
目的	第14、16、17期生の卒業研修山行 (一年間学習したことを総ざらい再点検し、今後の登山事故撲滅を図り、登山を楽しむ。)		
費用	1,000円	交通機関	マイカー

行程	<p>我孫子駅北口ふれあい公園 6:10 →(R6/R19/R408 等)→宝篋山小田休憩場 7:10/7:30⇒極楽寺コース〔小休止 5min.x 3回〕⇒宝篋山山頂 9:20/9:40 ⇒バイオトイレ 9:45/9:55⇒常願寺コース〔尖浅間 10:15 通過〕小休止 5分 x1 回⇒宝篋山小田休憩場 11:15/14:00→15:20 我孫子駅北口〔宝篋山小田休憩場にて、昼食及び登山道具の使い方等の相互研修を行った。〕</p>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極楽寺コース：緩やかで天然林に覆われ、沢沿いの道で小滝を多く見ながら登れる。</li> <li>・富士山が随所から仰がれる。コブシの大木やコブシの森、山桜の森など春には素晴らしい花の饗宴が、新緑が愉しめる</li> <li>・山頂直下にバイオトイレがある。</li> <li>・下山路に利用した常願寺コースは尖浅間山までは、緩やかな山道であるが、尖浅間山を超えてから急坂が続くが、道は良く整備され、歩き易い。危険箇所無し</li> </ul>
参加者	<p>矢澤(L)、郷田(SL)、大山、村越、末永、新谷 研修指導・・・高橋重、外崎 男4名 女4名 計8名</p>

宝篋山頂



卒業山行

< 8 0 8 >

瀬淵山～高指山～不老山  
(554m) (911m) (839m)

中村育子

「里山といえども侮るなかれ」  
効いたリーダーの一言

中村 育子

「やまたん」掲載のリーダーのメモ欄に次のようなコメントがあった。

「不老」の名につられてこの山を選んだが、研修課題「進行方向を地図で確かめながら歩こう」を与えられ、地図読みとルートファインディングにぴったりとなった。(中略)

『里山といえども侮るなかれ』をキャッチフレーズに里山シリーズを始めたのは7年ほど前である。そのきっかけとなったのが日の出山(奥多摩)の北尾根だった。登山口の「危険のため入山禁止」の立て札を見てちょっと入ってみたくなった。ルートは定かでないが面白かった。これを定例山行に入れ 2005 年 2 月実行した。山頂付近は雪が積もりラッセルしながらの登頂だったが結果的に参加者は大喜びであった。ルートファインディングの緊張感にラッセルの楽しさが加わって喜びは増したのかもしれない。里山だって面白いと感じた。以来毎年1～2件の里山を遊びました。たくさんのご参加、ご協力ありがとうございました。多謝」



リーダーに感謝！感謝！

中村隆泰さんリーダーの山行は今回で最後。最後になるのは寂しいが、今回の地図読み山行は道なき道をどのようにゆくのだろうと、ワクワクしながら参加した。山行は予想通り面白く、こんなに楽しい山行が最後になるのは残念だが仕方がない。

当日は風のない穏やかな天気で、よく晴れた山の空気は心地よかった。山頂近くはまだ雪が残っていたが、アイゼンをはくほどでもない。出会ったのはハングライダーの青年二人、高指山から下山する男性、不老山頂で食事をしていた二人の男性。

甲東三山はどこにある山なのか見当もつかなかった。行ってから甲州の東方にある三つの山だということがわかった。上野原駅で下車し、バスで約30分。スタート地点の瀬淵神社に向かう途中、山の斜面が杉花粉で黄色になっているのをみた。花粉症の人はひゃあと恐れ戦いている。神社はひっそりとしていた。リーダーから「これから2つの班に分かれてもらいます。班は交替で先頭になり、班ごとに話し合ってください」といわれ、じゃんけんをして2班に分かれた。隆泰さんはポイントごとに赤マルをつけた地図を全員分用意してくださっていた。そのポイントを目指して行く。

まずA班(坂巻・桐生・原田・郷田・矢澤)が、桐生さんを先頭に出発する。歩きやすい道で、何事もなく第一ポイントの瀬淵山(554m)に到着。富士山が目目の目に見える。冬の富士はいいね、とみなカメラを構える。吹き流しの旗が風にたなびいている。眼下には談合坂SA。三角点は更に右奥にあった。



一つ目の山頂(瀬淵山)で富士山をバックに



次の和見峠まではB班（箕輪・瀬田・齋田・中村）が、瀬田さんを先頭に進む。スタートすると間もなくハングライダーの大きな荷物を抱えた青年が、汗をかきながら登って来た。珍しいので、みな矢継ぎ早に質問する。今日のような風でも結構飛んでいられるという。荷物を抱えて登るのは一苦労だろうが、この贅沢な遊びに熱中できる若者がうらやましくなる。若さが羨ましいのかハングライダーが羨ましいのか。まもなく道の紛らわしい地点にでた。尾根か巻道か。尾根は道らしいものがうっすらとあるが、杉の木が倒れて道を塞いでいる。そのせいで私たちは尾根道ではないと早合点して巻道を選択する。だが、間もなく違うと気が付いた。戻ってみるとA班は、私たちの後についてこないで待っていたのだった。A班は、倒れた木で塞がれている尾根の少し先に赤いテープがあるのを見つけていた。そうか、目印のテープか。以後、テープを探すように気をつけながら歩く。再び道なき尾根と巻道らしき林道との分かれ道に出る。二本の樹木が×印のように尾根道を塞いでいる。赤いテープを探したが見当たらないので、ここでも私たちは林道を選んだ。だが、またもやA班はついてこない。そのうちやってくるだろうと思ってどんどん進んだが、A班は影も形もみえない。尾根道を行ったようだ。さっき間違えたから、私たちを信用していないのかもね、などと話しながら進むが、はたしてこの道でいいのかと一方では不安にもなってくる。頼りになるのは箕輪さんだった。たとえ遠回りになっても、必ずこの道は峠に行き着くはずだと、地図を示して私たちを安心させてくれる。これは地図読み山行だったんだと目的を思い出す。間もなくその言葉通り、和見峠に出た。先に着いた私たちは、しばらくして到着したA班に誇らしげに言う。「私たちを信用しなかったわね」。だがA班も負けていない。林道を行ったのではかなり下まで下って遠回りしただろうと。お互い自説の正しさを譲らず、掛け合い漫才をして楽しんだ後、B班は秘かに反省をした。第一、最初の地点で赤いテープを見落としたこと。第二、後の班に声をかけずに進んだこと。第三、この地図読み山行の目的は尾根道を進むことだろうということ。現在地が分かるようにいつも周りを見ておきなさい、とリーダー。こうして少しずつ訓練を積む機会があるのは何と有難いことだろう。

次はA班が先頭だが、初め林道を進み、途中で尾根に進路を変える。初めてみんなで相談し

て意見がまとまった。高指山頂直下で昼食。陽だまりの気持ちの良い冬山。敷き詰められた枯葉の上に腰を下ろし、上を見上げると、葉を落とした白い樹木の間から青い空が見える。



ひだまり山行風景

頂上に近づくにつれて積雪が多くなる。高指山(911m)から不老山(839m)までは約15分。不老山頂直前でリーダーの隆泰さんの花道を作ろうということになった。道の両側に並んでストックを高く掲げて交差させ、少し遅れて来る隆泰さんを待った。隆泰さんはニコッとされ、少し照れくさそうにしながら「花道」を通られる。隆泰さん、リーダー有難うございました。これまでも本当にお世話になりました。今までの山行の分もまとめて、各自心の中でしっかりお礼を述べる。



三つ目の山頂(不老山)で(甲東三山全員踏破)

頂上からは眼下に中央道エリアがよく見渡せた。談合坂 SA の先に大型団地のコモア四方津、その先に丹沢山脈。ベンチではその景色を

肴に、中年と少し年かきの男性二人がビールを飲みながら昼食を作っていた。ふらりと気の合う友人と山に来る。ただ昼食をとるだけのために。地元の人ならではの何という贅沢。その二人としばしお話をして下山する。

日本には「不老山」という名の山が山梨の他に、宮城・神奈川・岡山・長崎の計5つある（ウキペディアより）そうだが、名前に魅かれて登る人も多いに違いない。だが「不老」でなくても、山行をするだけで寿命が延びる思いがする。リーダーの隆泰さん、そして同行の皆さん、研修をしながらの楽しい山行を有難うございました。



パラグライダー用吹流しの向こうに富士

概念図



概要

山名	甲東三山		
月日	平成25年2月10日(日)		
山城	中央沿線	地形図	1/25000 上野原
形式	日帰り	グレード	1A
目的	(1) “不老” の名につられて (2) (研修) 進行方向を地図で確かめながら歩こう		
費用	3500円	交通機関	電車、バス
行程	我孫子駅千代田線 6:10 発→新松戸 6:23/6:25→西国分寺 7:20→高尾 7:59/8:01 →上野原駅 8:25/8:42 (バス) →①甲東小学校前 9:06/9:12⇒②神明神社 9:35/41⇒ ③瀬淵山 554m 10:10/10:14⇒④和見峠 10:42⇒昼食⇒⑤高指山 911m 11:53/12:25 ⇒⑥不老山 839m 12:46/12:51⇒⑦金毘羅権現 13:23/13:29⇒⑧不老下バス停 14:30/ 15:26(バス) →上野原駅 14:41/14:55→高尾 15:13/16:12(反省会) →西国分寺 16:46 →新松戸 17:45→我孫子 18:00 晴れ温暖 行動時間:4時間50分 歩行時間:3時間50分		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道標はほとんどなく、特に前半は地図上にも登山道表示がないので地図読みをしっかりしないとルートを外れる。</li> <li>・テープの量は多くなっていてグレードを落としている。</li> <li>・踏み跡の薄いところではルート探しを慎重に行いすべて目標点まで正しく達することができた。</li> <li>・残雪が予想されたが、高指山 911m の頂上付近に少しあっただけだった。</li> </ul>		
参加者	中村隆(L)、原田和、箕輪完、桐生、瀬田、坂巻(SL)、中村育、齋田、郷田、矢澤 男6名 女4名 計10名		





< 8 0 9 >

ヤビツ峠～塔ノ岳（丹沢表尾根縦走）  
（1491m）

坂巻 明

雪景色には青が似合う

冬の丹沢山系を満喫した。毎日寒い日が続いて、今日も東京地方の最高気温の予想は7度だった。西高東低の気圧配置が強まり、北風強しとのことである。



三の塔にて

一枚余計に着こんで家を出た。当初7人の参加予定であったが、5人の山行となった。我孫子駅からは4人が乗り込んで代々木上原経由で秦野駅へ向かう、リーダーの北川さんと待ち合わせした。ここからバスに揺られて、予定どおり標高約800Mのヤビツ峠に到着した。乗客の大半は大山登山のようである。

バスを降りるとやはり寒い、急に身体が冷やされる。準備もそこそこで歩きだす。登山口まで下りだからか、寒さのせい、皆がものすごい速さで歩いた。いざ登山の始まりだ。

北川リーダーは歩くのが早い、いつもの倍のスピードに外崎さんから「私のペースで歩かせて！」と申し出があり、いつもの調子に戻った。今時、登山者は少ないのかと思いきや、女単独行に追い抜かれたあたりから徐々に人が増えてきた。私たちを追い越す人はいても追い抜かれる人はいなかった。富士山が時々見え隠れして絶好の登山日和です。



絶好の登山日和

雪は所どころ残っているのでアイゼンが必要かと思わせるが、歩くのには支障なく、とりあえず行ってみようとそのまま登る。今日もアイゼンなしで行けるかと思ったが、転ばぬ先の杖ではないが、1,000Mを越えたあたりでアイゼン着用の判断をした。



標高1000mを超え、アイゼンをつけての歩行

塔ノ岳の山頂小屋はずっと見えてはいるが、なかなか近づかない。頂上までの高低差はさほどないものの途中いくつかのピークがあり、アップダウンの繰り返しが続くのである。又、鎖場がいくつかあり、変化にとんでいて面白い半面、慎重な行動が余儀なくされる。久しぶりのアイゼンは足にかなりの負担となり、歩行速度はどんどん落ちてしまった。結局、かなりの遅れで塔ノ岳に登頂したため鍋割山は断念せざるをえなかった。

二の塔から稜線に出ると視界は開け、秦野市街、小田原市内、その先の相模湾を一望、大島をはっきりと観ることができた。青空のもと、丹沢

の景色に感動しきりでした。雪景色には青が似合うと思うのは私だけでしょうか。頂上からはアルプスの景色を遠くに見ることができました。又、反対方向に東京のビル群がうっすらと映っている。残念ながらスカイツリーは確認できませんでした。澄み渡ったそら、思ったより風は弱く、真冬の丹沢を充分楽しませてくれました。富士山が一日中私たちを見守ってくれたのは何よりのプレゼントとなりました。好天に恵まれ、リーダーに恵まれ、メンバーに恵まれ最高の日となりました。皆さんお疲れさまでした。

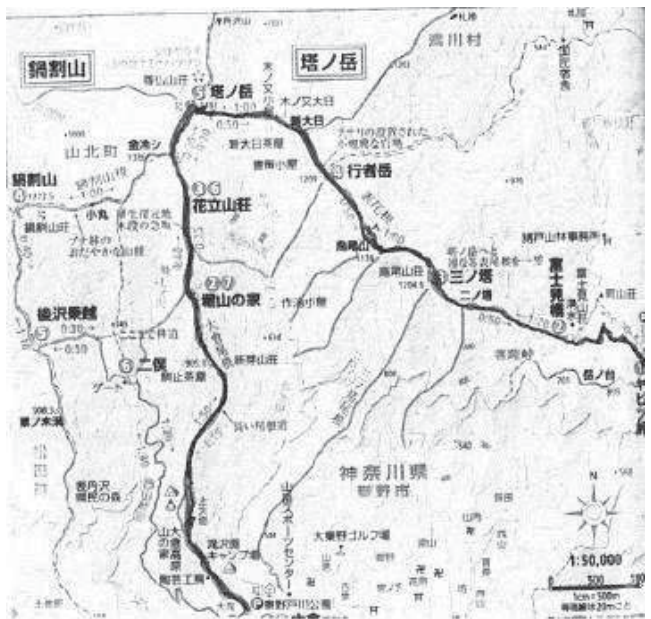


↑ 青の中に浮き立つ富士 塔ノ岳山頂 ↓



概要

山名	ヤビツ峠～塔ノ岳 (丹沢表尾根縦走)		
月日	平成25年2月24日 (日)		
山城	丹沢山塊	地形図	1/25000 大山
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	① 冬の丹沢のダイナミックな景観を楽しむ。 ② 丹沢の長大なクラシックルートを歩く。		
費用	約 3,000 円	交通機関	JR, 小田急, バス
日程	我孫子駅発 5:53 (千代田線) →代々木上原駅 6:41/6:44 小田急線→秦野駅 7:50/8:18(バス)→ヤビツ峠 8:50/9:10→富士見橋 9:30(登山口) →二ノ塔 10:45/10:55→三ノ塔 11:15 →烏尾山 11:50/12:00 →行者岳 12:30/12:45(昼食) →新大日小屋 13:40→塔ノ岳着 14:25/14:45→花立山荘 15:10(アイゼン着脱)→堀山の家 16:05→見晴茶屋 16:55→大倉バス停 17:40/17:48(バス)→渋沢駅 18:00/19:33 (小田急線) →代々木上原経由我孫子駅着 21:55		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秦野駅からヤビツ峠迄のバスはこの季節、平日の客の少ない時(?) (バス会社は道の凍結と云っているようだ) は蓑毛止まりになるので注意が必要。(冬季は確認が必要) ほとんどが大山方面に行く人のようだ。</li> <li>・ 丹沢のメインルートのため道標はしっかり付いているので迷う心配はない。但し、冬季のため、ヤビツ峠のトイレ使用不能、又、稜線上に小屋がいくつかあるが何れも閉じて居た。(尊仏山荘、花立山荘は営業していた)</li> <li>・ 行者岳からの下りは岩場の急降下のため、雪と氷のミックス状態で滑りやすい。慎重な行動が必要。</li> <li>・ 登山道は雪と氷及び泥状態のためアイゼンの装着、脱着の判断に迷う。</li> </ul>		
参加者	北川(L)、村松(SL)、外崎、坂巻、矢澤 男4名 女1名 計5名		



概念図



<寄稿>ワイワイ・ボリボリ 遊山報告

ペルー : ワイワッシュ山群トレッキング・  
ピューマ・リンリ &  
ディアブロ・ムド登山  
ボリビア : レアル山群 ワイナポトシ &  
イリマニ登山

高橋 重



Huayna potosi 6088m Illimani 6462m

### 1. 経緯

#### ① 昨年の登山経験から

- ・ブランカ山群とピスコ峰の大名登山に味を占め、アンデスで登れそうな 6000m クラスを目標にした。
- ・国内代理店を通すと費用が倍近く掛かるので、現地ガイド会社と直接交渉することにした。

#### ② 候補の山

- ・ a エクアドル : チンボラソ、b ペルー : ワスカラン、
- ・ c ボリビア : ワイナポトシ・イリマニなどが候補。
- ・ ペルーのワラスからワイワッシュ山群 4500m ~ 5000m をトレッキング。行程途中で 5500m 級の山に登った後、ボリビアで 6000m 峰を目指すことにした。

### 2. 計画と手配

#### ① 昨年の飛行機トラブルの経験から、リマまでの乗継は一回。利用する航空会社を同系会社にして、安いチケットを探した。時間が掛かったが、最終的に (往) ニューヨーク、(復) ロサンゼルス経由にした。

#### ② ガイド会社 : ネットで探し、ペルー・ボリビアとも候補を 2 社に絞って当方の希望を伝え、コストパフォーマンスや対応などを見て決めた。

#### ③ 現地との英語のやり取り、予約金送付やドル・チケット購入など大部分を秋山氏が進めた。

#### ④ 山岳保険は労山、日山協に各人が加入、海外旅行保険は治療・救援や損害等を対象に最低限の契約を行った。

### 3. 高度馴化および準備

#### ① 八ヶ岳、奥秩父ほかで積雪期登山を行った。富士山は予定日が 2 回とも天候が悪く、登らなかった。

#### ② トレッキング前にネグラ山脈、ウルス湖、ラカ谷へ日帰りハイキングした。(4225m ~ 4550m) この 3 日間は出発前の不節制がたたき、腹部膨満感などで消化酵素や整腸剤を服用。事前の健康に留意することを実感した。

#### ③ ボリビアでは、チャカルタヤ 5300m 日帰りハイキングを行った。

#### ④ SPO<sub>2</sub> (血中酸素分圧) は朝晩計測し、安全対策として Diamox を準備した。

### 4. 日程

日		Narita 18:10 ~ New York 23:05 ~	New York 18:15
6/1日			
2日			Lima 6:00
3日		Lima 9:30 ~	Huaraz 16:20
4日	ワラス	GH 8:05 → 9:00 Punta Callan 9:10 → bus stop 12:45 → 13:10 GH	
5日		GH 7:00 → 8:05 Pashpa → 11:00 Lag. Urus 11:45 → 13:55 Pashpa → GH	
6日		GH 7:00 → 8:30 LlacaValley → LlacaCocha 10:50 → Rf. Llaca → 12:30 GH	
7日		GH 7:00 → カンカシュ峠(4700m) → 12:20 Quatellhuain C.S	
8日		CS 7:05 → 9:25 Cacanán punta 9:50 → 12:20 Mitucocha	
9日		CS 7:15 → 10:05 Carhuac punta → 12:10 Carhuacocha	
10日		CS 7:15 → 9:00 SiulaLake 9:15 → Siula punta 12:00 → 14:15 Huayhuash	
11日		CS 7:20 → 9:45 Portachuelo de Huayhuash 9:55 → 12:25 Viconga CS	
12日		CS 9:05 → 9:45 Viconga hot spring 11:05 → 11:50 Viconga CS	
13日	ワイワッシュ	CS 2:50 → 8:35 Puma Rinri 8:50 → 11:00 Punta Cuyoc → 12:20 Huanacpatay	
14日		CS 8:40 → 10:50 San Antonio pass(5025m) 11:20 → 12:25 Huanacpatay	
15日		CS 6:55 → 11:35 Huayllapa → 12:25 Lunch 12:55 → 14:40 Huatiaq	
16日		CS 7:05 → 9:15 Tapush punta 9:40 → 10:15 Gashapampa	
17日		CS 2:50 → 8:40 Diabolo Mud o:00 → 12:20 Huacrish	
18日		CS 8:00 → 10:35 Jahuacocha	
19日		CS 7:00 → Llamac punta 10:15 → 12:05 Llamac → Lunch 13:05 → 16:05 GH	
20日	ワラス	ワラス市内見物とモンテレイ温泉	
21日	リマ	Huaraz 11:00 ~	Lima 18:45
22日	ラパス	Lima 10:20 ~	La Paz 13:20
23日		月の谷とTiwanaku遺跡観光	
24日		La Paz → Copacabana → Isla del Sol(Yumani)	
25日	チチカカ	Isla del Sol hiking(Yumani - Cincana) → Copacabana	
26日		Copacabana → La Paz	
27日	ラパス	Chacaltaya 登山	
28日			
29日		H 9:15 → 11:00 Zongo Pass 12:05 → Gracier 14:50 → 15:30 Refugio(BC)	
30日	ワイナポトシ	BC 8:45 → 10:50 Huayna Potosi High Camp	
7/1日		HC 2:20 → 7:05 Huayna Potosi (6,088m) → HC 10:50 → 12:00 BC → 14:15 H	
2日	ラパス		
3日		H 9:10 → 12:05 Pinaya 13:30 → 16:15 BC	
4日	イリマニ	BC 10:20 → 15:00 HC	
5日		HC 3:30 → 7:45 (6,250m) 7:50 → 10:10 HC 11:15 → 13:50 BC	
6日		BC 9:30 → 11:15 Pinaya 13:30 → 16:15 H	
7日		La Paz 21:30(night bus) →	
8日	ウユニ	Uyuni → Cementerio de Trenes → Necropolis(San Juan) → Chuvica(H. Colque)	
9日		Chuvica → Cave Galaxia → Isla Incawasi → Tahua(H. Tayka)	
10日		Tahua → Valcan Tanupa Crater → Uyuni 20:00(night bus) →	
11日	ラパス	6:00 La Paz	
12日		La Paz 17:00 ~	Lima 18:00
13日	リマ	旧市街世界遺産と天野博物館見学	
14日		人類考古学歴史博物館見学	
15日		Lima 00:40 ~	Atlanta 8:35
16日		Atlanta 13:40 ~	Narita 16:40

CS: キャンプサイト、GH: ゲストハウス、H: ホテル、BC: ベースキャンプ、HC: ハイキャンプ、→ 交通機関、⇒ 徒歩

5. ワイワイトレック 13 日間：ペルー  
(Circuit of the Cordillera Huayhuash)



ワイワイトレック：左から Rondoy, Jirishanca, Yerupaja. に囲まれた Jahuacocha 湖 (6/18)

- ①6/7～6/19: 高さ 3600m～5465m、行程約 110 km、イェルパハーやシウラ、ヒリシャンカなどの高峰を眺めながら山群を周遊し、途中で 2 つのピークに登った。泊地は大部分が 4000m～4500m。
- ②昨年と同様ヘルメットを持って行かなかった。今年は必携と言われ、装着は 2 日間だけだが、一日 3 ドルで借りトレッキング日程の 13 日分 39 ドルを支払った。
- ③メンバーはガイド 1 名、コック 2 名 (うち 1 名はアシスタントガイド兼務)、アリエロ (ロバ使い) 2 名、ロバ 12 頭、馬 1 頭。出発は登山日以外 7 時～8 時。キャンプサイトに着くとテントが張られ、起床後と到着後にはお湯とタオルが用意される、3 食付の大名 (小名?) 登山だった。

コース概略 (太線)



ワイワイトレック：メンバー  
秋山 竹内 セゴンディーノ 高橋  
マルコ、ロドルフォ、ジョバンニ、アルド

■7 日：三井鉱山関係の大きなボルボトラックが行き交う道路を進む。周囲の風景は地球が岩で出来ていることを実感させる。我々の乗ったバンツはカンカシュ峠 4700m 付近でオーバーヒート。ペルー入国後、竹内氏の  $SP_{O_2}$  値が低い。体調優れず、初日キャンプ地の Quatelhuain までの車中 5 時間近く寝ている。



第一日目キャンプサイト

■8 日：昨夕～夜半は雨がテントを叩く。朝、気温 2℃、Cacanan punta [峠] 4700m は狭く、ロバも人も渋滞している。思い掛けず甘いスイカが食べられた。アマゾン側は暗雲。途中は霰と雨、アンデスの象徴コンドルとヴィスカッチャを見る。6000m に手が届かないニナシャンカ、ロンドイが高く見える。夜中 2 時頃、雨が強くなる。

■9 日：今日も朝から雪と霰。雨具を付けて、雪が残る Carhuac punta 4650m を越え、広い谷を進む。楽しみにしていたイェルパハーとシウラがようやく見えた。明日は休息日でここ Carhuacocha に 2 泊の予定だったが、天気がおもわしくなく勿体ないので Huayhuash まで行くことにする。

■10 日：秋山氏が紙で作ったテルテル坊主のお蔭で朝から青空。絶景を眺めるために、厳しいといわれる Siula Lake～Siula Punta 4840m のルートを探る。シウラ 6344m からは、轟音と共に雪崩が何度か滝のように落ちていた。Siula punta に上がると遠くに真っ白なローラ山脈が現れた。CS への途中、数が少ないというビクーニャの群れが走るのを見て、スタッフも我々も喜んだ。





Yerupaja6634m Y. chico6121m Jirishanca6094m

■11日：アマゾン側からリマ側へ入った。天気は良い。朝は霜で真白。Portachuelo de Huayhuash 4790mの手前から、ローラ山脈でスキーが出来る Leon Huacanan [Lion sleepingの意] 5427mや、名前の分からぬ三角錐の山が大きく見える。ワマシ (Willa Willaの小型)の花が多い。岩の質も変わった。クヨック 5550m、トラペシオ 5644mなど尖った山が美しく、ピューマ・リンリが見えた。午後、ロドルフォと打合せ。明日はピューマ・リンリ登山の長時間行動に備えて休養日とし、Viconga 温泉の往復に予定変更。



青空の Huayhuash CS 4367m



Trapecio 5644m

■12日：今日は Viconga 温泉入浴ツアー。浴槽は2つ、1つは石鹸使用OK、もう一つは肩までの深さ。湯温はちょうど良く極楽。スタッフは洗濯に忙しい。彼らのうち泳げるのはセゴンディーノだけ。山の中では寒くて水泳練習など出来ないのだろう。脇にビールや食事が提供できる「バラ」という店があったが利用しなかった。



さっぱりし、満足、満足！！



「バラ」のメニュー

■13日：1時半起床。ビスケットと茶を摂り、2：50 出発。日の出6：20頃。6：40 アイゼンを装着しガラ場の雪を拾って進む。ペニテント（筧氷）の所は堅いが、他は氷河を覆った雪が潜り、体力を消耗する。気温-5~-8℃程度。ピューマ・リンリ山頂からはワイワッシュの高峰が目の前に広がる。Punta Cuyoc5040mへの下りでビクーニャを8頭見た。暗い中の不安定なモレーンの登りと登山靴での長時間歩行でバテた。



氷河を山頂へ



8：35 Puma Rinri 5465m

■14日：巨峰群を間近に見られる San Antonio pass5025mを往復する。サラポのギザギザ模様は氷河が雪崩れた跡だろうか？紋様が面白い。峠からは予想どおり青空に映える氷河の高峰の絶景、天気も良く大満足。



Yerupaja、右 Siula と Sarapo



ギザギザ模様

■15日：今日は4500mのCSからコース中一番低い Huayllapa3600mへ下り、さらに Huatiao4550mへ1000m登り返す厳しい一日。7時前の早い出発となる。Huayllapaは、数百人の集落で関所が2ヶ所。子供が『おねだり』に集まる。登り返しの道はオルティガやエウィシダ（エニシダと同じ花）、ベロニカ（同オオイヌノフグリ）など花が多い。今日の歩数は3万歩。Afternoon teaには揚立てのサツマアゲモドキ（秋山氏はコロモ無しコロッケと表現）、夕食は牛肉たっぷりハヤシライス、焼きパン入りジャガイモと野菜のスープ、フルーツたっぷりのデザート。集落で食材を仕入れたのだろうか、リッチな食事だ。霰が降り、16時過ぎミゾレとなる。

■16日：積もった霰の中にワマシが咲く道歩く。鉱山道路が通っているため、作業員でぎゅう詰めトヨタ車が脇を走る。自然保護地付近の池は凍っている。今日は10700歩、楽な行程だった。

Gashapampa では明日登るディアブロ・ムドを見ながら午後はゆっくりと寛いだ。今日も 16 時過ぎから霰が降る。



ゆったり！！

■17日：今日はペルーの父の日。2:50 出発。5000m 以上は雲の中。真っ暗闇の中、急なガレと岩を登り、山頂から北へ伸びた尾根に上がる。日が出る頃、氷河末端でアイゼンを着けアンザイレンする。この後、快晴になり暑く、ヤッケを脱ぎ手袋も薄手に変えて箭雪の急斜面を登る。ディアブロ・ムド山頂は春山、ワイワッシュの山々をゆっくりと眺めて風景を堪能した。



ペニテント(箭氷)を登る



ポカポカ陽気の氷河



↑ 8:40 Diablo Mudo 5383m  
Huacrish 谷へ下る →



予定では山頂から Huacrish 谷へ下り、Jahuacocha まで 12 時間の長い道のりを歩く計画だった。数日前、ロドルフォに、重い登山靴を履いて厳しい歩行はウンザリだと告げると、Jahuacocha での予備日を無しにして、Tsacra 谷合流点近くで泊まることになった。厳しさ回避の柔軟思考に感謝。下降途中、Huacrish5622m から直接湖に落ちる氷河、コンドルやベナード(鹿)、ワイワッシュの巨峰群は勿論のこと遠くにブランカ山群の K2 と言われるワトサンなどが見え気分の良いコースだった。Tsacra 谷出合のフカフカの草のテント場は牛糞が多いが、Yerupaja や Rasac の夕焼け、新月の夜に浮かぶ北斗七星・南十字星・さそり座の尻尾などの星々が綺麗だった。

■18日：数百頭の牛が放し飼いされている、牧場のような谷を下る。人を見ると塩を貰えると思って牛が寄ってくるが、大きいので怖い。最終日のキャンプ地は 2 つの湖 Jahuacocha と Solteracocha のすぐ下流、牛囲いの石垣のため糞もなく、川の水草が美しく気分が良い。出張売店販売員のおばさん 2 人がビールを冷している。2 人から平等に買えと、ロドルフォが言う。クリスタルビール@8 ソルを 6 本調達、4 本をスタッフ、2 本を私達のご褒美にする。



↑ 出張売店  
← ビール 6 本ちょうだい

アンデスで最も良い眺めといわれる 4250m の湖の畔での久しぶりの Beer は旨かった！釣名人セゴンディーノが模様の美しいマス釣り始めた。最初の餌はパンだったが、釣った魚のイクラを餌にするとどんどん釣れる。私も秋山氏も釣った。小さな魚をリリースしようとする時駄目という。残りはセゴンディーノがロバに積んで土産にするらしい。夕食には蒸しマス 2 匹が出された。美味。



うめー！！ Beer



うめー！！ マス

■19日：売店のおばさんに Adios、ケニユアルの谷をいくつもいくつも越えてやっと Punta Llamac4320m に着く。長い。ここでイェルパハー、ディアブロ・ムドなどの山々は見納め。峠から 1000m 下る。途中、昔のカクタス石油の看板のようなサボテンが林立する。リヤマックに近づくとつれ、標高が下がり花の種類が多くなった。町は、バレーボール大会で賑わっており、かき氷屋などが出ていた。町が混んでいるので、昼食は車で少し下った川辺で食べた。昨年同様、予定を消化しないとこのトレッキングは終わらないらしい。





Yerupaja 見納め



川辺の昼食



モラレスゲストハウス到着

ワラスに着き、ボリビア行き飛行機のリコンファームを依頼し、2週間分の洗濯物をランドリーに出した。翌日には仕上がった。クリーニング代は8ソル/kgだった。

■20日：ワラス市内散策とモンテレイ温泉、21日：リマへバス移動(8hrs)、22日：リマから空路ラパスへ移動。エルアルト空港は4090m、ラパスの町は3700m~3900mの高さに位置する。

## 6. ボリボリ (遊山後半：ボリビア)

■23日：月の谷、Tiwanku 遺跡観光

■24日：チチカカ湖へ出発。Isla del Sol でインカ初代王マンコ・カパックが育ったという遺跡を見る。湖の青さが印象的だ。4070mの丘で夕日見物後、ロジ泊。

■25日：太陽島を北に歩きインカ遺跡を見学。チチカカ湖の奥にレアル山群が見えた。船でコパカバーナに戻る。

■26日：近くの山にある教会に登る。本物のウニや貝、ミニチュアの車・お札・服などが供えられ、何を祈っているのか興味深い。昼食はマヌエルに大衆食堂に連れて行ってもらい、BigなTrucha 定食を食べる。午後ラパス帰着。夜は高級レストランでリヤマ肉を食す。



↑ チチカカ湖 3890m  
←ラパスと Illimani

## 7. ワイナポトシ

■27日：再度の高度馴化のためチャカルタヤ5310mに登る。明日から登るHuayna Potosiの三角錐が美しい。ガイドのマヌエルがルートの説明してくれるが、遠くから見ると雪面のトラバースが厳しそう。山は、下から見上げると登れないように見えるのが常だが、ほんとうにあの切り立った山に登れるのかと思った。



実際のルート (竹内氏 GPS)

■28日：ラパスにて休息日。登山準備。

■29日：車で2時間、ベースとなるZongo Passの山小屋に入る。午後から、ガイドのマルコと、氷河のクライミング、クレバス通過などのトレーニングに出掛ける。

気温高く、氷河上を水が流れる。小屋は同宿10数名、マット付で広い。スペイン人8名の若いパーティーの1名が吐き気で苦しんでいる。一気にここへ入ってきたと言う。高山病だろう。マルコが彼女と話していたが、翌朝起きるといなくなっていた。Complicationのため下山したとのこと。洗面器など置かれ苦しんだ様子が伺えた。

■30日：ハイキャンプまで2時間ほどモレーンに登る。

途中で、入山料と記名を求められる。ハイキャンプには昨日会った岐阜の30歳台の日本人が戻って来ていた。オーストラリア人との3人パーティーで山頂手前のリッジで引き返したという。夕食は16時半過ぎ、元気で大食漢の66歳のフランス人登山者と一緒に食べた。ほんの少し頭が痛く、胃の調子が良くない。念のため鎮痛剤とDiamox1/2服用して就寝。明日は1時Breakfast、2時出発。夜中23:30頃から外国人の若いパーティーがガヤガヤし始め、1時過ぎに出て行った。

■1日：2:20 出発。途中数パーティーを追い抜く。山頂手前のリッジはかなり細く、特に右側(西)はスッパリと1000mほど切れ落ちている。ルートはピックも刺さらないほど堅いが、ペニテントが足を安定させてくれる。山頂はとても狭く、数人の先行パーティーが居て写真も撮れないほど。早々に下り始める。ワイナポトシの三角錐の影が大きくチチカカ湖方面に伸びていた。



朝焼けの山頂へ



山頂直下の急な下り

快晴の中、ハイキャンプで装備解除し、ユルユルとモレーンを下る。Diamoxの影響か手に軽いしびれ感がある。ポーターが担いで下ろしてくれる荷物を待って、ラパスに戻った。高度のためかヨレヨレの一日だった。



Huayna Potosi 6088m 山頂から Illimani



下山途中



モレーンと Huayna Potosi 登山ルート

## 8. イリマニ (アイマラ語で黄金のコンドルの意味)

■2日: ラパス休養日、洗濯と準備。

■3日: ラパスから車で3時間、大きな谷を、そして何度も山を越え、車が崖から落ちそうな怖ろしい道を進み、のんびりした雰囲気のある Pinaya 村に到着。テーブルを広げてイリマニを見ながらのんびりと Lunch。出発時間も、到着予定も、そして約束も、あつて無きが如し。ボリビアの国民性なのだろう。郷に入っては郷に従え。大分慣れた。ポーターは女性が多く子供も働いている。聞くと冬休みだという。遠くの学校に山や谷を越えて毎日トレッキング通学しているのだろう。小さいが遅い。

だだっ広い草原を、コンドルが羽を広げたようなイリマニが見えるベースキャンプまで、ただただゆっくり、のんびり歩く。荷物はポーターとカバヤーヨ(ラバ: ロバのように荷物を運べない、動かない。)が運んでくれる。



出発まで1時間半のんびりと



子供が働く



BC 4550m (Puente Roto)

■4日: 8人ほどのポーターがNido de Condor 5450mまで荷物を運び上げてくれる。途中、ポーターがなかなか追いつかない。来たと思うと Lunch break、動かない。ガイドもその仲間に入り、お弁当開きに付き合っている。天気の良いうちにテントが張れば良し、なのだろう。ハイキャンプまでの岩尾根は外傾し滑り易い。北峰から落ちる氷河とセラック、ヒマラヤ巒を見ながら注意して登る。テント場は氷河の末端で、転がり落ちぬように気をつけねばならない。ラパスの夜景が美しい。一番ホテルの南雲さんから夜景の撮影を頼まれているが、良い写真は撮れない。明日は、3時スタート。





ポーターが行き交う HC5450m (Nido de Condor) と南峰



北峰の氷河

■5日：2時起床、3時半出発。7時までずっと行動し、腹が減って Snack Break をお願いする。今日は寒が入っているのか風が強く、周囲も山頂部も見えない。ネックウォーマーを顔に被り、フードも被るが寒い。風で涙目になる。この状況では、登頂してもただ行っただけ。ジジー登山隊は安全第一。「ここで終えましょう！」「止めよう！」「Our decision is NO GO」のやり取り。何度かマルコから確認されるが、下り始める。6300m 付近、気温-13℃。もう少しで山頂だが、ここがイリマニ、満足する。登るとき、ハイキャンプから上部の急斜面は暗くて良く見えなかったが、下るときは細い箇所もあった。靴を履きかえベースキャンプまで滑らぬよう一気に下る。



風雪の中・・・コイノボリ・・・

北峰をバックに下山途中



Nido de Condor のテントへ下る

■6日：夜中起きると外は数cmの積雪。景色がすっかり変わった感じだ。近くの小川は凍っている。遠くに見えるワイナポトシも真っ白。イリマニ山頂付近はレンズ雲（ボリビアでは『ツェッペリン』と呼ぶそう。なるほど！）が青空に映える。風が強いのだろう。

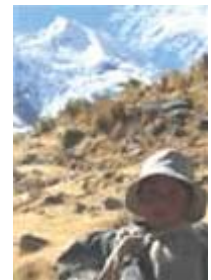


B  
C  
は  
真  
っ  
白

登ってくるポーターは、まさか、まさか!!! 裸足にサンダル履きの女性が大部分ではないか！ Pinaya 村には 11 時過ぎに着いたが、カバーヨ隊が到着したのは 13 時過ぎだった。ポーターの妻を待つ男たちは、ビールを飲んで昼からへべレケ！いい身分だ。人を見ていると、まったくとしたボリビアをあちこちで感じる。夜は、南雲さんに教えてもらい、ボリビアの家庭料理、Picante de Mixto (Lengua と Pollo=牛タンと鶏) をフードコートに食べに出掛ける。



サンダルの女性ポーター



Pinaya 村で

■7日夜～11日：ウユニ塩湖へ 11 時間の夜行バス。フルフラットに近いクライニングだが、ダートの高原を走るベンツの乗り心地は不快。やはりベンツは高速道路向きか。100 km×120 km (琵琶湖の 18 倍) と言われるウユニ塩湖は一見の価値がある。ホテルは塩を切り出した壁、ベッド、

テーブルで構成されている。一泊目の Chuvica のホテルは寒くてシャワーも浴びなかった。高度 3750m、寒いのは我慢。干上がった塩湖をレクス 4 輪駆動車で走り回り、インカの遺跡や、ミイラを数多く見学した。Inca Wasi 島にはサボテンが多い。1年に1cmほどの成長だというのが、何でサボテンが生えているのか不思議な感じだった。フラミンゴも多く、写真を撮ろうと近くまでよるとサッと飛んでいなくなる。何故あのように辛い物の中から必要な物だけ食べられるのだろうか？塩のフィルターがあるとは言っていたが。



全部塩 道路



全部塩 ホテル

## ■12日～16日：ラパス～リマ～日本帰国

リマの世界遺産旧市街地や天野博物館、人類考古学博物館などをゆっくりと見学し、ここまでは43日間順調だった。しかし、ペルー日本大使館の写真撮影をしていると、職務に忠実な警備の警察官に見咎められて門まで連行される。さらに、ラン航空の搭乗手続きではオーバーブッキング。明日まで待つか、今日なら他の航空会社を利用するか2つに一つだという。後者を選び、最短のロサンゼルス経由が吹っ飛んでアトランタ経由となった。

小さなトラブルと1名の軽い凍傷はあったが、46日間、事故が無くて良かった。2人には大々感謝。

## 9. メモ

- ①気象など：イリマニ登山時は、乾季のラパスでもかなりの雨が降るといふ異常気象だったが、他の日は概ね予想通りの天候。テントは3人で2張り用意されたが、1つに3人で寝たので寒さは感じなかった。ワイワイトレックでは堅いマットが用意された（ロバが運んでくれたからだろう）。しかし、イリマニのハイキャンプは氷の上で、朝起きるとかなり濡れていた。氷上泊にはエアーマット以外に別途大きなマットが必要だ。
- ②健康：不慣れた土地と食事、高度の影響、時差を考え、食事は胃腸への負担軽減のため腹八分が良い。胃腸薬の世話になった。また、水か生野菜が原因が分からない下痢に抗生物質を服用した。
- ③高山病：SPO<sub>2</sub>はワイワイトレック中、特にディアブロ・ムド登山前の Gasahpampa (4550m) と

ワイナポトシ HC (5170m)、イリマニ HC (5450m) で低値になったが、高度障害の症状が現れる程ではなく、Diamox1/2錠を服用しただけだった。水分は朝食、午後 tea、夕食時、行動時など意識して摂取した。

- ④宿泊：リマは日系人経営の当山ペンション、ワラスはガイド会社のモラレスゲストハウス、ラパスは日本人南雲さん経営の一番ホテルを利用した。南雲さんには多くの情報をいただいた。多謝。
- ⑤食事：テント泊、ホテル泊の食事、口に合わないものはなかった。ラパスでは南雲さんの紹介で数か所の日本食を食べに行った。
- ⑥費用；1名約70万円（航空券27万円、現地ガイド会社、チップ、食事、医薬品、旅行保険など含む）。

## 10. あとがき

- ①「ペルー」ワイワッシュ山群、「ボリビア」リアル山群とも予定の山をほぼ登ることができた。天候がよかったこと、高山病対策が出来たことなどがあげられるが、一番は、計画がしっかり作れたことだろう。
- ②国内の冬山、特に1日で1000m登る山行やトレーニングが重要だった。数か月3kgの足錘を付けて犬と散歩した。現地での4～5日の高度馴化は有用だった。
- ③「真暗な中のモレーンや雪上を歩くのは面白くない」と強く感じた。日本の山でも早立ち、早着が原則だが、何も見えぬ中、ひたすら登るだけだからだろうか。
- ④この年齢で長期間、海外の山を楽しめるのは一握りの人間だと実感した。年明けから解らぬ英語と首引きの連日を理解し遠くの山に出してくれた妻、これまでご指導いただき、かつ健康な体をプレゼントしてくれた「O」先生には大感謝。応援してくれた友人や山仲間、アドバイスいただいた「岳人あびこ」の方々、現地スタッフなど支えていただいた皆さんのお蔭で楽しい遊山が出来たことに深謝申し上げる。



↑半地下神殿の顔 (Tiwanaku 遺跡)  
←インカの壺 (人類考古博物館)





# 資料

推移グラフ（1996年～ ）

山行一覧表（2012年3月から2013年2月）

活動の記録(2012年度)

山行(山名)索引（1996年～2013年2月）

# 活動の記録

その1

年	月	日	行 事	場 所	備 考
1996年	10	12-13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
平成8年	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認

\*\*\*\*\*  
 会の創立から平成21年(2009)/2月までの活動の記録はやまなみ第10号に記載  
 \*\*\*\*\*

年	月	日	定例集会	運営委員会・山行部会議	備 考
第14期	3	8	湖北台近隣センター	10 市民プラザ	
2009年	4	8	アビスタ	14 市民プラザ	
平成21年	5	13	アビスタ	19 市民プラザ	
	6	4	湖北近隣センター	16 市民プラザ	
	7	8	アビスタ	14 市民プラザ	
	8	5	アビスタ	18 市民プラザ	
	9	9	湖北近隣センター	15 市民プラザ	
	10	4	アビスタ	13 市民プラザ	
	11	4	アビスタ	10 市民プラザ	
	12	6	湖北近隣センター	15 アビスタ	
2010年	1	6	アビスタ	12 アビスタ	
平成22年	2	3	アビスタ	9 市民プラザ	
	2			14 久寺家会館	(拡大委員会)

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2009年	3	8	第14回総会	湖北台近隣センター	
平成21年	3	29	新人歓迎山行	元清澄山	
	5	23	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	6-7	市民登山	湯の丸山・四阿山	一般7名、会員30名、計37名
	7	8	山行文集「やまなみ」第10号発行		平成20年3月～平成21年2月
	8	1	「やまたん坂口よし江さん追悼号」発行		
	9	5	ウィズハイク	雨引山	一般19名、会員26名、計45名
	10	4	岳人祭	五本松公園	
	12	6	忘年山行	雪入山	
2010年	2	14	入会説明会	市民プラザ	

教育研修	月	机上研修	実技研修
2009年	3	オリエンテーション	新人歓迎山行
平成21年	4	山歩きの装備と衣服	天狗岳(北八ヶ岳)
	5	地形図の読み方(磁北線の引き方)	石割山
	6		流石山～大倉山
	7		水根沢谷
	7	夏山に向けての注意事項	木曾駒～三の沢岳
	8	生き生きシニアの栄養	越後駒ヶ岳
	9		岩山(鹿沼)
	10	ザイルを使って斜面の登下降の練習	大菩薩嶺
	11	山行計画の立て方	
	12	山の気象(気象遭難を起こさないために)	忘年山行
2010年	1	地形図の読み方(記号、等高線など)	吾妻耶山・今倉山
平成22年	2	坂口さんの遭難時の気象について	鍋割山～丹沢山
	2		伊豆ヶ岳

年	月	日	定例集会	運営委員会・山行部会議	備 考
第15期	3	14	湖北台近隣センター	16 市民プラザ	
2010年	4	7	アビスタ	13 市民プラザ	
平成22年	5	12	アビスタ	21 市民プラザ	
	6	10	湖北近隣センター	15 市民プラザ	
	7	7	アビスタ	13 市民プラザ	
	8	4	アビスタ	17 市民プラザ	
	9	9	湖北近隣センター	14 市民プラザ	
	10	3	五本松公園	14 市民プラザ	
	11	10	アビスタ	19 市民プラザ	
	12	2	湖北近隣センター	14 市民プラザ	
2011年	1	12	アビスタ	18 市民プラザ	
平成23年	2	2	アビスタ	8 市民プラザ	
	2			13 市民プラザ	(拡大委員会)

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2010年	3	6-7	市民活動フェア-in我孫子	アビスタ	当会活動の紹介(写真展示他)
平成22年	3	14	第15回総会	湖北台近隣センター	
	4	4	新人歓迎山行	高鈴山	
	5	23	市民登山説明会	市民プラザ	



# 活動の記録

その2

	6	5-6	市民登山	茶臼山～三本槍岳～朝日岳	一般13名、会員24名、計37名
	7	7	山行文集「やまなみ」第11号発行		平成21年3月～平成22年2月
	9	4	ウィズハイク	雨引山	一般19名、会員26名、計45名
	10	3	岳人祭	五本松公園	
	12	5	忘年山行	御前山	
2011年	2	13	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月		机上研修		実技研修
2010年	4		新人のオリエンテーション	新人歓迎山行	山のマナー、三点確保の練習
平成22年			山歩きの衣服	アモウ沢・滝子山	山菜と調理とキャンプ体験
	5		地図の読み方・コンパスの使い方	唐松岳	春山のテント生活と雪上歩行
	6		山の歩き方とストックの使い方	鶏頂山	地形図を見ながら歩いてみる
	7		山で事故にあった時の対処法	御岳山～日の出山	夏場の低山歩き
				白砂山・八間山	ブナの持つ働きを知ろう
				八ヶ岳	八ヶ岳の魅力を味わう
	8		山行中の食事摂取と水分補給	常念岳～槍ヶ岳	山行中の食事と水分補給の実践
	9		山歩きの体力とトレーニング		
	10		ザイルを使って斜面の登下りの練習と担架の作り方・搬送の仕方	天狗角力取山	避難小屋に泊ってみよう
	11		天気図の基礎と天気予報の見方	手賀沼一周	手賀沼のゴミを拾い、景観を大事にしよう
	12		雪山の装備と歩き方	忘年山行	行事山行時の食事の作り方
2011年	1		ストレッチングで体を柔らかく		
平成23年	2		三角点について知ろう		
	3			新人卒業山行	15期生による山行計画の企画と山行
年	月	日	行 事	場 所	備 考
第16期	3	13	湖北台近隣センター	15 市民プラザ	
2011年	4	3	市民プラザ	12 市民プラザ	
平成23年	5	11	アビスタ	17 市民プラザ	
	6	9	湖北台近隣センター	14 市民プラザ	
	7	6	アビスタ	12 市民プラザ	
	8	3	アビスタ	9 市民プラザ	
	9	8	湖北近隣センター	13 市民プラザ	15周年記念山行の延期決定
	10	5	アビスタ	11 市民プラザ	
	11	9	アビスタ	15 市民プラザ	
	12	8	湖北台近隣センター	13 市民プラザ	
2012年	1	11	アビスタ	17 市民プラザ	
平成24年	2	1	アビスタ	12 市民プラザ	
	2			13 久寺家通り会館	(拡大委員会)
年	月	日	行 事	場 所	内 容
2011年	3	13	第16回総会	湖北台近隣センター	
平成23年	4	3	東日本大震災義捐金		5月に30,000円を労山に送金
	10		新人歓迎山行	赤雪山	
	5	11	山行文集「やまなみ」第12号発行		平成22年3月～平成23年2月
	5	22	市民登山説明会	アビスタ	
	6	5	市民登山	榛名山	一般29名、会員25名、計54名
	6	19-20	我孫子市民フェアに参加	アビスタ	山の写真展示
	6	17-19	県連の東日本大震災石巻支援に参加		会員2+家族1
	7	15-18	県連の東日本大震災石巻支援に参加		会員2
	10	5	15周年記念T-シャツ配布		
	10	5	やまたん 青山寿子さん追悼号発行		
	12	5	忘年山行	達澤山	
2012年	2	11	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月		机上研修		実技研修
2011年	3		新人のオリエンテーション		
平成23年	4		BOM研修 登山計画書作成	BOM 滝子山南稜	行動中の注意、山での歩き方
	5		BOM 地図の読み方・テント泊装備		
			地図の読み方	黒金山	地図を見ながら歩く
	6			BOM 瑞牆山	地図読み山行、テント泊
	7		BOM 装備と服装		
	7			岩木山・白神山	無雪期の危険
				岩手山・八幡平	避難小屋に泊る
				甲斐駒ヶ岳	地図を見ながら歩く
	8		装備・ロープワーク	常念岳～蝶ヶ岳	無雪期の危険
				雲の平～高天原	北アルプスに遊ぶ(黒部源流と花)
				BOM 葛葉川本谷	沢登りを楽しむ
	10		ホームページ・やまたんなどのメディア		

# 活動の記録

その3

			BOM 岩山	岩登り体験	
			横隈山	リーダーの役割・とるべき行動	
			羽黒山	観天望気	
	11	山行グレード判定基準			
		BOM 山行中のアクシデント対応			
	12	BOM 雪山の技術			
		山行中のアクシデント、応急手当			
2012年	1		BOM 高山	雪山の体験	
平成24年		雪山の技術			
	2	山のアンダーウェア			
			大蔵高丸	積雪期の危険	
	2		BOM 陣馬山	卒業検定（山行計画と実行）	
年	月	日	定例集会	運営委員会・山行部会議	備考
第17期	3	11	湖北台近隣センター	13	市民プラザ
2012年	4	4	アビスタ	10	市民プラザ
平成24年	5	9	アビスタ	15	市民プラザ
	6	7	湖北台近隣センター	12	市民プラザ
	7	4	アビスタ	10	市民プラザ
	8	1	アビスタ	7	市民プラザ
	9	6	湖北近隣センター	11	市民プラザ
	10	3	アビスタ	9	市民プラザ
	11	7	アビスタ	13	市民プラザ
	12	6	湖北近隣センター	11	市民プラザ
2013年	1	9	アビスタ	15	市民プラザ
平成25年	2	6	アビスタ	12	市民プラザ
	2			17	市民プラザ
					(拡大委員会)
年	月	日	行 事	場 所	内 容
2012年	3	11	第17回総会	湖北台近隣センター	
平成24年	4	8	新人歓迎山行	物語山	
	5	27	市民登山説明会	アビスタ	
	6		やまたんPDF配信開始		
	6	10	市民登山	浅間隠山	一般19名、会員19名、計38名
	7		山行文集「やまなみ」第13号発行		平成23年3月～平成24年2月
	8	19	青山さん追悼山行	三ノ木戸山	
	9	1	ウイズハイク	御前山	一般20名 会員19名 計39名
	9	21-23	15周年記念山行	谷川岳	
	11	11	15周年記念行事	清澄山（東大演習林）	
	12	2	忘年山行	八溝山	
2013年	2	17	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月	日	机上研修	実技研修	
2012年	3		新人会員のオリエンテーション		
平成24年	4		疲れにくい歩き方・休憩のとり方	仏果山～経ヶ岳	疲れにくい歩き方・休憩のとり方の実践
	5		山での食事（日帰り＆テント泊）		
				守門岳・浅草岳⇒鋸山での食事作り（テント泊の場合）	
	6		地図の読み方・コンパスの使い方		
	7		雷から身を守るには？		
	8		低体温症について		
				立山～奥大日岳	高山植物を楽しむ。種類と特徴
				仙丈ヶ岳	地図の読み方
	9		山の成り立ち（地震と火山にも関連して）		
	9		ウイズハイク	御前山	施設通所者と一日を過ごそう
	9		谷川岳集中登山	谷川岳	15周年記念登山を成功させよう
	10		山の成り立ち（地震と火山にも関連して）		
				鼻曲山	山名の由来
	11		①山の成り立ち ②鼻曲山の山の由来		
				手賀沼一周	ゴミを拾って美しい故郷をいつまでも
	12		人が転落した！まず何をすべきか		
				甲武信ヶ岳	冬山のテントでクリスマスを祝う
2013年	1		雪山登山の危険/大蔵高丸山行を振り返って（B）		
平成25年				三ツ峠山	風景写真を写そう（富士山）
	2		日本百名山のよもやま話		
				宝篋山	新人による山行計画の作成と山行
				甲東三山	地図で進行方向を確認しながら歩こう



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
1	会津朝日岳 (創立山行)	会津	1996	10/12-13	テント	B	細野省二	1
298	会津朝日岳	会津	2002	12/21-23	テント	C	川下敬史	4
492	会津朝日岳	会津	2006	7/1-2	避難小屋	3C	外崎 蓮	8
110	会津駒ヶ岳	会津	1999	6/26-27	民宿泊り	B	大串秀雄	2
269	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2002	6/21夜-24	テント	B+	武内勇二	4
781	会津駒ヶ岳～中門岳	南会津	2012	6/30 - 7/1	山小屋	2B	村松敏彦	14
121	荒川三山・赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2
225	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4
497	荒川三山～赤石岳	南ア	2007	8/4-7	山小屋	3C	外崎 蓮	8
445	岩菅山～赤岩山	上信	2006	6/25-27	避難小屋	4B	外崎 蓮	7
258	赤岩尾根	西上州	2002	4/20-21	テント	D	柴 勇	4
582	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10
316	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴 勇	5
789	赤岩瀧	前日光	2012	8/26	日帰り	1A	原田和昭	14
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4
56	赤城山 (黒檜山)	上州	1998	6/21	日帰り	A	外崎 蓮	1
323	赤城山 (黒檜山)	上州	2003	6/1	日帰り	A	柴 勇	5
571	赤城山 (黒檜山)	上州	2008	1/19-20	テント	3C	高橋 重	9
524	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2008	2/3-5	山麓泊	2B	村松敏彦	8
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11
694	硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12
560	赤薙山 (県連平日ハイク)	日光	2007	10/11	日帰り	1A	斎藤清一、県連	9
378	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6
728	赤雪山 (新人歓迎山行)	足利北部	2011	4/10	日帰り	1A	外崎蓮	13
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2007	6/30-7/2	山麓泊	3B	柴 勇	9
174	秋田駒ヶ岳	東北	2000	9/16-17	旅館	B	外崎 蓮	3
483	熊野古道・悪四郎山	熊野	2007	5/14-17	山麓泊	3B	細野清子	8
153	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント/民宿	D	村松敏彦	3
346	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴 勇	5
21	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1
399	朝日岳～白馬岳	北ア	2004	9/16-19	山小屋	3C	石垣吉朗	6
22	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1
112	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎 蓮	2
524	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2007	2/3-4	山麓泊	2B	村松敏彦	8
695	白馬岳～朝日岳	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎 蓮	12
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳 (市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12
757	旭山～達沢山 (忘年山行)	中央線沿線	2011	12/4	日帰り	2A	坂巻明	13
99	朝日連峰 (ゴールドenウィーク合宿)	朝日連峰	1999	5/1-4	避難小屋	D	村松敏彦	2
165	朝日連峰	朝日連峰	2000	7/28-30	テント	C	柴、清家	3
500	朝日連峰	朝日連峰	2006	9/16-18	避難小屋	3C	千葉有子	8
204	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘/テント	A+, C	細野清子	4
242	浅間隠山	上州	2001	11/18	日帰り	A	外崎蓮	4
778	浅間隠山 (市民山行)	上州	2012	6/10	日帰り	1B	石垣吉朗	14
644	仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	4C	外崎蓮	11
411	矢倉岳～足柄古道	箱根	2005	11/8	日帰り	2A	高橋芳恵	6
2	愛鷹山連峰	富士周辺	1996	12/14-15	無人小屋	C	柴 勇	1
211	愛鷹連峰縦走<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/16-17	旅館	C	清家三保子	7
355	足和田山	富士周辺	2003	12/7	日帰り	1A	斎藤・中村	5
660	足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2007	6/26-29	山麓泊	5B	高橋 潔	7
630	湯の丸山・四阿山 (市民登山)	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11
379	畦ガ丸	丹沢	2004	5/29	日帰り	2B	斎藤清一	6
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12
670	日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4
566	愛宕山・ボンボン山	京都	2007	11/20-22	山麓泊	2A	細野清子	9
260	愛宕山～吾国山	常陸	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4
29	愛宕山	房総	1997	10/19	日帰り	A	県連、高橋英	1
704	愛宕山 (ウイズハイク)	茨城	2010	9/4	日帰り	1A	石垣吉朗	12
138	安達太良山	福島	2000	1/15-16	山小屋	C	柴 勇	2
267	安達太良山 (公開登山)	福島	2002	6/9	日帰り	A	大串秀雄	4
359	安達太良山	福島	2004	1/10-11	山小屋	4C	川下敬史	5
14	吾妻連峰	吾妻連峰	1997	5/17-18	山小屋	C	柴 勇	1
74	一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/1	山小屋	B	村松敏彦	1
228	吾妻連峰	吾妻連峰	2001	9/15-16	避難小屋	B+	外崎 蓮	4
109	湯の丸山・四阿山	上州	2000	6/19-21	民宿泊り	B	外崎 蓮	2
512	大峰山～吾妻耶山	谷川	2007	11/6	日帰り	2B	青山寿子	8
764	雨ヶ立山・吾妻耶山	上州	2012	3/17-18	山麓泊	3C	高橋重	14

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
663	吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋 重	11
213	雨ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/1	日帰り	A	外崎 蓮	7
177	雨飾山	頸城	2000	10/8-9	民宿	B	大串秀雄	3
559	雨飾山	頸城	2007	10/8-9	山小屋	2B	清家三保子	9
764	雨ヶ立山・吾妻耶山	上州	2012	3/17-18	山麓泊	3C	高橋重	14
443	尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2005	6/16	日帰り	2B	斎藤清一	7
772	玉原高原～尼ヶ禿山～ブナ平(県連)	上州	2012	5/10	日帰り	1A	小川誠二郎	14
97	天城連山	伊豆	1999	4/24-25	民宿	B+	細野清子	2
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5
614	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎 蓮	10
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11
405	阿弥陀岳	八ヶ岳	2004	10/11	日帰り	4D	千葉有子	6
645	雨引山(ウイズハイク)	茨城	2009	9/5	日帰り	2A	石垣吉朗	11
673	アモウ沢～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12
32	七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1
121	荒川三山～赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2
497	荒川三山～赤石岳	南ア	2006	8/4-6	山小屋	3C	外崎 蓮	8
341	未丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5
344	荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5
190	荒船山	西上州	2001	2/4	日帰り	A+	川下敬史	3
351	荒船山	西上州	2003	11/9	日帰り	1A	榊原文子	5
539	荒船山	西上州	2007	6/3	日帰り	1A	武内勇二	9
200	有間山～蔵山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎 蓮	4
527	有馬山～蔵山	奥武蔵	2007	4/8	日帰り	3B	青山寿子	9
239	安房高山(ふれあいハイキング)	房総	2001	11/3-4	日帰り	A	県連、外崎	4
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	5C	村松敏彦	11
292	北信三山(黒姫山・戸隠山・飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5
220	飯豊連峰縦走	飯豊連峰	2001	8/2-5	テント	C+	柴 勇	4
554	飯豊連峰縦走(北股岳～大日岳～飯豊山)	飯豊連峰	2007	8/24-27	テント	4C	武内勇二	9
45	天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1
694	硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12
555	五十沢～金城山	上越	2007	9/1-2	避難小屋	4C	千葉有子	9
291	石鎚山	四国	2002	10/25夜-28朝	民宿	B	斎藤清一	4
194	石割山	富士周辺	2001	2/25	日帰り	A	斎藤清一	3
627	石割山	道志	2009	5/17	日帰り	2B	外崎 蓮	11
55	伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1998	6/7	日帰り	A	外崎 蓮	1
16	伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1997	6/8	日帰り	A	柴、細野清	1
619	伊豆ヶ岳東尾根	奥武蔵	2009	2/8	日帰り	1B	堀口昭二	10
669	伊豆ヶ岳	奥武蔵	2010	2/28	日帰り	1A	矢野裕子	11
327	船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5
578	子の権現・伊豆ヶ岳(新人歓迎)	奥武蔵	2008	3/30	日帰り	1A	やまたん	10
74	一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/1	山小屋	B	村松敏彦	1
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴 勇	12
313	稻倉山・御荷鉢山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5
332	伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	7/25-27	テント	2A	武内勇二	5
77	今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1
663	吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋重	11
515	伊予ヶ岳・富山(県連40周年)	房総	2006	11/18-19	テント	1A	高橋英雄	8
388	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎 蓮	6
233	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4
340	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2005	7/22-24	テント	3D	細野清子	7
738	岩木山・白神岳	東北	2011	7/2-7/4	テント	2B	柴 勇	13
445	岩菅山～赤岩山	上信	2005	6/25-26	避難小屋	3B	外崎 蓮	7
402	岩手山・姫神山	東北	2004	9/18-20	宿	3B	高橋英雄	6
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	東北	2009	6/30-7/4	山麓泊	3B	柴 勇	9
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10
741	岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎 蓮	13
237	岩殿山	中央沿線	2001	10/21	日帰り	A	日下芳十	4
311	岩殿山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	日下芳十	5
417	岩殿山	中央沿線	2004	12/19	日帰り	1A	高橋英雄	6
478	宮地山～岩殿山	中央沿線	2007	4/3	日帰り	3B	青山寿子	8
532	岩櫃山	上州	2007	5/3	日帰り	2B	原田和昭	9
51	岩山(リーダー研修)	前日光	1998	5/24	日帰り	B	村松敏彦	1
105	岩山(リーダー研修)	前日光	1999	5/30	日帰り	B	村松敏彦	2
162	岩山(新人研修)	前日光	2000	7/2	日帰り	A	高橋英、安田	3
202	岩山(新人研修)	前日光	2001	4/29	日帰り	A	細野省二	4
307	岩山	前日光	2003	3/16	日帰り	A+	柴 勇	5
318	岩山	前日光	2003	5/11	日帰り	A	坂口よし江	5



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
418	岩山(登山教室)	前日光	2004	6/12	日帰り	1B	柴 勇	6
429	岩山	前日光	2005	4/3	リーダー研修	1B	村松敏彦	7
456.1	岩山(登山教室)	前日光	2005	8/28	日帰り	1B	村松敏彦	7
531	岩山	前日光	2007	4/29	日帰り	2B	柴 勇	9
646	岩山	前日光	2009	9/13	日帰り	1B	高橋英雄	11
750	岩山(BOM研修)	前日光	2011	10/2	日帰り	2B	柴 勇	13
279	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2005	8/19-23	山小屋	4C	大串秀雄	6
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2009	8/12-16	山小屋	3C	佐藤健一	9
732	乗鞍岳・美ヶ原(春山山行)	北アルプス	2011	5/3-5/5	テント	4C	村松敏彦	13
205	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4
369	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6
464	裏高尾縦走	中央沿線	2005	10/16	日帰り	2A	千葉有子	7
354	裏妙義	西上州	2003	11/15-16	国民宿舎	4D	柴 勇	5
280	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4
465	越後駒ヶ岳	越後	2005	10/16-18	避難小屋	3C	大串秀、高橋潔	7
639	越後駒ヶ岳	越後	2009	8/6夜-8	山小屋	3B	高橋 重	11
195	越前岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	3/18	日帰り	A	武内勇二	7
348	恵那山	中ア	2003	10/25-26	避難小屋	3B	石垣吉朗	5
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2007	7/2-8	山麓泊	4B	大串秀雄	8
115	烏帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野清子	3
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2009	5/21-26	山麓泊	3B	大串秀雄	9
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2005	6/26-27	山麓泊	3B	高橋 潔	7
582	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4
621	小出俣山	谷川	2009	3/14-15	テント	4D	高橋 重	11
203	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4
707	津梅川・追良瀬川	白神山地	2010	9/22-26	テント	3C	千葉有子	12
633	奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	2B	細野清子	11
722	曾倉山～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12
233	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4
285	大洗海岸水族館(ウイズハイク)	常陸	2002	9/28	日帰り	A	外崎 蓮	4
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2006	5/14-16	山小屋	4B	柴 勇	7
203	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4
41	扇山(公開登山)	中央沿線	1998	3/8	日帰り	A	三浦七郎	1
249	扇山	中央沿線	2002	2/10	日帰り	A	松本 豊	4
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2008	10/21-23	山麓泊	3B	大串秀雄	9
769	扇山～百蔵山	中央線沿線	2012	4/21	日帰り	2A	大島清江	14
575	大霧山	奥武蔵	2008	2/10	日帰り	1B	高橋英雄	9
10	大楠山(新人歓迎)	三浦半島	1997	4/20	日帰り	A	細野清子	1
281	大雲取谷	奥多摩	2002	8/31-9/1	テント	C	川下敬史	4
543	大雲取谷	奥多摩	2007	6/23夜-24	夜行日帰り	3D	堀口昭二	9
372	大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6
761	大蔵高丸	大菩薩	2012	2/4	日帰り	2B	高橋 重	13
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2009	10/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	小屋泊	3B	武内勇二	11
676	鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12
140	大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2
95	大鹿山(新人歓迎山行)	大菩薩	1999	4/18	日帰り	A	細野省、清家	2
628	大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11
101	大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2
528	大高山	奥武蔵	2007	4/15	日帰り	2B	中村隆泰	9
776	大高山～天覚山～天覧山	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆泰	14
791	大滝沢	吾妻連峰	2012	9/7-8	山麓泊	4C	高橋重	14
42	大岳山(2期生卒業山行)	奥多摩	1998	3/15	日帰り	A	日下芳十	1
455	大岳山	奥多摩	2005	8/21	日帰り	2A	中村八重子	7
495	大岳山	奥多摩	2006	7/16	日帰り	3B	中村隆泰	8
243	奥多摩三山(大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4
551	大岳山～鋸尾根	奥多摩	2007	8/12	日帰り	2B	高橋英雄	9
151	大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎 蓮	3
762	大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6
587	大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10
87	大岱山	甲州	1999	2/7	日帰り	A++	細野省二	2
766	大野山	丹沢	2012	4/1	日帰り	1A	坂巻 明	14
380	大幡川四十八滝沢	富士周辺	2004	5/30	日帰り	4D	堀口昭二	6
403	南岳～中岳～大喰岳～檜ヶ岳	北ア	2006	9/25-30	山小屋	4C	大串秀雄	6
366	大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6
557	太平山(ウイズハイク)	北関東	2007	9/23	日帰り	1A	小川誠二郎	9
140	大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
765	大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5
512	大峰山～吾妻耶山	谷川	2006	11/5	日帰り	2B	青山寿子	8
101	大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2
628	大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11
774	大室山～加入道山	丹沢	2012	5/19	日帰り	2B	田村光子	14
347	大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2006	3/20-22	避難小屋	4B	青山寿子	7
616	大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12
616	大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10
18	大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1
295	大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4
302	大山	丹沢	2003	1/19	日帰り	A	高橋芳恵	4
625	大山	丹沢	2009	4/26	日帰り	2A	柴 勇	11
564	小川山	奥秩父	2007	11/10-11	テント	3B	柴 勇	9
484	小川谷・悪谷	奥多摩	2006	5/21	日帰り	3B	堀口昭二	8
102	奥久慈男体山	常磐	1999	5/9	日帰り	A+	中村隆泰	2
309	奥久慈男体山	常磐	2003	3/30	日帰り	A	堀口・青山	5
231	日光白根山	日光	2001	9/29-30	避難小屋	B	武内勇二	4
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴 勇	12
759	日光白根山(X'mas山行)	日光	2011	12/17-18	テント	3D	村松敏彦	13
541	カヤの平・奥裾花(市民登山)	北信濃	2008	6/9-10	山麓泊	1A	堀口昭二	9
786	立山～奥大日岳～大日岳	北アルプス	2012	8/7-10	山小屋	3B	高橋重	14
229	奥秩父の沢・川胡桃沢・鶏冠谷右俣	奥秩父	2001	9/23-24	テント	B, D	村松敏彦	4
170	奥徳高岳・北徳高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3
390	前徳高岳～奥徳高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6
598	奥徳高岳	北ア	2008	8/22-24	山小屋	4C	坂口よし江	10
61	西徳高岳～奥徳高岳～前徳高岳	北ア	1999	7/18-21	山小屋	D	村松敏彦	1
787	前徳高岳～奥徳高岳	北アルプス	2012	8/9-12	山小屋	3C	矢野貞子	14
47	石裂山	前日光	1998	4/19	日帰り	A+	柴 勇	1
430	石裂山	前日光	2005	4/10	日帰り	2B	高橋芳恵	7
603	石裂山	前日光	2008	10/5	日帰り	2A	高橋重	10
486	那須旭岳・大白森山	那須	2007	5/27-29	テント	3C	村松敏彦	8
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴 勇	12
577	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12
783	燕岳～大天井岳～常念岳	北アルプス	2012	7/27-30	山小屋・テント	3C	武内勇二	14
537	鬼石沢	丹沢	2007	5/27	日帰り	3C	青山寿子	9
479	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2006	4/9	日帰り	2B	武内勇二	8
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6
617	大室山・赤鞍ヶ岳	中央沿線	2009	1/25	日帰り	1B	瀬田映子	10
180	小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎 蓮	3
683	小野子山～十二ヶ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12
481	帯那山	甲州	2006	4/30	日帰り	1A	高橋英雄	8
425	お坊山	中央沿線	2005	3/13	日帰り	3B	村松敏彦	7
17	表妙義縦走	上州	1997	6/15	日帰り	C	柴 勇	1
238	表妙義	上州	2001	10/27-28	テント	C+	柴 勇	4
371	表妙義	上州	2004	4/25	日帰り	2B	榎原文子	6
401	表妙義	上州	2004	9/18-19	夜	4D	青山寿子	6
654	表妙義	西上州	2009	11/8	日帰り	2B	中村隆泰	11
361	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5
338	御嶽山・乗鞍岳	木曾・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5
594	木曾御嶽山	木曾	2008	8/2-3	山小屋	3B	坂巻明	10
66	甲斐駒ヶ岳	南ア	1998	9/11-13	テント	C	細野省二	1
218	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4
504	甲斐駒ヶ岳	南ア	2006	8/9	山小屋	3C	佐藤健一	8
744	甲斐駒ヶ岳	南アルプス	2011	7/29-30	山小屋	3B	小川誠二郎	13
407	宮之浦岳・開闢岳	九州	2004	10/21-24	山小屋	2C	細野清子	6
198	蛾ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7
275	加賀白山	白山	2002	7/19夜-7/22	テント	B+	細野清子	4
698	餓鬼岳～燕岳	北アルプス	2010	8/12～15	山小屋	3C	高橋英雄	12
587	大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10
155	景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3
251	景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本 豊	4
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12
724	陣馬山～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
163	籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3
27	尾瀬集中登山(創立記念) A: 笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	柴勇、川名	1
345	笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎 蓮	5
553	笠ヶ岳	北ア	2007	8/17-20	山小屋	3C	高橋 重	9
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	12
36	笠取山、雁坂峠(クリスマス山行)	奥秩父	1997	12/20-21	テント	B	村松敏彦	1
326	笠取山	奥秩父	2003	6/15	日帰り	A	原田君子	5
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2006	2/5	山小屋	3B	大串秀雄	8
626	堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2004	10/16-17	避難小屋	3C	武内勇二	6
278	鹿島槍ヶ岳	北ア	2002	8/13夜-17	山小屋	C	高橋英雄	4
533	鹿島槍ヶ岳	北ア	2007	4/6	テント	4D	村松敏彦	9
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13
389	霞沢岳	北ア	2004	7/23-25	テント	4C	武内勇二	6
217	鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4
148	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3
347	大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2005	3/20-21	避難小屋	3B	青山寿子	7
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12
774	大室山～加入道山	丹沢	2012	5/19	日帰り	2B	田村光子	14
83	鐘撞堂山(新年鍋山行)	奥武蔵	1999	1/10	日帰り	A	細野清子	2
408	鹿野山	房総	2004	10/23	日帰り	1A	原田和昭	6
297	加波山(忘年山行)	常陸	2002	12/8	日帰り	A	原田和昭	4
476	兜山～棚山	中央沿線	2006	3/12	日帰り	2A	村松敏彦	8
305	鎌倉アルプス天園	湘南	2003	2/9	日帰り	A	細野清子	4
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12
232	上高地～涸沢	北ア	2000	10/6-7	山小屋	B	大串秀雄	4
70	神峰山ふれあいハイク	常磐	1998	9/27	(雨の為、水鏡帯)	A	県連東葛	1
672	神峰山～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12
649	甑山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11
796	神室山～小又山～火打岳	東北	2012	10/5-7	避難小屋	3C	武内勇二	14
595	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10
122	茅ヶ岳	中央沿線	1999	9/19	日帰り	A	清家三保子	2
608	茅ヶ岳	甲斐	2008	11/2	日帰り	2B	小川洋子	10
385	榎ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6
541	カヤの平・奥裾花(市民登山)	北信濃	2007	9/10	山麓泊	1A	堀口昭二	9
232	上高地～涸沢	北ア	2001	10/6-8	山小屋	B	大串秀雄	4
583	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10
423	諏訪岳～唐沢山	両毛	2006	2/10-12	日帰り	2A	斎藤清一	6
431	モミソ沢・新芽の沢～鳥尾山	丹沢	2007	4/16-19	テント	5B	佐藤健一	7
416	鳥場山	房総	2004	12/5	日帰り	1A	細野清子	6
806	鳥場山(花嫁街道)	房総	2013	1/20	日帰り	1A	箕輪完二	14
227	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4
452	唐松岳～鏑ヶ岳～杓子岳	北ア	2005	8/13-15	山小屋	3C	高橋英雄	7
454	唐松岳～五竜岳	北ア	2005	8/21-22	山小屋	3B	原田和昭	7
679	唐松岳(春山山行)	北アルプス	2010	5/1-4	テント	4D	村松敏彦	12
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13
729	三ノ木戸山～狩倉山	奥多摩	2011	4/17	日帰り	2B	青山寿子	13
81	切込湖・刈込湖	日光	1999	12/14	日帰り	A	柴 勇	1
640	切込湖～刈込湖	日光	2009	8/10	日帰り	2A	細野清子	11
7	川苔山	奥多摩	1997	2/22	日帰り	A+	清家三保子	1
100	川乘山	奥多摩	1999	5/2	日帰り	A+	高橋英雄	2
356	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5
439	川乗谷・逆川	奥多摩	2005	5/22	日帰り	3C	村松敏彦	7
655	川苔山	奥多摩	2009	11/15	日帰り	2A	清家三保子	11
205	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4
513	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2007	5/7	山小屋	4D	大串秀雄	8
580	勘七の沢	丹沢	2008	4/13	日帰り	3C	佐々木侑	10
89	官ノ倉山	奥武蔵	1999	2/21	日帰り	A	日下芳十	2
199	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4
468	菊花山	中央沿線	2005	11/3	日帰り	1B	中村隆泰	7
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4
167	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3
246	木曾駒ヶ岳	中ア	2001	12/22-24	テント、避難小屋	C+	村松敏彦	4
279	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2004	8/19-22	山小屋	4C	大串秀雄	6
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2007	8/12-14	山小屋	3C	佐藤健一	9
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	2B	村松敏彦	11

山名  
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2013年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6
76	北高尾山稜	中央沿線	1998	11/3	日帰り	A++	細野清子	1
494	北岳	南ア	2006	7/13-15	山小屋	3B	原田和昭	8
549	塩見岳～北岳	南ア	2008	7/28-32	山小屋	4C	外崎 蓮	9
702	北岳	南アルプス	2010	8/26-28	山小屋	3C	村松敏彦	12
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	12
170	奥穂高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3
253	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	3/2-3	山小屋	B+	村松敏彦	4
290	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	10/18	日帰り	A	斎藤清一	4
579	北八ヶ岳	八ヶ岳	2008	4/5-6	山小屋	3C	安田みづほ	10
586	北八ヶ岳 (市民登山)	八ヶ岳	2008	6/7-8	山小屋・テント	2B/3B	やまたん	10
175	鬼怒沼	日光	2000	9/30-10/1	山小屋	B	武内勇二	3
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10
770	高取山～仏果山～経ヶ岳	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14
69	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1
247	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4
288	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4
303	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4
367	行道山	両毛	2004	3/28	日帰り	1B	佐藤健一	6
801	清澄山 (東大演習林) (15周年記念行事)	房総	2012	11/11	日帰り	1A	小川誠二郎	14
696	霧ヶ峰(車山)	霧ヶ峰	2010	8/1	日帰り	1A	原田和昭	12
771	守屋山・霧ヶ峰	八ヶ岳周辺	2012	5/3-5	テント	2A	村松敏彦	14
81	切込湖・刈込湖	日光	1998	12/13	日帰り	A	柴 勇	1
640	切込湖～刈込湖	日光	2009	8/9	日帰り	1A	細野清子	11
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2007	5/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9
52	霧降高原	日光	1998	5/31	日帰り	A	大串秀雄	1
154	霧降高原	日光	2000	5/7	日帰り	A	榊原文子	3
485	霧降高原	日光	2006	5/24	日帰り	1A	榊原文子	8
555	五十沢～金城山	上越	2008	9/1-3	避難小屋	4C	千葉有子	9
123	金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2
620	金時山	箱根	2009	2/22	日帰り	2B	坂口よし江	10
191	金時山<富士周辺シリーズ>	箱根	2001	2/11	日帰り	A	細野清子	7
136	甲武信岳～金峰山 (クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2
236	瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6
418	金峰山	奥秩父	2004	12/25-26	テント	4D	村松敏彦	6
436	金北山	佐渡	2005	8/4-6	山小屋	2B	原田和昭	7
775	金北山	佐渡ヶ島	2012	5/25-27	山麓泊	2B	村松敏彦	14
33	九鬼山	中央沿線	1997	11/8	日帰り	A	細野清子	1
369	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6
666	九鬼山	中央沿線	2010	2/7	日帰り	2A	中村隆泰	11
415	草津白根山	上州	2004	12/1-2	宿	1A	斎藤清一	6
496	草津白根山	上州	2006	7/31-8/1	山麓泊	1A	斎藤清一	8
765	大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14
60	櫛形山	南ア	1998	7/7	日帰り	A	清家三保子	1
212	櫛形山	南ア	2001	6/30	日帰り	A	原田君子	4
740	櫛形山	中央線沿線	2011	7/9	日帰り	2B	原田和昭	13
745	葛葉川本谷 (BOM研修)	丹沢	2011	8/7	日帰り	2B	村松敏彦	13
120	葛葉川本谷	丹沢	1999	9/5	日帰り	B	村松敏彦	2
325	葛葉川本谷	丹沢	2003	6/8	日帰り	C	堀口昭二	5
456.2	葛葉川本谷 (登山教室)	丹沢	2005	9/11	日帰り	2B	村松敏彦	7
438	熊倉山	奥秩父	2005	5/15	日帰り	2B	高橋英雄	7
730	熊倉山	秩父	2011	4/24	日帰り	2A	坂巻 明	13
434	根本山～熊鷹山	桐生	2006	4/30	日帰り	3B	外崎 蓮	7
718	虎丸山～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12
483	熊野古道・悪四郎山	熊野	2006	5/14-16	山麓泊	3B	細野清子	8
79	雲取山	奥秩父	1998	11/22-23	素泊り小屋	B	細野清、外崎	1
158	雲取山 (公開登山)	奥秩父	2000	6/3-4	山小屋/テント泊	B	日下芳十	3
308	雲取山	奥秩父	2003	3/22-23	避難小屋	C	青山寿子	5
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2009	2/8	山小屋	3B	大串秀雄	8
550	雲取山	奥秩父	2007	4/5	山小屋	3A	小川誠二郎	9
713	雲取山～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12
168	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋/テント	C	大串秀雄	3
743	雲ノ平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13
516	殿平～鞍吾山	中央沿線	2007	11/24	日帰り	2B	武内勇二	8
107	高畑山～倉岳山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2
185	倉岳山 (忘年山行)	中央沿線	2000	12/3	日帰り	A	原田君子	3
574	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2009	2/4	日帰り	2B	千葉有子	9
712	高畑山～倉岳山	中央線沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12
331	倉戸山	奥多摩	2003	7/13	日帰り	2A	高橋英雄	5



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
328	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5
444	早池峰山・栗駒山 (市民登山)	北上	2006	6/17-20	山麓泊	3B	石垣吉朗	7
797	栗駒山・虎毛山	東北	2012	10/20-21	テント	2B	外崎蓮	14
674	御前山～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10
734	黒金山	奥秩父	2011	5/15	夜行日帰り	3B	青山寿子	13
13	黒川鶏冠山	大菩薩	1997	5/24	日帰り	A+	川名	1
693	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12
179	黒岳	富士周辺	2000	10/29	日帰り	A	原田君子	3
189	三ヶ峠山～黒岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7
739	黒岳	御坂山麓	2011	7/3	日帰り	2A	田村光子	13
137	水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2
292	北信三山 (黒姫山・戸隠山・飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5
604	黒部峡谷下の廊下	北ア	2008	10/11-13	山小屋	3C	千葉有子	10
335	黒部源流	北ア	2003	8/12-17	テント	5D	堀口昭二	5
64	黒部五郎岳	北ア	1998	7/31-8/4	山小屋	B+	外崎 蓮	1
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	12
725	黒斑山・水の塔山	浅間	2011	2/5-6	山麓泊	3C	高橋重	12
518	鶏足山～花香月山 (忘年山行)	常磐	2006	12/10	日帰り	2B	川下敬史	8
689	釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻明	12
435	燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2006	8/1-4	テント	5D	村松敏彦	7
719	仏果山～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12
544	袈裟丸山	足尾山塊	2007	6/23-24	テント	3B	外崎 蓮	9
629	袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11
682	袈裟丸山	足尾	2010	5/16	日帰り	2A	中村隆泰	12
208	毛無山～十二ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7
312	モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2004	4/12-14	テント	C	堀口昭二	5
480	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2007	4/15-17	テント	3D	佐藤健一	8
361	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5
131	乾徳山	奥秩父	1999	11/23	日帰り	B	三浦七郎	2
293	乾徳山	奥秩父	2002	11/3	日帰り	B	安田みづほ	4
710	乾徳山	奥秩父	2010	10/24	日帰り	2B	田村光子	12
333	恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5
310	甲州高尾山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	中村隆泰	5
113	庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2005	10/2-3	避難小屋	3C	大串秀雄	7
457	甲東不老山	中央沿線	2005	9/18	日帰り	1A	中村隆泰	7
65	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1
597	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12
660	足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11
40	古賀志山	前日光	1998	2/14	日帰り	A+	柴 勇	1
316	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴 勇	5
525	古賀志山 (新人歓迎山行)	前日光	2007	3/25	日帰り	1B	中村八重子	9
84	南大菩薩小金沢連峰	大菩薩	1999	1/15-16	山小屋	B+	柴 勇	2
24	小草平の沢	丹沢	1997	9/21	日帰り	B	村松敏彦	1
456.3	御座山・労山フェスタ	西上州	2005	9/17	日帰り	2B	村松敏彦、労山	7
164	五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	4C	清家三保子	11
649	飆山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2006	8/19-24	山小屋	4C	大串秀雄	6
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	6C	村松敏彦	11
19	御前山	奥多摩	1997	6/28	日帰り	A	村松敏彦	1
178	御前山	奥多摩	2000	10/22	日帰り	A	大串秀雄	3
243	奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-4	避難小屋	B	高橋英雄	4
610	御前山	奥多摩	2008	11/23	日帰り	2B	箕輪完二	10
717	御前山 (忘年山行)	茨城	2010	12/5	日帰り	1A	武内勇二	12
790	御前山 (ウイズハイク)	茨城	2012	9/1	日帰り	1A	石垣吉朗	14
674	御前山～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12
139	小檜山	奥秩父	2000	1/16	日帰り	B	村松敏彦	2
777	小檜山	奥秩父	2012	6/2	日帰り	2A	村松敏彦	14
82	甲武信岳 (クリスマス山行)	奥秩父	1998	12/19-20	テント	C	村松敏彦	1
136	甲武信岳～金峰山 (クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2
265	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4
268	甲武信ヶ岳	奥秩父	2002	6/14夜-16	山小屋	B+	外崎 蓮	4
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6
804	甲武信ヶ岳 (X'mas山行)	秩父	2012	12/23-24	テント	3C	村松敏彦	14
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴 勇	12

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
629	袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11
681	巢神山～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12
796	神室山～小又山～火打岳	東北	2012	10/5-7	避難小屋	3C	武内勇二	14
156	子持山	上州	2000	5/21	日帰り	A	細野清子	3
514	菰釣山～三国山	丹沢	2006	11/11-12	避難小屋	2B	坂口よし江	8
196	菰釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴 勇	7
227	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4
454	唐松岳～五竜岳	北ア	2006	8/21-23	山小屋	4B	原田和昭	7
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13
182	権現山	中央沿線	2000	11/18	日帰り	B	柴 勇	3
296	権現山	中央沿線	2002	11/24	日帰り	A	清家三保子	4
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5
614	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎 蓮	10
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11
735	権現山	中央線沿線	2011	5/22	日帰り	2A	中村隆泰	13
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12
463	蔵王周辺(の山々)	蔵王連峰	2005	10/9-12	山麓泊	3B	斎藤清一	7
39	笹尾根	奥多摩	1998	2/8	日帰り	A	清家三保子	1
193	笹尾根	奥多摩	2001	2/18	日帰り	A	中村隆泰	3
362	笹尾根	奥多摩	2004	2/1	日帰り	2B	外崎 蓮	5
576	三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	日帰り	1A	外崎 蓮	10
615	笹尾根(横寄山)	奥多摩	2009	1/10	日帰り	2B	矢野裕子	10
665	笹尾根(小桐峠～生藤山)	中央沿線	2010	2/6	日帰り	2A	千葉有子	11
250	笹尾根(日原峠～生藤山)	中央沿線	2002	2/16	日帰り	A	中村隆泰	4
581	笹子雁ヶ腹摺山	中央沿線	2008	4/26	日帰り	2B	原田和昭	10
96	笹子雁ヶ腹摺山(新人歓迎山行)	中央沿線	1999	4/18	日帰り	A+	斎藤清一	2
755	笹子雁ヶ腹摺山	大菩薩	2011	11/3	日帰り	2B	村松敏彦	13
501	富士山～佐白山(ウイズハイク)	茨城	2007	9/24	日帰り	1A	外崎 蓮	8
729	三ノ木戸山～狩倉山	奥多摩	2011	4/17	日帰り	2B	青山寿子	13
788	三ノ木戸山(追悼山行)	奥多摩	2012	8/19	日帰り	1A	村松敏彦	14
647	佐武流山	上越	2009	9/26-27	テント	4C	青山寿子	11
556	笹ヶ岳	南ア	2007	9/9-10	テント	4C	外崎 蓮	9
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	4B	村松敏彦	11
652	三ノ宿山	日光	2009	11/1	日帰り	2A	中村八重子	11
294	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4
198	蛾ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7
413	三方分山～パノラマ台	富士周辺	2004	11/21	日帰り	2B	斎藤清一	6
157	南月山～三本槍岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2005	10/16-18	避難小屋	3C	武内勇二	6
569	三本槍岳	那須	2007	12/15-16	テント	3C	吉川誠一	9
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳(市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋 重	12
336	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13
65	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2007	8/5-10	山小屋	6D	大串秀雄	7
549	塩見岳～北岳	南ア	2007	7/28-31	山小屋	4C	外崎 蓮	9
597	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10
128	杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎 蓮	2
466	鹿俣山(玉原高原)	上州	2005	10/27	日帰り	2A	柴田節子・県連	7
794	蓬峠～武能岳～茂倉岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14
261	鹿倉山	奥多摩	2002	5/3	日帰り	A	高橋英雄	4
209	思親山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/3	日帰り	A	斎藤清一	7
332	伊吹山～賤ヶ岳	近江	2003	7/25夜-27	テント	2A	武内勇二	5
215	七面山～八紘嶺<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7
54	七里川清掃ハイキング	房総	1998	6/7	日帰り	A	大串秀、県連	1
144	七里川-追原-元清澄山	房総	2000	2/19-20	日帰り	A	県連自然保護委	2
27	尾瀬集中登山(創立記念) C:至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	柴勇、村松敏	1
27	尾瀬集中登山(創立記念) A:笠ヶ岳-至仏山	尾瀬	1998	10/9-12	テント&山小屋	B	柴勇、川名	1
345	笠ヶ岳-至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎 蓮	5
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6
689	釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻 明	12
393	白馬～杓子～鏝ヶ岳	北ア	2005	8/12-16	山小屋	4C	高橋英雄	6
452	唐松岳～鏝ヶ岳～杓子岳	北ア	2007	8/13-17	山小屋	5C	高橋英雄	7
128	杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎 蓮	2
565	社山	日光	2007	11/18	日帰り	2A	石垣吉朗	9
443	尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2006	6/17	日帰り	3B	斎藤清一	7



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5
180	小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎 蓮	3
683	小野子山～十二ヶ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12
375	十二ヶ岳	富士周辺	2004	5/9	日帰り	2B	中村隆泰	6
208	毛無山～十二ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7
709	天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	避難小屋	3B	武内勇二	12
68	上州武尊山	上州	1998	9/19-20	山小屋	B+	柴 勇	1
289	上州武尊山	上州	2002	10/13-14	民宿	B	大串秀雄	4
482	上州武尊岳	上州	2006	5/3-4	テント	4D	村松敏彦	8
780	上州武尊岳	上州	2012	6/30-7/1	テント	2B	矢野貞子	14
135	上州三峰山	西上州	1999	12/19	日帰り	A+	細野省二	2
352	戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5
314	生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5
250	笹尾根 (日原峠～生藤山)	中央沿線	2003	2/17	日帰り	A	中村隆泰	4
259	生藤山	中央沿線	2002	4/21	日帰り	A	細野清、榊原	4
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	3C	清家三保子	11
49	蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12
747	常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	2011	12/15	山小屋	3B	高橋英雄	13
783	燕岳～大天井岳～常念岳	北アルプス	2012	7/27-30	山小屋・テント	3C	武内勇二	14
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2005	4/24	日帰り	3B	青山寿子	7
449	笹の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2005	7/23	日帰り	2B	中村隆泰	7
613	城峯山(忘年山行)	秩父	2008	12/14	日帰り	1A	やまたん	10
22	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1
112	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎 蓮	2
124	白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2006	7/22-25	テント	4D	細野清子	7
738	岩木山・白神岳	東北	2011	7/2-7/4	テント	2B	柴 勇	13
461	白毛門沢	上越	2005	10/2	前夜発	3C	千葉有子	7
349	白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5
387	白砂山	上信越	2004	7/17-18	宿	3B	中村隆泰	6
688	白谷沢	奥武蔵	2010	6/13	日帰り	2B	堀口昭二	12
118	白峰三山	南ア	1999	8/20-22	山小屋	C	外崎 蓮	2
21	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1
317	白馬岳 (雪山合宿)	北ア	2003	5/2-5	テント	D	村松敏彦	5
393	白馬～杓子～鍮ヶ岳	北ア	2004	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	6
399	朝日岳～白馬岳	北ア	2005	9/16-20	山小屋	3C	石垣吉朗	6
166	白馬三山	北ア	2000	8/5-7	山小屋	B	斎藤清一	3
695	白馬岳～朝日岳	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎 蓮	12
692	八間山・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12
431	モミソ沢・新芽の沢～烏尾山	丹沢	2006	4/16-18	テント	4B	佐藤健一	7
183	陣場山	中央沿線	2000	11/19	日帰り	A	榊原文子	4
251	景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本 豊	4
314	生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12
724	陣馬山～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12
763	陣馬山(BOM研修)	高尾	2012	2/26	日帰り	1A	BOM研修生	13
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4
113	庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2007	10/2-5	避難小屋	5C	大串秀雄	7
600	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10
681	巢神山～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12
245	助川山 (忘年山行)	常陸	2001	12/2	日帰り	A, B	川下敬史	4
676	鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12
600	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10
499	錫ヶ岳～前白根山	日光	2006	9/9-10	テント	4C	村松敏彦	8
153	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント/民宿	D	村松敏彦	3
346	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴 勇	5
595	掃部ヶ岳～杓ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10
690	守門岳	越後	2010	6/26～27	避難小屋	3B	石垣吉朗	12
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	4C	村松敏彦	11
423	諏訪岳～唐沢山	両毛	2005	2/10-11	日帰り	2A	斎藤清一	6
184	高反山～諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3
420	石尊山～三石山	房総	2005	1/29-30	宿	2A	斎藤清一	6
618	とみやま水仙遊歩道・石尊山(県連ロングハイク)	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	3A	斎藤清一	10
8	石老山 (公開登山)	中央沿線	1997	3/16	日帰り	A	柴、細野清	1
188	石老山<富士周辺シリーズ>	中央沿線	2001	1/14	日帰り	A	村松敏彦	7
479	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2007	4/10	日帰り	2B	武内勇二	8

山名  
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2013年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
395	背戸峨廊	阿武隈	2004	8/22	日帰り	1B	中村八重子	6
370	モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6
529	セドの沢右俣	丹沢	2007	4/15	日帰り	3C	堀口昭二	9
535	セドの沢左俣	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	堀口昭二	9
808	瀬淵山～高指山～不老山(甲東三山)	中央線沿線	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆泰	14
607	浅間尾根	奥多摩	2008	11/1	日帰り	2A	村松敏彦	10
659	雪入山～浅間山(忘年山行)	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11
146	浅間嶺	奥多摩	2000	3/26	日帰り	A	高橋英、安田	3
26	仙丈ヶ岳	南ア	1997	9/27-28	山小屋	B	村松敏彦	1
218	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4
219	仙丈岳	南ア	2001	7/28-29	小屋・テント	B	清家三保子	4
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2005	5/8	山小屋	4D	大串秀雄	7
785	仙丈ヶ岳	南アルプス	2012	8/3-5	山小屋	3B	武内勇二	14
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴 勇	12
644	仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	3C	外崎 蓮	11
73	平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1
274	平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4
792	平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14
396	相馬山～榛名富士	上州	2004	8/29	日帰り	2A	高橋芳恵	6
722	曾倉山～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12
116	蕎麦粒山	奥多摩	1999	8/8	日帰り	A	斎藤清一	2
356	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2006	4/25	日帰り	4B	青山寿子	7
449	笹の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2006	7/24	日帰り	3B	中村隆泰	7
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2008	5/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9
321	大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5
765	大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14
59	田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1
214	利尻山・大雪山	北海道	2002	7/3-9	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4
404	大山・蒜山	大山	2004	10/1-5	宿	2B	斎藤清一	6
400	立山三山～大日三山	北ア	2005	9/17-21	山小屋	3C	外崎 蓮	6
786	立山～奥大日岳～大日岳	北アルプス	2012	8/7-10	山小屋	3B	高橋重	14
58	大菩薩峠	大菩薩	1998	6/28	日帰り	A	大串秀雄	1
150	大菩薩嶺	大菩薩	2000	4/23	日帰り	B	武内勇二	3
364	大菩薩嶺	大菩薩	2004	2/22	日帰り	3C	武内勇二	5
513	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2006	11/5-6	山小屋	4D	大串秀雄	8
650	大菩薩嶺	秩父	2009	10/24-25	山小屋	2A	中村隆泰	11
78	大無間山	南ア	1998	11/21-23	テント	C	清家三保子	1
73	平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1
274	平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4
286	谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4
792	平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14
609	高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10
159	高岩	上州	2000	6/10	日帰り	B+	柴 勇	3
155	景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3
519	高尾山	中央沿線	2006	12/17	日帰り	1A	中村八重子	8
575.1	高尾山	中央沿線	2008	2/11	日帰り	1A	坂巻・小松	9
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12
244	高柄山	中央沿線	2001	11/25	日帰り	A	中村八重子	4
145	高川山	中央沿線	2000	3/12	日帰り	A	日下芳十	3
368	高川山	中央沿線	2004	4/4	日帰り	2A	中村八重子	6
568	高岩山～八郎塚(忘年山行)	房総	2007	12/9	日帰り	2A	佐藤健一	9
196	菰釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴 勇	7
808	瀬淵山～高指山～不老山(甲東三山)	中央線沿線	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆泰	14
672	神峰山～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12
184	高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3
111	夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2
570	鷹取山	三浦半島	2008	1/20	日帰り	1A	中村隆泰	9
770	高取山～仏果山～経ヶ岳	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14
319	鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5
385	榎ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6
680	鷹ノ巣山	奥多摩	2010	5/9	日帰り	2B	青山寿子	12
107	高畑山～倉岳山(新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2
712	高畑山～倉岳山	中央線沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12
234	高原山	那須	2001	10/17	日帰り	A	中村隆泰	4
743	雲の平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13
624	高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋 重	11
521	高水山～棒の折山	奥多摩	2007	1/21	日帰り	2A	千葉有子	8
93	高水三山	奥多摩	1999	3/28	日帰り	A	日下芳十	2
264	高水三山	奥多摩	2002	5/18	日帰り	A	松本 豊	4



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
648	棒の折山～高水2山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	3A	原田和昭	11
85	高山	日光	1999	1/24	日帰り	A	外崎、村松敏	2
306	日光高山	日光	2003	2/11	日帰り	B	細野省二	4
488	高山(県連ハイク)	日光	2006	6/8	日帰り	2A	柴田節子、県連	8
573	高山	日光	2008	1/27	日帰り	2B	武内勇二	9
760	高山(BOM研修)	日光	2012	1/15	日帰り	2B	高橋重	13
199	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4
392	宝川ナルミズ沢	谷川	2004	8/8-9	テント	4D	村松敏彦	6
44	滝子山	中央沿線	1998	3/22	日帰り	B	清家三保子	1
255	滝子山	中央沿線	2002	3/17	日帰り	A+	武内勇二	4
287	滝子山	中央沿線	2002	10/6	日帰り	A+	榊原文子	4
414	滝子山	中央沿線	2004	11/28	日帰り	3B	青山寿子	6
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2010	10/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9
673	アモウ沢～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12
731	滝子山(BOM研修)	南大菩薩連峰	2011	4/29	日帰り	2B	村松敏彦	13
50	武川岳	奥武蔵	1998	5/17	日帰り	A+	中村隆泰	1
59	田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1
303	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4
757	旭山～達沢山(忘年山行)	中央線沿線	2011	12/4	日帰り	2A	坂巻明	13
3	蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	2/4	テント&小屋	C	川名	1
502	蓼科山	八ヶ岳	2006	9/30-10/1	日帰り	2B	石垣吉朗	8
677	蓼科山	八ヶ岳	2010	4/24-25	テント	3C	高橋重	12
117	劔岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント/小屋	C	柴 勇	2
450	劔岳～立山三山	北ア	2006	8/4-8	山小屋	5D	村松敏彦	7
786	立山～奥大日岳～大日岳	北アルプス	2012	8/7-10	山小屋	3B	高橋重	14
400	立山三山～大日三山	北ア	2004	9/17-20	山小屋	3C	外崎 蓮	6
476	兜山～棚山	中央沿線	2007	3/13	日帰り	3A	村松敏彦	8
520	谷川岳	谷川	2006	12/22-23	テント	4D	村松敏彦	8
542	谷川岳	谷川	2007	6/16-17	山小屋	2B	高橋 重	9
590	谷川岳山麓(リーダー研修)	谷川	2008	6/28-29	山麓泊	2B	石垣吉朗	10
286	谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4
792	平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14
793	西黒尾根～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/22-23	山小屋	2B	村松敏彦	14
794	蓬峠～武能岳～茂倉岳～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14
795	天神尾根～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/23	日帰り	2A	高橋英雄	14
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2006	7/2-7	山麓泊	4B	大串秀雄	8
71	太郎山	日光	1998	10/4	日帰り	B	三浦七郎	1
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5
684	太郎山(県連ウィークディ山行)	日光	2010	5/27	日帰り	2B	原田和昭	12
160	リーダー研修in丹沢	丹沢	2000	6/17-18	テント	B	村松敏彦	3
270	リーダー研修in丹沢	丹沢	2002	6/29-30	テント	B/C	村松敏彦	4
30	丹沢主脈縦走(公開登山)	丹沢	1997	10/25-26	山小屋	B	村松敏彦	1
129	丹沢主脈縦走(新人研修)	丹沢	1999	11/13-14	山小屋	A++	細野省二	2
410	丹沢主脈	丹沢	2004	11/6-7	宿	1A	中村隆泰	6
53	丹沢主稜縦走	丹沢	1998	6/6-7	山小屋	B	柴 勇	1
103	丹沢三ッ峰	丹沢	1999	5/15-16	山小屋	B	清家三保子	2
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11
753	丹勢山	日光	2011	10/23	日帰り	2A	原田和昭	13
383	玉原高原	上州	2004	6/19-20	宿	2B	清家三保子	6
772	玉原高原～尼ヶ禿山～ブナ平(県連)	上州	2012	5/10	日帰り	1A	小川誠二郎	14
132	秩父御岳山	奥武蔵	1999	11/28	日帰り	A	安田みづほ	2
441	秩父御岳	奥武蔵	2005	5/29	日帰り	1A	中村八重子	7
800	秩父御嶽山	奥秩父	2012	11/4	日帰り	2A	坂巻明	14
94	茶臼岳	那須	1999	4/10-11	山小屋	C	柴 勇	2
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2006	10/16-19	避難小屋	3C	武内勇二	6
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳(市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12
781	会津駒ヶ岳～中門岳	南会津	2012	6/30-7/1	山小屋	2B	村松敏彦	14
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3
391	燕～大天井～常念～蝶ヶ岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6
583	澗沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10
20	鳥海山	出羽	1997	7/19-21	山小屋	B	柴 勇	1
169	鳥海山	出羽	2000	8/18-20	山小屋	B	外崎 蓮	3
217	鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4
456	鳥海山	出羽	2005	8/26-29	山小屋	3B	武内勇二	7
49	蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1
747	常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	2011	12/15	山小屋	3B	高橋英雄	13
28	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴 勇	1
206	長者ヶ岳～天子ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
299	筑波山 (二期生新春山行)	茨城	2003	1/3	日帰り	A	日下芳十	4
43	筑波山	常磐	1998	3/21	日帰り	A	川名	1
80	筑波山 (忘年山行)	常磐	1998	12/6	日帰り	A	日下芳十	1
127	筑波山 (ふれあいいい)	常磐	1999	10/24	日帰り	A	柴、県連	2
358	筑波山	常磐	2004	1/3	日帰り	1A	日下芳十	5
419	筑波山	常磐	2005	1/3	日帰り	1A	日下芳十	6
711	筑波山	茨城	2010	11/6-7	テント	4A	川下敬史	12
458	土岳・花貫 (ウイズハイク)	常磐	2005	9/23	日帰り	2A	日下芳十	7
707	津梅川・追良瀬川	白神山地	2010	9/22-26	テント	3C	千葉有子	12
6	燕岳	北ア	1997	2/8-11	テント	C	川名	1
119	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント出	B+	中村隆泰	3
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6
698	餓鬼岳～燕岳	北アルプス	2010	8/12～15	山小屋	3C	高橋英雄	12
783	燕岳～大天井岳～常念岳	北アルプス	2012	7/27-30	山小屋・テント	3C	武内勇二	14
530	坪山	中央沿線	2007	4/22	日帰り	1A	清家三保子	9
108	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2
467	鶴ヶ鳥屋山	中央沿線	2005	10/30	日帰り	2B	柴 勇	7
117	剣岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント/小屋	C	柴 勇	2
450	剣岳～立山三山	北ア	2005	8/4-7	山小屋	4D	村松敏彦	7
226	剣山	四国	2001	8/31夜-9/3	民宿	A	斎藤清一	4
668	鶴島御前山	中央沿線	2010	2/21	日帰り	1B	中村八重子	11
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10
567	手賀沼一周	東葛	2007	12/1	日帰り	1A	小川誠二郎	9
611	手賀沼一周	東葛	2008	12/1	日帰り	1A	高橋重	10
658	手賀沼一周	東葛	2009	11/29	日帰り	1A	小川誠二郎	11
716	手賀沼一周	東葛	2010	11/28	日帰り	1A	小川誠二郎	12
756	手賀沼1周	東葛飾	2011	11/27	日帰り	1A	小川誠二郎	13
802	手賀沼一周	東葛	2012	11/25	日帰り	1A	小川誠二郎	14
334	光岳	南ア	2003	8/7-10	山小屋	4C	外崎 蓮	5
388	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎 蓮	6
699	聖岳～光岳	南アルプス	2010	8/18-22	山小屋	4C	高橋 重	12
366	大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6
143	晃石山(テイク)	日光	2000	2/11	日帰り	A	細野清子	2
776	大高山～天覧山～天覧山	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆泰	14
45	天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1
378	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6
508	天狗尾根 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	避難小屋	3C	堀口昭二	8
709	天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	避難小屋	3B	武内勇二	12
624	高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋 重	11
28	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴 勇	1
206	長者ヶ岳～天子ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7
152	天上山	伊豆七島	2000	5/3-5	民宿	A	細野清子	3
795	天神尾根～谷川岳 (15周年記念山行)	谷川	2012	9/23	日帰り	2A	高橋英雄	14
350	西谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5
475	西谷山～天祖山	奥多摩	2007	2/11-13	避難小屋	4C	青山寿子	7
713	雲取山～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12
516	殿平～鞍吾山	中央沿線	2006	11/23	日帰り	2B	武内勇二	8
661	天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11
510	天女山 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/15	日帰り	1A	松本豊・中村隆	8
4	天覧山	奥武蔵	1997	1/15	日帰り	B	村松敏彦	1
776	大高山～天覧山～天覧山	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆泰	14
431	道志二十六夜山	道志	2005	4/23	日帰り	1B	中村隆泰	7
181	塔ノ岳～鍋割山 (新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3
365	蛙ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5
377	塔ノ岳～丹沢三ッ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2005	5/14-15	山小屋	3B	柴 勇	7
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11
809	ヤビツ峠～塔ノ岳	丹沢	2013	2/24	日帰り	2B	北川勝久	14
626	堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11
292	北信三山 (黒姫山、戸隠山、飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2006	7/11-17	山麓泊	5D	大串秀雄	7
46	徳並山	大菩薩	1998	4/11	日帰り	B	村松敏彦	1
662	徳並山	中央沿線	2010	1/17	日帰り	2B	武内勇二	11
352	戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5
324	戸倉三山	奥多摩	2003	6/7-8	国民宿舎	A+	斎藤清一	5
657	馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11
515	伊予ヶ岳～富山 (県連40周年)	房総	2007	11/18-20	テント	1A	高橋英雄	8
618	とみやま水仙遊歩道・石尊山 (県連ロングハイク)	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	1A	斎藤清一	10



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2008	7/11-19	山麓泊	7D	大串秀雄	7
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12
574	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2008	2/3	日帰り	2B	千葉有子	9
797	栗駒山・虎毛山	東北	2012	10/20-21	テント	2B	外崎蓮	14
718	虎丸山～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12
126	秋山郷～鳥甲山	上信	1999	10/23-24	(テント)	B+	細野省二	2
397	鳥甲山	上信	2004	9/4-5	テント	4D	青山寿子	6
350	西谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5
475	西谷山～天祖山	奥多摩	2006	2/11-12	避難小屋	3C	青山寿子	7
63	苗場山	信越	1998	7/19-20	山小屋	B	外崎蓮	1
230	苗場山	信越	2001	9/29-30	山小屋	B	安田みづほ	4
459	苗場山	信越	2005	10/1-2	山小屋	3B	清家三保子	7
588	苗場山	谷川	2008	6/15-16	山小屋	3B	原田君子	10
782	苗場山	北信越	2012	7/21-22	山麓泊	2B	外崎蓮	14
697	長尾谷	奥多摩	2010	8/8	日帰り	2B	千葉有子	12
784	長尾谷	奥多摩	2012	7/29	日帰り	3C	村松敏彦	14
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋潔	6
765	大洞山～中沢山～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2010	6/2-9	山小屋	3B	大串秀雄	8
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2005	9/25-29	山小屋	4C	大串秀雄	6
151	大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎蓮	3
280	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11
5	鳴虫山	日光	1997	1/26	日帰り	A	三浦七郎	1
104	鳴虫山	日光	1999	5/22	日帰り	A	原田君子	2
276	鳴虫山	日光	2002	7/21	日帰り	A	松本豊	4
422	鳴虫山	日光	2005	2/6	日帰り	2C	清家三保子	6
746	鳴虫山	日光	2011	8/12	日帰り	1A	桐生恭子	13
486	那須旭岳・大白森山	那須	2006	5/27-28	テント	3C	村松敏彦	8
32	七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1
300	菜畑山	道志	2003	1/12	日帰り	A	大串恵子	4
609	高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10
31	鍋割山(支援隊)	丹沢	1997	10/25	日帰り	A	加藤秀明	1
91	鍋割山	丹沢	1999	3/20	日帰り	A	三浦七郎	2
181	塔ノ岳～鍋割山(新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴勇	11
701	ナメラ沢	奥秩父	2010	8/21夜-22	湖畔仮眠	2B	堀口昭二	12
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10
773	鳴神山	前日光	2012	5/13	日帰り	2A	箕輪完二	14
90	難台山～吾国山(卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2
714	奥久慈男体山	茨城	2010	11/14	日帰り	2A	坂巻明	12
477	難台山～吾国山	茨城	2006	3/26	日帰り	1B/2B	柴勇	8
653	難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11
538	男体山麓荒沢水源	日光	2007	5/27	日帰り	1A	中村八重子	9
584	二王子岳	飯豊	2008	5/31-6/1	避難小屋	3C	石垣吉朗	10
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6
793	西黒尾根～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/22-23	山小屋	2B	村松敏彦	14
57	西沢溪谷	奥秩父	1998	6/21	日帰り	A	中村隆泰	1
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎蓮	5
614	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10
3	蓼科山・西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1
442	西の湖・赤岩	日光	2005	6/15	日帰り	1A	榎原文子	7
548	焼岳～西穂高岳	北ア	2008	7/18-21	山小屋	3B	大串秀雄	9
61	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1998	7/18-20	山小屋	D	村松敏彦	1
77	今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1
398	日光白根山	日光	2004	9/12	日帰り	2B	大串恵子	6
540	日光白根山	日光	2007	6/7	日帰り	2B	斎藤清一	9
489	日光男体山(市民登山)	日光	2006	6/11	日帰り	3A	中村隆泰	8
671	日白山	谷川連峰	2010	3/27-28	テント	4D	村松敏彦	12
440	入笠山	南ア	2005	5/29	日帰り	1A	細野清子	7
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4
67	女峰山	日光	1998	9/19-20	無人小屋	C	村松峯子	1
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5
197	沼津アルプス<富士周辺シリーズ>	沼津	2001	4/1	日帰り	A+	村松峯子	7
446	烏帽子山・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2008	6/26-30	山麓泊	6B	高橋潔	7
589	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10
434	根本山～熊鷹山	桐生	2005	4/29	日帰り	2B	外崎蓮	7
693	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12
344	荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2006	10/2-4	避難小屋	4C	大串秀雄	7
343	鋸山(ウイズハイク)	房総	2003	9/27	日帰り	1A	外崎 蓮	5
551	大岳山～鋸尾根	奥多摩	2008	8/13	日帰り	2B	高橋英雄	9
661	天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11
779	鋸山・弥彦山	新潟	2012	6/16-17	テント	1B	外崎蓮	14
338	御嶽山・乗鞍岳	木曾・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5
732	乗鞍岳・美ヶ原(春山山行)	北アルプス	2011	5/3-5/5	テント	4C	村松敏彦	13
577	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10
62	白山	白山	1998	7/17-20	テント	B+	細野省二	1
752	羽黒山	山形	2011	10/14-16	テント	1A	武内勇二	13
252	箱根・浅間山	箱根	2002	2/24	日帰り	A	斎藤清一	4
692	八間山・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12
741	岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎 蓮	13
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2008	6/30-7/3	山麓泊	3B	柴 勇	9
173	八幡平・焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10
568	高岩山～八郎塚(忘年山行)	房総	2008	12/10	日帰り	3A	佐藤健一	9
280	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4
503	八海山・平ヶ岳	越後	2006	10/3-5	山麓泊	3B	大串秀雄	8
340	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5
633	奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	3B	細野清子	11
215	七面山～八紘嶺<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7
657	馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11
518	鶏足山～花香月山(忘年山行)	常磐	2007	12/11	日帰り	2B	川下敬史	8
523	花咲山	中央沿線	2007	1/28	日帰り	1A	中村隆泰	8
204	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘/テント	A+, C	細野清子	4
798	鼻曲山	上州	2012	10/21	日帰り	1A	高橋英雄	14
409	破風山	奥秩父	2004	10/31	日帰り	2C	日下芳十	6
522	浜石岳	駿河	2007	1/21	日帰り	1A	北川勝久	8
98	ハマイバ丸(山菜取り山行)	大菩薩	1999	4/29	日帰り	B	柴 勇	2
372	大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6
161	早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民宿泊	B	斎藤清一	3
444	早池峰山・栗駒山(市民登山)	北上	2005	6/17-19	山麓泊	2B	石垣吉朗	7
336	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5
171	榛名山	上州	2000	8/27	日帰り	A	細野清子	3
736	榛名山(市民登山)	上州	2011	6/5	日帰り	2A	柴 勇	13
396	相馬山～榛名富士	上州	2005	8/30	日帰り	2A	高橋芳恵	6
511	半月山(県連平日ハイク)	日光	2006	10/19	日帰り	1A	日下芳十、県連	8
382	磐梯山	会津	2004	6/6	日帰り	2B	村松敏彦	6
635	磐梯山	会津	2009	7/12	日帰り	2B	小川誠二郎	11
27	尾瀬集中登山(創立記念) B: 燧ヶ岳	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L柴	1
176	燧ヶ岳	尾瀬	2000	10/7-8	山小屋	A+	外崎 蓮	3
435	燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2005	8/1-3	テント	4D	村松敏彦	7
796	神室山～小又山～火打岳	東北	2012	10/5-7	避難小屋	3C	武内勇二	14
114	妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント/小屋	B	柴 勇	2
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2005	7/11-16	山麓泊	4D	大串秀雄	7
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12
636	東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	4D	佐藤健一	11
505	東八ヶ岳縦走(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	3C	柴 勇	8
374	五頭山・菱ヶ岳・三王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6
225	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4
699	聖岳～光岳	南アルプス	2010	8/18-22	山小屋	4C	高橋重	12
636	東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	5D	佐藤健一	11
733	日向山	中央線沿線	2011	5/14	日帰り	1A	原田和昭	13
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2007	5/14-17	山小屋	5B	柴 勇	7
34	檜洞丸	丹沢	1997	11/15	日帰り	A+	三浦七郎	1
320	檜洞丸	丹沢	2003	5/21	日帰り	A+	中村隆泰	5
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2007	3/20-23	避難小屋	5B	青山寿子	7
75	御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1
363	日の出山	奥多摩	2004	2/11	日帰り	2A	岡田秀子	5
424	日ノ出山	奥多摩	2005	2/20	日帰り	2B	中村隆泰	6
670	日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11
691	御岳山～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12
762	大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13
491	森吉山・姫神山	東北	2007	6/26-28	山麓泊	2B/2A	細野清子	8
402	岩手山・姫神山	奥羽	2005	9/18-21	宿	4B	高橋英雄	6
633	奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	4B	細野清子	11
612	本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10
269	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2003	6/21夜-25	テント	B+	武内勇二	4
503	八海山・平ヶ岳	越後	2007	10/3-6	山麓泊	3B	大串秀雄	8



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
332	恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5
643	笹子川大鹿沢平つ沢	中央沿線	2009	8/22	日帰り	2B	千葉有子	11
235	飛龍山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	高橋英雄	4
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2008	6/2-7	山小屋	3B	大串秀雄	8
705	飛龍山	奥秩父	2010	9/11-12	山小屋	3A	小川誠二郎	12
365	蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11
404	大山・蒜山	大山	2005	10/1-6	宿	2B	斎藤清一	6
88	日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2
353	日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5
265	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4
130	武甲山	奥武蔵	1999	11/21	日帰り	A	中村隆泰	2
546	武甲山	奥武蔵	2007	7/7	日帰り	1A	小川誠二郎	9
124	白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2007	7/22-26	テント	5D	細野清子	7
501	富士山～佐白山(ウィズハイク)	茨城	2006	9/23	日帰り	1A	外崎 蓮	8
23	富士山	富士周辺	1997	9/13-14	山小屋	B	川名	1
272.2	富士山エコフォーラム	富士周辺	2002	7/6-8	ホテル	A	芳山	4
272.4	富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4
301	富士山	富士周辺	2003	1/12-13	テント	B	堀口昭二	4
453	富士山	富士周辺	2005	8/20-21	山小屋	3B	石垣吉朗	7
721	富士山	富士山	2010	12/18-19	テント	3C	堀口昭二	12
221	富士山Aコース吉田口	富士周辺	2001	8/18	日帰り(山小屋)	B	日下芳十	7
222	富士山Dコース富士宮口	富士周辺	2001	8/18-19	山小屋	B	榊原文子	7
223	富士山Bコース吉田口(駅から)	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	C	川下敬史	7
224	富士山Cコース須走り口	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	B	原田君子	7
272	富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4
706	二子山・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12
381	水沢山～ニツ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6
428	ニツ箭山(新人歓迎山行)	常磐	2005	3/27	日帰り	1B	外崎 蓮	7
69	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1
247	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4
719	仏果山～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12
770	高取山～仏果山～経ヶ岳	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14
327	船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5
794	蓬峠～武能岳～茂倉岳～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2007	7/11-18	山麓泊	6D	大串秀雄	7
426	不老山	西丹沢	2005	3/19	日帰り	2B	原田和昭	7
808	瀬淵山～高指山～不老山(甲東三山)	中央線沿線	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆泰	14
125	鳳凰三山	南ア	1999	10/16-17	山小屋	B	清家三保子	2
339	鳳凰三山	南ア	2003	8/30-31	テント	3C	青山・千葉	5
558	鳳凰三山縦走	南ア	2007	9/29-30	山小屋	2B	坂口よし江	9
596	鳳凰三山	南ア	2008	8/14-15	山小屋	2B	本間恭子	10
807	宝篋山(卒業山行)	茨城	2013	2/3	日帰り	1A	矢澤節雄	14
167	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2008	8/12-15	山小屋	3C	佐藤健一	9
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	3B	村松敏彦	11
86	房総ロングハイク	房総	1999	1/30-31	ログハウス	A+	泉 連	2
141	房総ロングハイク	房総	2000	1/29-30	ログハウス前泊	A+	斎藤、泉連	2
248	房総ロングハイク	房総	2002	1/26-27	ログハウス	A+	斎藤、泉連	4
304	房総ロングハイク	房総	2003	1/25-26	ログハウス	B	高橋英、泉連	4
360	房総ロングハイク	房総	2004	1/24-25	ログハウス	3A	斎藤清一、泉連	5
473	房総ロングハイク	房総	2006	1/28-29	ログハウス	2A	柴田節子、泉連	7
517	房総ロングハイク	房総	2006	12/23-24	山麓泊	1A	柴田節子、泉連	8
572	房総ロングハイク	房総	2008	1/26-27	山麓泊	3A	坂口よし江、泉連	9
664	房総ロングハイク	房総	2010	1/30-31	山麓泊	2A	小川誠二郎	11
421	棒立山	谷川	2005	1/29-30	テント	4D	川下敬史	6
526	棒立山	谷川	2007	3/31-4/1	テント	3C	外崎 蓮	9
48	棒の折山(新人歓迎)	奥武蔵	1998	4/26	日帰り	A	外崎、村松敏	1
147	棒ノ折山	奥多摩	2000	4/9	日帰り	B	三浦七郎	3
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2007	4/26	日帰り	5B	青山寿子	7
521	高水山～棒の折山	奥多摩	2008	1/22	日帰り	2A	千葉有子	8
648	棒の折山～高水2山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	2A	原田和昭	11
115	烏帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野省二	2
134	本仁田山	奥多摩	1999	12/12	日帰り	A	日下芳十	2
612	本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10
605	本社ヶ丸北面尾根	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2B	佐藤健一	10
38	本社ヶ丸	中央沿線	1998	1/25	日帰り	A+	細野省二	1
108	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山(新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2
534	本社ヶ丸	中央沿線	2007	5/13	日帰り	3B	原田和昭	9

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
566	愛宕山・ボンボン山	京都	2008	11/20-23	山麓泊	2A	細野清子	9
499	錫ヶ岳～前白根山	日光	2007	9/9-11	テント	4C	村松敏彦	8
61	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	2000	7/18-22	山小屋	D	村松敏彦	1
390	前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6
787	前穂高岳～奥穂高岳	北アルプス	2012	8/9-12	山小屋	3C	矢野貞子	14
9	巻機山	越後	1997	4/12-13	テント	C+	坪井三枝子	1
210	巻機山(公開登山)	上越	2001	6/9-10	旅館泊	B	加藤秀明	4
321	大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5
720	巻機山(クリスマス山行)	越後	2010	12/18-19	テント	3C	村松敏彦	12
142	幕山	湯河原	2000	2/6	日帰り	A	安田みづほ	2
623	真名井沢北稜	奥多摩	2009	4/5	日帰り	2B	青山寿子	11
562	丸山	奥武蔵	2007	10/28	日帰り	1A	中村隆泰	9
469	天城山(万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2005	11/13-14	山麓泊	3B	大串恵子	7
469	天城山(万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2006	11/13-15	山麓泊	4B	大串恵子	7
498	万太郎谷	谷川	2006	9/2-3	テント	4D	佐藤健一	8
792	平標山～仙の倉山～万太郎山～谷川岳(15周年記念山行)	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14
273	御神楽岳	越後	2002	7/12-14	テント	C	細野省二	4
313	稲倉山・御荷鉢山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5
254	三霧山	北関東	2002	3/17	日帰り	A	斎藤清一	4
514	菰釣山～三国山	丹沢	2007	11/13	避難小屋	2B	坂口よし江	8
341	未丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5
192	御正体山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	2/17	日帰り	B	安田みづほ	7
201	御正体山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	4/22	日帰り	B	安田みづほ	7
687	御正体山	道志山塊	2010	6/13	日帰り	2A	外崎蓮	12
236	瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6
737	瑞牆山(BOM研修)	奥秩父	2011	6/25-26	テント	2B	武内勇二	13
381	水沢山～二ツ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12
262	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2002	5/12	夜行日帰り	B/C	堀口昭二	4
480	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2006	4/15-16	テント	3D	佐藤健一	8
634	水根沢谷	奥多摩	2009	7/5	日帰り	2C	柴 勇	11
137	水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2
163	籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3
725	黒斑山・水の塔山	浅間	2011	2/5-6	山麓泊	3C	高橋重	12
75	御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1
762	大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13
691	御岳山～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10
420	石尊山～三石山	房総	2006	1/29-31	宿	2A	斎藤清一	6
741	岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎 蓮	13
12	三ツ峠山	富士周辺	1997	5/4	日帰り	A	村松敏彦	1
386	三ツ峠山	富士周辺	2004	7/11	日帰り	2B	中村八重子	6
547	三ツ峠山	富士周辺	2007	7/8	日帰り	2B	中村八重子	9
599	三ツ峠山	富士周辺	2008	9/7	日帰り	2A	中村隆泰	10
189	三ツ峠山～黒岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7
805	三ツ峠山	富士急沿線	2013	1/13-14	山小屋	2B	武内勇二	14
18	大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1
295	大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4
377	塔ノ岳～丹沢三ツ峠	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2006	8/5-9	山小屋	5D	大串秀雄	7
715	大山三峰山	丹沢	2010	11/21	日帰り	2B	千葉有子	12
758	三峰山	丹沢	2011	12/11	日帰り	2B	外崎 蓮	13
35	三頭山(忘年山行)	奥多摩	1997	12/7	日帰り	A	清家三保子	1
241	三頭山	奥多摩	2001	11/11	日帰り	A	細野省二	4
243	奥多摩三山(大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4
412	三頭山	奥多摩	2004	11/13	日帰り	2B	原田和昭	6
576	三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	避難小屋	3B	外崎蓮	10
632	三頭山	奥多摩	2009	6/28	日帰り	2B	小川誠二郎	11
799	三頭山～向山	奥多摩	2012	11/3	日帰り	2A	大島清江	14
357	三頭山(登山教室)	奥多摩	2003	9/11	日帰り	1A	柴 勇	5
157	南月山～三本槍ヶ岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3
349	白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5
470	南高尾山縦走	中央沿線	2005	11/23	日帰り	2B	榎原文子	7
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2004	9/25-28	山小屋	4C	大串秀雄	6
506	南八ヶ岳(赤岳)B班(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	テント	3C	武内勇二	8
507	南八ヶ岳(赤岳)C班(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	山小屋	2B	川下敬史	8
384	南八ヶ岳縦走	八ヶ岳	2004	6/19-20	山小屋	3B	坂口よし江	6
149	養山	奥武蔵	2000	4/22	日帰り	A	安田みづほ	3
478	宮地山～岩殿山	中央沿線	2006	4/2	日帰り	3B	青山寿子	8



No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
407	宮之浦岳・開聞岳	九州	2003	10/21-23	山小屋	2C	細野清子	6
114	妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント/小屋	B	柴 勇	2
37	明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1
592	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10
37	明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1
123	金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2
592	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10
490	妙法ヶ岳	奥秩父	2006	6/25	日帰り	1B	高橋英雄	8
799	三頭山～向山	奥多摩	2012	11/3	日帰り	2A	大島清江	14
656	武川岳	奥秩父	2009	11/21	日帰り	2A	田村光子	11
186	六ツ石山	奥多摩	2000	12/17	日帰り	A+	中村隆泰	3
319	鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5
282	飯盛山	八ヶ岳	2002	8/31	日帰り	A	高橋芳恵	4
622	元清澄山(新人歓迎山行)	房総	2009	3/29	日帰り	2A	武内勇二	11
767	物語山(新人歓迎山行)	上州	2012	4/8	日帰り	1A	原田和昭	14
88	日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2
353	日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5
257	モミソ沢	丹沢	2002	4/14	日帰り	B	堀口昭二	4
312	モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2003	4/12-13	テント	C	堀口昭二	5
370	モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6
431	モミソ沢・新茅の沢～烏尾山	丹沢	2005	4/16-17	テント	3B	佐藤健一	7
535	モミソ沢	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	佐藤健一	9
133	百蔵山(忘年山行)	中央沿線	1999	12/5	日帰り	A	高橋英雄	2
315	百蔵山	中央沿線	2003	4/20	日帰り	A	清家・外崎	5
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2007	10/21-22	山麓泊	3B	大串秀雄	9
769	扇山～百蔵山	中央線沿線	2012	4/21	日帰り	2A	大島清江	14
771	守屋山・霧ヶ峰	八ヶ岳周辺	2012	5/3-5	テント	2A	村松敏彦	14
491	森吉山・姫神山	東北	2006	6/26-27	山麓泊	2B/1A	細野清子	8
161	早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民宿泊	B	斎藤清一	3
164	五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3
216	薬師岳	北ア	2001	7/19-23	山小屋	C	外崎 蓮	4
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	5C	清家三保子	11
748	薬師岳	北アルプス	2011	8/18-20	山小屋	3B	高橋重	13
723	薬師岳	南アルプス	2011	1/22-24	テント	4D	千葉有子	12
411	矢倉岳～足柄古道	箱根	2004	11/7	日帰り	2A	高橋芳恵	6
474	矢倉岳	箱根	2006	2/5	日帰り	1A	高橋英雄	7
328	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5
462	焼石岳	奥羽	2005	10/9-10	避難小屋	2B	石垣吉朗	7
288	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4
548	焼岳～西穂高岳	北ア	2007	7/18-20	山小屋	3B	大串秀雄	9
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4
173	八幡平・焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敏史	3
111	夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2
472	矢平山	中央沿線	2006	1/8	日帰り	2A	村松敏彦	7
768	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	2012	4/14-15	テント	4D	北川勝久	14
72	八ヶ岳(公開登山)(創立記念山行)	八ヶ岳	1998	10/10-11	テント&山小屋	A	柴 勇	1
92	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	1999	3/20-21	山小屋	C	村松敏彦	2
187	八ヶ岳(クリスマス山行)	八ヶ岳	2000	12/23-24	日帰り	B, C	村松敏彦	3
277	八ヶ岳	八ヶ岳	2002	7/26夜-28	山小屋	B+	外崎 蓮	4
509	八ヶ岳本峰縦走(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	4C	村松敏彦	8
283	谷津川・地獄谷	奥武蔵	2002	9/15-16	テント	C	村松敏彦	4
779	鋸山・弥彦山	新潟	2012	6/16-17	テント	1B	外崎蓮	14
809	ヤビツ峠～塔ノ岳	丹沢	2013	2/24	日帰り	2B	北川勝久	14
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12
256	八溝山(新人歓迎)	奥久慈	2002	3/24	日帰り	A	松本 豊	4
803	八溝山(忘年山行)	茨城	2012	12/2	日帰り	1A	田村光子	14
119	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2
393	白馬～杓子～鍵ヶ岳	北ア	2006	8/12-17	山小屋	3C	高橋英雄	6
452	唐松岳～鍵ヶ岳～杓子岳	北ア	2006	8/13-16	山小屋	4C	高橋英雄	7
11	槍ヶ岳	北ア	1997	4/25-28	テント	D	村松敏彦	1
168	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋/テント	C	大串秀雄	3
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2007	9/25-31	山小屋	4C	大串秀雄	6
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12
585	夕日岳	日光	2008	6/1	日帰り	1A	箕輪カオル	10
322	夕日岳	前日光	2003	5/25	日帰り	A	原田和昭	5
563	夕日岳	前日光	2007	11/4	日帰り	1A	外崎 蓮	9
659	雪入山～浅間山(忘年山行)	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11
589	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10
109	湯の丸山・四阿山	上州	1999	6/19-20	民宿泊り	B	外崎 蓮	2
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2006	6/26-28	山麓泊	4B	高橋 潔	7

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号
630	湯の丸山・四阿山 (市民登山)	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11
207	湯檜菅川旧道	谷川	2001	5/26	日帰り	A	榎原文子	4
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2008	7/2-9	山麓泊	4B	大串秀雄	8
15	養老溪谷 (クリーンハイク)	房総	1997	6/1	日帰り	A	県連	1
751	横隈山	奥武蔵	2011	10/9	日帰り	2B	中村隆泰	13
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴勇	12
148	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3
471	蓬田岳 (忘年山行)	福島	2005	12/11	日帰り	1A	武内勇二	7
794	蓬峠～武能岳～茂倉岳～谷川岳 (15周年記念山行)	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14
294	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5
214	利尻山・大雪山	北海道	2001	7/3-8	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4
742	利尻山・礼文島	北海道	2011	7/18-7/21	山小屋	3C	村松敏彦	13
106	両神山 (公開登山)	奥秩父	1999	6/5-6	山小屋/テント	B	村松敏彦	2
591	両神山	奥秩父	2008	7/5-6	山小屋	2A	高橋芳恵	10
706	二子山・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12
742	利尻山・礼文島	北海道	2011	7/18-7/21	山小屋	3C	村松敏彦	13
90	難台山～吾国山 (卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2
477	難台山～吾国山	茨城	2007	3/27	日帰り	1B/3B	柴勇	8
260	愛宕山～吾国山	茨城	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4
653	難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11
743	雲の平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13
357	和名倉山	奥秩父	2003	12/20-21	テント	4D	村松敏彦	5
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2007	6/2-6	山小屋	3B	大串秀雄	8
25	蔵山	奥武蔵	1997	9/23	日帰り	A	細野清子	1
200	有間山～蔵山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎蓮	4
240	蔵山	奥武蔵	2001	11/11	日帰り	A	安田みづほ	4
527	有馬山～蔵山	奥武蔵	2008	4/9	日帰り	3B	青山寿子	9
754	蔵山	奥武蔵	2011	10/30	日帰り	2A	坂巻明	13
484	小川谷・悪谷	奥多摩	2007	5/22	日帰り	3B	堀口昭二	8



## 編集後記

安全で楽しい登山のために、会員の方々が事前の入念な準備を怠らないことに「やまなみ」の原稿を読むと改めて気づかされる。だから一層、紀行文には山行の喜びや感謝の思いがあふれているのだろう。その「やまなみ」発行に向けて10年近くにわたり、大変な労力を注がれてこられた武内編集長には、ただただ、感謝する他はない。そしてその後を引き継ぐことの、何と心細いこと。知識も技術もない私がお引き受けするには大変荷が重い、編集係りの皆さんと力を合わせて、「やまなみ」を来年も無事にお届けできるよう精一杯努力したいと思う。皆様のご協力をお願い致します。(IN)

やまたん、やまなみ、ホームページと、計画や実施レポートがつねに記録されているのが岳人あびこの特性かもしれない。そのときは手数がかかって面倒でも、その後、あのときのあの山はどうだったのかと確認したり、登攀路をなつかしく振り返ったり、レポートを読みながらまたの山行計画を練るためにも記録は貴重な資料となる。今年もまたやまなみをまとめる季節がやってきた。今号は武内編集長に変わって中村編集長の努力によるところが大である。感謝したい。(NS)

やまなみの主たる編集作業を、今号からINさんと交代した。平成16年にやまなみ第6号の編集を引き受けて以降、都合9冊の編集に携わらせていただいたことになる。第6号は最終山行より1年5か月遅れの発行だったが、毎号編集作業を早め、今では最終山行より4ヶ月以内の発行が定着するまでにいたっている。電子メールの普及で、原稿集めがスムーズにできるようになったことが大きい。

やまなみは岳人あびこの歴史そのものであり、貴重な財産だと思う。今後も岳人あびこがますます発展して、やまなみが順調に号を重ねられるよう期待している。(YT)

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

### 山行文集 **やまなみ 第14号**

発行日 平成25年6月6日

発行者 岳人あびこ 会長 武内雄二

千葉県柏市布施新町4-15-9

編集者 会報部 やまなみ編集係

武内勇二

新谷直恵 中村育子

印刷所 太平洋印刷株式会社

(会員限り 非売品)

